

平成24年度
全国学力・学習状況調査における
福岡県での学力・学習状況調査
(国語、算数・数学、理科、質問紙)

調査結果報告書

平成24年12月
福岡県教育委員会

平成24年度全国学力・学習状況調査における 福岡県での学力・学習状況調査結果報告書

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	
2	調査対象の学年	
3	調査の方式	
4	調査の内容	
5	調査日	
6	4月17日に調査を実施した県内公立学校・児童生徒数	
7	調査問題の内容	
II	調査結果の概要	3
1	調査結果の概況	
2	教科に関する調査の結果（全体の状況）	
3	5回の調査結果から	
4	教育事務所・政令市の状況	
5	市町村の状況	
6	学校の状況	
7	児童生徒の無解答の状況	
III	各教科の調査結果	18
1	小学校国語	
2	小学校算数	
3	小学校理科	
4	中学校国語	
5	中学校数学	
6	中学校理科	
IV	児童生徒質問紙に関する調査結果と分析	37
1	学習に対する関心・意欲・態度	
2	家庭学習	
3	読書	
4	基本的な生活習慣	
5	携帯電話	
6	テレビやビデオ・DVD	
7	自尊意識	
8	規範意識	
9	家庭でのコミュニケーション	
10	発表の機会	
11	算数・数学の内容理解	
V	学校質問紙に関する調査結果と分析	69
1	学習態度	
2	指導方法	
3	学習規律の指導	
4	家庭での学習方法の指導	
5	P T Aや地域との連携	
6	教員研修	
7	就学援助	
8	補充学習	
9	過去5回の調査で全国の平均正答率を上回っている（下回っている）学校の状況	
VI	まとめと今後の取組	91

平成24年度 全国学力・学習状況調査における 福岡県での学力・学習状況調査結果報告書 (国語、算数・数学、理科、質問紙)

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析して、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査対象の学年

小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年

中学校第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

3 調査の方式

文部科学省が実施する抽出調査の結果と抽出調査の対象以外の学校に在籍している調査対象学年の全児童生徒を対象とした希望利用方式による調査の結果を統合することにより、本県での悉皆方式による調査として実施する。

4 調査の内容

① 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 [国語A、算数・数学A、理科]	主として「活用」に関する問題 [国語B、算数・数学B、理科]
<ul style="list-style-type: none"> ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容など

② 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

③ 調査時間

小学校

1時限目 (45分)	2時限目 (45分)	3時限目 (45分)	4時限目 (45分)	
国語A (20分) 算数A (20分)	国語B (40分)	算数B (40分)	理科 (40分)	児童質問紙 (20分)

※ 児童質問紙は、4時限目以降に、各学校の状況に応じて実施。

中学校

1時限目 (50分)	2時限目 (50分)	3時限目 (50分)	4時限目 (50分)	5時限目 (50分)	
国語A (45分)	国語B (45分)	数学A (45分)	数学B (45分)	理科 (45分)	生徒質問紙(20分)

※ 生徒質問紙は、5時限目終了後以降に、各学校の状況に応じて実施。

5 調査日

平成24年4月17日(火)

6 4月17日に調査を実施した県内公立学校・児童生徒数

小学校	教育委員会数		学校数		児童数					
	全体	実施数	調査対象者 在籍学校数	実施数	国語A	国語B	算数A	算数B	理科	質問紙
全国(公立)※抽出	1,792	1,338	20,783	5,140	255,180	255,139	255,186	255,151	254,825	255,075
福岡県(公立)※悉皆	61	61	759	759	45,017	44,997	45,015	44,993	44,995	45,494
中学校	教育委員会数		学校数		生徒数					
	全体	実施数	調査対象者 在籍学校数	実施数	国語A	国語B	数学A	数学B	理科	質問紙
全国(公立)※抽出	1,801	1,319	9,963	4,296	424,157	424,258	424,379	424,373	424,320	424,026
福岡県(公立)※悉皆	61	61	356	356	42,857	42,880	42,888	42,890	42,912	42,960

※ 福岡県(公立)には、両政令市を含む。

7 調査問題の内容

■ 各教科のA区分とB区分の問題数

	小学校国語	小学校算数	中学校国語	中学校数学	小学校理科	中学校理科
A 主として「知識」	17	19	32	36	24	26
B 主として「活用」	11	13	9	15		

■ 評価の観点別の問題数(※複数の観点を含む問題があるため、問題数とは必ずしも一致しない。)

国語の評価の観点	小学校		中学校		算数・数学の評価の観点	小学校		中学校	
	国語A	国語B	国語A	国語B		算数A	算数B	数学A	数学B
国語への 関心・意欲・態度	1	3	0	3	算数(数学)への 関心・意欲・態度	0	0	0	0
話す・聞く能力	3	3	2	3	数学的な考え方	0	8	0	12
書く能力	2	5	4	4	数量や図形についての表 現・処理	8	3	13	2
読む能力	4	5	5	5	数量や図形についての 知識・理解	11	2	23	1
言語についての 知識・理解・技能	9	1	21	0					

理科の評価の観点	小学校	中学校
	理科	理科
自然事象への 関心・意欲・態度	0	0
科学的な思考・表現	17	16
観察・実験の技能	2	4
自然事象についての 知識・理解	5	6

■ 問題形式別の問題数

問題形式	小学校					中学校				
	国語A	国語B	算数A	算数B	理科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
選択式	4	7	4	3	15	16	5	21	3	12
短答式	13	1	15	5	6	16	1	15	5	9
記述式	0	3	0	5	3	0	3	0	7	5

Ⅱ 調査結果の概要

1 調査結果の概況

<小学校>

		平均正答数	平均正答率 (%)	平均正答率の95%信頼区間 (%)	中央値	標準偏差
国語A	福岡県(公立)	13.8	80.9		14.0	2.9
	全国(公立)	13.9	81.6	81.4 - 81.7	15.0	2.9
国語B	福岡県(公立)	5.9	53.8		6.0	2.6
	全国(公立)	6.1	55.6	55.4 - 55.8	6.0	2.6
算数A	福岡県(公立)	13.9	72.9		14.0	3.5
	全国(公立)	13.9	73.3	73.1 - 73.5	15.0	3.6
算数B	福岡県(公立)	7.5	57.9		8.0	3.1
	全国(公立)	7.7	58.9	58.7 - 59.1	8.0	3.1
理科	福岡県(公立)	14.6	60.7		15.0	4.7
	全国(公立)	14.6	60.9	60.8 - 61.1	15.0	4.8

<中学校>

		平均正答数	平均正答率 (%)	平均正答率の95%信頼区間 (%)	中央値	標準偏差
国語A	福岡県(公立)	23.9	74.5		25.0	5.6
	全国(公立)	24.0	75.1	75.0 - 75.2	25.0	5.5
国語B	福岡県(公立)	5.7	63.7		6.0	2.0
	全国(公立)	5.7	63.3	63.2 - 63.4	6.0	2.0
数学A	福岡県(公立)	21.6	60.1		22.0	7.9
	全国(公立)	22.4	62.1	62.0 - 62.3	23.0	7.9
数学B	福岡県(公立)	7.1	47.1		7.0	3.8
	全国(公立)	7.4	49.3	49.2 - 49.5	7.0	3.9
理科	福岡県(公立)	13.0	50.2		13.0	5.4
	全国(公立)	13.3	51.0	50.9 - 51.1	14.0	5.4

平均正答数：児童生徒の正答数の平均のこと。

平均正答率：平均正答数を設問数で割った値を百分率で表示した値のこと。ただし、全国（公立）の値は推計値であり、平均正答率の95%信頼区間の中間値である。

平均正答率の95%信頼区間：95%の確率で、全員を対象とした調査（悉皆調査）の場合の平均正答率が含まれる範囲のこと。

中央値：集団のデータを大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値のこと。

標準偏差：集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値のこと。標準偏差が0とは、ばらつきがない（データの値がすべて同じ）ことを意味する。

2 教科に関する調査の結果（全体の状況）

(1) 全国の状況

- A問題（主として「知識」に関する問題）は、B問題（主として「活用」に関する問題）より平均正答率の推計値は高い。
- 目的に応じて必要となる事柄を読み取ったり整理したりして書くこと、算数・数学の用語を用いて事象の関係を理解したり、数学的に表現したりすること、観察・実験の結果を分析し解釈することなどに課題がある。

(2) 福岡県の状況

- 小学校は、全教科区分とも全国の平均正答率を下回っている。
- 中学校は、国語Bが全国平均正答率を上回っているものの、他の教科区分は下回っている。
- 理科は、小中学校ともに全国の平均正答率を若干下回っている。
- 小学校の国語、算数とも、A問題（主として「知識」に関する問題）の方が、B問題（主として「活用」に関する問題）よりも平均正答率が高く、全国と同様の状況である。

3 5回の調査結果から

平成19年度から実施されている本調査における本県の平均正答率と全国の平均正答率との差をもとに、5回の推移について分析する。なお、平成23年度については、震災の影響により国が調査を実施せず、本県独自に国の調査問題を活用した悉皆調査を行った。そのため、これまでの調査と実施時期などの条件が異なることから、本報告書においては、平成23年度の結果を省略することとした。

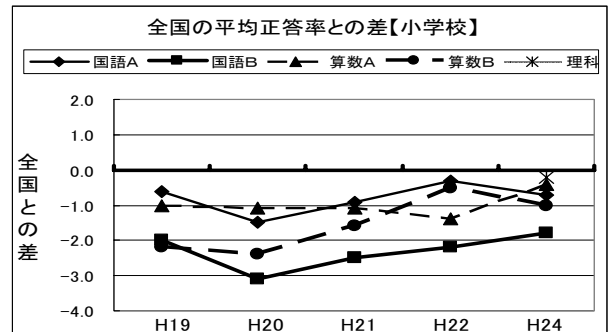
(1) 平均正答率の差の推移

<小学校>

- 小学校においては、全国の平均正答率を下回る状態が続いているが、国語B、算数Aにおいて、その差が縮まる傾向にある。
- 平成19年度との比較では、国語Aを除く他の教科区分において、全国との差が縮まる傾向にある。

■ 本県と全国の平均正答率の差（小学校）

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
平成19年度	-0.6	-2.0	-1.0	-2.2	
平成20年度	-1.5	-3.1	-1.1	-2.4	
平成21年度	-0.9	-2.5	-1.1	-1.6	
平成22年度	-0.3	-2.2	-1.4	-0.5	
平成24年度	-0.7	-1.8	-0.4	-1.0	-0.2



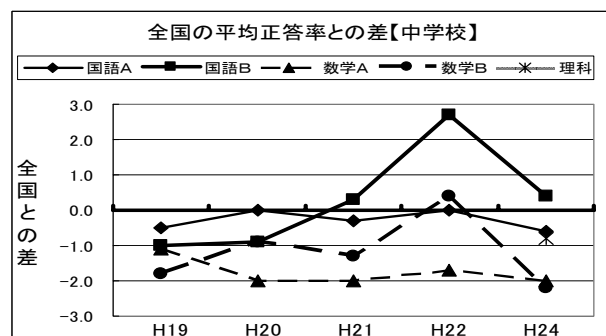
※ 平成22・24年度は、全国の「平均正答率の95%信頼区間の中間値」との差で示す。

<中学校>

- 国語Bは平成21年度以降、全国の平均正答率を上回っている。
- 数学A・Bは、これまでの調査で最も全国の平均正答率との差が広がった。
- 平成19年度との比較では、国語Bで全国との差が縮まる傾向にあるものの、数学A・Bは、差が広がる結果となった。

■ 本県と全国の平均正答率の差（中学校）

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
平成19年度	-0.5	-1.0	-1.1	-1.8	
平成20年度	0.0	-0.9	-2.0	-0.9	
平成21年度	-0.3	0.3	-2.0	-1.3	
平成22年度	0.0	2.7	-1.7	0.4	
平成24年度	-0.6	0.4	-2.0	-2.2	-0.8

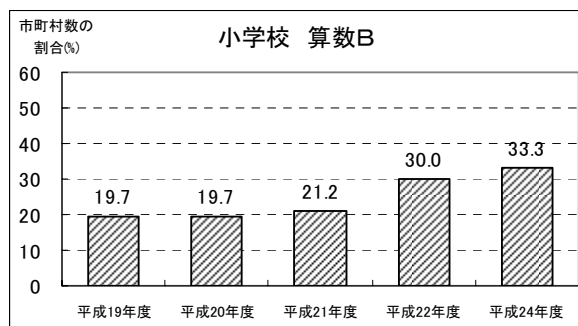
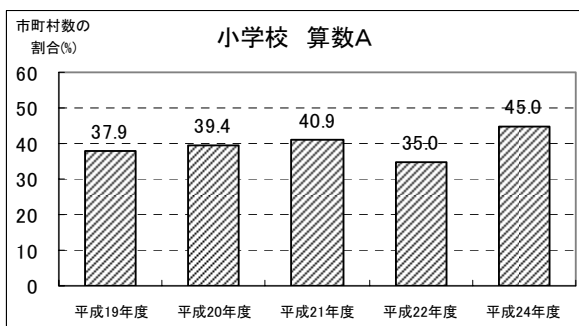
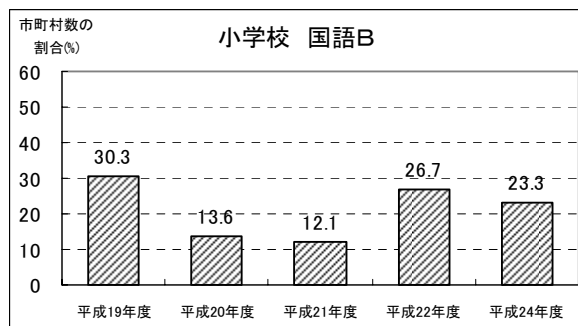
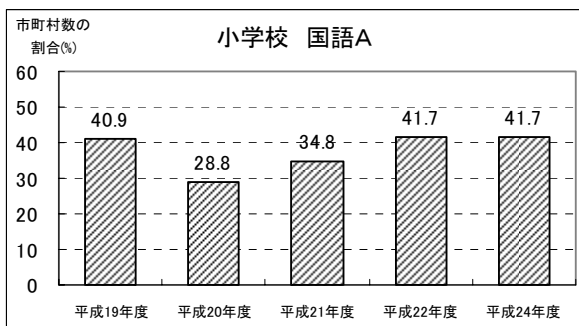


※ 平成22・24年度は、全国の「平均正答率の95%信頼区間の中間値」との差で示す。

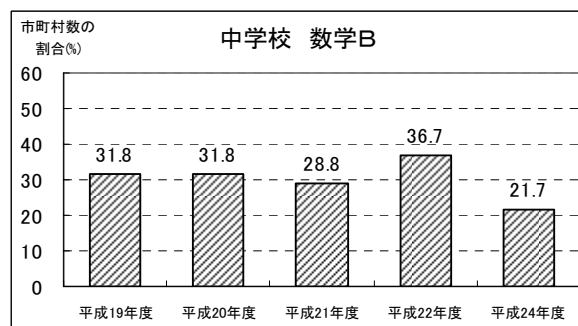
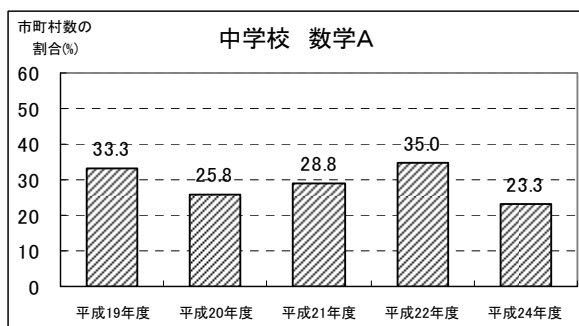
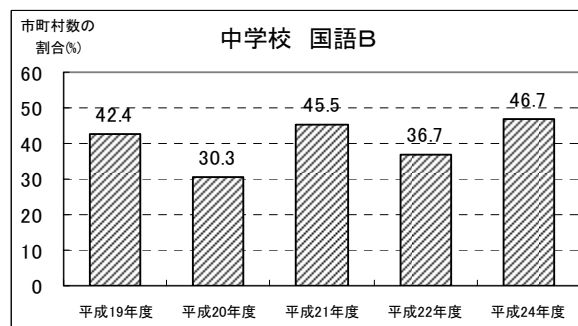
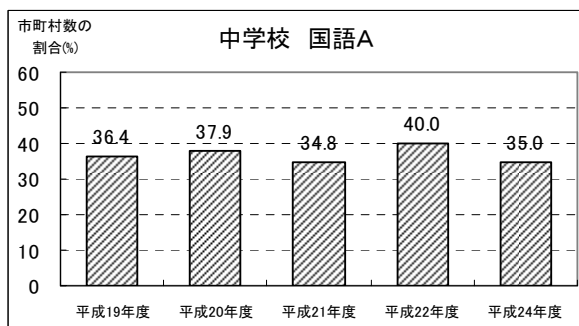
(2) 全国の平均正答率を上回る市町村の状況

- 小学校では、算数A・Bで平成22年度に比べて全国の平均正答率を上回る市町村数の割合が増えている。中学校では、国語Bで平成22年度に比べて全国の平均正答率を上回る市町村数の割合が増えている。
- 小学校の国語、算数では、A問題の方がB問題よりも全国の平均正答率を上回る市町村数の割合が高いが、中学校の国語では、B問題の方がA問題よりも全国の平均正答率を上回る市町村数の割合が高い。

■ 小学校（平成19～21年度：66市町村、平成22・24年度：60市町村）



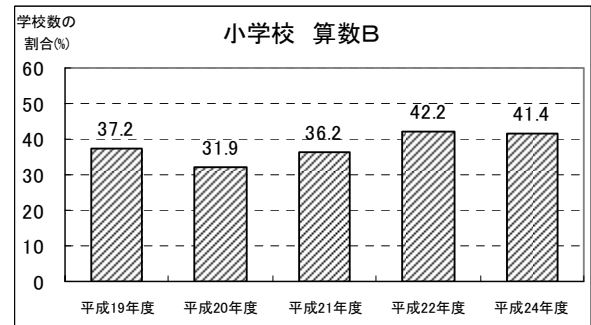
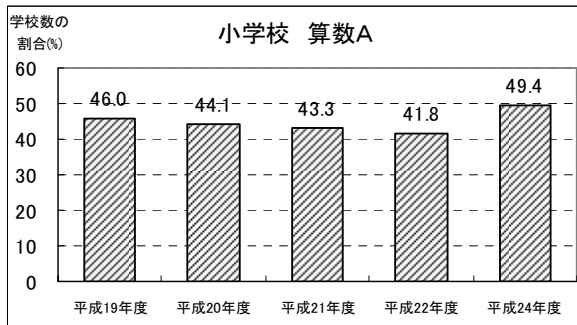
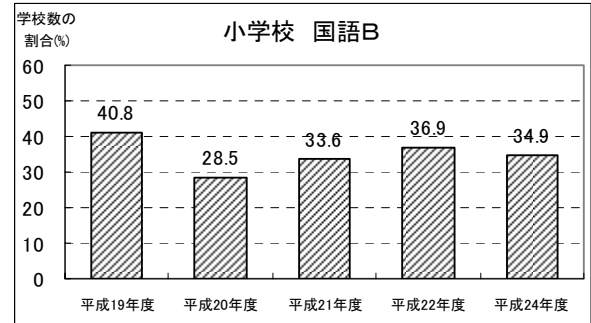
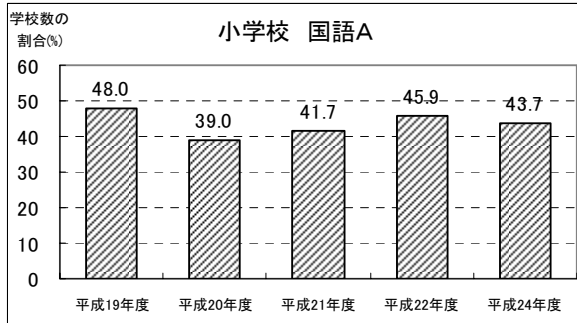
■ 中学校（平成19～21年度：65市町村1組合、平成22・24年度：60市町村1組合）



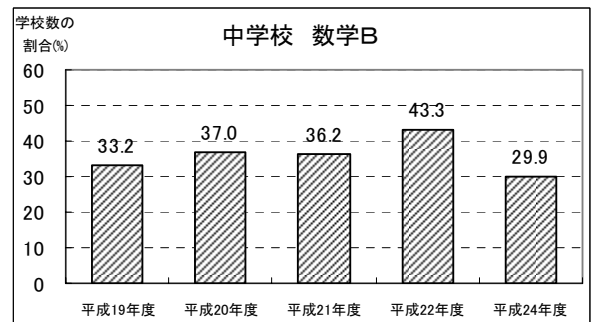
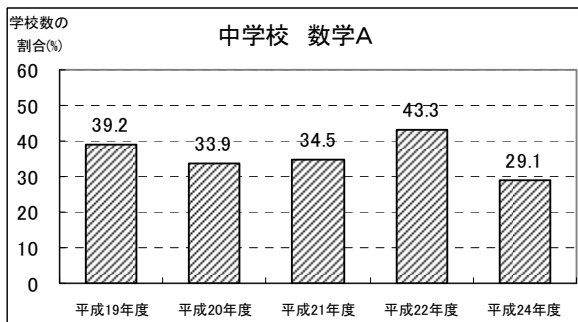
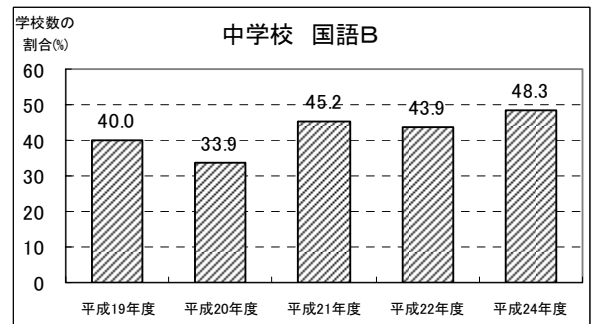
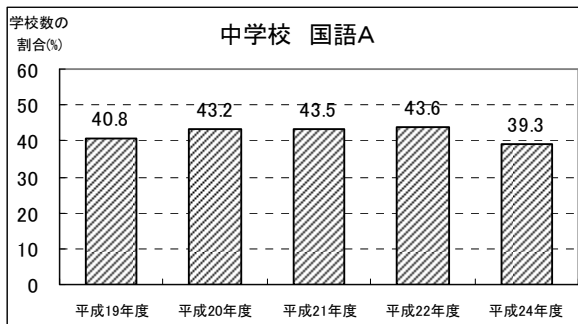
(3) 全国の平均正答率を上回る学校の状況

- 小学校では、算数Aで平成22年度に比べて全国の平均正答率を上回る学校数の割合が増えている。中学校では、国語Bで平成22年度に比べて全国の平均正答率を上回る学校数の割合が増えている。
- 小学校の国語、算数では、A問題の方がB問題よりも全国の平均正答率を上回る学校数の割合が高いが、中学校の国語、数学ではB問題の方がA問題よりも全国の平均正答率を上回る学校数の割合が高い。

■ 小学校 (H19 : 769 校、H20 : 766 校、H21 : 763 校、H22 : 754 校、H24 : 759 校)



■ 中学校 (H19 : 355 校、H20 : 354 校、H21 : 354 校、H22 : 344 校、H24 : 356 校)



4 教育事務所・政令市の状況

県内を6つの教育事務所と政令市（福岡市・北九州市）の7つの地区に分けて分析した。

- 7つの地区間の平均正答率には差がみられ、最大最小の差をみると、小学校では国語Bで最大8.0ポイント、中学校では数学Bで最大12.4ポイントの差がある。
- 19年度との比較では（以下の特徴も同様の比較である）最大最小の差は、中学校国語A以外のすべてで縮小している。
- 小学校、中学校とも、主として「知識」に関するA問題よりも、主として「活用」に関するB問題の方が、差が大きくなっている。
- 小学校に比べ中学校の方が、差が大きく、また、国語よりも算数・数学の方が、差が大きくなっている。
- 標準偏差により7地区間の平均正答率のばらつきをみると、19年度と比べて小学校では国語B以外で、中学校では国語B・数学B以外でばらつきが大きくなっている。

■ 教育事務所・政令市別の平均正答率の最大最小の差

	小学校					中学校				
	国語A	国語B	算数A	算数B	理科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
福岡	81.8	55.2	74.1	59.4	61.4	76.6	67.2	62.9	51.2	52.8
北九州	80.9	52.9	73.5	56.7	60.2	73.3	61.6	57.6	43.2	48.7
北筑後	80.1	52.6	72.4	56.1	59.2	73.0	61.9	57.9	44.5	48.0
南筑後	81.5	54.1	73.9	58.3	62.2	73.8	62.3	57.7	45.5	49.3
筑豊	77.2	47.2	69.9	51.6	54.7	68.8	57.1	52.8	38.8	43.2
京築	80.4	50.9	73.4	56.2	60.2	72.4	61.5	57.6	43.7	48.5
政令市	81.1	54.6	72.7	58.6	61.3	74.9	63.7	60.8	47.6	50.6
最大・最小の差 (H24)	○ 4.6	○ 8.0	○ 4.2	○ 7.8	7.5	▼ 7.8	○ 10.1	○ 10.1	○ 12.4	9.6
〃 (H22)	4.6	8.1	5.9	7.8	—	8.8	11.6	14.1	14.4	—
〃 (H21)	4.5	8.4	5.4	8.6	—	7.5	10.6	11.2	11.5	—
〃 (H20)	6.5	7.2	6.0	7.4	—	7.5	10.9	12.8	11.4	—
〃 (H19)	5.3	10.8	7.0	9.0	—	7.1	13.6	12.8	12.7	—

○：H19より差が縮小 ▼：H19より差が拡大

■ 教育事務所・政令市間の状況

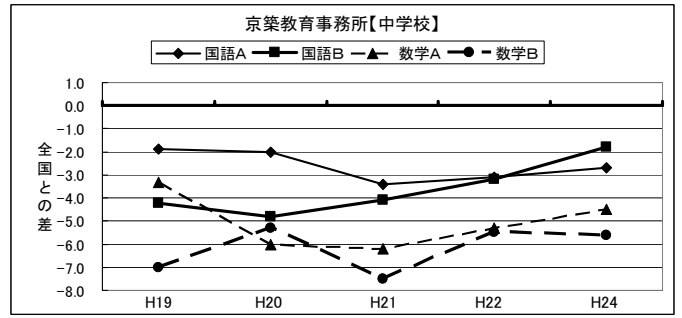
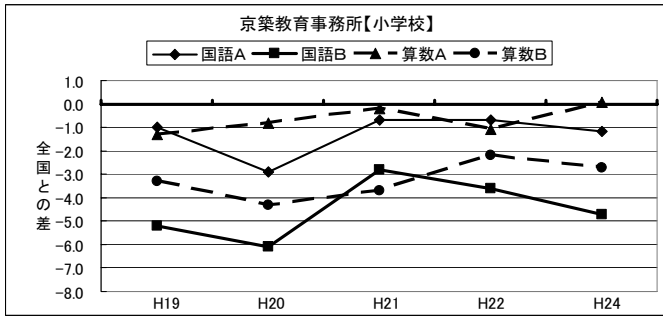
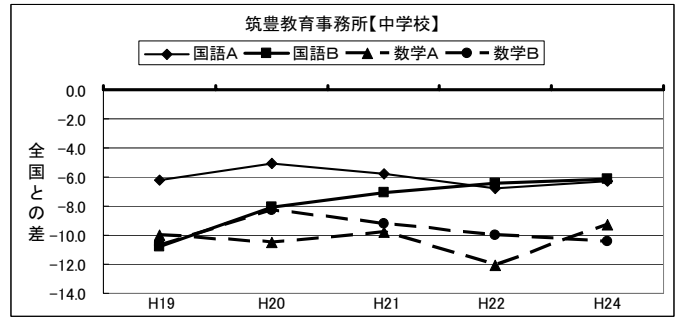
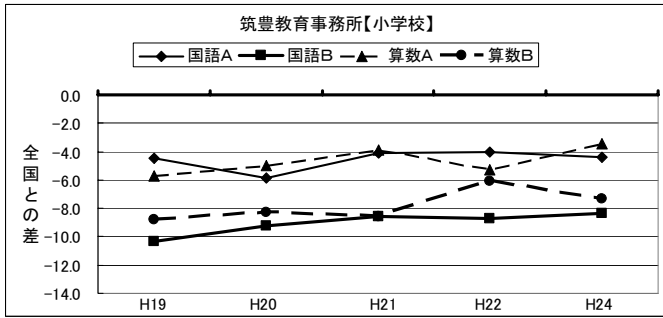
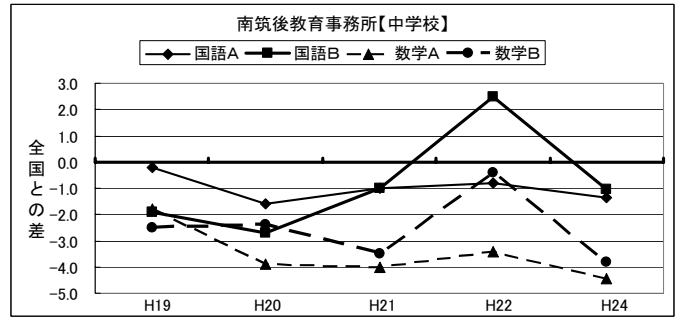
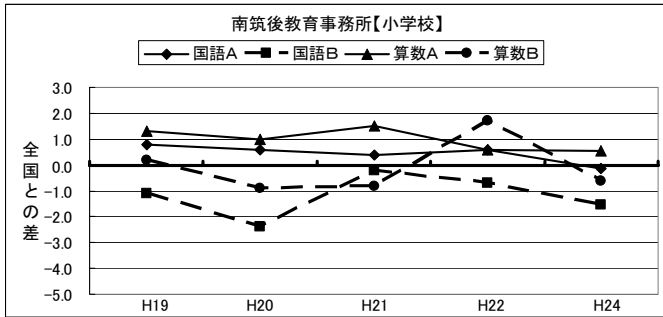
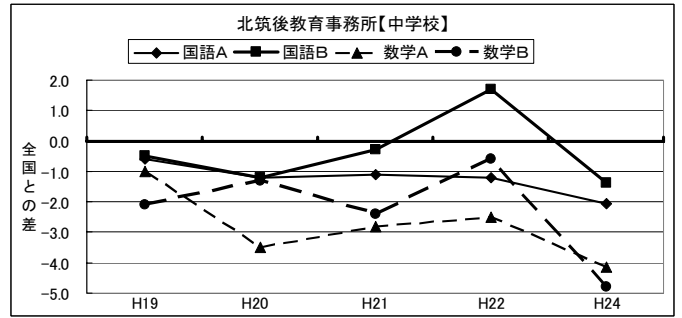
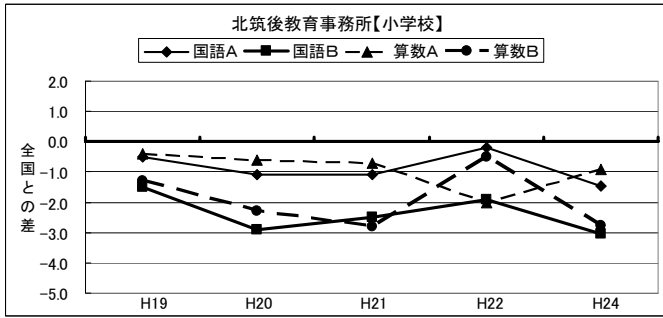
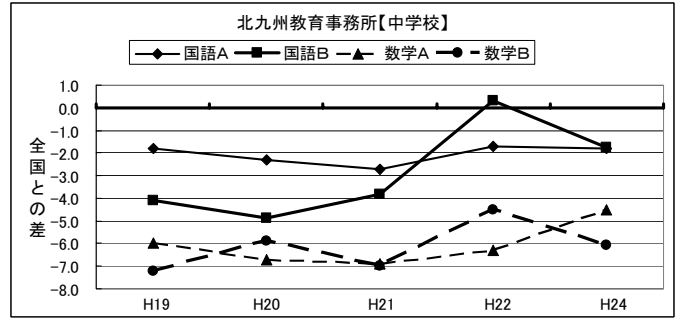
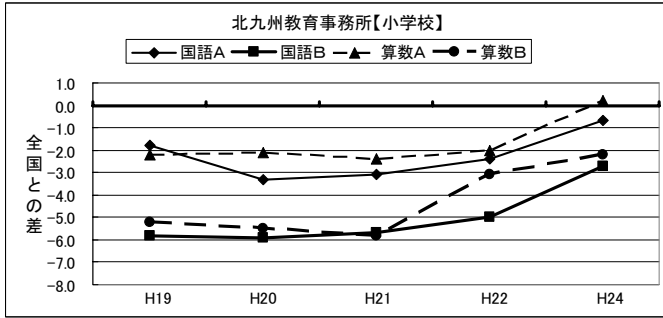
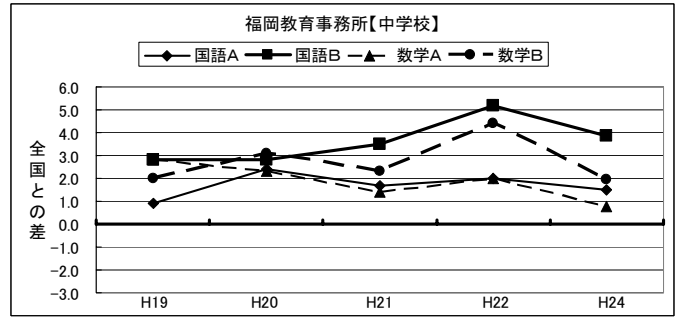
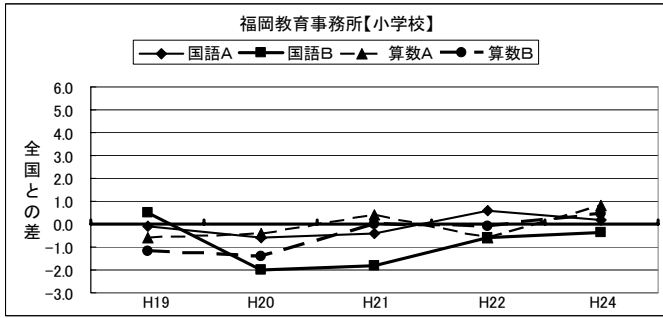
【平成19年度～24年度の教育事務所・政令市間の標準偏差】

	小学校					中学校				
	国語A	国語B	算数A	算数B	理科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
平成24年度	2.9	2.6	3.5	3.1	4.7	5.6	2.0	7.9	3.8	5.4
平成22年度	1.6	2.7	1.7	2.4	—	2.6	3.7	4.1	4.4	—
平成21年度	1.5	2.6	1.7	2.9	—	2.3	3.3	3.5	3.9	—
平成20年度	2.0	2.5	1.7	2.5	—	2.2	3.3	3.8	3.5	—
平成19年度	1.6	3.5	2.0	2.8	—	2.1	3.9	3.8	4.0	—

※ 分析の方法

各教育事務所・政令市の平均正答率の教科区分ごとのばらつきを「標準偏差」を用いて分析している。標準偏差は、ばらつきが小さくなるほど値が小さくなり、ばらつきがまったくない場合は、値が「0」となる。

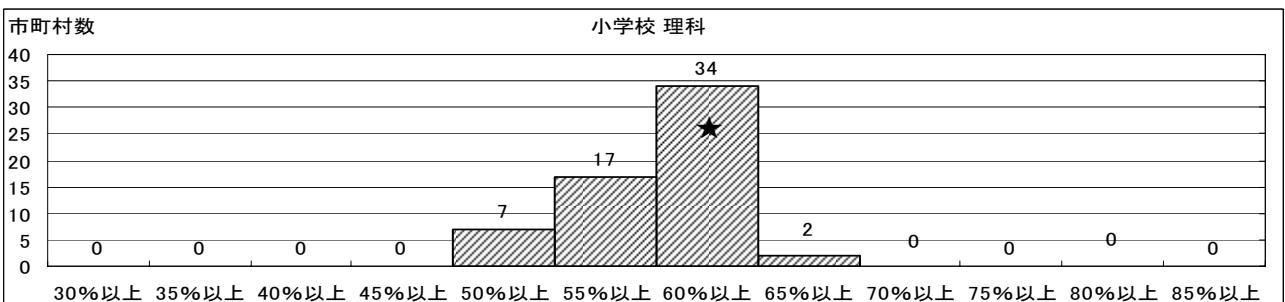
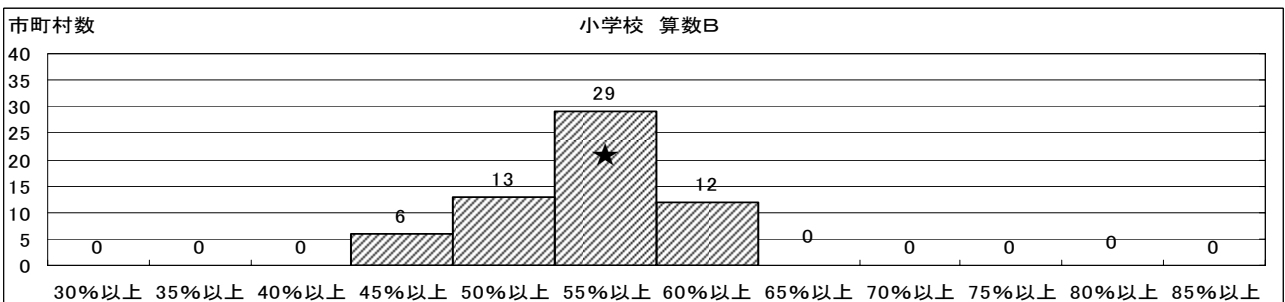
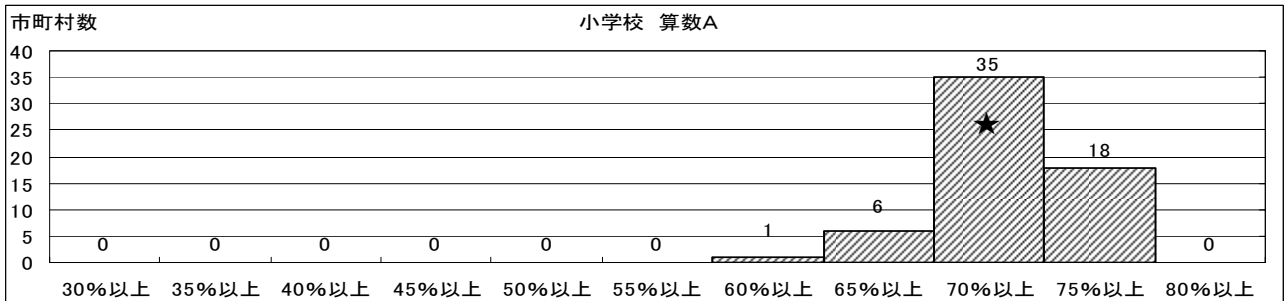
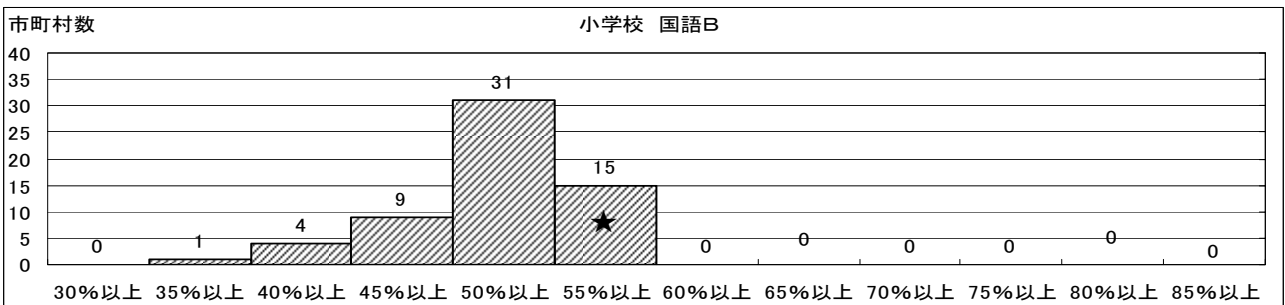
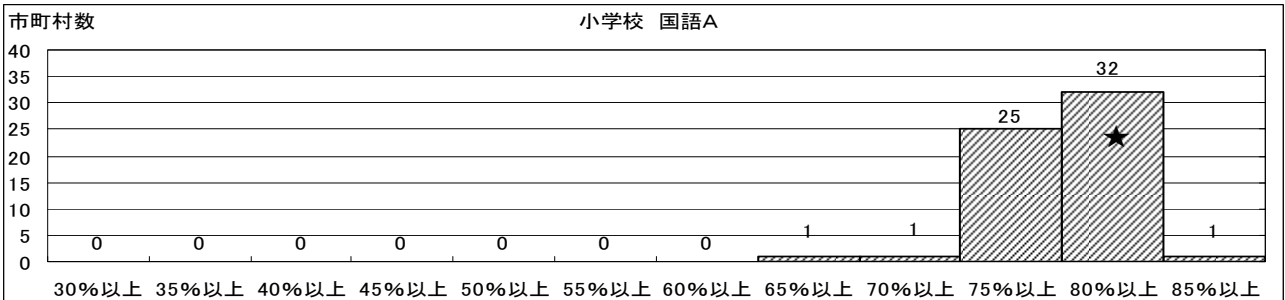
■ 6 教育事務所ごとの経年変化



5 市町村の状況

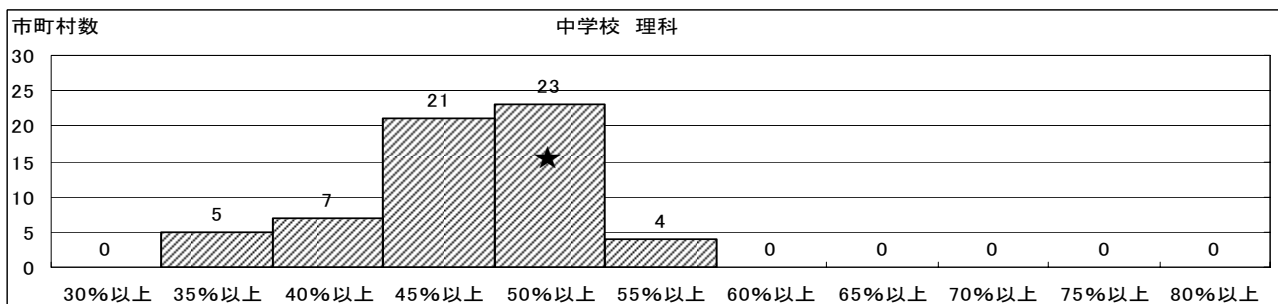
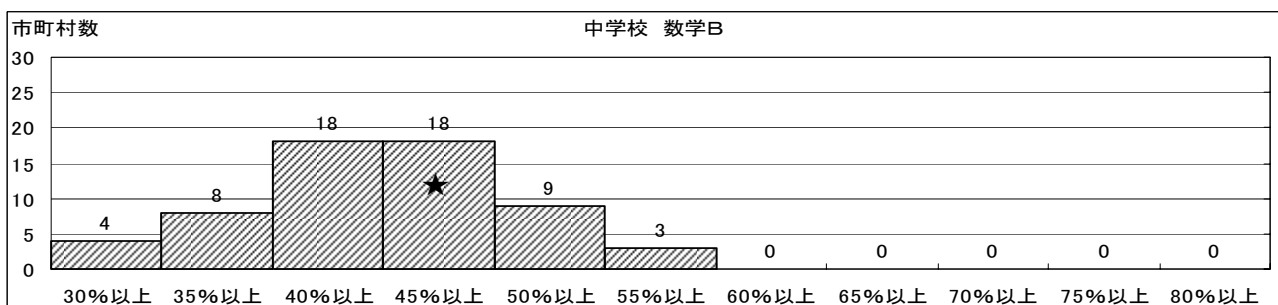
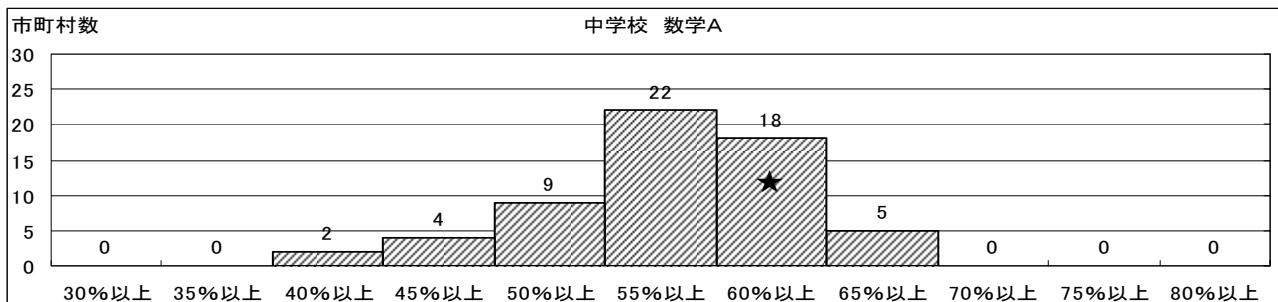
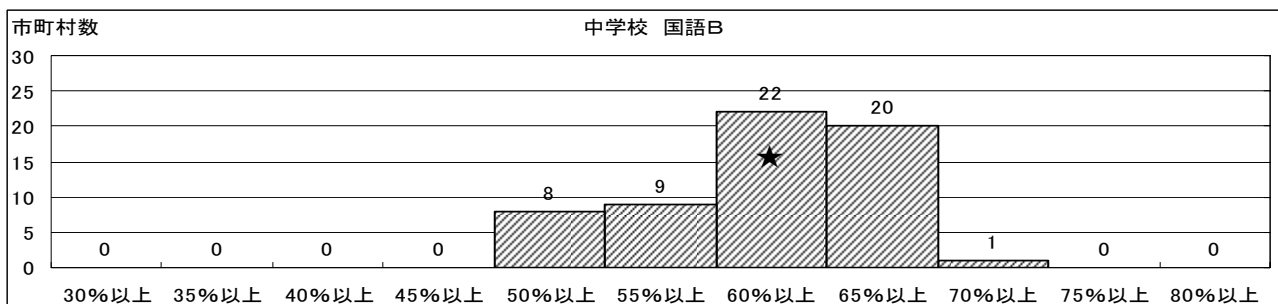
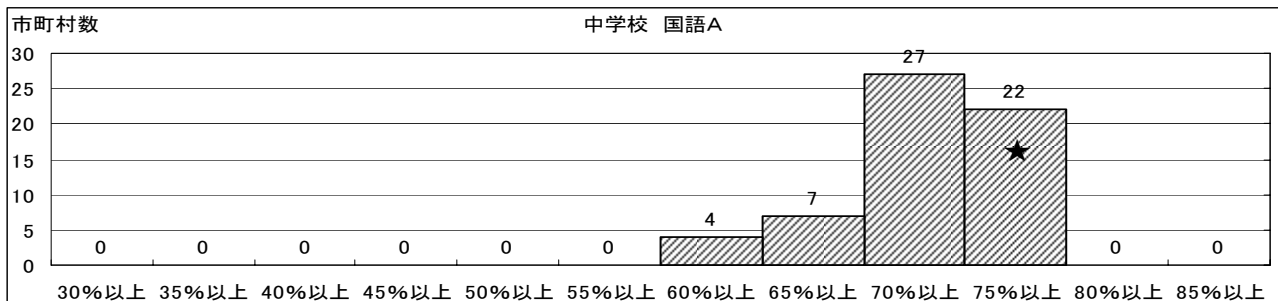
■ 小学校

- 全国の平均正答率のある区分（★印）より上位に位置付く市町村の数は、算数Aでは53、算数Bでは41である。
- 国語B以外では、全国の平均正答率のある区分（★印）に最も多くの市町村が集まっているが、国語Bでは、これよりも下位の区分に45市町村が分布している。（他の教科区分では7～26市町村）



■ 中学校

- 国語Bでは、全国の平均正答率のある区分（★印）より上位に県全体の1/2を超える43市町村が集まっている。また、数学Bでは、県全体の半数の市町村が集まっている。
- 国語A、数学A、理科では、全国の平均正答率のある区分（★印）よりも下の区分に多くの市町村が集まっている。

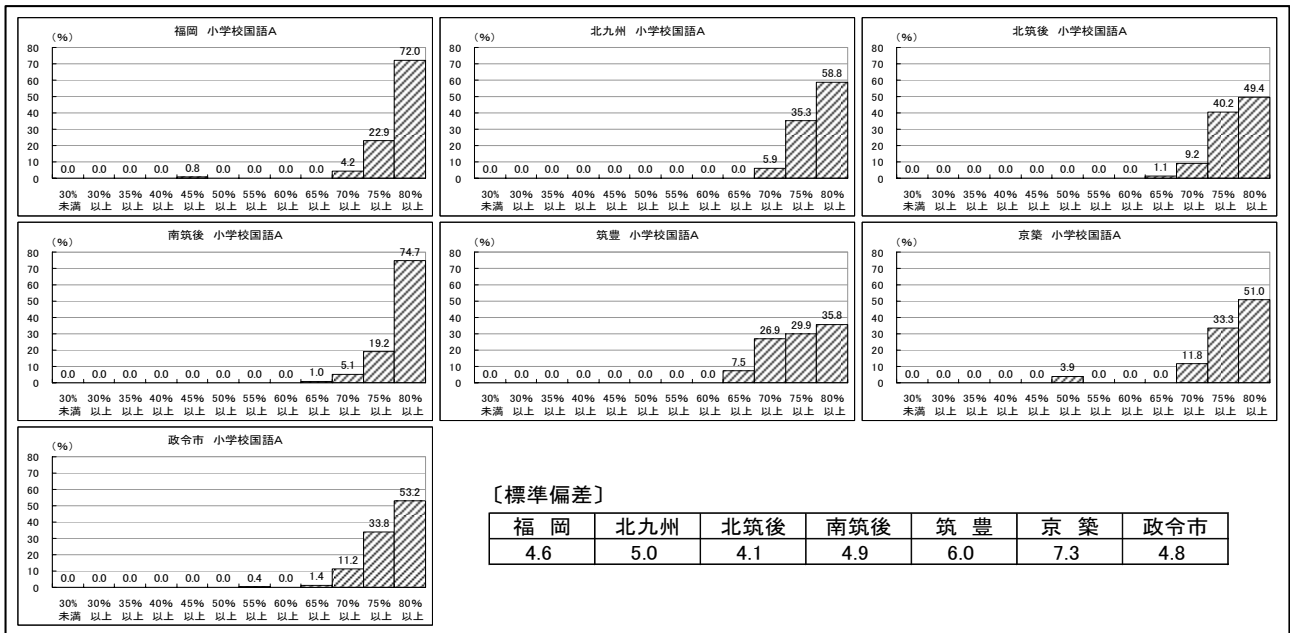


6 学校の状況（教育事務所・政令市ごとの学校の平均正答率の分布）

グラフの横軸は、各学校の平均正答率の区分を、縦軸は平均正答率の区分に位置付く学校数の割合を示す。また、表内の数字は、各地区内の学校間の標準偏差を示すが、標準偏差は、外れ値の影響を強く受けるので、分布の全体的様相も併せて判断すること。

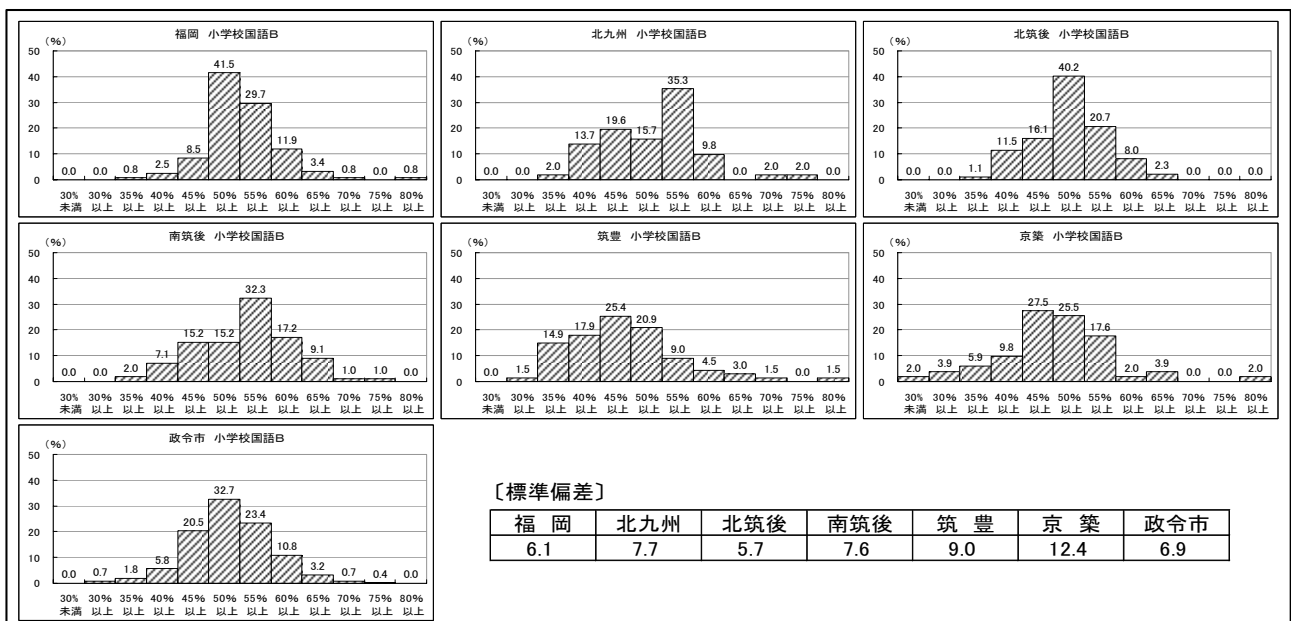
■ 小学校 国語A

- 各教育事務所・政令市ともに平均正答率80%以上に多くの学校が位置しており、特に福岡、南筑後では7割以上の学校が位置している。
- 各教育事務所・政令市の学校の分布を標準偏差で比べると、筑豊、京築が大きな値を示している。※京築は外れ値が影響していると考えられる。



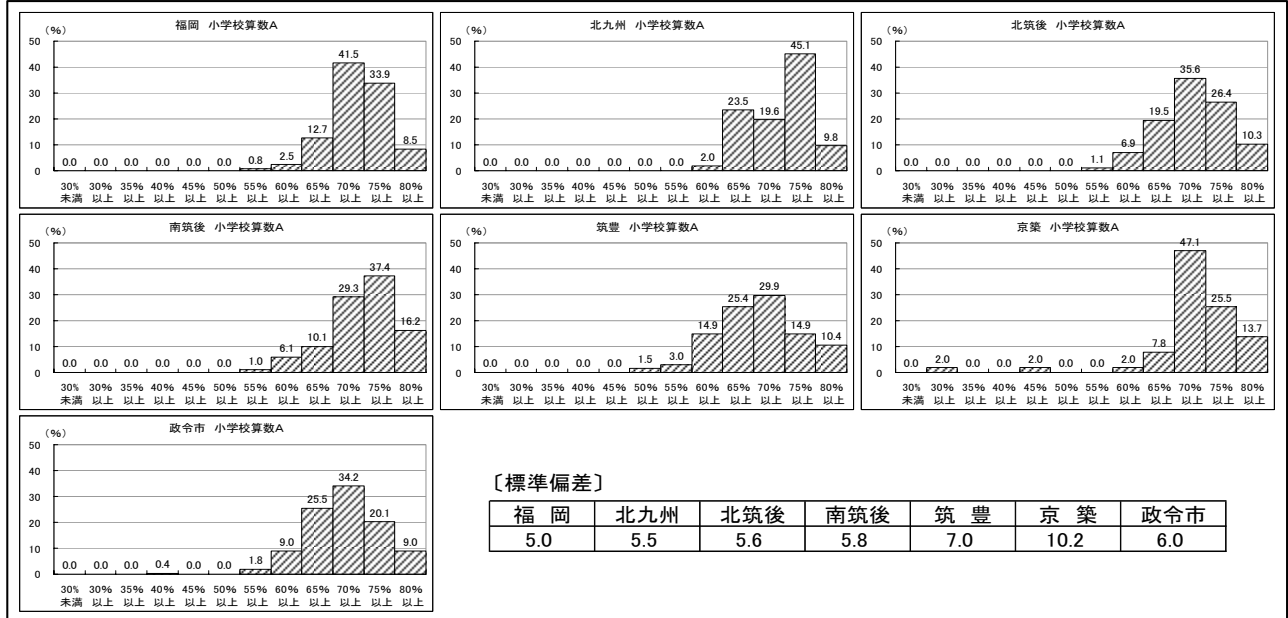
■ 小学校 国語B

- 各教育事務所・政令市ともに平均正答率50%以上に多くの学校が位置しているが、筑豊では平均正答率50%未満に約6割の学校が位置している。
- 各教育事務所・政令市の学校の分布を標準偏差で比べると、筑豊、京築が大きな値を示している。※筑豊、京築は外れ値が影響していると考えられる。



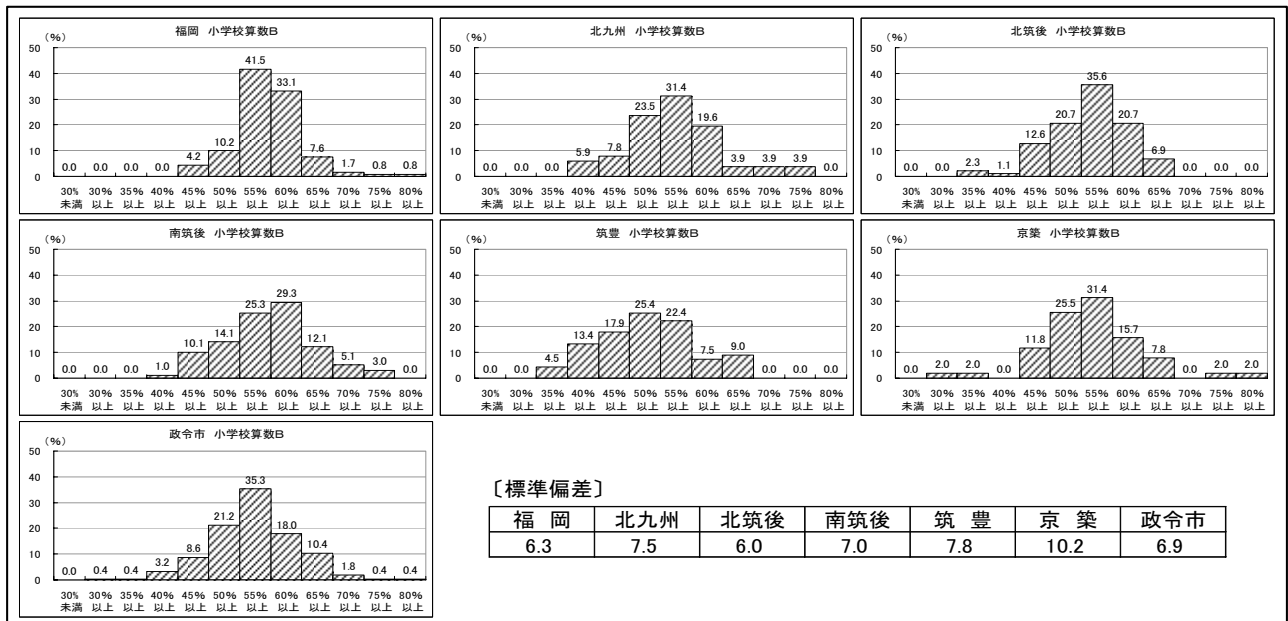
■ 小学校 算数A

- 各教育事務所・政令市ともに平均正答率70%以上に多くの学校が位置しているが、筑豊では平均正答率70%未満に4割以上の学校が位置している。
- 各教育事務所・政令市の学校の分布を標準偏差で比べると、筑豊、京築が大きな値を示している。
※京築は外れ値が影響していると考えられる。



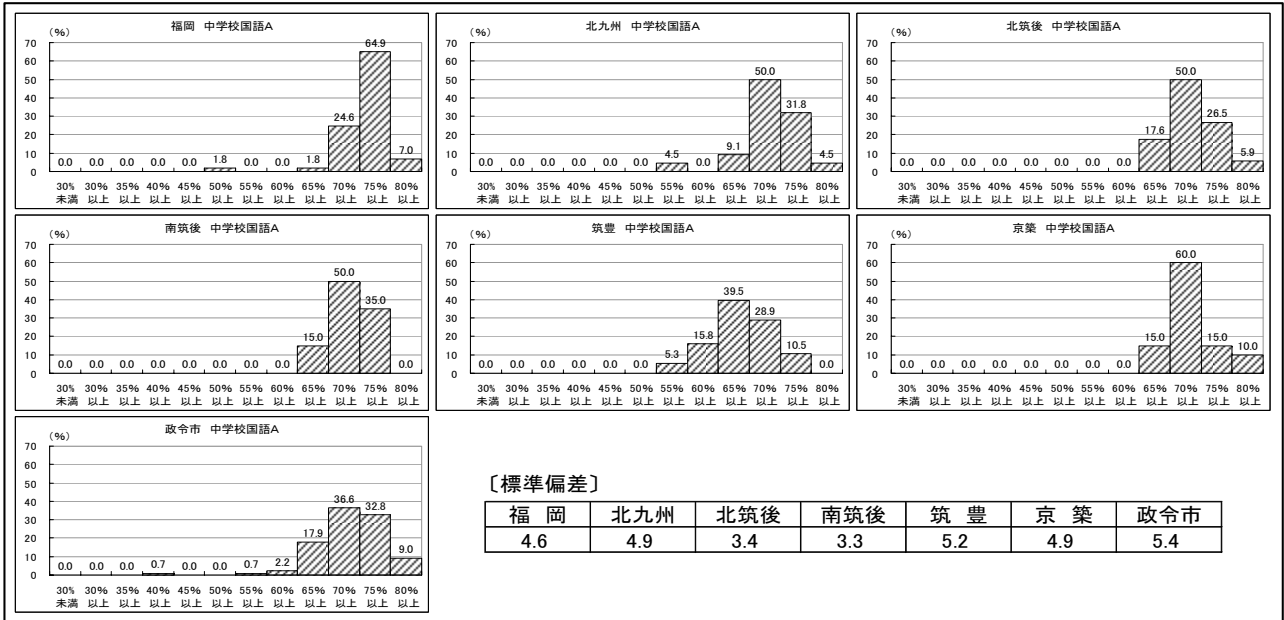
■ 小学校 算数B

- 各教育事務所・政令市ともに平均正答率50%以上に多くの学校が位置しているが、筑豊では平均正答率50%未満に3割以上の学校が位置している。
- 各教育事務所・政令市の学校の分布を標準偏差で比べると、北九州、筑豊、京築が大きな値を示している。※京築は外れ値が影響していると考えられる。



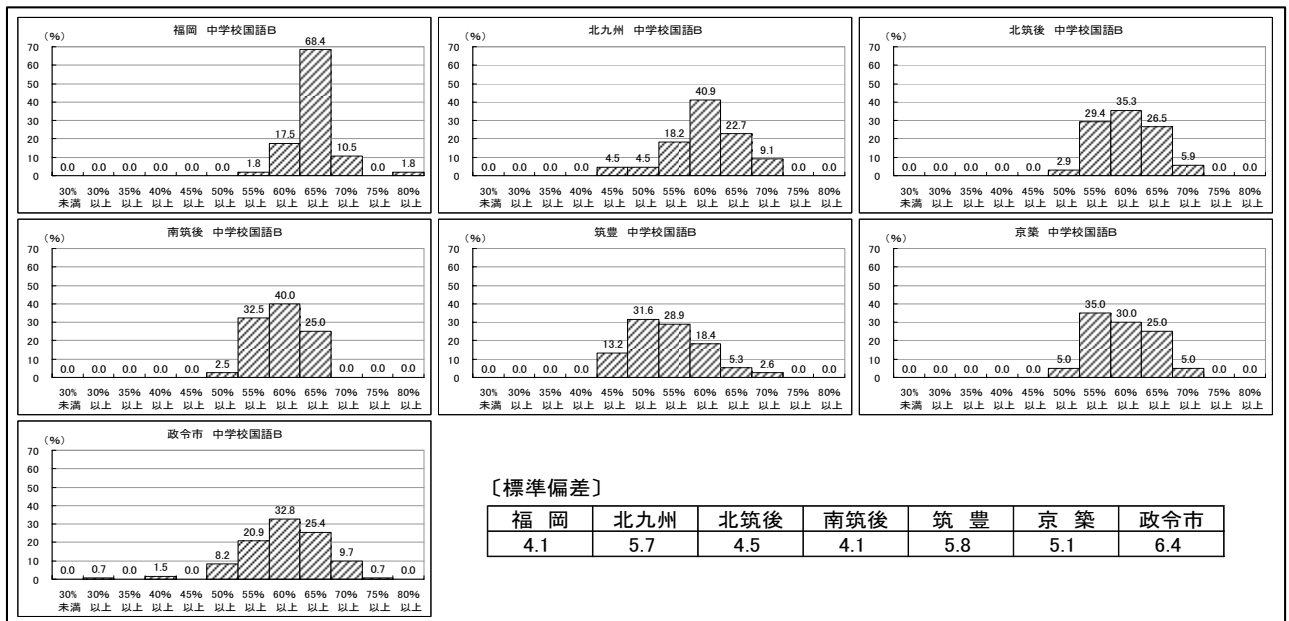
■ 中学校 国語A

- 各教育事務所・政令市ともに平均正答率70%以上に多くの学校が位置しているが、筑豊では平均正答率70%未満に約6割の学校が位置している。
- 各教育事務所・政令市の学校の分布を標準偏差で比べると、筑豊、政令市が大きな値を示している。



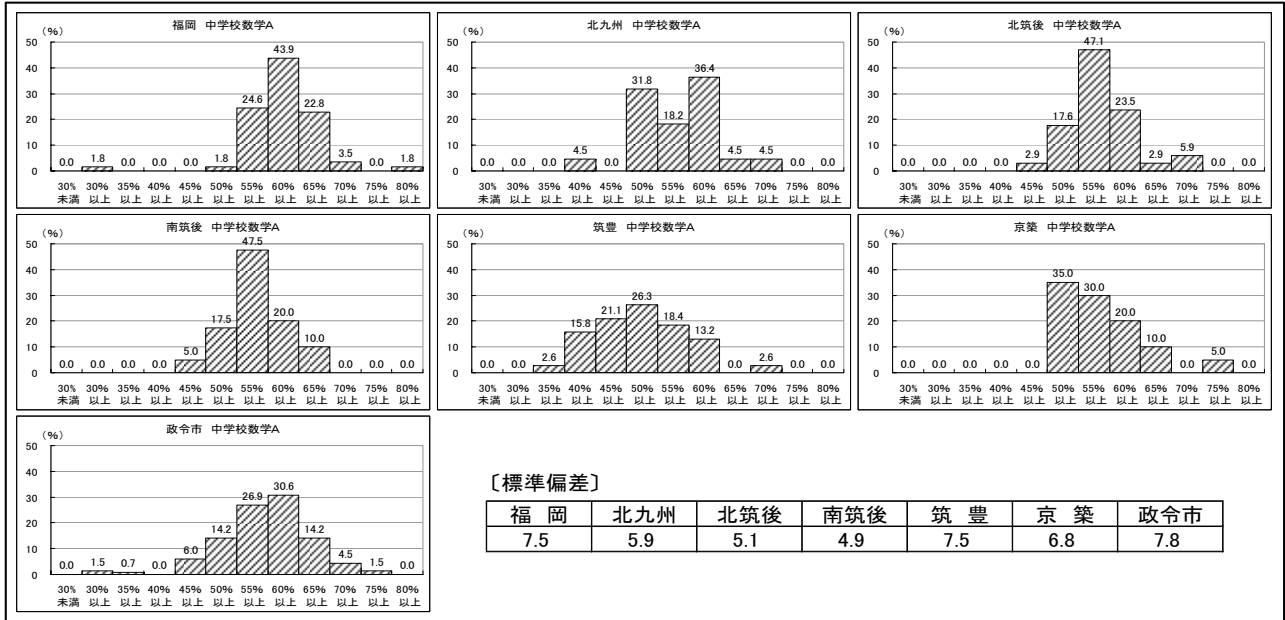
■ 中学校 国語B

- 各教育事務所・政令市ともに平均正答率55%以上に多くの学校が位置しているが、筑豊では平均正答率55%未満に4割以上の学校が位置している。
- 各教育事務所・政令市の学校の分布を標準偏差で比べると、筑豊、政令市が大きな値を示している。※政令市は外れ値が影響していると考えられる。



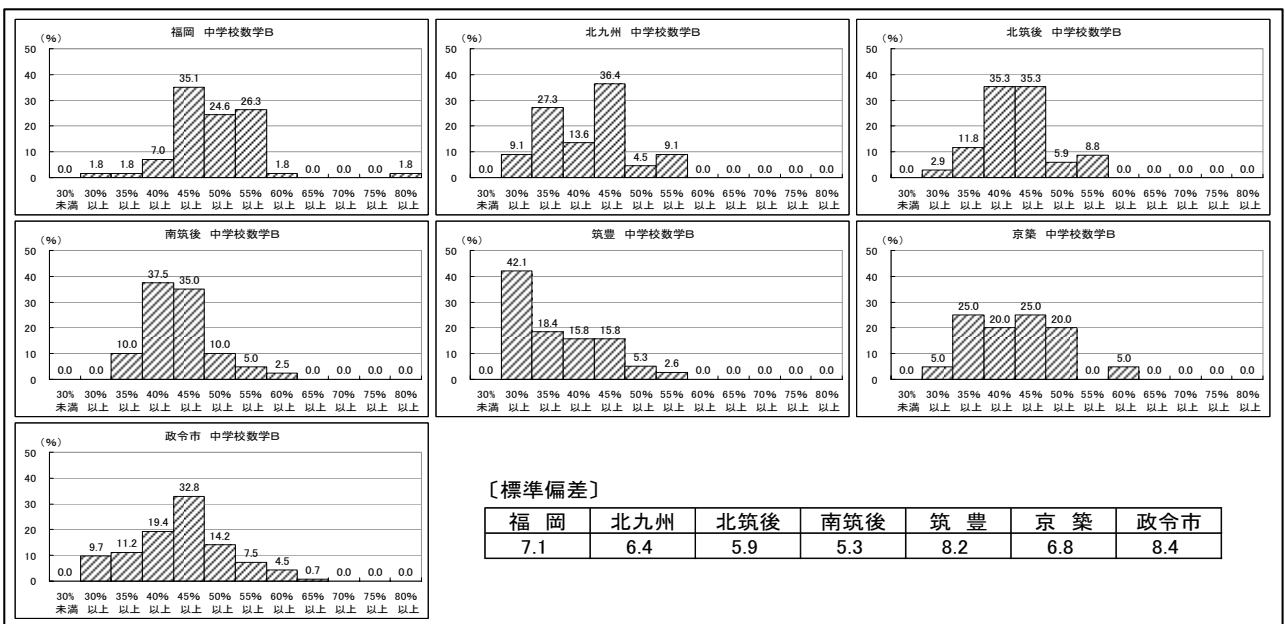
■ 中学校 数学A

- 各教育事務所・政令市ともに平均正答率50%以上に多くの学校が位置しているが、筑豊では平均正答率50%未満に約4割の学校が位置している。
- 各教育事務所・政令市の学校の分布を標準偏差で比べると、福岡、筑豊、政令市が大きな値を示している。※福岡、政令市は外れ値が影響していると考えられる。



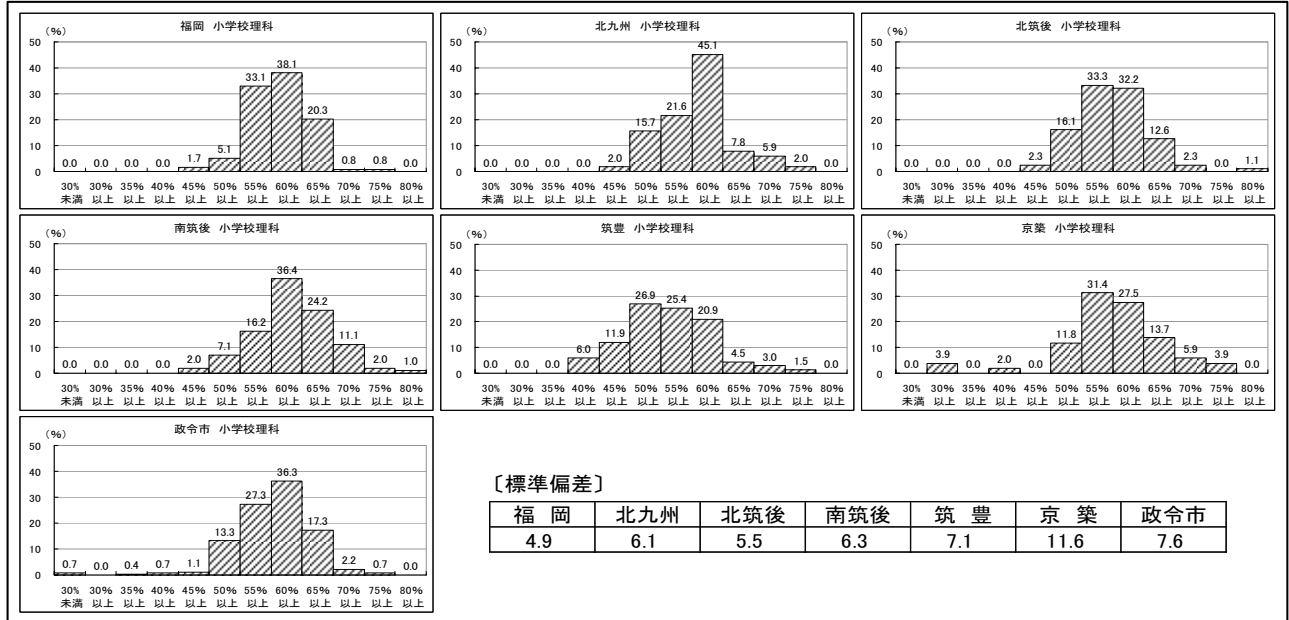
■ 中学校 数学B

- 各教育事務所・政令市ともに平均正答率40%以上に多くの学校が位置しているが、筑豊では平均正答率40%未満に約6割の学校が位置している。
- 各教育事務所・政令市の学校の分布を標準偏差で比べると、福岡、筑豊、政令市が大きな値を示している。※福岡は外れ値が影響していると考えられる。



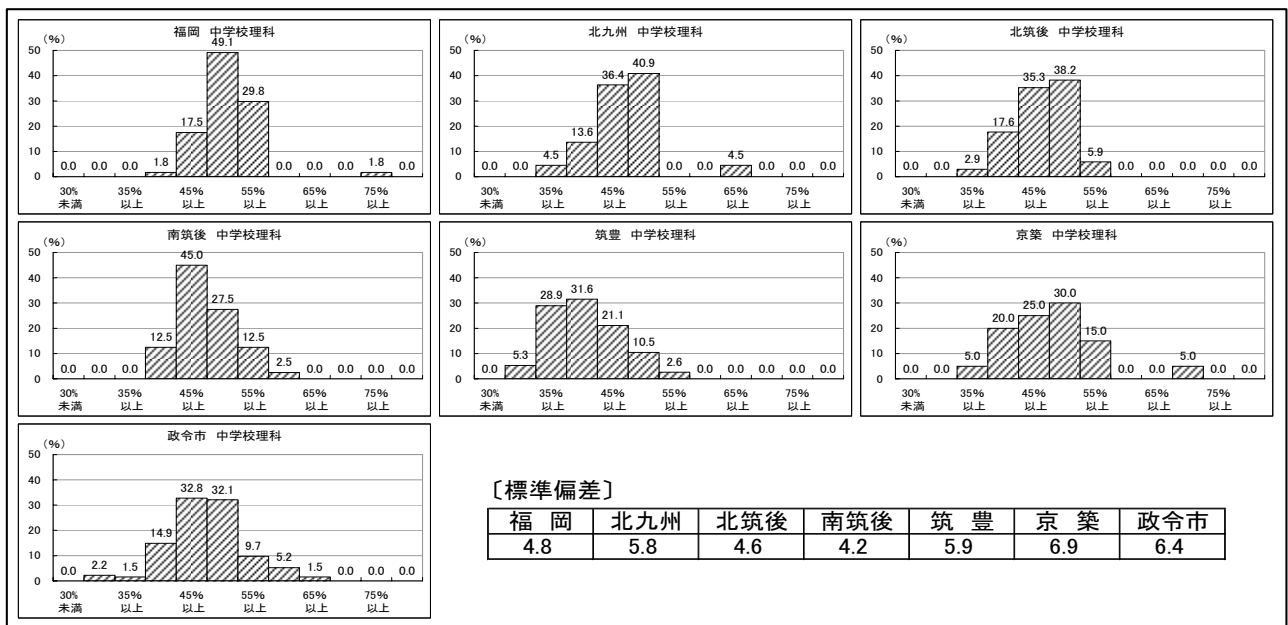
■ 小学校 理科

- 各教育事務所・政令市ともに平均正答率55%以上に多くの学校が位置しているが、筑豊では平均正答率55%未満に4割以上の学校が位置している。
- 各教育事務所・政令市の学校の分布を標準偏差で比べると、京築が大きな値を示している。
※京築は外れ値が影響していると考えられる。



■ 中学校 理科

- 各教育事務所・政令市ともに平均正答率40%以上に多くの学校が位置しているが、筑豊では平均正答率40%未満に約6割の学校が位置している。
- 各教育事務所・政令市の学校の分布を標準偏差で比べると、京築、政令市が大きな値を示している。



7 児童生徒の無解答の状況（教育事務所・政令市別）

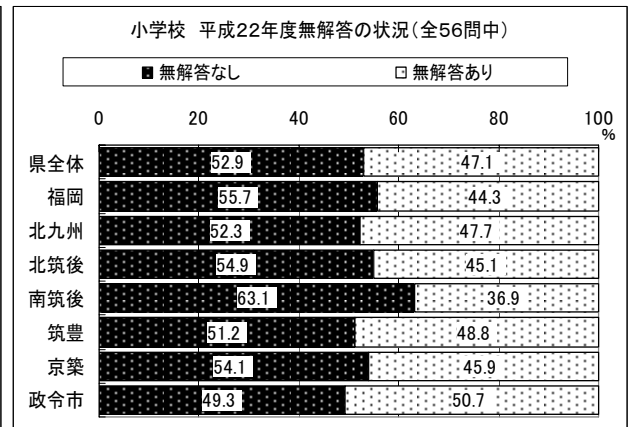
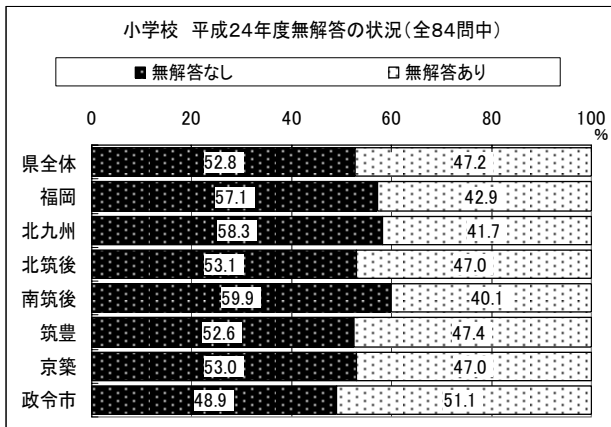
各教科の調査における児童生徒の無解答の状況を教育事務所・政令市別に分析する。

無解答の状況については、小学校は全84間中、中学校は全118間中の無解答をすべて合計し、無解答ありと無解答なしで比較した。

(1) 全体の状況

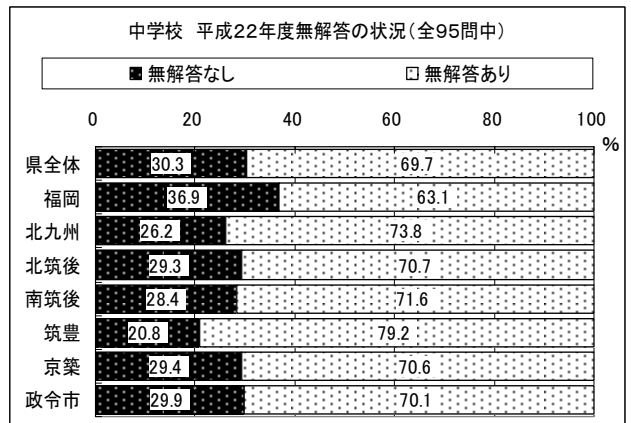
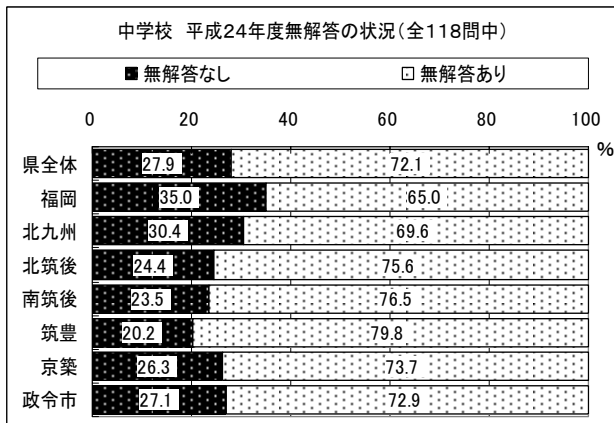
■ 小学校

- 無解答なしの児童の割合を比べると、南筑後が最も高く、筑豊、政令市で無解答が全くない児童の割合が県全体を下回った。
- 平成22年度に比べると、福岡、北九州、筑豊において無解答が全くない児童の割合が高くなっている。



■ 中学校

- 無解答なしの生徒の割合を比べると、福岡が他の地区よりも高く、福岡、北九州以外は、無解答が全くない児童の割合が県全体を下回った。
- 平成22年度に比べると、北九州以外の地区において無解答が全くない生徒の割合が低くなっている。

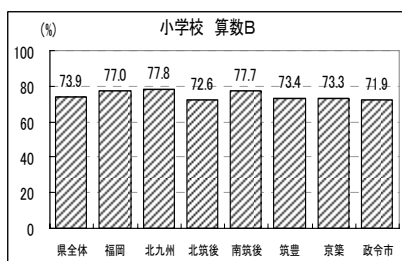
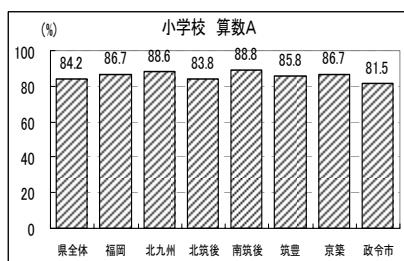
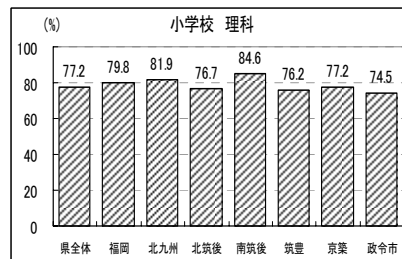
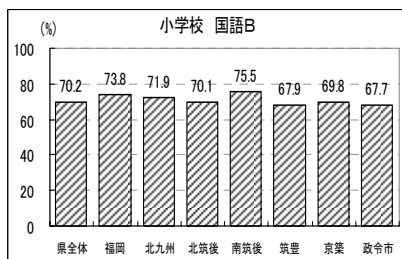
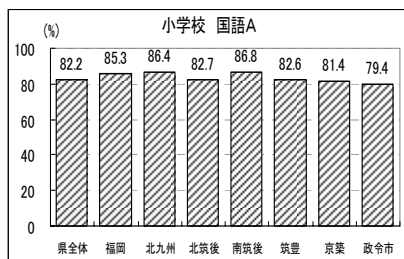


(2) 教科区分ごとの状況

それぞれの教科区分で、無解答が全くない児童生徒の割合を、教育事務所・政令市別に分析した。

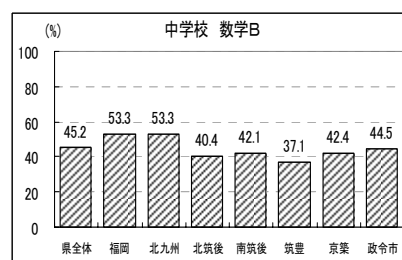
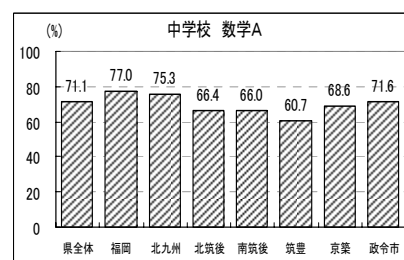
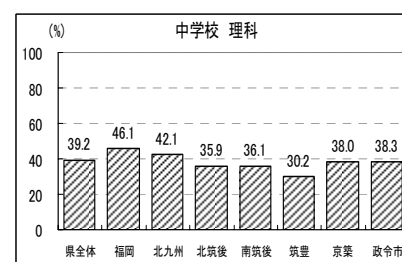
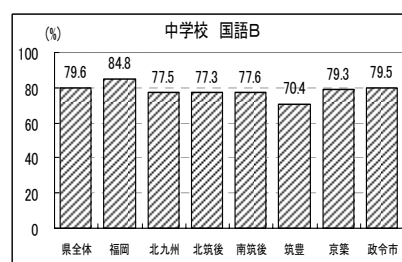
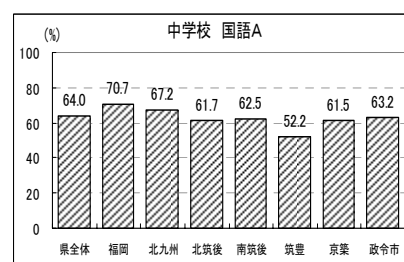
■ 小学校

- 県全体の教科区分で見ると、国語、算数ともA問題で無解答が全くない児童の割合が高い傾向がみられる。
- 教育事務所・政令市別にみると、南筑後で無解答が全くない児童の割合が高く、北筑後、筑豊、京築、政令市で低い傾向がみられる。



■ 中学校

- 県全体の教科区分で見ると、国語ではB問題で無解答が全くない生徒の割合が高く、数学ではA問題で無解答が全くない生徒の割合が高い。また、理科ではどの地区においても無解答が全くない生徒の割合が低い。
- 教育事務所・政令市別にみると、福岡で無解答が全くない生徒の割合が高く、福岡、北九州以外では、低い傾向がみられる。



Ⅲ 各教科の調査結果

1 小学校国語

- 国語A（知識）の平均正答率は、全国（公立）：81.6%、福岡県（公立）：80.9%で、例えば次のような課題が見られた。
 - ・ 狙いを明確にして質問をすること A² 全国 65.2% 福岡 64.6%
 - ・ 目的や意図に応じ、必要となる事柄を整理して簡潔に書くこと A⁷ 全国 43.2% 福岡 38.4%
- 国語B（活用）の平均正答率は、全国（公立）：55.6%、福岡県（公立）：53.8%で、例えば次のような課題が見られた。
 - ・ 手紙の構成を理解し、後付けを書くこと B¹三 全国 23.5% 福岡 22.7%
 - ・ 複数の記事を結び付けながら読み、事実を基にして自分の考えをもつこと B³四 全国 37.7% 福岡 34.9%

■ 平均正答数、平均正答率（信頼区間）、中央値、標準偏差、観点別・問題形式別正答率 <国語A>

	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	13.8	80.9	14.0	2.9
全国(公立)	13.9	81.6	15.0	2.9

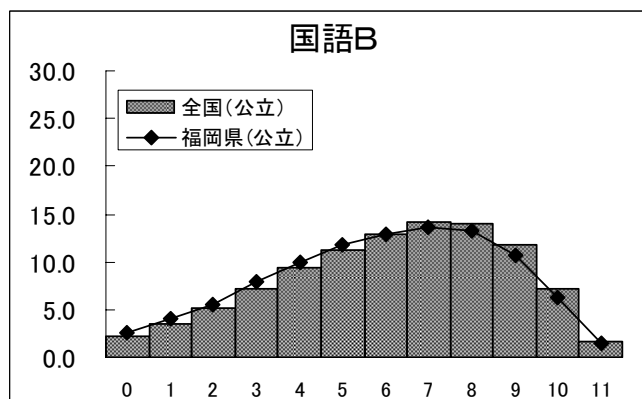
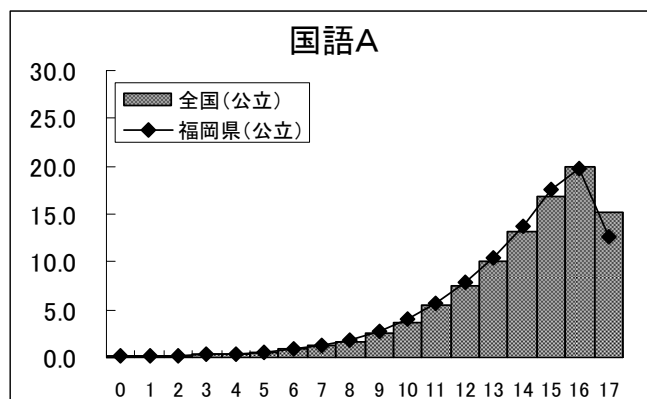
	評価の観点					問題形式		
	関心・意欲 態度	話す・聞く 能力	書く能力	読む能力	知識・理解・ 技能	選択式	短答式	記述式
福岡県(公立)	38.4	79.1	54.8	81.3	86.0	71.4	83.8	
全国(公立)	43.2	79.4	57.5	82.1	86.3	72.5	84.3	

<国語B>

	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	5.9	53.8	6.0	2.6
全国(公立)	6.1	55.6	6.0	2.6

	評価の観点					問題形式		
	関心・意欲 態度	話す・聞く 能力	書く能力	読む能力	知識・理解・ 技能	選択式	短答式	記述式
福岡県(公立)	44.1	60.5	44.1	54.2	51.1	59.1	45.1	44.1
全国(公立)	48.5	63.0	46.8	55.7	55.2	60.1	45.0	48.5

■ 正答数分布 横軸：正答数（問） 縦軸：割合（%）



■ 小学校国語A 設問別正答率

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	福岡県 (公立)		全国 (公立)	
			正答率 (%)	無解答率 (%)	正答率 (%)	無解答率 (%)
1ー(1)	漢字を読む (新しいビルを建築する)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む	90.4	1.4	89.3	1.3
1ー(2)	漢字を読む (親から独立してくらす)		92.5	2.4	92.1	2.4
1ー(3)	漢字を読む (参加することを許す)		95.2	1.4	95.2	1.3
1二(1)	漢字を書く (病院でいしやにみてもらう)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く	75.5	3.8	83.1	4.2
1二(2)	漢字を書く (東からたいようがのぼる)		86.0	1.1	82.8	1.6
1二(3)	漢字を書く (白いぬのを青くそめる)		91.6	3.8	90.5	4.2
2	話し手の話の内容を聞きながら書いた質問について、その狙いを適切に説明したものを選択する	狙いを明確にして質問をする	64.6	0.6	65.2	0.6
3ア	収集した情報を関係付けながら話し合い、整理した図の中から適切な内容を取り出して書く	目的に応じ、収集した情報を関係付けながら話し合う	91.6	1.0	92.5	0.9
3イ	収集した情報を関係付けながら話し合い、整理した図の中から共通する内容を取り出して書く		81.0	1.2	80.4	1.1
4	四つの会話文の音読の仕方として適切なものをそれぞれ選択する	場面の様子や登場人物の気持ちを想像しながら音読する	71.9	0.6	73.3	0.6
5ア	百科事典を読み、目的に応じて中心となる内容を取り出して書く	百科事典を読み、目的に応じて中心となる内容を捉える	90.0	1.5	91.1	1.5
5イ			92.2	1.9	92.2	1.7
6	創作した物語の語り手が寄り添っている人物として適切なものを選択する	表現の効果について確かめながら物語を創作する	71.2	1.4	71.8	1.4
7	新聞の報道記事のリードに必要な事柄を整理し、一文にまとめて書く	目的や意図に応じ、必要となる事柄を整理して簡潔に書く	38.4	8.0	43.2	7.5
8	日常生活で使われている慣用句を集め、それらの意味を適切に捉える	日常生活で使われている慣用句の意味を正しく理解する	78.1	6.7	79.7	6.6
9ー	学年別漢字配当表に示されている漢字(申)の正しい筆順を適切に捉える	学年別漢字配当表に示されている漢字を筆順に従って正しく書く	83.2	6.7	82.7	6.7
9二	学年別漢字配当表に示されている漢字(赤)の正しい筆順を適切に捉える		81.8	7.0	81.4	7.0

■ 小学校国語B 設問別正答率

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	福岡県 (公立)		全国 (公立)	
			正答率 (%)	無解答率 (%)	正答率 (%)	無解答率 (%)
1一	目的や意図に応じ、依頼する具体的な内容として適切なものを選択する	目的や意図に応じ、書く事柄を整理する	65.2	2.6	64.8	2.4
1二	目的や意図に応じ、適切に敬語を使いながら、返事の仕方と内容を記述する	目的や意図に応じ、適切に敬語を使いながら、内容の中心を明確にして書く	51.1	7.8	55.2	7.0
1三	手紙の後付けに必要な、日付、署名、宛て名のそれぞれの位置を適切に選択する	手紙の構成を理解し、後付けを書く	22.7	2.3	23.5	2.1
2一	参加者から出された質問の内容を適切に捉え、まとめごとに整理する	司会として収集した情報を捉え、まとめごとに整理する	83.0	2.8	84.3	2.5
2二	提示された資料を読み取った上で、相手に対して質問をしたい内容を明確にして発表するように記述する	資料を読み取った上で、質問をしたい内容を明確にして発表する	46.4	16.2	52.6	14.5
2三	話合いの目的を再確認し、計画的に話合いを進めようとする司会の役割を適切に説明したものを選択する	司会として話合いの目的を再確認し、計画的に話合いを進める	52.0	8.1	52.2	7.6
3一ア	雑誌の特徴の説明として適切なものを選択する	目的に応じ、雑誌や読んだ記事の特徴を捉える	86.3	3.0	87.3	2.6
3一イ	記事の特徴の説明として適切なものを取り出して書く		45.1	10.2	45.0	9.0
3二	編集者の意図を説明したものとして適切なものを選択する	編集者の意図を捉える	49.9	4.4	51.0	3.8
3三	目的に応じ、複数の記事を結び付けながら読もうとするとき、該当する記事の見出しとして適切なものを選択する	目的に応じ、記事を結び付けながら読む	55.0	4.9	57.6	4.2
3四	二つの記事に書かれている内容を結び付けながら読み、理由となる事実を基にして自分の考えを記述する	複数の記事を結び付けながら読み、事実を基にして自分の考えをもつ	34.9	19.3	37.7	17.0

2 小学校算数

- 算数A（知識）の平均正答率は、全国（公立）：73.3%、福岡県（公立）：72.9%で、例えば次のような課題が見られた。
- ・ 場面と図とを関連付けて、二つの数量の関係を理解すること A³(1) 全国 34.0% 福岡 32.3%
 - ・ 1に当たる大きさを求めるために、除法が用いられることを理解すること A³(2) 全国 41.1% 福岡 39.8%
- 算数B（活用）の平均正答率は、全国（公立）：58.9%、福岡県：57.9%で、例えば次のような課題が見られた。
- ・ 必要な情報を用いて、指定された高さにすることができるかどうかを判断し、その理由を書くこと B²(2) 全国 26.8% 福岡 29.1%
 - ・ 表から適切な数値を取り出して割合の大小を判断し、その理由を書くこと B⁵(3) 全国 23.3% 福岡 19.4%

■ 平均正答数、平均正答率（信頼区間）、中央値、標準偏差、観点別・問題形式別正答率 <算数A>

	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	13.9	72.9	14.0	3.5
全国(公立)	13.9	73.3	15.0	3.6

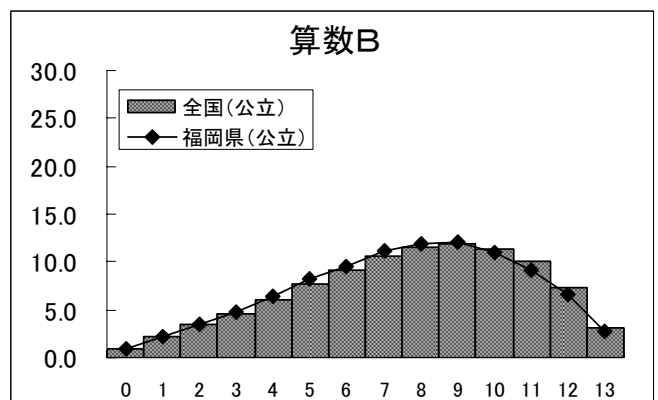
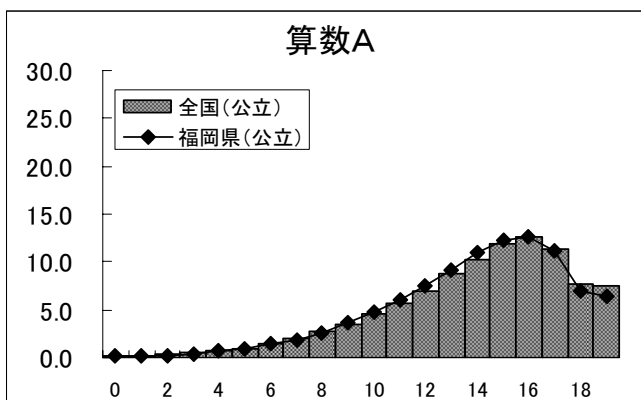
	評価の観点				問題形式		
	関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解	選択式	短答式	記述式
福岡県(公立)			85.0	64.2	57.9	77.0	
全国(公立)			84.9	64.9	58.5	77.2	

<算数B>

	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	7.5	57.9	8.0	3.1
全国(公立)	7.7	58.9	8.0	3.1

	評価の観点				問題形式		
	関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解	選択式	短答式	記述式
福岡県(公立)		49.1	77.1	64.6	66.9	76.6	33.7
全国(公立)		50.4	77.6	65.2	68.0	77.1	35.3

■ 正答数分布 横軸：正答数（問） 縦軸：割合（%）



■ 小学校算数 A 設問別正答率

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	福岡県 (公立)		全国 (公立)	
			正答率 (%)	無解答率 (%)	正答率 (%)	無解答率 (%)
1 (1)	$132+459$ を計算する	繰り上がりのある加法の計算をすることができる	95.8	0.1	95.7	0.1
1 (2)	$148\div 37$ を計算する	除法の計算をすることができる	94.8	1.4	94.3	1.5
1 (3)	$4.6-0.21$ を計算する	小数の減法の計算をすることができる	59.8	1.5	63.1	1.6
1 (4)	90×0.7 を計算する	小数の乗法の計算をすることができる	91.6	0.6	90.8	0.8
1 (5)	$6\times 2+8\times 3$ を計算する	加法と乗法の混合した整数の計算をすることができる	79.7	0.5	80.0	0.5
1 (6)	$3/7-2/5$ を計算する	異分母の分数の減法の計算をすることができる	85.4	2.0	85.7	2.1
1 (7)	$4/5\div 8$ を計算する	除数が整数である場合の分数の除法の計算をすることができる	85.0	3.2	82.4	4.2
2 (1)	47000は1000が何個集まった数かを書く	数の相対的な大きさについて理解している	88.3	0.5	88.8	0.5
2 (2)	596の1/100の大きさの数を小数で書く	十進位取り記数法の仕組みについて理解している	72.7	3.7	73.7	3.7
3 (1)	120cmの赤いテープの長さが白いテープの長さの0.6倍に当たるとき、二つのテープの長さの関係を表している図を選ぶ	場面と図とを関連付けて、二つの数量の関係を理解している	32.3	1.4	34.0	1.2
3 (2)	120cmの赤いテープの長さが白いテープの長さの0.6倍に当たるとき、白いテープの長さを求める式を書く	1に当たる大きさを求めるために、除法が用いられることを理解している	39.8	3.7	41.1	3.4
4	5日間で1日に平均何個のトマトがとれたことになるのかを書く	平均の意味を理解し、測定値の平均を求めることができる	87.8	1.0	86.9	1.1
5 (1)	示されたはがきの面積は約何cm ² かを選ぶ	面積についての感覚を身に付けている	62.1	1.1	60.6	1.2
5 (2)	三角形の底辺に対応する高さを選ぶ	三角形の底辺と高さの関係について理解している	51.9	1.2	54.6	1.2
6 (1)	三つの角の大きさが60°、80°、90°である四角形の、残りの角の大きさを書く	四角形の四つの角の大きさの和が360°であることを理解している	76.2	2.2	76.9	2.1
6 (2)	直方体において、与えられた面に垂直な辺を書く	立体図形の辺と面の垂直の関係を理解している	63.5	3.1	64.8	2.7
7	示された半円をかくために、コンパスの針を刺す場所と、コンパスの開いている長さを答える	円の中心と半径について理解している	75.6	1.6	76.1	1.6
8	犬を飼っている8人が学級全体の人数の25%に当たるとき、学級全体の人数を求める式と答えを書く	百分率の意味について理解している	58.8	10.5	58.3	10.0
9	直方体の底面の大きさを変えずに、高さを2倍、3倍、…にすると、体積はどのように変わるかを選ぶ	表を用いて、二つの数量の関係が、比例の関係にあることを理解している	85.2	3.3	84.8	3.4

■ 小学校算数B 設問別正答率

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	福岡県 (公立)		全国 (公立)	
			正答率 (%)	無解答率 (%)	正答率 (%)	無解答率 (%)
1 (1)	代金320円に対して520円を支払ったとき、おつりとしてもらった2枚の硬貨の種類を書く	支払い方の工夫を解釈し、おつりの金額を硬貨の種類と枚数に対応させることができる	92.5	0.4	92.6	0.5
1 (2)	代金630円に対して、1030円よりも1130円を支払ったときの方が、おつりの硬貨の枚数が少なくなるわけを書く	硬貨の種類と枚数を比較し、一方の支払いの方が、おつりの枚数が少なくなる理由を記述できる	38.7	5.8	42.5	5.6
2 (1)	中型の跳び箱を8段にしたときの高さを求める式を選ぶ	跳び箱の図を観察し、指定された段の高さを求める式を読み取ることができる	87.3	1.1	87.1	1.0
2 (2)	中型の跳び箱を70cmの高さにすることができるかどうかを判断し、そのわけを書く	必要な情報を用いて、指定された高さにすることができるかどうかを判断し、その理由を記述できる	29.1	1.4	26.8	1.3
2 (3)	2種類の跳び箱を30cm高くすると同じ高さになるわけとして、正しい記述を選ぶ	示された複数の情報を関連付けて解釈し、算数の用語で的確に表現されているものを選択できる	55.5	2.4	56.2	2.2
3 (1)	縦6cm、横10cmの長方形に内接するひし形の面積を求める式と答えを書く	面積が等しい直角三角形の数に着目し、長方形に内接するひし形の面積の求め方を理解できる	73.7	4.7	74.2	4.1
3 (2)	面積が等しい直角三角形を基に、長方形に内接する四角形の面積と長方形の面積の関係を書く	面積が等しい直角三角形を基に筋道を立てて考え、面積の関係を記述できる	49.4	9.7	51.2	8.6
4 (1)	午前11時30分までにご飯が出来上がるようにするために、所要時間40分間を基に、こんろに点火する時刻を求める	与えられた条件に合う時刻を求めることができる	80.9	1.9	81.3	1.7
4 (2)	40分間以内でできることを判断するために、所要時間の範囲から適切な数値の組み合わせを書く	示された時間の範囲から、目的に応じて所要時間の見当を付けることができる	72.5	2.3	72.8	2.0
4 (3)	はかりの目盛りと1人分の材料と分量を基に、班の人数分のご飯を作るために必要な水の重さの求め方と答えを書く	はかりを適切に読み取り、与えられた条件を基に筋道を立てて考え、重さの求め方を記述できる	31.9	12.4	32.8	10.9
5 (1)	一輪車の高さを調節したときの、示された長さを求める	一輪車の図から円を見だし、円の性質を用いて、長さを求めることができる	63.3	6.5	64.4	5.7
5 (2)	一輪車のタイヤの回転数と進んだ長さが比例の関係にあることを基に、トラック一周の長さを求める式を選ぶ	表から比例の関係を捉え、二つの数量の変化の仕方に対応する式を選択することができる	58.1	6.7	60.9	5.8
5 (3)	示された表から、合計の人数を基にした乗れる人数の割合は、男子と女子ではどちらの方が大きいかを判断し、そのわけを書く	表から適切な数値を取り出して割合の大小を判断し、その理由を記述できる	19.4	12.0	23.3	10.6

3 小学校理科

○ 理科の平均正答率は、全国（公立）：60.9%、福岡県（公立）：60.7%で、例えば次のような課題が見られた。

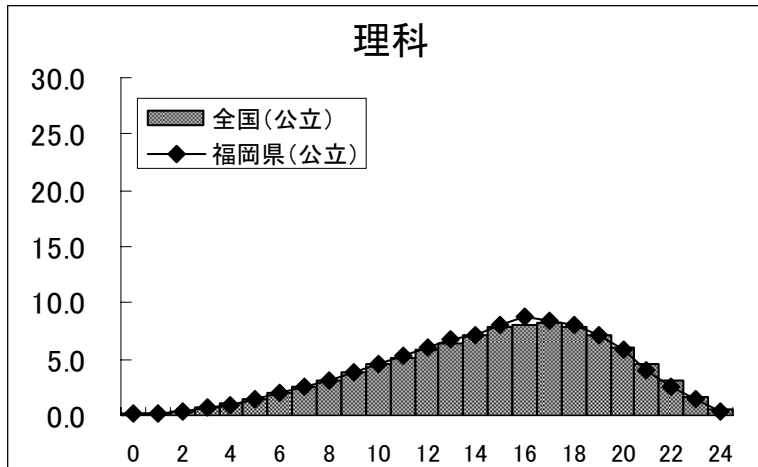
- ・ 天気の様子と気温の変化の関係についてデータを基に分析して、その理由を書くこと
□4(5) 全国 16.9% 福岡 20.1%
- ・ 方位磁針の適切な操作方法を身に付けていること
□4(1) 全国 27.3% 福岡 25.2%
- ・ 植物の受粉と結実の関係を調べる実験について、結果を基に方法を改善して、その理由を記述できること
□2(5) 全国 32.1% 福岡 30.8%
- ・ 電磁石の強さを変える要因について確かめる実験を、条件を制御しながら構想すること
□3(4) 全国 50.6% 福岡 52.7%

■ 平均正答数、平均正答率（信頼区間）、中央値、標準偏差、観点別・問題形式別正答率 <理科>

	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	14.6	60.7	15.0	4.7
全国(公立)	14.6	60.9	15.0	4.8

	評価の観点				問題形式		
	関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	知識・理解	選択式	短答式	記述式
福岡県(公立)		57.5	45.2	77.7	64.4	63.2	36.9
全国(公立)		57.6	46.2	78.2	65.0	63.9	34.5

■ 正答数分布 横軸：正答数（問） 縦軸：割合（%）



■ 小学校理科 設問別正答率

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	福岡県 (公立)		全国 (公立)	
			正答率 (%)	無解答率 (%)	正答率 (%)	無解答率 (%)
1 (1)	氷砂糖を細かく割ったときの全体の重さについて、当てはまるものを選ぶ	物は、形が変わっても重さは変わらないことを理解している	87.4	0.3	85.8	0.3
1 (2)	氷砂糖を水に溶かしたときの全体の重さについて、当てはまるものを選ぶ	物は、水に溶けても重さは変わらないことを氷砂糖に適用できる	80.8	0.4	76.3	0.4
1 (3)	砂糖水に溶けている氷砂糖の様子について、実験結果から適切な図を選び、選んだわけを書く	水に溶けている物の様子について、実験結果を基に自分の考えを改善して、その理由を記述できる	60.0	1.0	54.4	0.9
1 (4)	梅ジュースに溶けている砂糖の濃さについて、適切に説明しているものを選ぶ	物は、水に溶けると液全体に広がることを、梅ジュースに適用できる	65.1	0.7	65.6	0.6
2 (1)	虫眼鏡の適切な操作方法を選ぶ	虫眼鏡の適切な操作方法を身に付けている	65.1	0.5	65.0	0.5
2 (2) ア	4月25日のサクラの様子について、データを基に、それぞれ当てはまるものを選ぶ	学習した植物の成長の規則性を、他の対象であるサクラに適用できる	73.3	0.9	73.0	0.8
2 (2) イ			88.4	0.9	88.4	0.8
2 (3) 太郎	サクラが開花する地域について、データを基に、それぞれ当てはまるものを選ぶ	気温が異なる地域のサクラの開花時期を、データを基に分析できる	74.6	1.9	75.5	1.7
2 (3) 花子			65.3	1.9	68.9	1.6
2 (4)	「おしべの花粉がめしべの先につく」ことを表す言葉を書く	植物の受粉と結実の関係について、科学的な言葉や概念を理解している	78.6	10.0	77.2	10.2
2 (5)	スイカの受粉と結実の関係を調べる実験について、適切な実験方法を選び、選んだわけを書く	植物の受粉と結実の関係を調べる実験について、結果を基に方法を改善して、その理由を記述できる	30.8	5.2	32.1	4.6
3 (1) ア	車を動かす力を強くするための工夫について、光電池の特性や乾電池のつなぎ方から当てはまる言葉を書く	光電池や乾電池の働きを強くするための要因を理解している	75.2	4.6	76.5	4.3
3 (1) イ			58.8	5.7	61.7	5.4
3 (2)	ゴムをねじる回数と車の進む距離の関係を示すグラフから、ゴムをねじる回数を選ぶ	ゴムをねじる回数についてグラフから分析して、予測することができる	57.5	1.1	57.4	1.0
3 (3)	車の進行方向と電流の向きとを関係付けて考え、並列つなぎの適切なつなぎ方を選ぶ	並列つなぎについて、乾電池の向きと車の進行方向とを関係付けて、分析できる	51.5	1.5	52.7	1.3
3 (4)	電磁石の強さを変えるための実験条件を書く	電磁石の強さを変える要因について確かめる実験を、条件を制御しながら構想できる	52.7	7.5	50.6	7.2
3 (5) オ	水の状態変化の説明として、当てはまる言葉を選ぶ	水は、温度によって状態が変化する性質を、物を動かす「エネルギーの見方」として適用できる	60.0	2.8	62.1	2.4
3 (5) カ			39.4	3.3	42.4	2.8
3 (5) キ			41.6	4.0	43.5	3.4
4 (1)	方位磁針の適切な操作方法を選び、その時の太陽の方位を書く	方位磁針の適切な操作方法を身に付けている	25.2	3.6	27.3	3.2
4 (2)	方位磁針の名称を書く	方位磁針の名称を理解している	88.5	6.3	89.8	5.7
4 (3)	「かげの観察記録」を基に、木の影の長さの変化を表したグラフを選ぶ	「かげの観察記録」を基に、木の影の長さの変化を表すグラフを分析できる	53.5	4.5	54.6	3.9
4 (4)	木の影がなかった時間の空の様子を選ぶ	日陰の様子と雲の様子とを関係付けて、木の影がなかった時間の空の様子を分析できる	63.2	4.7	64.6	4.1
4 (5)	天気の様子と気温の変化とを関係付けて、気温の変化を表したグラフを選び、選んだわけを書く	天気の様子と気温の変化の関係についてデータを基に分析して、その理由を記述できる	20.1	7.9	16.9	6.7

4 中学校国語

- 国語A（知識）の平均正答率は、全国（公立）：75.1%、福岡県（公立）：74.5%で、例えば次のような課題が見られた。
- ・ 比喩という言葉と結び付けて、表現の仕方を理解すること A³二 全国 40.4% 福岡 36.8%
 - ・ 目的に応じて必要な情報を読み取ること A⁶二 全国 40.3% 福岡 41.1%
- 国語B（活用）の平均正答率は、全国（公立）：63.3%、福岡県（公立）：63.7%で、例えば次のような課題が見られた。
- ・ 相手の発言を注意して聞き、自分の考えを書くこと B¹三 全国 19.7% 福岡 25.7%
 - ・ 物語の場面の展開を捉えること B³二 全国 34.2% 福岡 31.1%

■ 平均正答数、平均正答率（信頼区間）、中央値、標準偏差、観点別・問題形式別正答率 ＜国語A＞

	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	23.9	74.5	25.0	5.6
全国(公立)	24.0	75.1	25.0	5.5

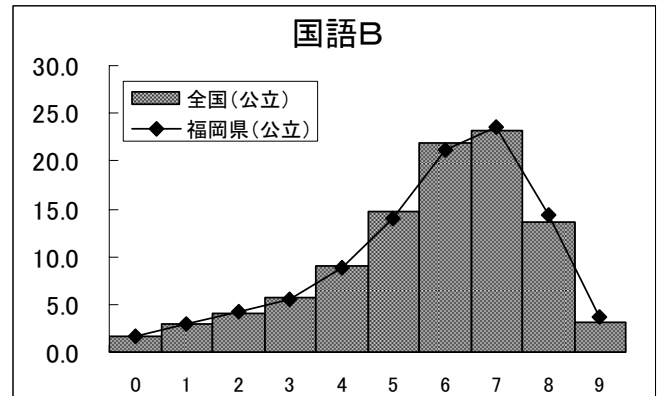
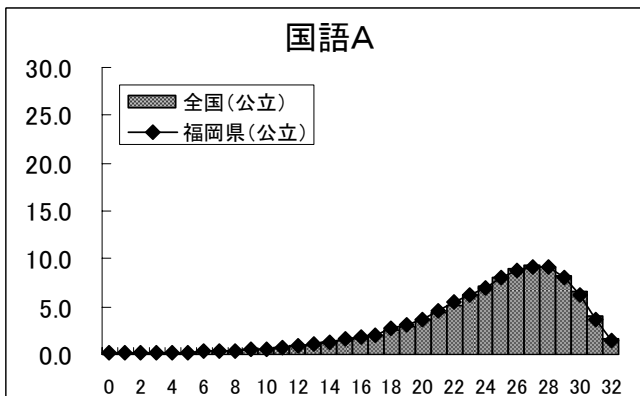
	評価の観点					問題形式		
	関心・意欲 態度	話す・聞く 能力	書く能力	読む能力	知識・理解・ 技能	選択式	短答式	記述式
福岡県(公立)		87.9	88.2	65.2	72.9	75.1	74.0	
全国(公立)		87.7	88.1	65.4	73.7	76.1	74.1	

＜国語B＞

	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	5.7	63.7	6.0	2.0
全国(公立)	5.7	63.3	6.0	2.0

	評価の観点					問題形式		
	関心・意欲 態度	話す・聞く 能力	書く能力	読む能力	知識・理解・ 技能	選択式	短答式	記述式
福岡県(公立)	52.3	61.4	59.8	61.3		66.5	83.3	52.3
全国(公立)	49.0	59.9	57.4	61.5		67.7	84.3	49.0

■ 正答数分布 横軸：正答数（問） 縦軸：割合（%）



■ 中学校国語A 設問別正答率（前半）

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	福岡県 (公立)		全国 (公立)	
			正答率 (%)	無解答率 (%)	正答率 (%)	無解答率 (%)
1一	指示棒が指す箇所として適切なものを選択する	自分の話を聞き手に理解してもらえるように、資料を用いて話す	85.3	0.2	85.4	0.3
1二	話題が変わる箇所として適切なものを選択する	間の取り方に注意して話す	84.2	0.3	85.0	0.4
2一	手紙の前文の最初に書かれる言葉の名称として適切なものを選択する	手紙の形式を理解して書く	91.6	0.2	89.2	0.4
2二	時候の挨拶に書き足した文の説明として適切なものを選択する	相手に応じて文章を書き直す	85.2	0.3	84.9	0.5
3一	「よく熟した夏ミカン」に対応する東京の情景を本文中から抜き出す	比喩を手掛かりにしながら文脈をたどり、内容を理解する	87.4	2.4	85.9	2.3
3二	「この村の月は、まるでよく熟した夏ミカンだ」に使われている表現の技法の名称を書く	比喩という言葉と結び付けて、表現の仕方を理解する	36.8	21.2	40.4	18.3
4一	「難易度が高くなるので」を聞き手に分かりやすい表現に直す	聞き手や場面を意識して、適切な語句を選択して話す	90.6	2.3	90.1	2.0
4二	「生徒会活動（小学校……児童会活動）」を場に応じた話し言葉にする	話し言葉と書き言葉との違いを理解し、適切に使う	51.8	8.4	47.1	7.7
5一	文章の特徴として適切なものを選択する	伝えたい事柄を明確にして書く	90.8	0.5	90.6	0.6
5二	文鎮について説明する一文を書き加える	必要な情報が相手に伝わるように説明する	85.3	4.4	87.8	3.6
6一	「このような現象」が何と呼ばれているかを本文中から抜き出す	文章の展開に即して内容を捉える	67.7	3.7	68.1	3.1
6二	取扱い絵表示の内容に加えて気を付けなければならないこととして適切なものを選択する	目的に応じて必要な情報を読み取る	41.1	0.5	40.3	0.6

■ 中学校国語 A 設問別正答率（後半）

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	福岡県 (公立)		全国 (公立)	
			正答率 (%)	無解答率 (%)	正答率 (%)	無解答率 (%)
7-1	漢字を書く (地域の人をショウタイする)	文脈に即して漢字を正しく書く	52.6	14.5	51.5	14.7
7-2	漢字を書く (メートルは長さのタイである)		88.8	7.2	86.1	7.4
7-3	漢字を書く (鉛筆をカリる)		68.0	6.3	69.3	5.7
7-2-1	漢字を読む (考えに相違がある)	文脈に即して漢字を正しく読む	60.5	13.7	64.5	12.5
7-2-2	漢字を読む (不純物が沈殿する)		83.4	6.4	84.6	6.0
7-2-3	漢字を読む (会議で決を採る)		73.0	5.0	73.8	4.8
7-3ア	適切な語句を選択する (このカーテンの色は、部屋の雰囲気とよく調和している)	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	80.3	0.6	82.6	0.7
7-3イ	適切な敬語を選択する (先生が、私の家にいらっしゃる)		86.0	0.5	89.0	0.6
7-3ウ	適切な語句を選択する (弟子を手塩にかけて育てる)		57.1	1.0	60.6	1.1
7-3エ	適切な語句を選択する (たなびく雲の間から、春の光がもれている)		45.6	0.7	46.9	0.8
7-3オ	適切な語句を選択する (いかなる困難にもひるむことなく仕事を進めた)		92.8	0.6	93.5	0.7
7-4ア	適切な対義語を選択する (受信)	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	87.7	0.6	87.5	0.7
7-4イ	適切な対義語を選択する (理想)		61.0	0.6	66.3	0.8
7-5	はがきの表書きを書く	はがきの書き方を理解して書く	75.7	2.8	73.7	2.7
7-6-1	ローマ字で書く (たけくらべ)	ひらがなで表記された作品名をローマ字で書く	※87.8	2.6	88.8	2.3
7-6-2	ローマ字を読む (Tosa nikki)	ローマ字で表記された作品名を読み、ひらがなと漢字で正しく書く	81.3	4.5	81.9	4.2
7-7-1	「諸行むじやう」を漢字で書いたものとして適切なものを選択する	抽象的な概念を表す語句について理解する	69.2	1.1	67.0	1.1
7-7-2	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す (あらはす)	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む	92.7	3.6	92.6	3.5
7-8-1	漢字の音読みと訓読みの説明として適切なものを選択する	漢字の音読みと訓読みについて理解する	70.4	1.2	72.0	1.3
7-8-2	漢和辞典の「意味」の中から、「観光」の「光」の意味として適切なものを選択する	辞書を活用し、漢字が表している意味を正しく捉える	73.7	1.6	76.6	1.6

※ 小学校学習指導要領による。

■ 中学校国語B 設問別正答率

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	福岡県 (公立)		全国(公立)	
			正答率 (%)	無解答率 (%)	正答率 (%)	無解答率 (%)
1一	対談での発言の役割について説明したものと して適切なものを選択する	相手の話を踏まえて話す	78.4	0.3	79.2	0.4
1二	対談の展開を整理したものと して適切なものを選択する	話の展開に注意して聞く	80.3	0.3	80.8	0.4
1三	これからどのような言葉の 使い方をしたいのかを 具体的な言葉の例を挙げて書く	相手の発言を注意して聞き、 自分の考えを書く	25.7	13.2	19.7	13.9
2一	「被写体」を言い換えている 言葉を本文中から抜き出す	文脈の中における語句の 意味を捉える	83.3	5.9	84.3	4.9
2二	祖母向けの説明書の工夫 として適切なものを選択 する	効果的に伝わるように、 内容や表現の仕方を工夫 して書く	82.0	0.5	82.5	0.5
2三	祖母向けの説明書の一部 を書く	資料に書かれている情報 の中から必要な内容を選 び、伝えたい事柄が明確 に伝わるように書く	67.7	8.2	68.4	8.1
3一	物語について説明した ものとして適切なもの を選択する	物語の展開や表現の 特徴を捉える	60.8	0.8	61.6	0.8
3二	物語に描かれている季節 を選択する	物語の場面の展開を 捉える	31.1	0.7	34.2	0.7
3三	朗読の仕方の工夫と その理由を書く	物語の内容や登場人物の 言動の意味などを捉え、 自分の考えを書く	63.7	14.0	58.9	13.6

5 中学校数学

○ 数学A（知識）の平均正答率は、全国（公立）：62.1%、福岡県（公立）：60.1%で、例えば次のような課題が見られた。

- ・ 文字の値が整数のときに、式の値について考察できること A $\frac{2}{3}$ (3) 全国 36.6% 福岡 34.3%
- ・ 資料を整理した図から最頻値を読み取ること A $\frac{15}{2}$ (2) 全国 42.4% 福岡 37.1%

○ 数学B（活用）の平均正答率は、全国：49.3%、福岡県：47.1%で、例えば次のような課題が見られた。

- ・ 軌道の長さの差を求める計算を解釈し、数学的な表現を用いて説明すること B $\frac{1}{2}$ (2) 全国 9.9% 福岡 8.5%
- ・ 図形の性質を数量の関係に着目して捉え直し、その特徴を捉え、数学的に表現すること B $\frac{6}{2}$ (2) 全国 17.4% 福岡 16.1%

■ 平均正答数、平均正答率（信頼区間）、中央値、標準偏差、観点別・問題形式別正答率

<数学A>

	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	21.6	60.1	22.0	7.9
全国(公立)	22.4	62.1	23.0	7.9

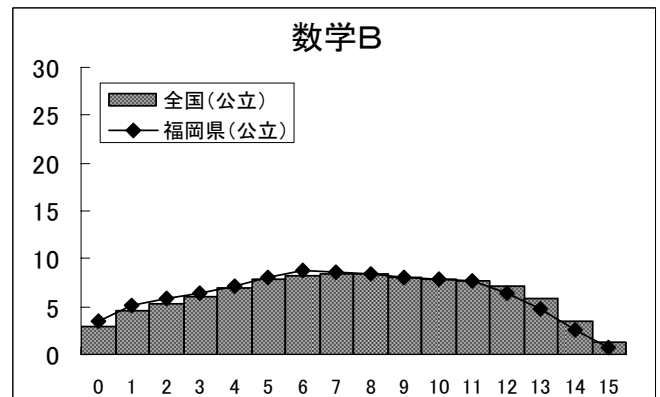
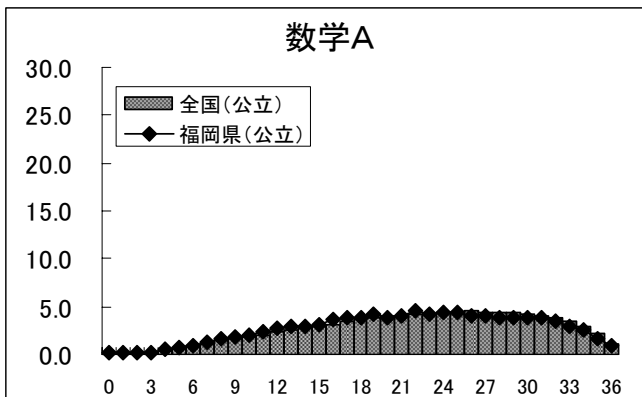
	評価の観点				問題形式		
	関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解	選択式	短答式	記述式
福岡県(公立)			67.7	55.7	57.9	63.1	
全国(公立)			69.8	57.8	59.7	65.5	

<数学B>

	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	7.1	47.1	7.0	3.8
全国(公立)	7.4	49.3	7.0	3.9

	評価の観点				問題形式		
	関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解	選択式	短答式	記述式
福岡県(公立)		39.5	72.7	87.9	56.3	63.6	31.5
全国(公立)		41.8	75.0	89.0	58.4	65.4	34.0

■ 正答数分布（横軸：正答数 縦軸：割合）



■ 中学校数学 A 設問別正答率（前半）

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	福岡県 (公立)		全国 (公立)	
			正答率 (%)	無解答率 (%)	正答率 (%)	無解答率 (%)
1 (1)	8 と 12 の最小公倍数を求める	2 つの自然数の最小公倍数を求めることができる	*1 67.9	2.9	67.7	2.6
1 (2)	$6 - (-7)$ を計算する	正の数と負の数の減法の計算ができる	87.7	1.3	88.5	1.1
1 (3)	数直線上の点が表す負の整数の値を読み取る	数直線上に示された負の整数を読み取ることができる	64.5	1.3	66.4	1.2
1 (4)	天気予報の情報から、ある市の最高気温と最低気温の差を求める	正の数と負の数を用いて日常的な事象を処理することができる	71.2	2.2	73.5	1.8
2 (1)	$(7x + 5y) - (5x + 2y)$ を計算する	整式の加法と減法の計算ができる	77.3	2.0	77.6	1.8
2 (2)	$x = 3$ のときの式 $-x^2$ の値を求める	指数を含む文字式で文字に数を代入して式の値を求めることができる	61.6	7.2	66.3	6.0
2 (3)	整数 a を用いて、式 $2a$ で表すことのできる数を選ぶ	文字の値が整数のときに、式の値について考察することができる	34.3	5.4	36.6	4.8
2 (4)	「1個 a 円の品物を2個買った代金は1000円より安い。」という数量の関係を表した式として正しいものを選ぶ	数量の大小関係を不等式に表すことができる	64.0	0.5	65.2	0.5
3 (1)	比例式 $6 : 8 = x : 12$ を解く	簡単な比例式を解くことができる	54.2	6.4	61.8	5.8
3 (2)	連立方程式 $\begin{cases} a + b = 8 \\ 2a + b = 11 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	79.5	7.3	80.5	6.4
3 (3)	一次方程式を解く際に用いられている等式の性質を選ぶ	方程式を解く際に用いられている等式の性質を理解している	76.8	0.6	78.5	0.6
3 (4)	方程式の解が問題の答えとして適切なものであるかどうかを調べることについて、正しい記述を選ぶ	方程式を活用して、問題を解決する手順を理解している	51.3	1.0	47.8	1.2
4 (1)	与えられた方法で作図された直線がもつ性質として、正しい記述を選ぶ	角の二等分線の作図の方法について理解している	51.9	1.0	56.3	0.9
4 (2)	三角形を、直線を軸として対称移動した図形をかく	対称移動した図形をかくことができる	80.1	2.7	81.3	2.7
4 (3)	中心角 120° の扇形の面積について正しいものを選ぶ	扇形の面積がその中心角の大きさに比例することを理解している	64.7	0.9	69.0	0.9
5 (1)	直方体の辺と面上の線分との位置関係について、正しい記述を選ぶ	直方体における辺と面に含まれる直線との位置関係を理解している	61.4	0.6	60.9	0.6
5 (2)	1回転させると円柱ができる平面図形として正しいものを選ぶ	回転体がどのように構成されるかを理解している	84.7	0.4	86.9	0.5
5 (3)	三角柱の展開図として正しいものを選ぶ	三角柱の展開図について理解している	92.5	0.5	92.8	0.5
5 (4)	正四角錐の体積を求める式として正しいものを選ぶ	正四角錐の体積の求め方を理解している	58.3	0.8	60.8	0.7

■ 中学校数学A 設問別正答率（後半）

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	福岡県 (公立)		全国 (公立)	
			正答率 (%)	無解答率 (%)	正答率 (%)	無解答率 (%)
6 (1)	三角定規による平行線の作図について、正しい記述を選ぶ	同位角が等しければ2直線は平行であることを理解している	41.7	1.1	43.6	1.0
6 (2)	n 角形の内角の和を求める式で、 $(n-2)$ が表すものを選ぶ	n 角形の内角の和を求める公式の意味を理解している	41.7	0.9	45.7	0.8
6 (3)	与えられた三角形と合同な三角形を選ぶ	三角形の合同条件を理解している	63.9	0.7	66.8	0.7
7	図形に成り立つ性質の逆の事柄を完成する	具体的な命題について、仮定と結論を区別して、もとの命題の逆をつくることができる	69.0	8.4	72.4	7.0
8	証明で用いられている図が考察対象の図形の代表であることについての正しい記述を選ぶ	証明の意義について理解している	62.8	1.0	64.4	1.0
9 (1)	y が x に比例し、比例定数が3のとき、 x 、 y の値について、正しい記述を選ぶ	比例定数の意味を理解している	51.0	1.3	51.8	1.4
9 (2)	$y = 2x$ 上の点を選ぶ	比例のグラフ上にある点の x 座標と y 座標の値の組が、その式を満たしていることを理解している	48.6	1.0	49.8	1.1
10 (1)	反比例の表を完成する	反比例の関係を表す表から、表中の値を求めることができる	45.4	3.7	48.8	3.4
10 (2)	反比例のグラフを選ぶ	反比例の関係を表すグラフの特徴を理解している	51.0	1.3	52.2	1.4
11 (1)	$(-1, -4)$ の位置を座標平面上に示す	座標平面上に点の位置を示すことができる	58.3	4.5	61.0	4.0
11 (2)	一次関数のグラフから式を選ぶ	与えられたグラフから、傾きと切片の値を読み取り、一次関数 $y = ax + b$ の式を指摘できる	70.3	1.1	72.0	1.1
12	一次関数を表した事象を選ぶ	2つの数量の関係が一次関数になることを理解している	36.7	1.7	37.9	1.8
13	二元一次方程式の解を座標とする点について、正しい記述を選ぶ	二元一次方程式の解とグラフの関係を理解している	35.3	2.1	38.8	2.2
14 (1)	1枚の硬貨を投げたときの確率について、正しい記述を選ぶ	前の試行が次の試行に影響しない場面において、「同様に確からしい」ことの意味を理解している	58.6	1.5	64.6	1.6
14 (2)	数字の書かれた3枚のカードから2枚のカードをひくとき、両方とも奇数のカードである確率を求める	簡単な場合について確率を求めることができる	57.9	8.0	57.4	6.9
15 (1)	度数分布表について、正しい記述を選ぶ	相対度数の必要性和意味を理解している	※2 48.6	2.5	48.7	2.6
15 (2)	フリースローでボールの入った回数と人数の関係をまとめた図から、ボールの入った回数の最頻値を求める	資料を整理した図から最頻値を読み取ることができる	※2 37.1	18.3	42.4	16.9

※1 小学校学習指導要領による。

※2 中学校学習指導要領（平成20年告示）においては、「資料の活用」の領域の内容となる。

■ 中学校数学B 設問別正答率

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	福岡県 (公立)		全国 (公立)	
			正答率 (%)	無解答率 (%)	正答率 (%)	無解答率 (%)
1 (1)	ISSの高度を1cmとしたときの、ひまわり7号の高度を選ぶ	表から必要な情報を適切に選択し、処理することができる	60.8	0.5	61.8	0.6
1 (2)	2つの人工衛星の軌道の長さの差を求める計算から分かることを選び、その理由を説明する	軌道の長さの差を求める計算を解釈し、数学的な表現を用いて説明することができる	8.5	3.9	9.9	4.7
2 (1)	連続する3つの自然数の和が3の倍数になることを説明する	事柄が成り立つ理由を示された方針に基づいて説明することができる	36.5	25.3	36.3	24.1
2 (2)	連続する3つの偶数の和について成り立つ事柄を表現する	発展的に考え、予想した事柄を説明することができる	55.9	25.6	55.3	24.9
3 (1)	原田選手と船木選手の飛んだ回数を求める	総度数の意味に基づいてヒストグラムから必要な情報を適切に選択することができる	※1 70.8	5.9	72.8	5.2
3 (2)	次の1回でより遠くへ飛びそうな選手を選び、その理由を説明する	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	※1 40.9	4.6	46.1	4.9
4 (1)	線対称な図形を対称の軸で折り返したとき、対応する点を答える	作図の手順を理解し、作図によってできる図形の特徴を的確に捉えることができる	87.9	6.1	89.0	5.3
4 (2)	2つの直線が垂直に交わることを、三角形の合同を利用して証明する	筋道を立てて考え、証明することができる	40.3	23.6	45.1	22.4
4 (3)	異なる場合での垂線の作図で、共通して利用されている図形の性質を選ぶ	複数の作図を統合的に捉え、作図された図形に共通する性質を見いだすことができる	52.9	1.5	56.5	1.5
5 (1)	CDが1.2m、DBが8.3mのときの、木の高さABを求める	「木の高さの求め方」から必要な情報を適切に選択し、処理することができる	68.8	12.9	70.4	11.5
5 (2)	長さを置き換えてよい根拠となる、長方形の性質を選ぶ	「木の高さの求め方」を事象に即して解釈することができる	55.2	2.1	56.8	2.1
5 (3)	AEの長さを求められるようにするための方法を説明する	問題解決の方法を数学的に説明することができる	16.1	44.3	22.5	43.5
6 (1)	正十二角形の1つの外角の大きさを求める	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	74.6	7.4	77.2	6.2
6 (2)	正多角形の頂点の数と正多角形の1つの外角の大きさの関係を、「…は…の関数である」という形で表現する	図形の性質を数量の関係に着目して捉え直し、その特徴を捉え、数学的に表現することができる	※2 16.1	33.6	17.4	31.0
6 (3)	正多角形の頂点の数と正多角形の1つの外角の大きさの関数がどのような関数であるかを選び、その理由を説明する	問題解決を振り返って、数量の関係を数学的に解釈し、関係が成り立つ理由を説明することができる	22.1	6.8	22.9	8.3

※1 中学校学習指導要領（平成20年告示）においては、「資料の活用」の領域の内容となる。

※2 中学校学習指導要領（平成20年告示）においては、「関数」の領域の内容となる。

6 中学校理科

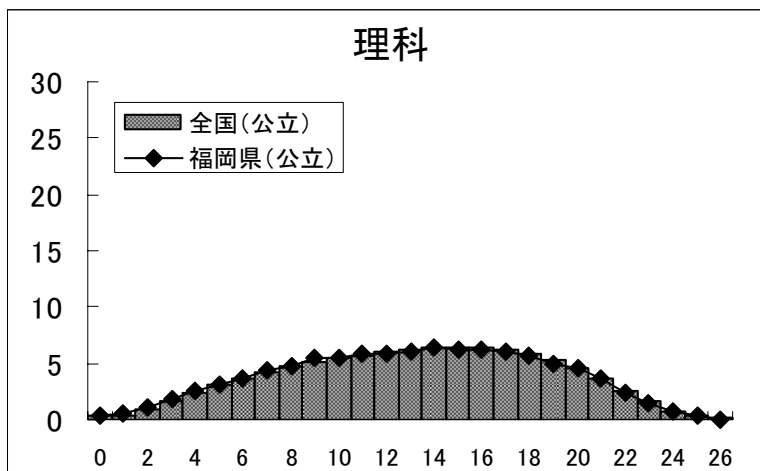
- 理科の平均正答率は、全国（公立）：51.0%、福岡県（公立）：50.2%で、例えば次のような課題が見られた。
- ・ 抵抗の直列つなぎ、並列つなぎなどに関する知識を活用して、他者の実験方法を検討し改善して、正しい実験方法を説明すること 2|2) 全国 7.6% 福岡 7.4%
 - ・ 電力量を理解していること 2|6) 全国 11.1% 福岡 9.6%
 - ・ 地層などの知識を活用し、過去の火山活動が活発だった時期の回数についての他者の考察を検討し、根拠を示して改善した考察を説明すること 3|3) 全国 10.4% 福岡 9.9%
 - ・ 浮力を理解していること 4|3) 全国 36.2% 福岡 34.6%

■ 平均正答数、平均正答率（信頼区間）、中央値、標準偏差、観点別・問題形式別正答率 <理科>

	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	13.0	50.2	13.0	5.4
全国(公立)	13.3	51.0	14.0	5.4

	評価の観点				問題形式		
	関心・意欲・ 態度	科学的な 思考・表現	観察・実験 の技能	知識・理解	選択式	短答式	記述式
福岡県(公立)		47.2	62.2	50.1	59.6	47.8	31.8
全国(公立)		47.8	63.6	51.1	60.3	49.0	32.1

■ 正答数分布 横軸：正答数（問） 縦軸：割合（%）



■ 中学校理科 設問別正答率（前半）

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	福岡県 (公立)		全国(公立)	
			正答率 (%)	無解答率 (%)	正答率 (%)	無解答率 (%)
1(1)	水草の働きと発生する気体の名称を答える	魚類の呼吸と水草の光合成を理解している	54.8	10.7	54.9	10.4
1(2)	両生類であるカエルの特徴や成長に応じて飼育の環境を整えた理由を説明する	動物を飼育する場面で、両生類の子と親の体のつくりと働きや生活場所に関する知識を活用して、飼育の環境を整えた理由を説明することができる	40.4	13.3	37.4	11.6
1(3)	成長して種子になる部分の名称を選ぶ	「胚珠は、めしべの子房の中にある。成長すると種子になる」という知識を身に付けている	71.0	0.3	70.9	0.4
1(4)	示された花の模式図にならって、アブラナの花のつくりを表した模式図を選ぶ	花のつくりを考える場面で、花のつくりの共通点や規則性に関する知識を活用して、アブラナの花のつくりを表している模式図を指摘することができる	68.1	0.4	66.0	0.5
1(5)	「チューリップの花が開くには、温度が関係している」という考察の根拠となる実験結果の組合せを選ぶ	「花が開くには温度が関係している」という考察を導くために、実験結果を分析し解釈して、比較する実験結果の組合せを指摘することができる	41.9	0.5	41.3	0.6
1(6)	チューリップの花が開く温度を明らかにするための追実験を計画するに当たって、実験結果の考察から設定する温度を答える	実験結果の考察から花が開く温度を予想して、適切に温度を設定し、追実験を計画することができる	33.4	8.7	33.9	8.3
2(1)	電圧が1.2Vのときの電流計の図から、電流の大きさを読みとり答える	電流計の読み方の技能を身に付けている	43.0	8.0	44.3	7.7
2(2)	1つの回路で、2つの実験と同じ結果を得るための測定方法を説明する	抵抗の直列つなぎ、並列つなぎなどに関する知識を活用して、他者の実験方法を検討し改善して、正しい実験方法を説明することができる	7.4	20.3	7.6	19.6
2(3) X	2つの実験結果から、電圧2.0Vのときの、豆電球と発光ダイオードの消費する電力を比較して答える	実験結果を分析し、豆電球と発光ダイオードの消費する電力を比較することができる	52.8	12.2	53.7	11.5
2(3) Y	2つの実験における豆電球と発光ダイオードの消費する電力から、白熱電球とLED電球の省エネの効果を考察し、LED電球の省エネの効果を答える	実験の考察とLED電球の省エネの効果を関連付けている場面で、電力に関する知識を活用して、LED電球の省エネの効果を考えることができる	83.9	11.1	83.9	10.4
2(4)	白熱電球とLED電球で、省エネの効果を比較する実験を考えると、必要な条件を選ぶ	「省エネの効果を比較する」という実験の目的のもと、「明るさ」の条件を制御した実験を計画することができる	69.9	1.0	72.3	1.0
2(5)	白熱電球をLED電球に交換するときに、消費する電力量を減らすために最も効果がある場所を選び、その理由を説明する	白熱電球をLED電球に交換しようとする場面で、電力量の知識を活用して、最も省エネの効果がある場所を考え、その根拠を説明することができる	56.2	3.2	58.6	3.5
2(6)	白熱電球とLED電球を、それぞれ1時間使用する場合に、消費する電力量の差を求める式を書き、電力量の差を求める	電力量を理解している	9.6	42.3	11.1	41.1

■ 中学校理科 設問別正答率（後半）

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	福岡県 (公立)		全国 (公立)	
			正答率 (%)	無解答率 (%)	正答率 (%)	無解答率 (%)
3 (1)	野外観察で、「地層のつながりや広がり方」と「地層の成因」を調べるための技能において、着目する事象と観察の観点を選ぶ	「地層の連続性や成因を調べるために、断層の有無や地層に含まれている粒に着目する」という地層観察に関する技能を身に付けている	87.6	0.6	86.9	0.7
3 (2)	地層観察の結果から、観察地における地層のつながり方を考察し、地層の傾いている方向を選ぶ	観察地における地層の広がり方について、観察地の図と観察結果から分析して解釈し、地層の傾きを認識して、その傾きの方向を指摘することができる	31.2	1.3	31.2	1.3
3 (3)	地層観察の結果から、過去の火山活動が活発だった時期の回数についての他者の考察を検討し、適切な回数を選び、その根拠を説明する	地層などの知識を活用し、過去の火山活動が活発だった時期の回数についての他者の考察を検討し、根拠を示して改善した考察を説明することができる	9.9	4.9	10.4	6.0
3 (4)	ローム層の厚さと偏西風の影響の情報から、火山、観察地、中学校の位置関係を適切に示した模式図を選ぶ	火山灰の広がり方を考察する場面で、火山などの知識を活用し、偏西風の影響などの情報から、火山と観察地などの位置関係を推定することができる	46.3	2.2	48.3	2.2
3 (5)	アサリの化石が含まれる地層が堆積した当時の生活環境を選ぶ	示相化石に関する知識を身に付けている	60.6	1.1	61.9	1.1
3 (6)	「うすい塩酸をかけ、発生する気体を確かめる」という石灰岩を見分ける技能において、そのとき発生する気体の名称を答える	「石灰岩（石灰石）にうすい塩酸をかけると二酸化炭素が発生する」という石灰岩の見分け方に関する技能を身に付けている	68.6	11.8	73.4	10.2
4 (1)	濃度10%の食塩水1000gをつくるために必要な食塩と水の質量を求める	「特定の質量パーセント濃度の水溶液をつくる」という技能を身に付けている	49.5	19.2	49.8	18.8
4 (2)	実験で、古い卵が浮いたときの気室の位置と、卵のどがっている部分の位置を選ぶ	実験結果や卵の断面図を分析し解釈して、卵の構造を推定することができる	60.3	1.8	61.4	1.8
4 (3)	実験結果から、食塩水の中で卵にはたらく浮力の大きさを求める式を書き、浮力の大きさを求める	浮力を理解している	34.6	40.2	36.2	40.2
4 (4)	食塩水がいくらでも濃くできるわけではない理由を説明する	「いくらでも食塩水を濃くできるわけではない」という他者からの指摘を分析し解釈して、他者の考えの根拠を説明することができる	45.2	29.0	46.6	26.9
4 (5) 和宏さん	食塩水のようにすを、食塩の粒子のモデルで表したものを選ぶ	水溶液においては、溶質が均一に分散していることを粒子のモデルと関連付けて理解している	69.8	2.4	71.6	2.5
4 (5) 望さん	液体のようにす（上部が水、下部が食塩水）を、食塩の粒子のモデルで表したものを選ぶ	液体のようにすについて予想を立てる場面で、水溶液の知識を活用して、予想を粒子のモデルで表している図を指摘することができる	67.2	2.6	68.4	2.7
4 (6)	二人の考えのどちらが正しいかを調べる実験の方法と、その実験を行ったとき、得られる実験結果として、正しいものを選ぶ	「水槽の中の液体が、食塩水の1層なのか、上層が水、下層が食塩水の2層なのか」ということを検証する実験を計画することができる	41.5	3.1	43.7	3.2

IV 児童生徒質問紙に関する調査結果と分析

1 児童生徒質問紙調査の目的

小学校第6学年の児童及び中学校第3学年の生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する質問調査を行い、児童生徒の学習意欲や学習習慣の改善・充実のための教育活用や教育施策の改善を図る。

2 児童生徒質問紙の内容

- 生活習慣の定着状況
- 自尊意識
- 家庭生活の過ごし方
- 家族とのかかわり
- 家庭での学習状況
- 規範意識
- 学習意欲 ... 等

3 分析の目的と方法

(1) 目的

各教科区分の平均正答率と児童生徒の意識や学校生活・家庭生活の相関を分析し、教育活動や教育施策の改善・充実を図る。

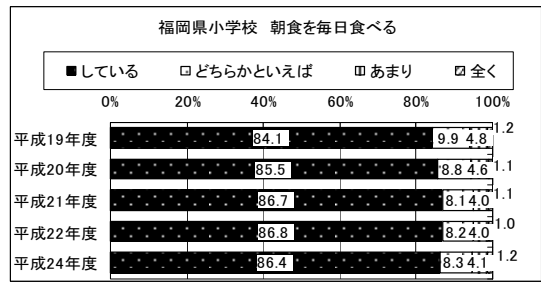
(2) 方法

児童生徒質問紙の回答状況及び回答と各教科の正答率の相関、教育事務所・政令市別の回答状況、無解答数による分析、記述式問題による分析等、次のA～Cの分析を行う。

なお、各学校における児童生徒質問紙の回答と教科の正答率との相関等については、「福岡県学力実態調査検証システム」を活用して分析できる。(福岡県教育センターホームページに掲載)

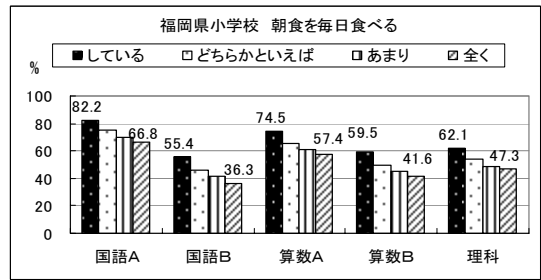
A 回答状況の経年比較

平成19年度から24年度(平成23年度は除く)の児童生徒質問紙の同じ質問項目について、福岡県における回答の割合を比較する。



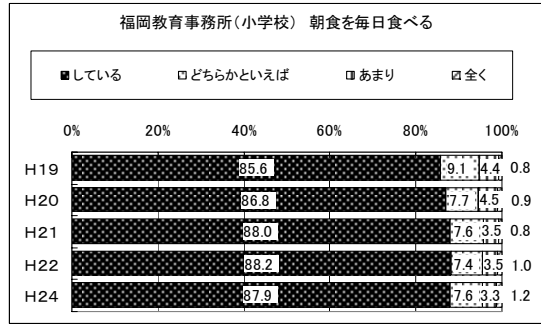
B 回答状況と教科の正答率との相関

児童生徒質問紙の各選択肢に回答した児童生徒の各教科区分の平均正答率を集計し、質問紙の回答と教科の正答率との相関を示す。



C 教育事務所・政令市別の回答状況

教育事務所・政令市ごとに平成19年度から24年度(平成23年度は除く)の回答状況を比較する。



4 資料を読み取る際の留意点

選択肢によって回答した児童生徒が少ない場合には、極端な傾向を示す場合がある。また、質問紙に対する回答状況は、選択肢以外の回答や無回答を除外しているため、合計が100%にならない場合がある。

5 分析に使用する児童生徒質問紙の質問項目について

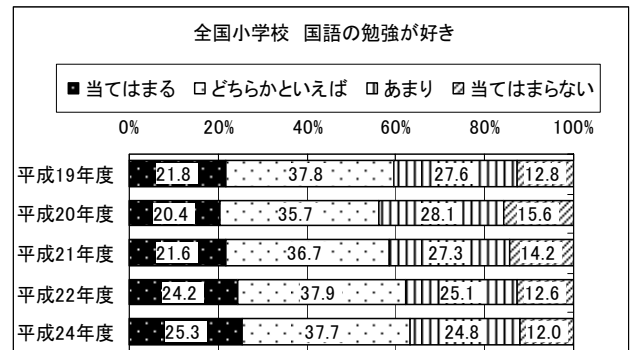
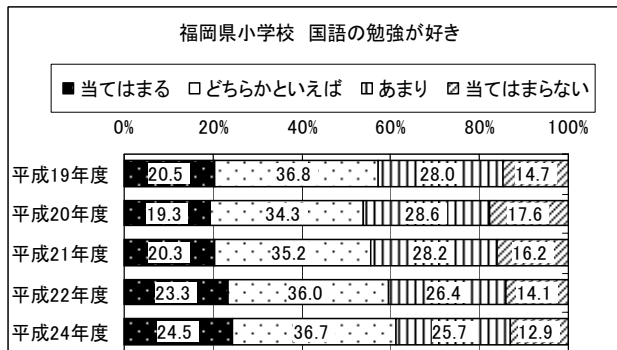
平成19～24年度の分析に使用した項目及び特徴的な傾向が見られる項目について分析する。

1 学習に対する関心・意欲・態度

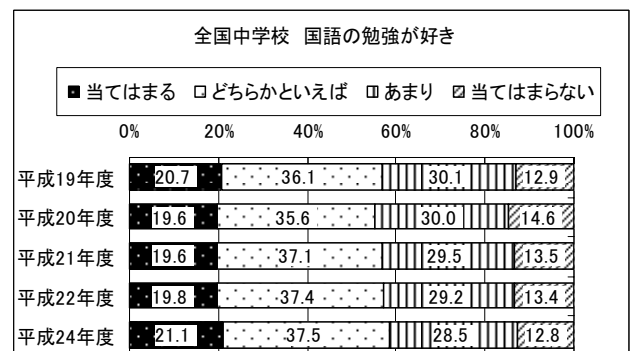
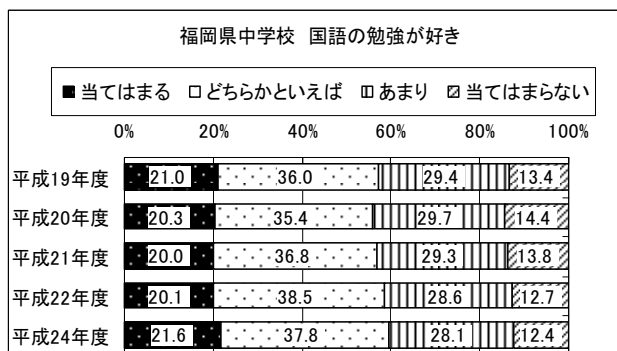
(45) 国語の勉強は好きですか

- 国語の勉強が好きだと回答している児童生徒の割合は、平成22年度に比べて小学校、中学校ともに増加している。
- 国語の勉強が好きだと回答している児童生徒は、国語の正答率が高い傾向が見られる。

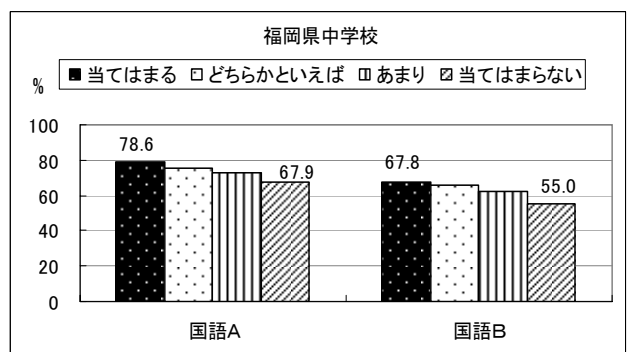
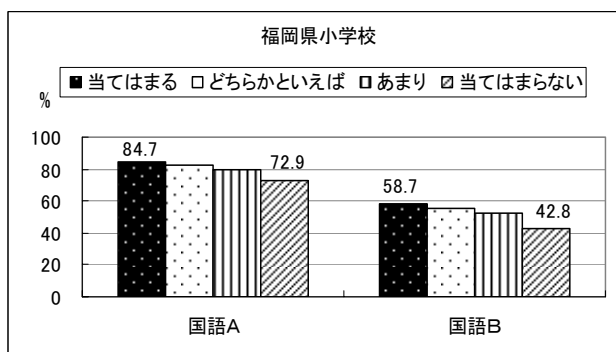
■ 小学校回答状況

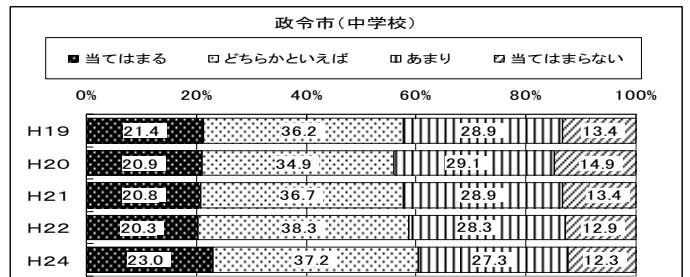
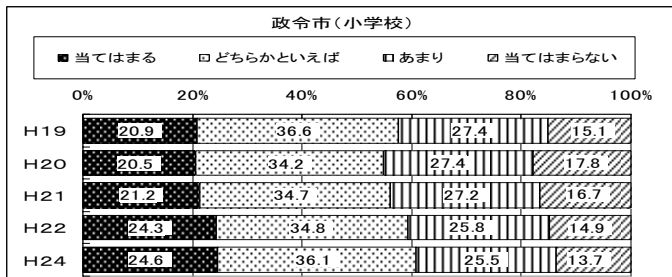
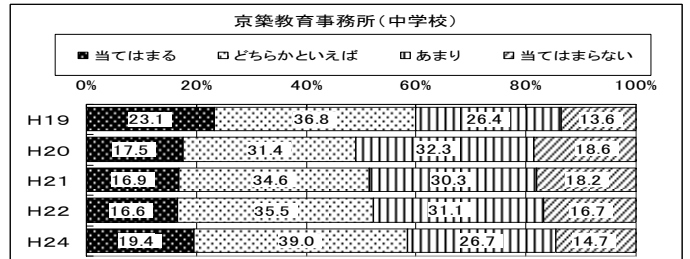
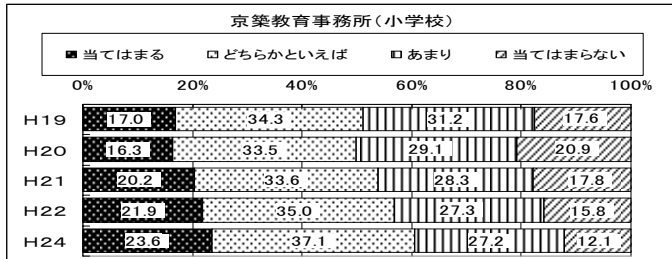
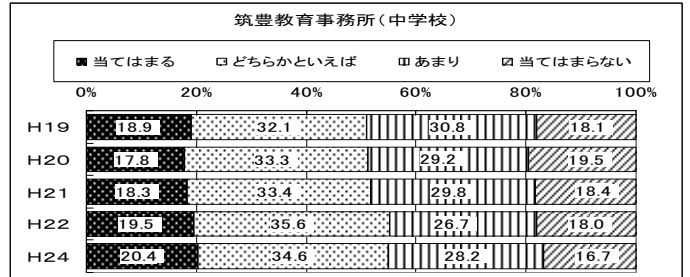
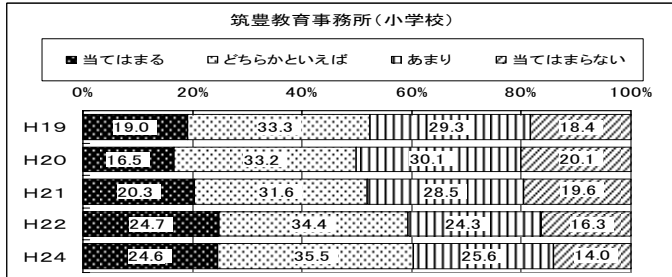
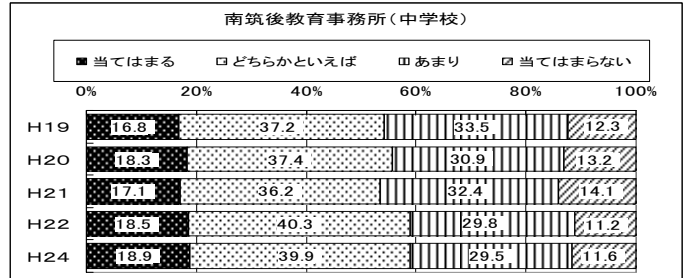
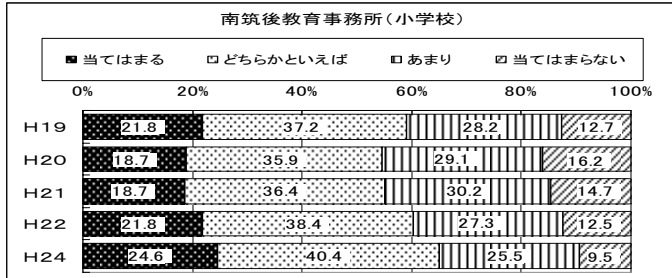
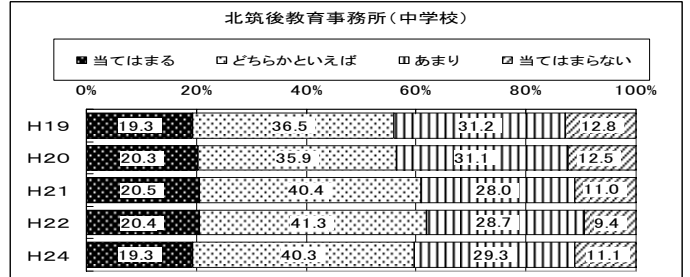
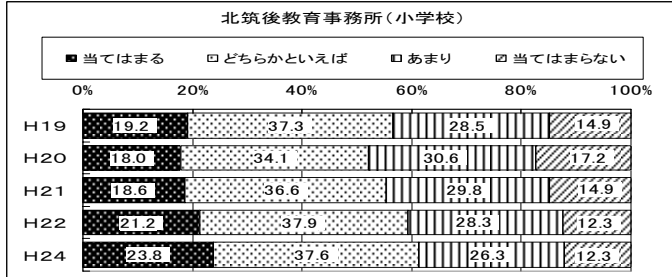
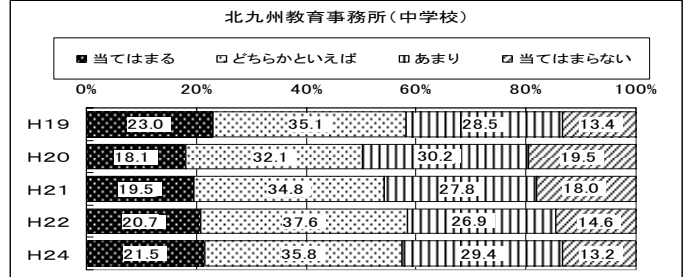
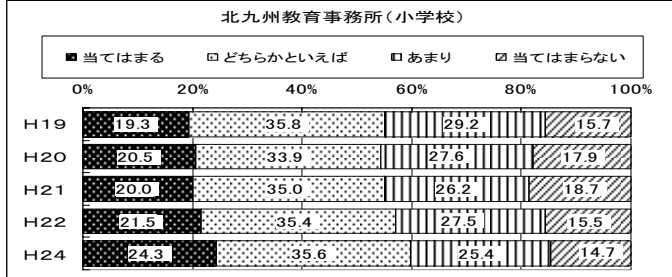
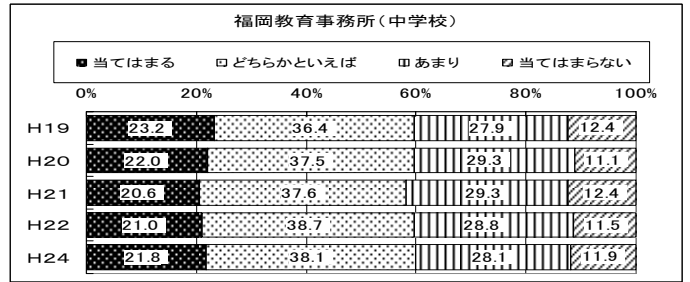
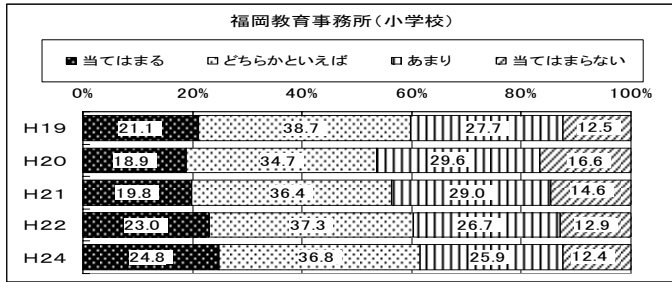


■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関



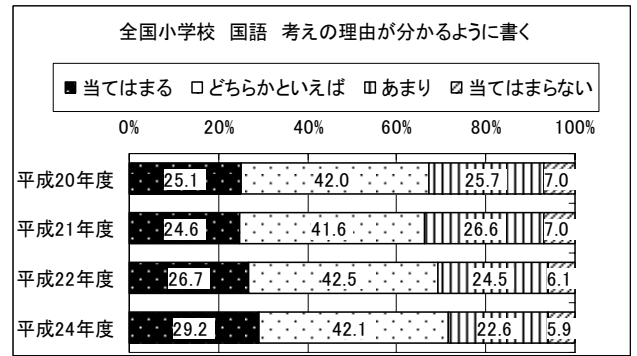
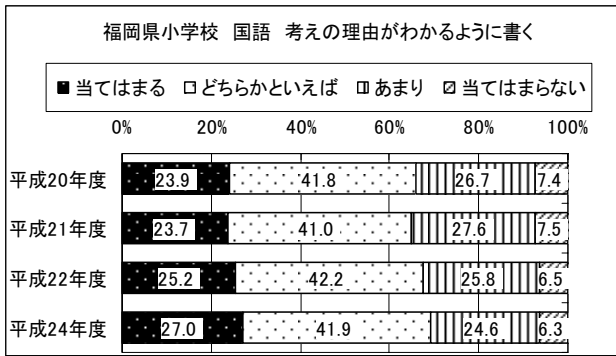


(52) 国語の授業で自分の考えを書くとき考えの理由がわかるように気をつけて書いていますか

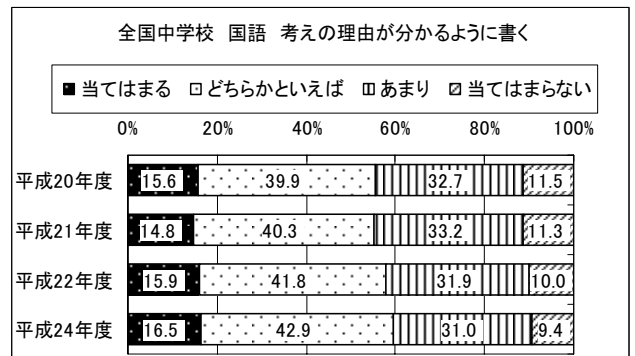
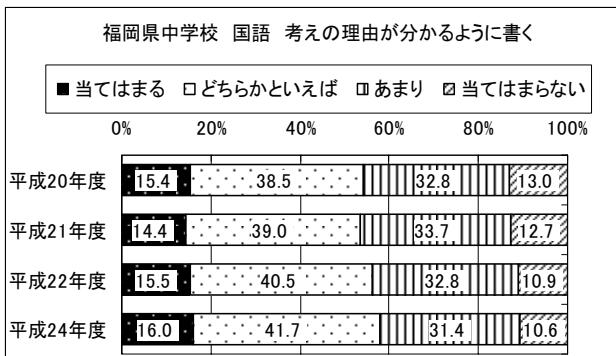
※平成20年度から児童生徒質問紙に加えられた質問

- 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由がわかるように気をつけて書いていると回答している児童生徒の割合は、平成22年度に比べて小学校、中学校とも増加している。
- 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由がわかるように気をつけて書いていると回答している児童生徒の国語の正答率が高い傾向が見られる。

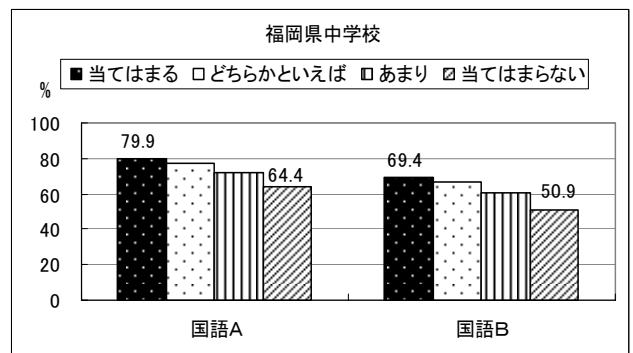
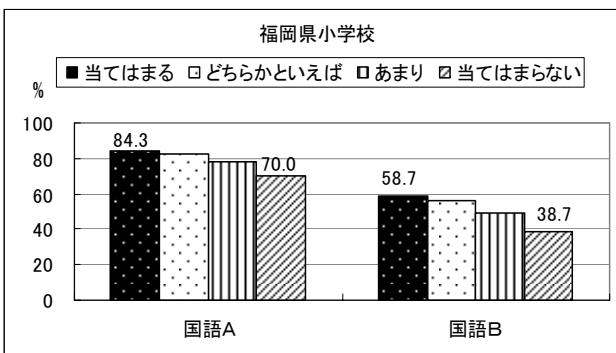
■ 小学校回答状況

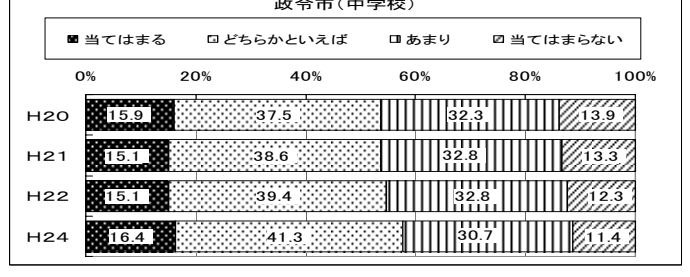
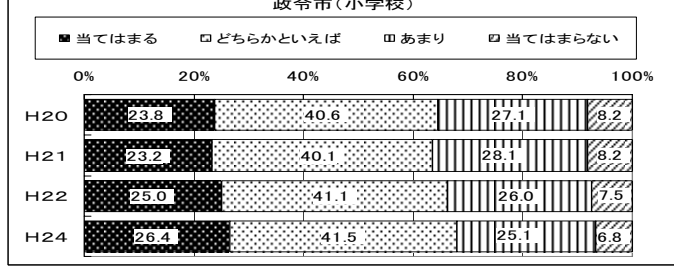
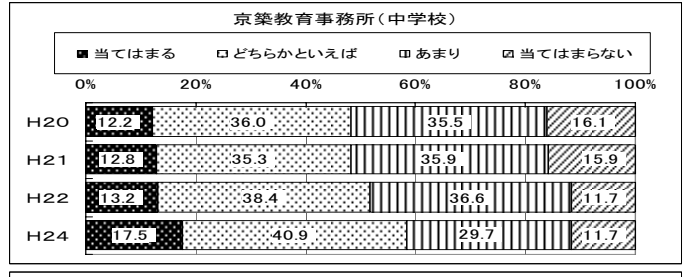
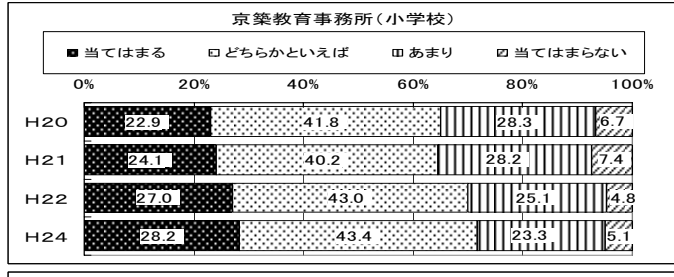
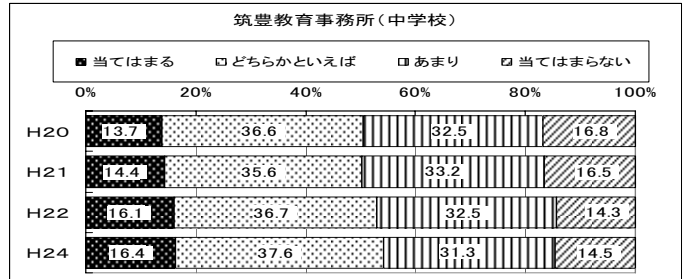
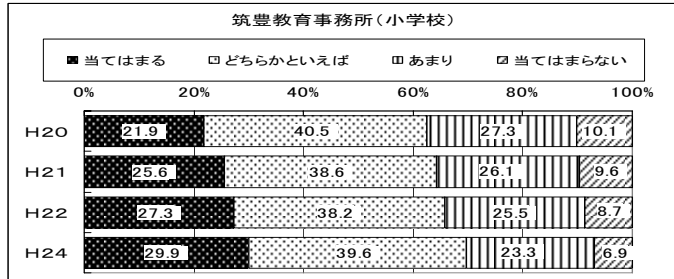
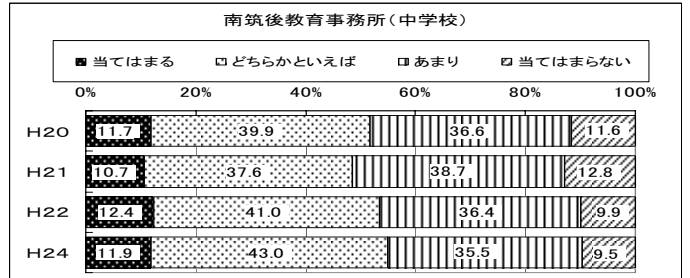
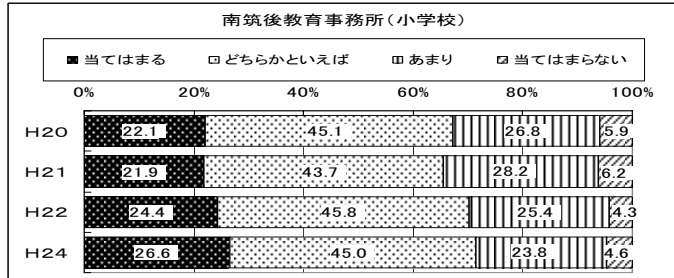
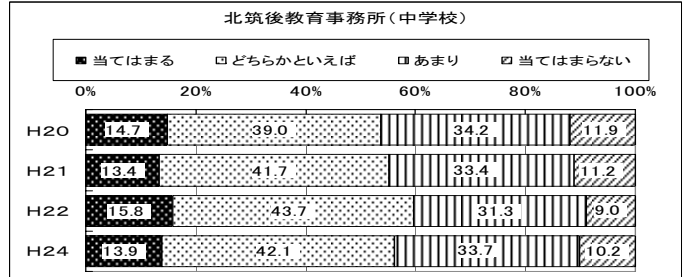
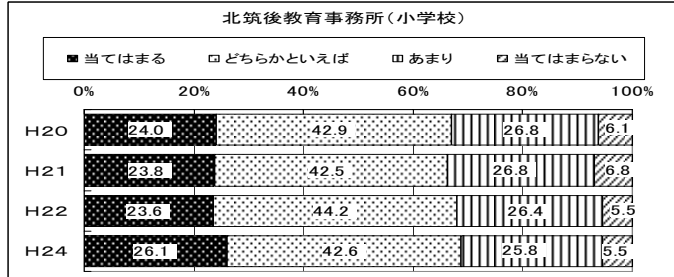
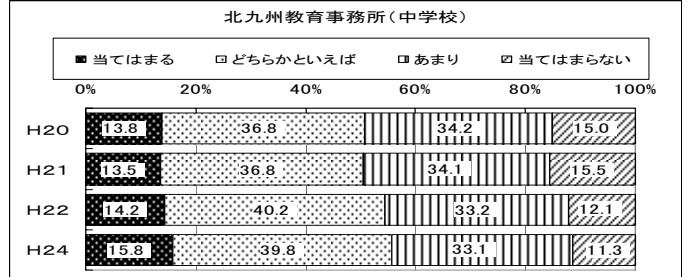
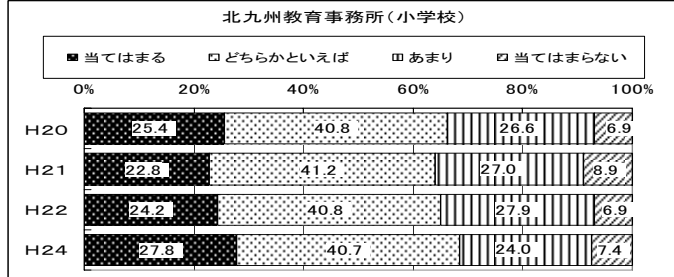
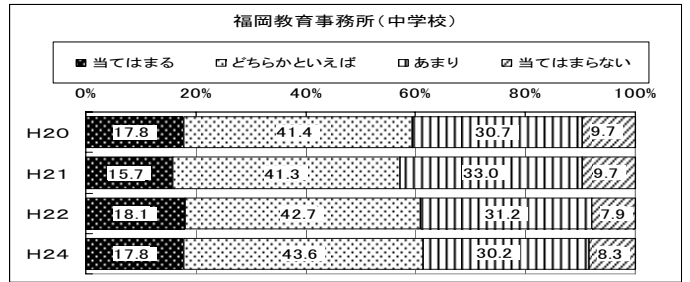
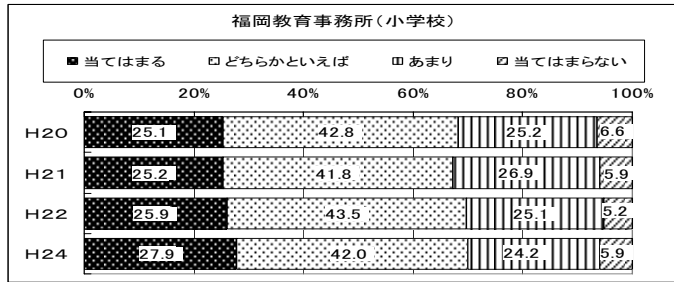


■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関

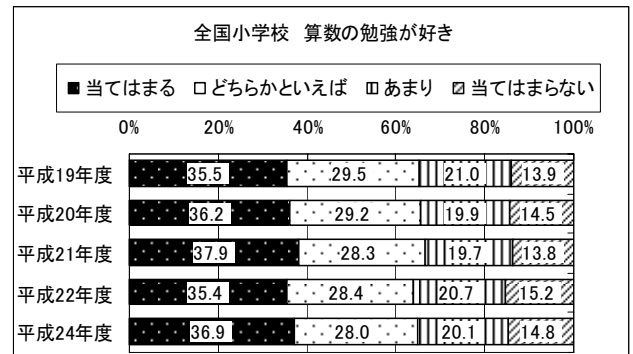
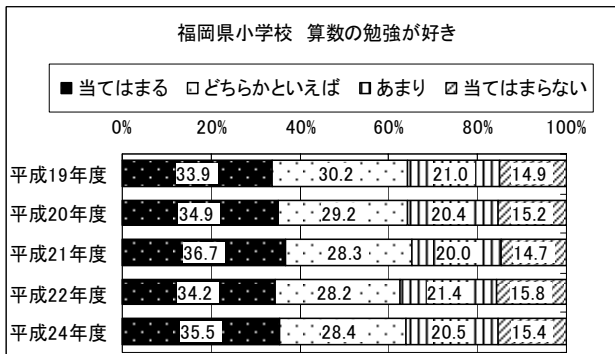




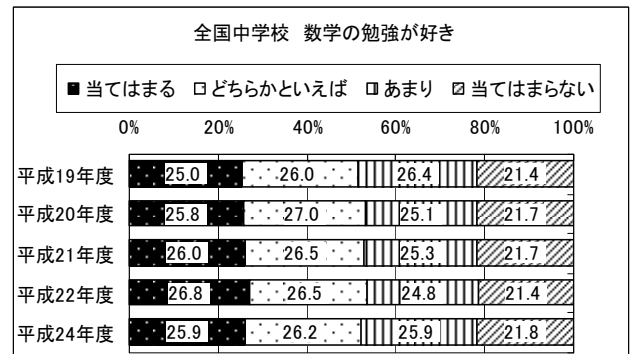
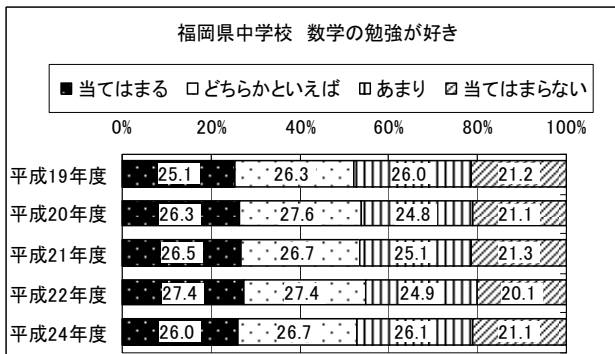
(56) 算数・数学の勉強は好きですか

- 算数・数学の勉強が好きだと回答している児童生徒の割合は、平成22年度に比べて小学校では増加し、中学校では減少した。
- 算数・数学の勉強が好きだと回答している児童生徒は、算数・数学の正答率が高い傾向が見られる。

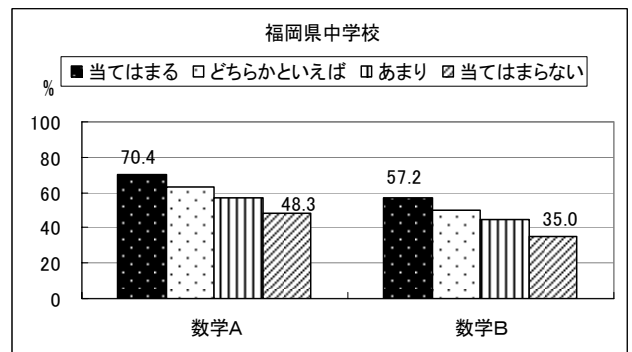
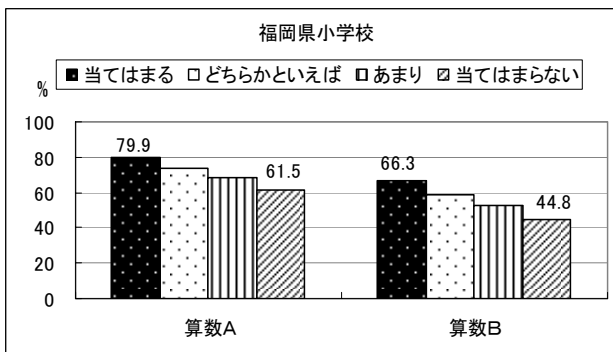
■ 小学校回答状況

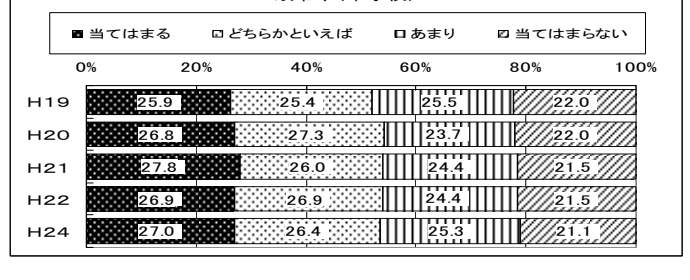
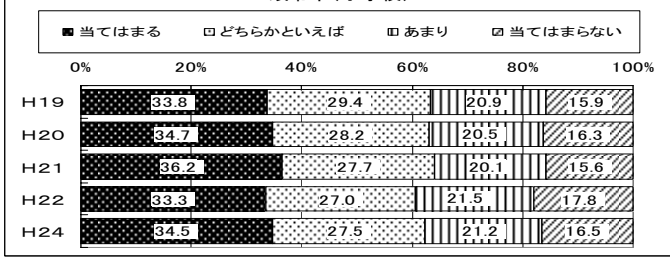
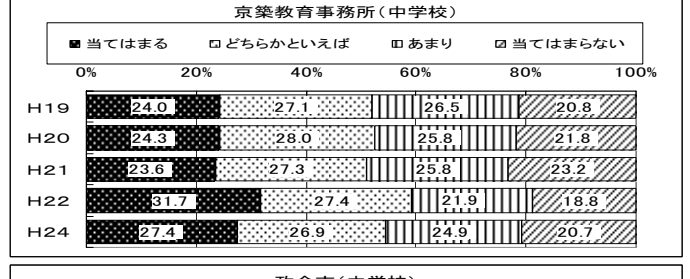
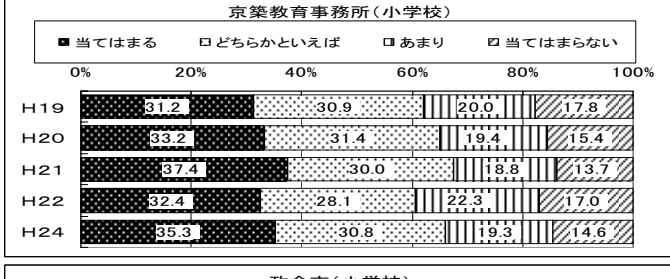
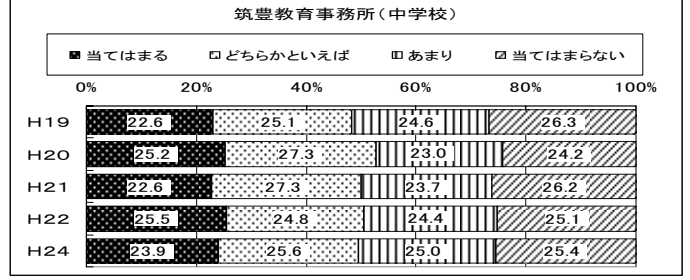
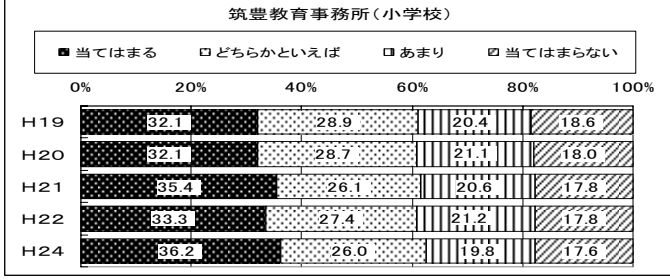
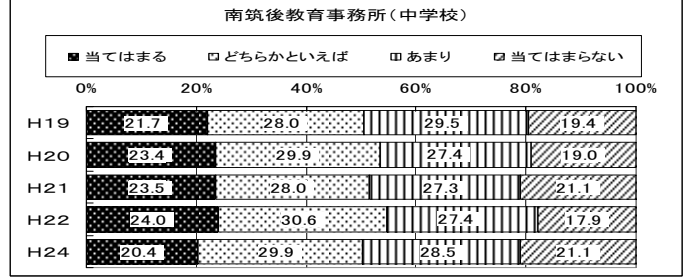
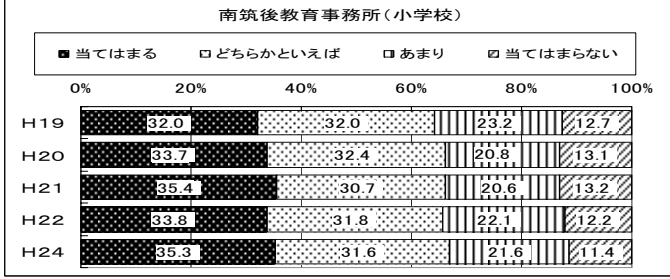
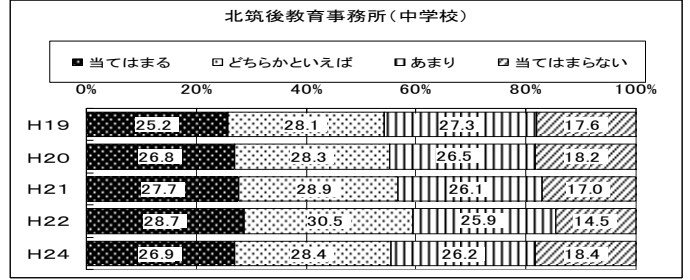
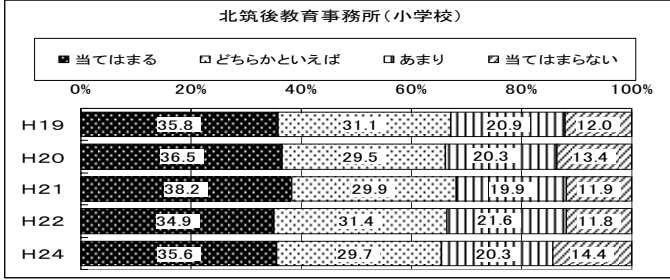
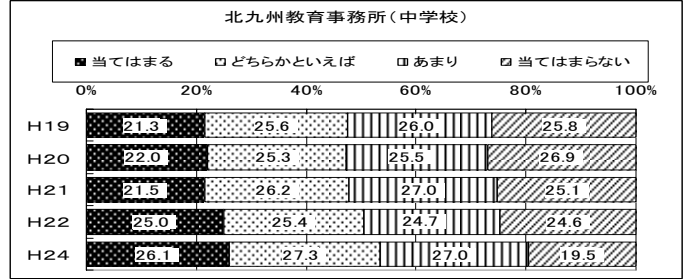
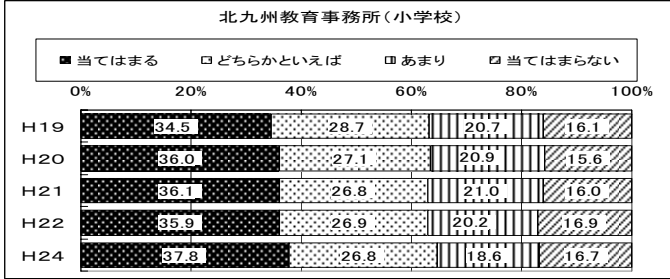
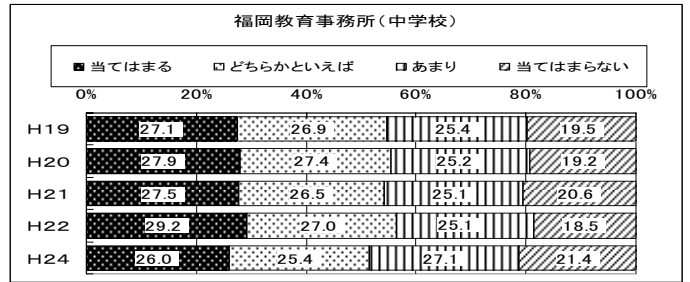
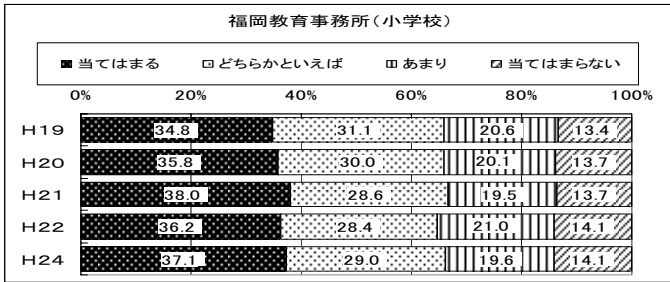


■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関

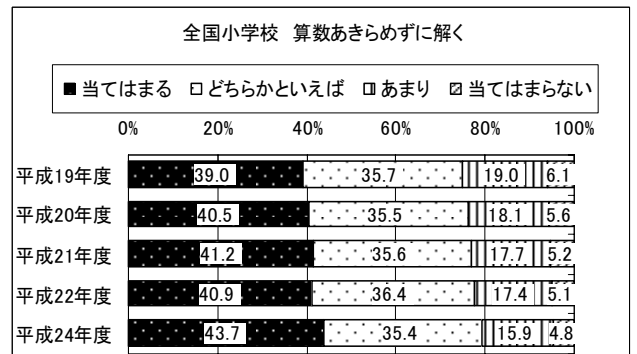
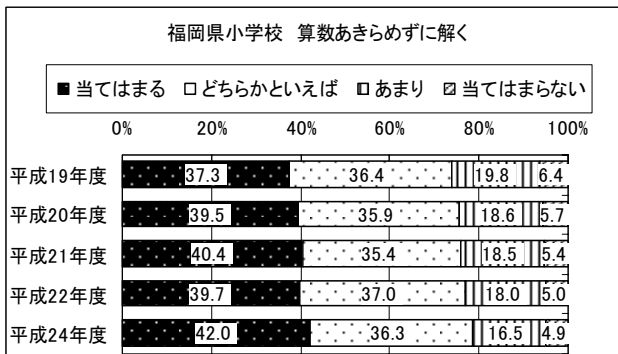




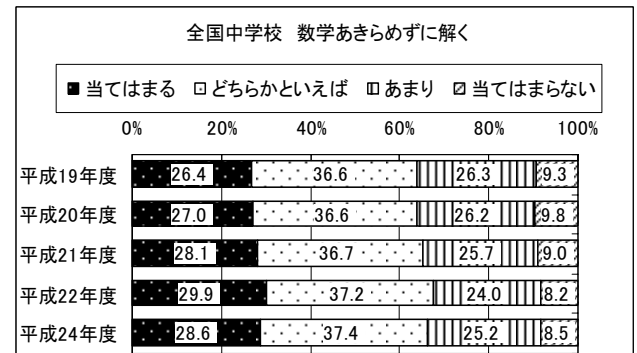
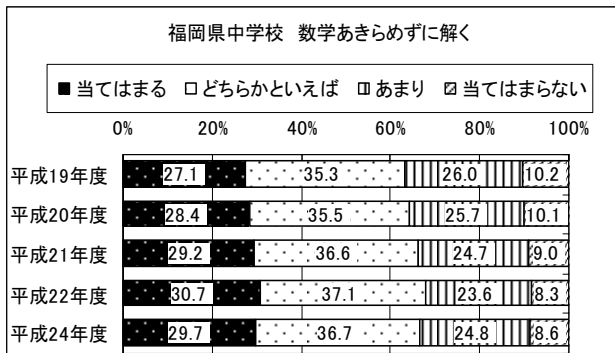
(60) 算数（数学）の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか

- 算数（数学）の問題の解き方がわからないときにあきらめずにいろいろな方法を考えると回答している児童生徒の割合は、小学校では、5回を通じて増加している。中学校では、5回を通じて初めて減少した。
- 算数（数学）の問題の解き方がわからないときにあきらめずにいろいろな方法を考えると回答している児童生徒の算数（数学）の正答率が高い傾向が見られる。

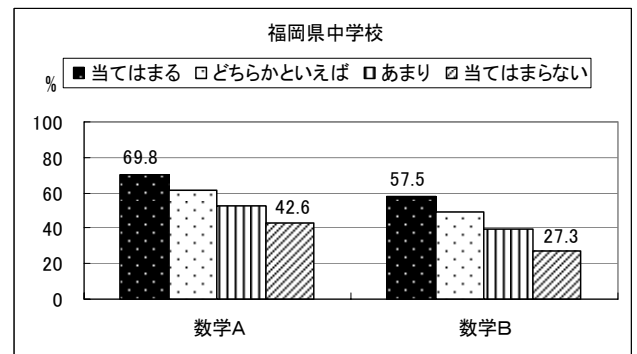
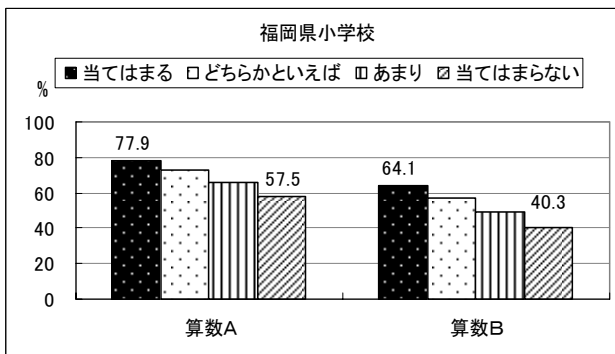
■ 小学校回答状況

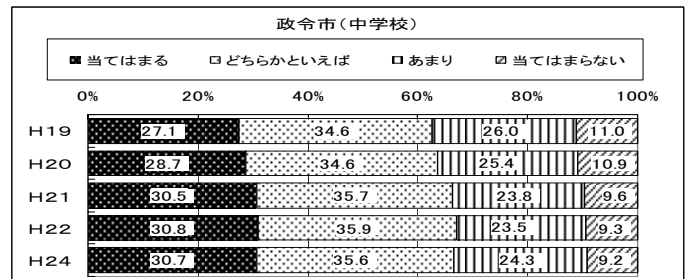
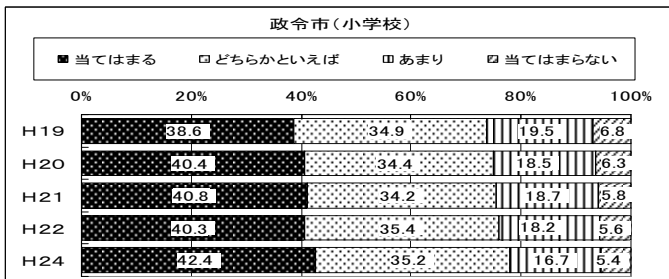
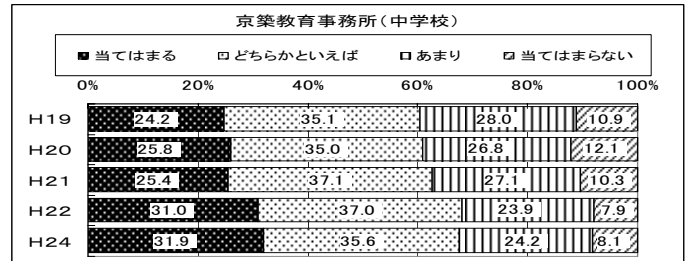
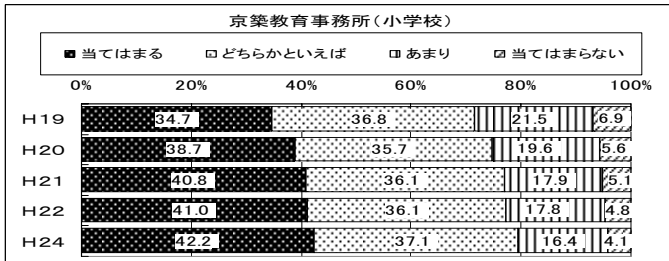
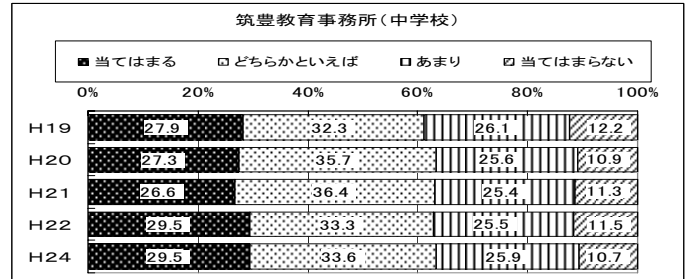
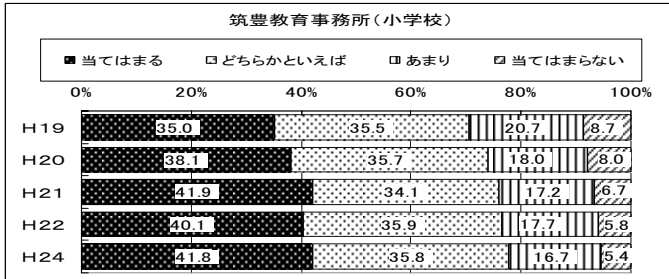
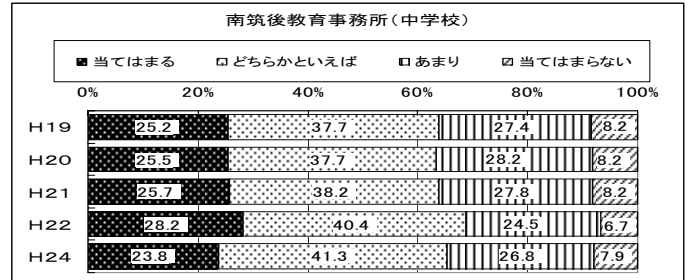
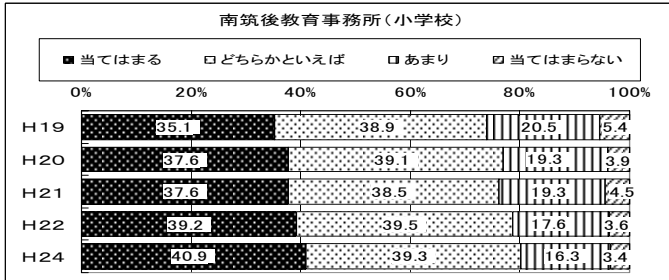
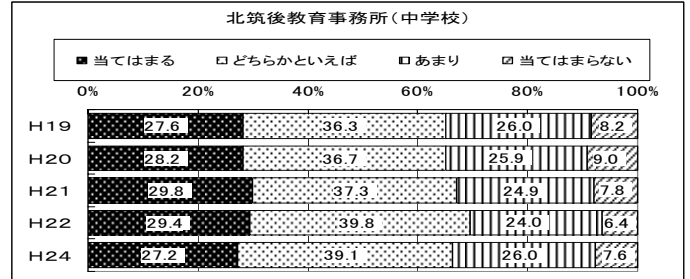
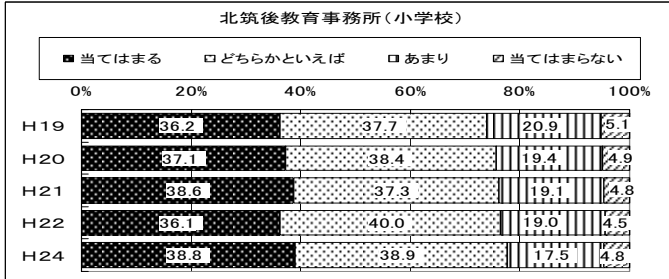
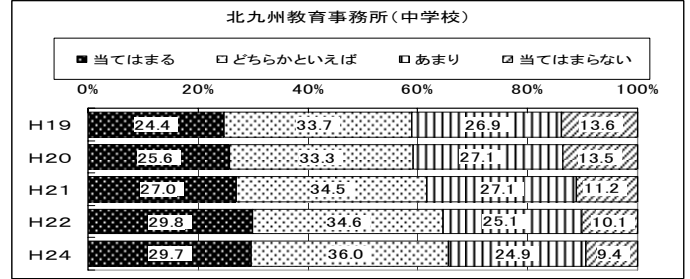
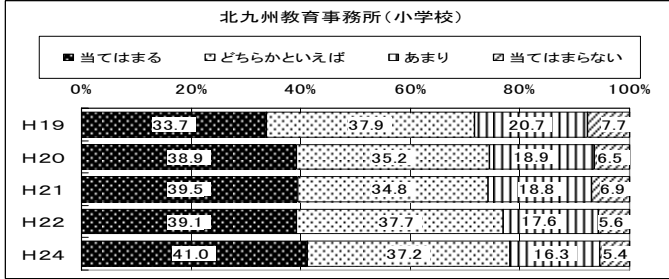
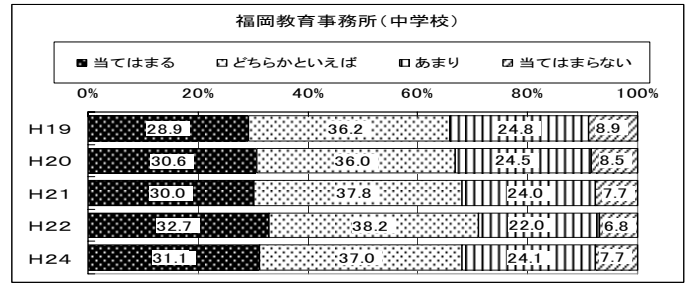
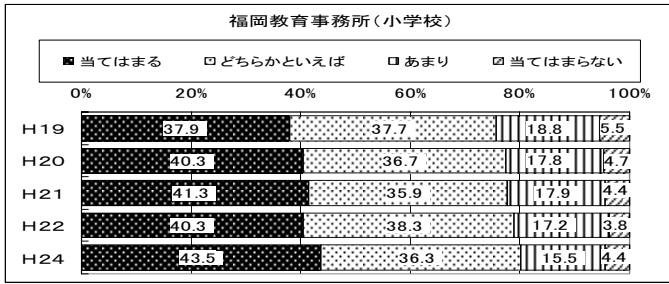


■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関



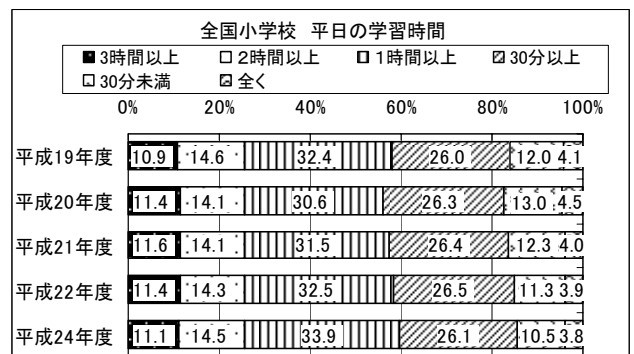
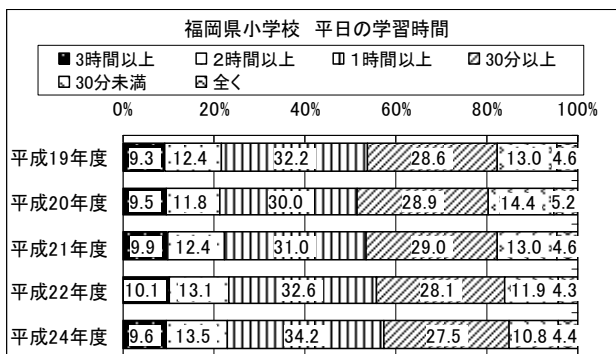


2 家庭学習

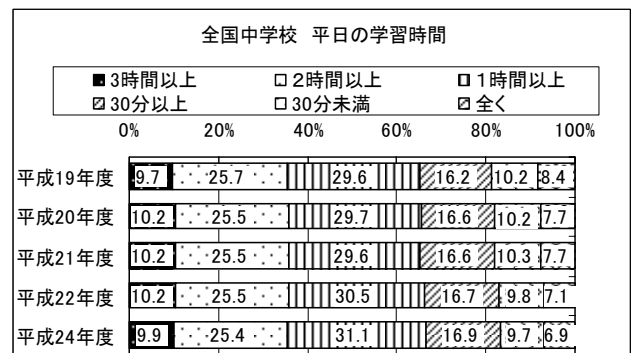
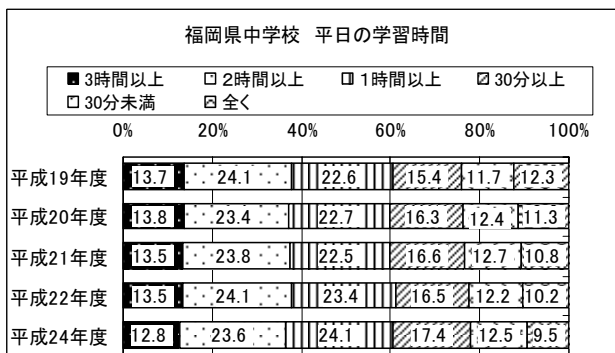
(14) 学校の授業時間以外に普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか

- 平日の家庭学習の時間は、全体的には若干増加傾向にあり、中学校では、全く学習しない生徒の割合は減少した。
- 平日の家庭学習の時間が多い児童生徒の正答率が高い傾向がみられる。このような傾向は、「休みの日の勉強時間」「家で計画を立てて勉強する」「家で学校の宿題をする」「家で学校の授業の予習をする」「家で学校の授業の復習をする」といった質問項目においても同様に見られる。

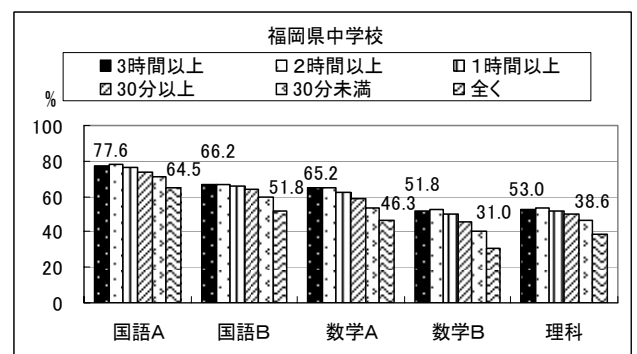
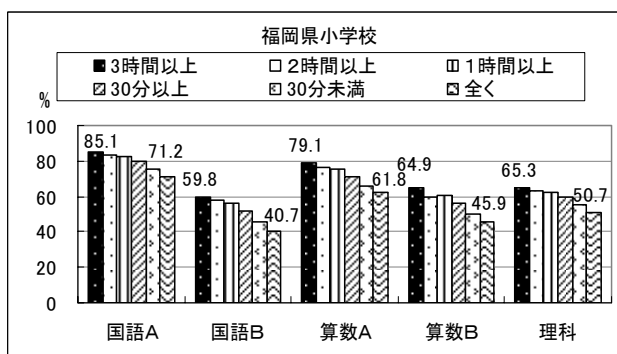
■ 小学校回答状況



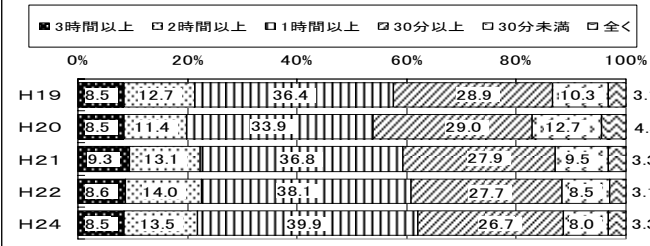
■ 中学校回答状況



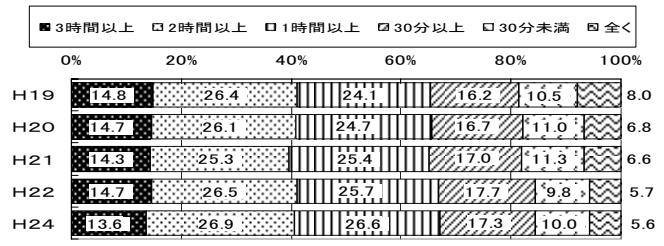
■ 教科の正答率との相関



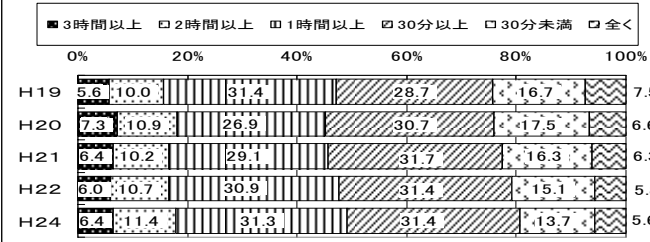
福岡教育事務所(小学校)



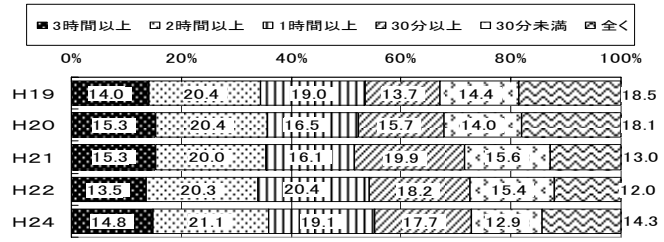
福岡教育事務所(中学校)



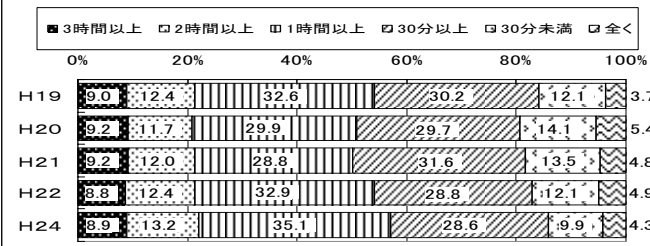
北九州教育事務所(小学校)



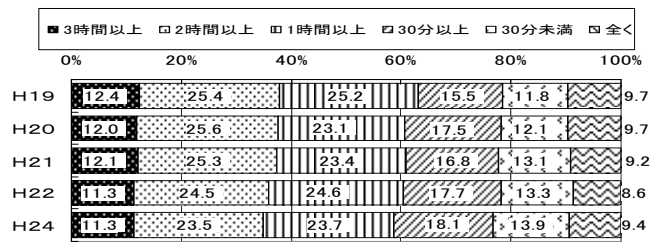
北九州教育事務所(中学校)



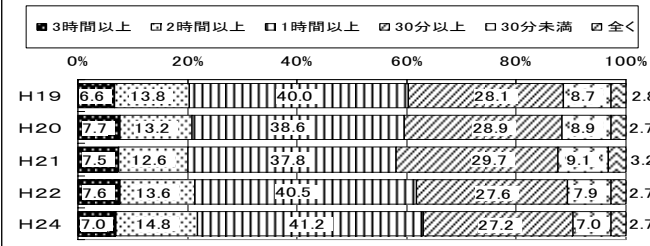
北筑後教育事務所(小学校)



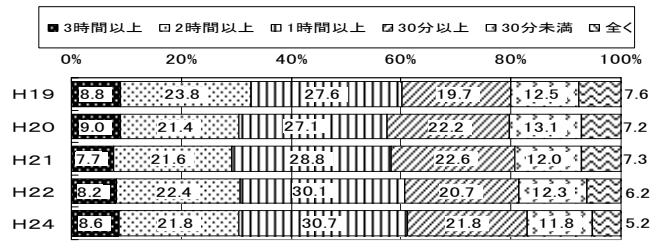
北筑後教育事務所(中学校)



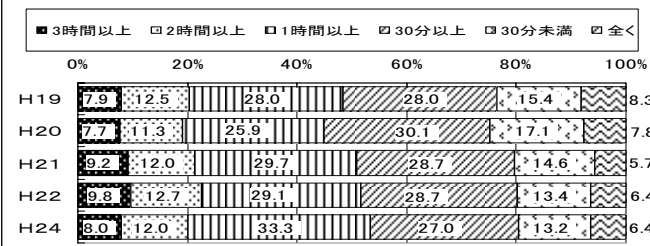
南筑後教育事務所(小学校)



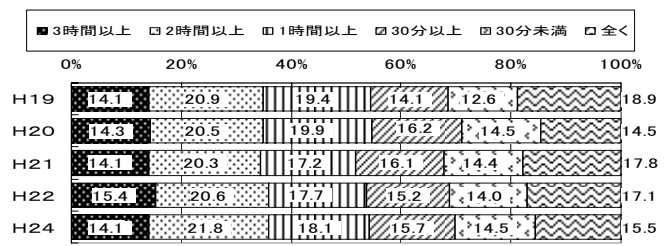
南筑後教育事務所(中学校)



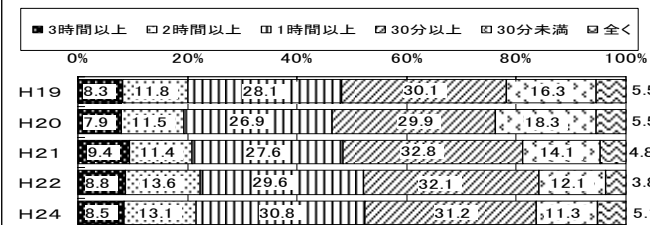
筑豊教育事務所(小学校)



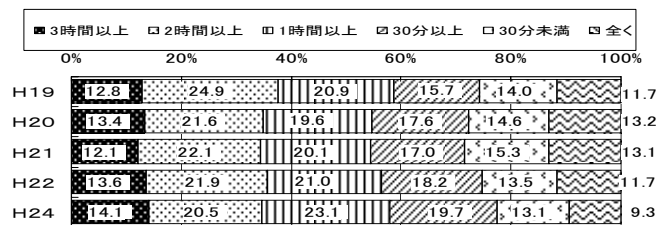
筑豊教育事務所(中学校)



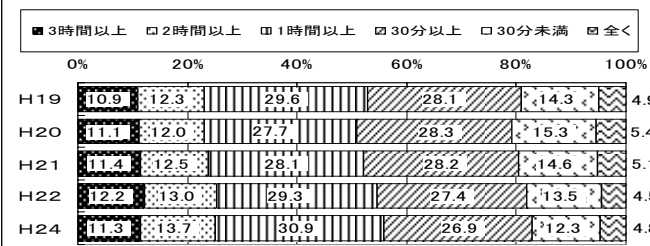
京築教育事務所(小学校)



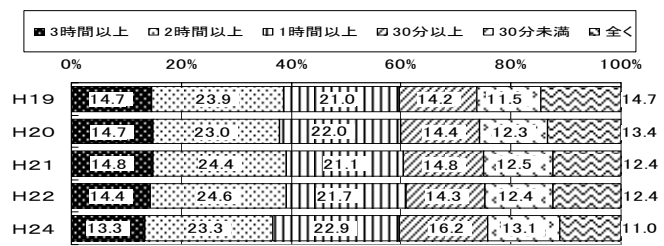
京築教育事務所(中学校)



政令市(小学校)



政令市(中学校)

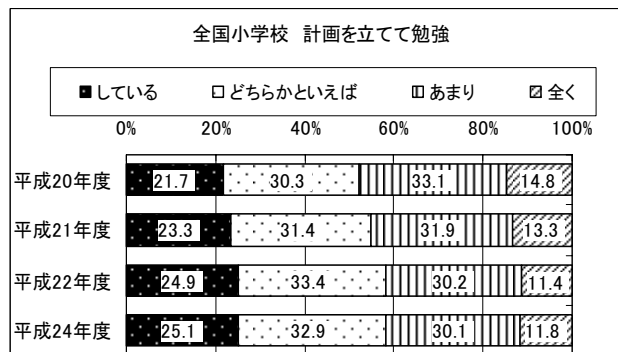
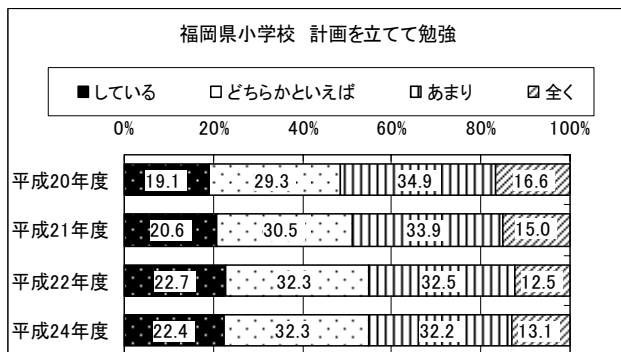


(23) 自分で計画を立てて勉強をしていますか

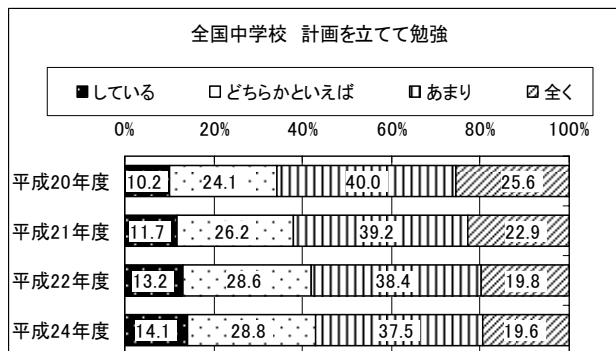
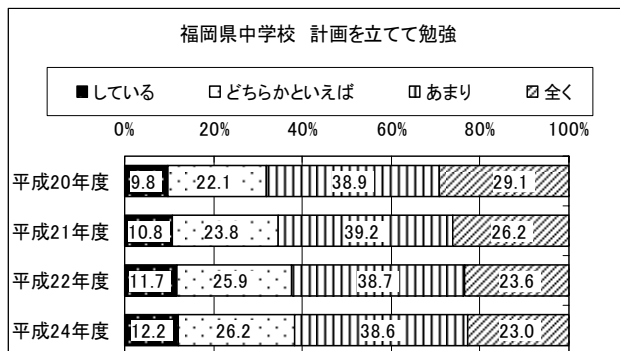
※平成20年度から児童生徒質問紙に加えられた質問

- 自分で計画を立てて勉強をしている児童生徒の割合は、全体的には増加傾向にあり、全く計画を立てて勉強しない児童生徒の割合は、減少傾向にある。
- 自分で計画を立てて勉強をしている児童生徒の正答率が高い傾向が見られる。このような傾向は、「平日の勉強時間」「家で学校の宿題をする」「家で学校の授業の予習をする」「家で学校の授業の復習をする」といった質問項目においても同様に見られる。

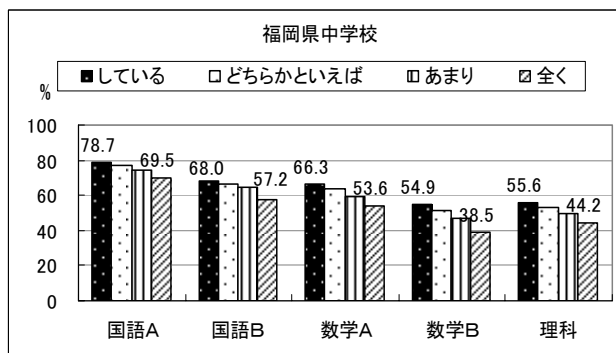
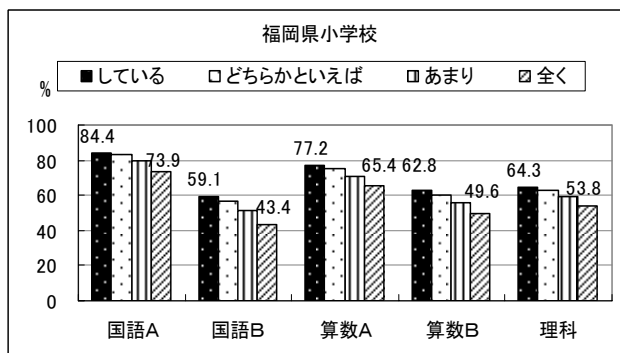
■ 小学校回答状況

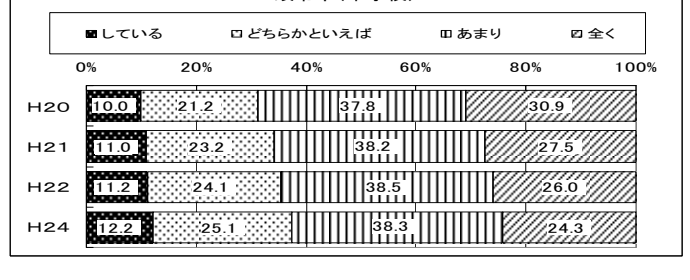
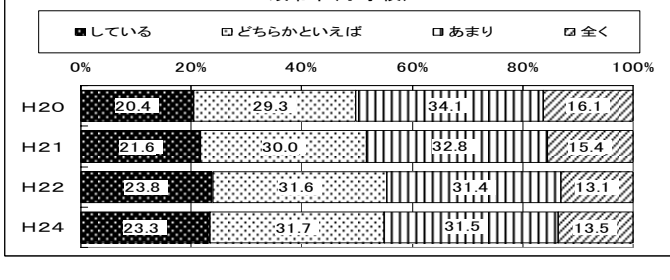
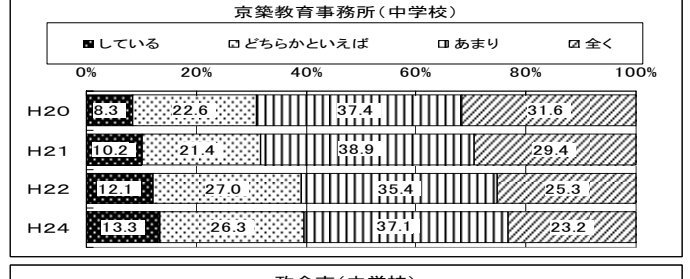
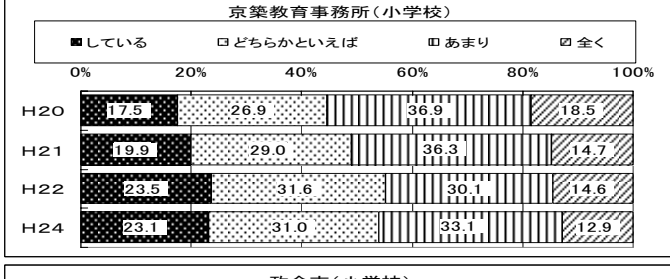
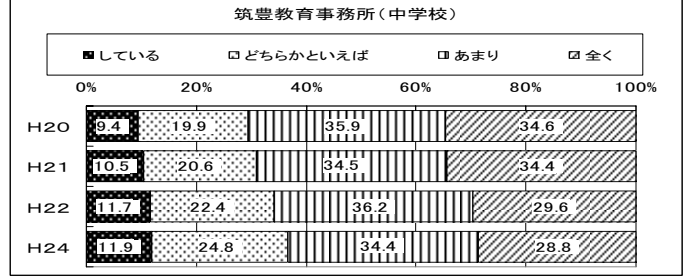
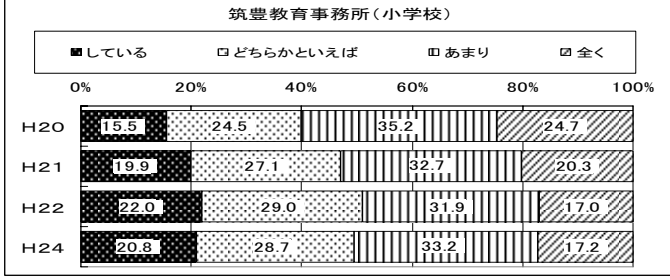
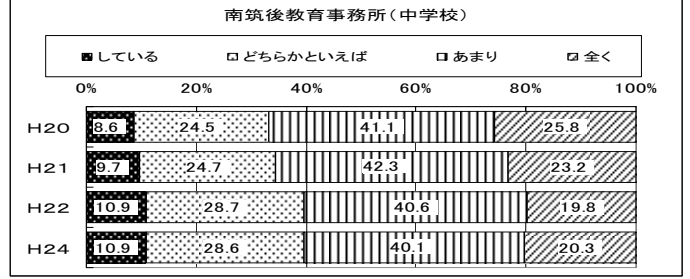
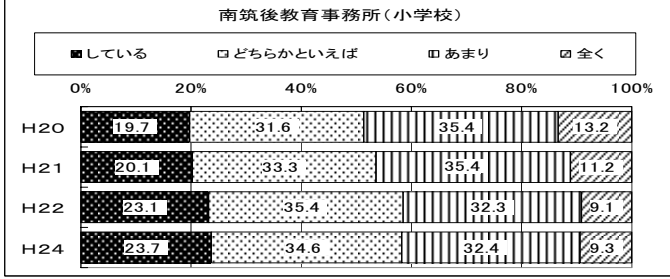
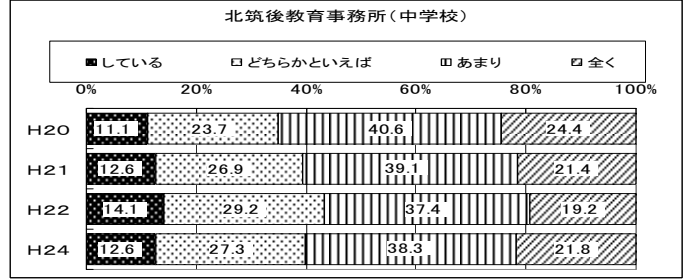
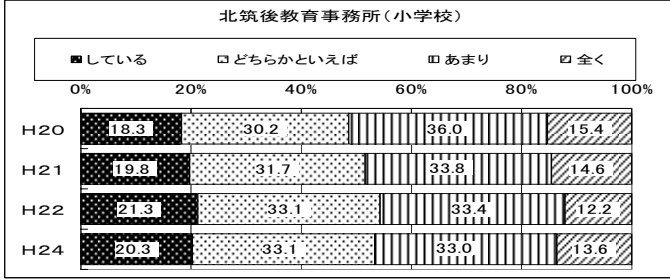
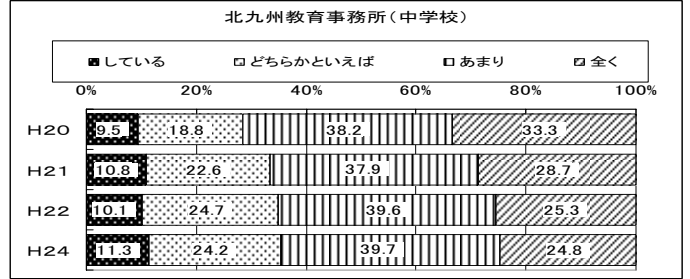
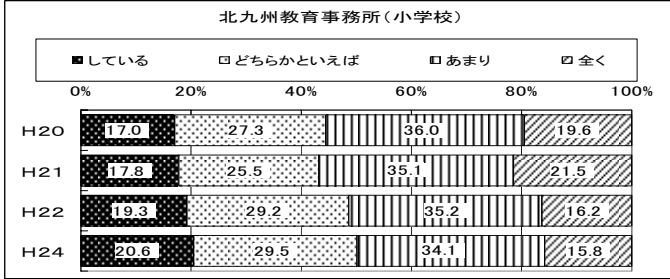
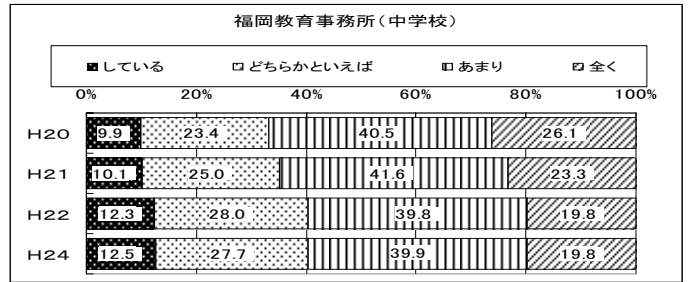
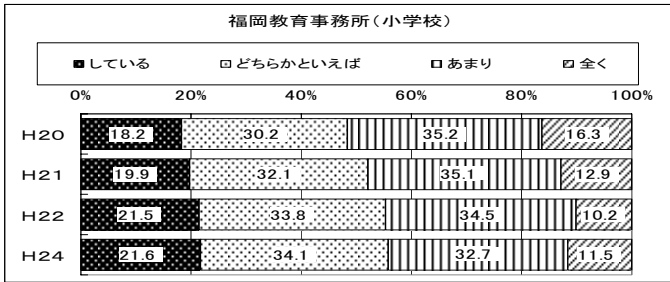


■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関



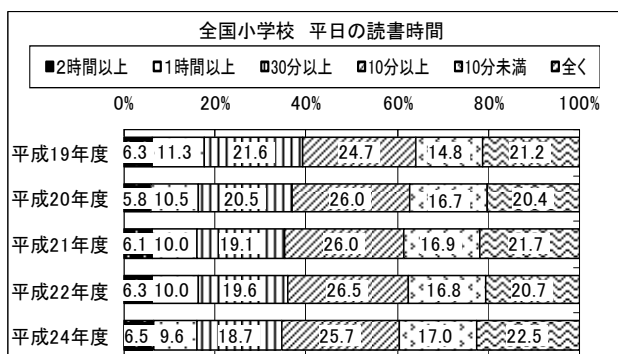
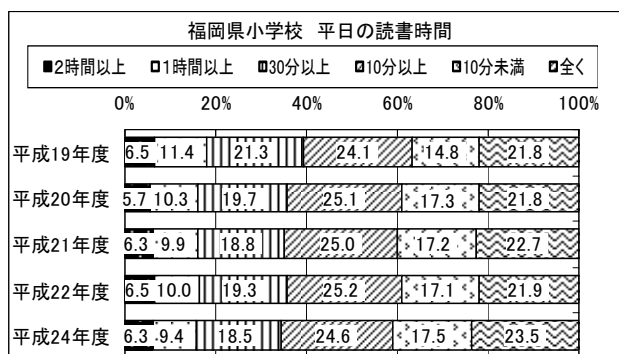


3 読書

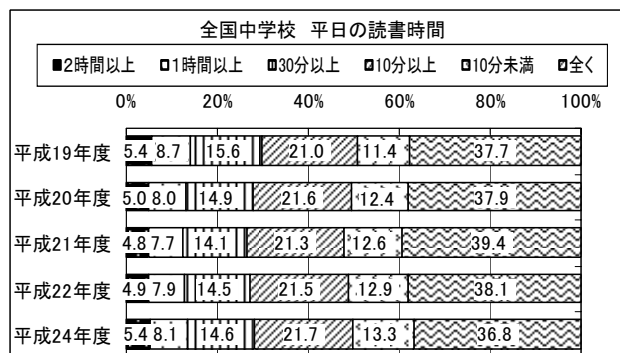
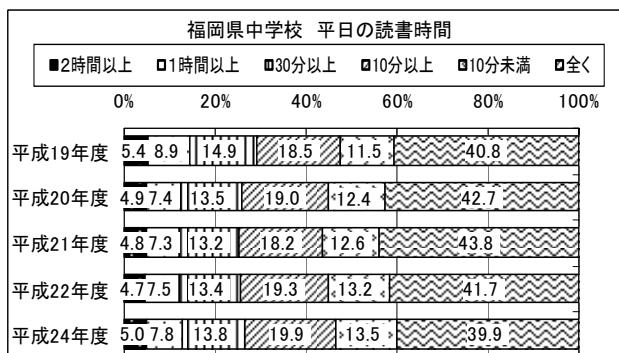
(17) 家や図書館で普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか

- 平日の読書の時間は、平成22年度より小学校では若干減少し、中学校では若干増加した。
- 読書が好きと回答している児童生徒の平均正答率が高い傾向が見られる。また、小学校、中学校とも、特に国語Bにおいて、読書が好きと回答している児童生徒と、そうでない児童生徒との正答率の差が大きい。

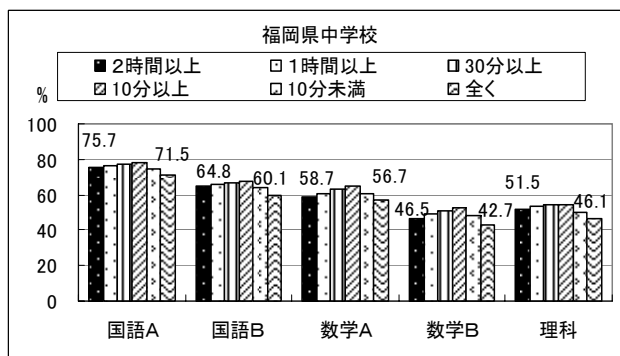
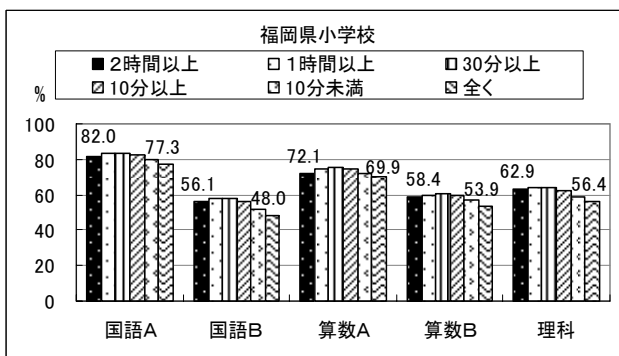
■ 小学校回答状況

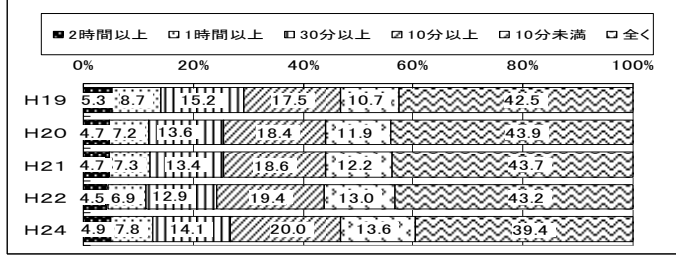
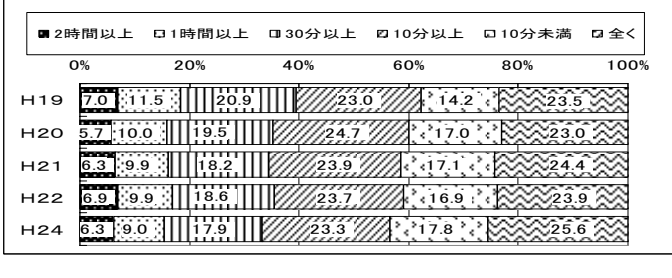
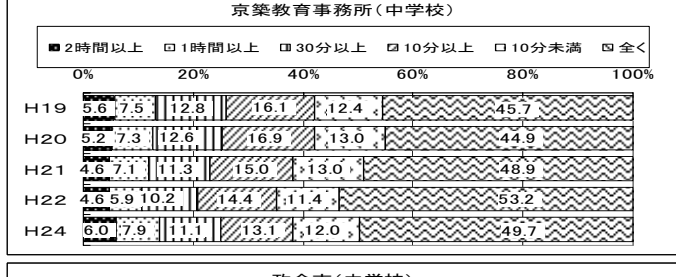
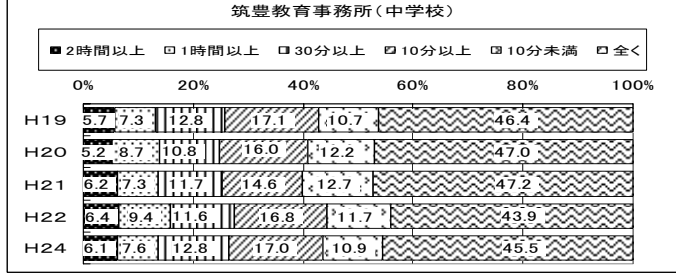
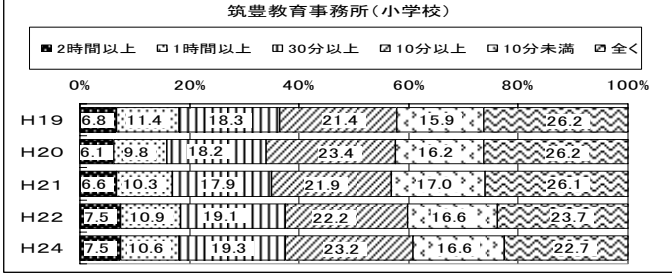
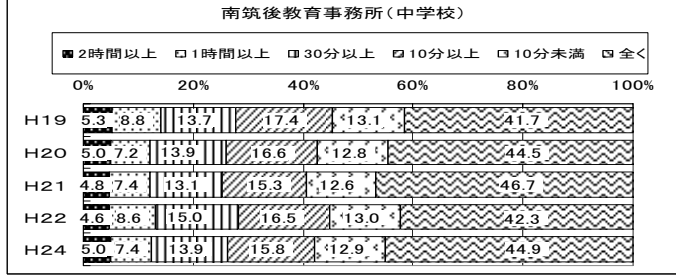
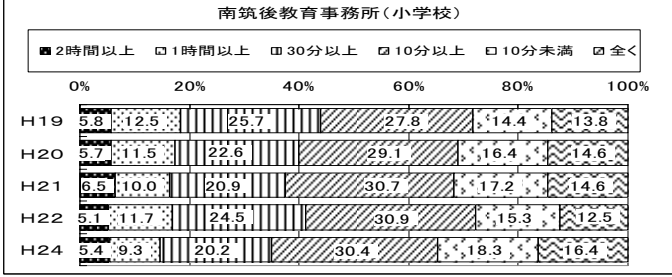
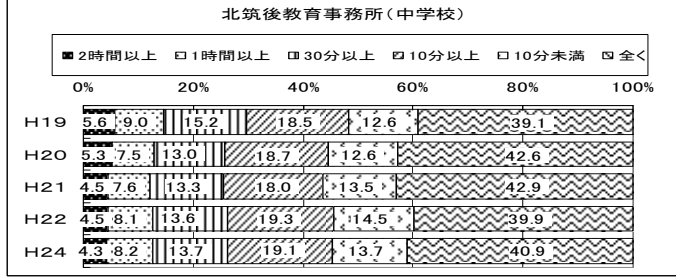
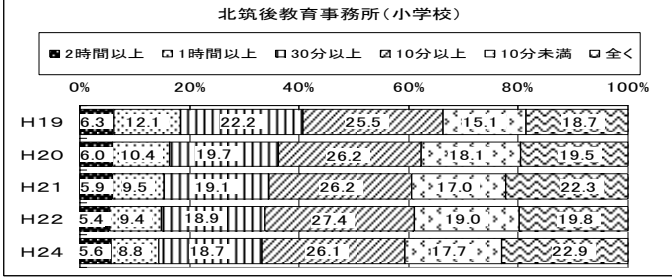
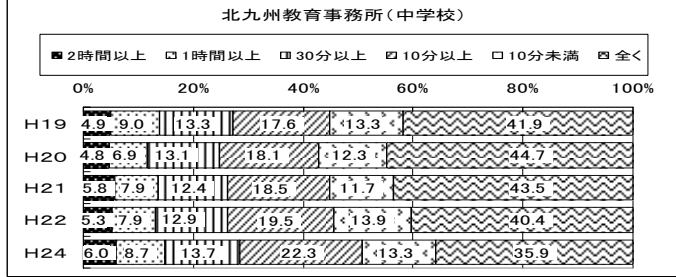
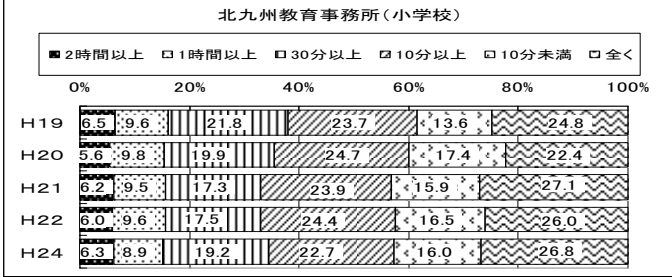
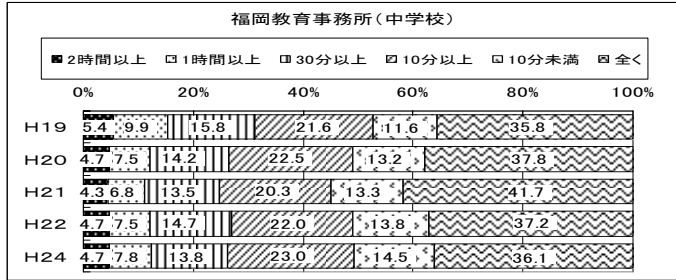
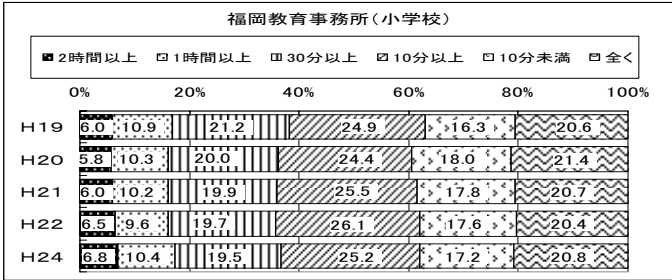


■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関



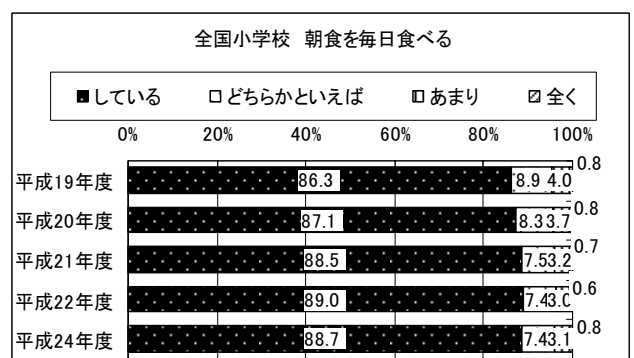
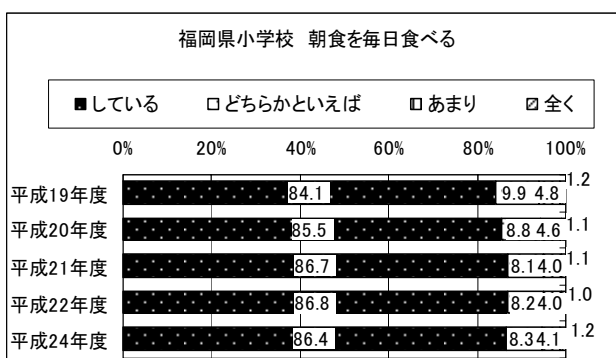


4 基本的な生活習慣

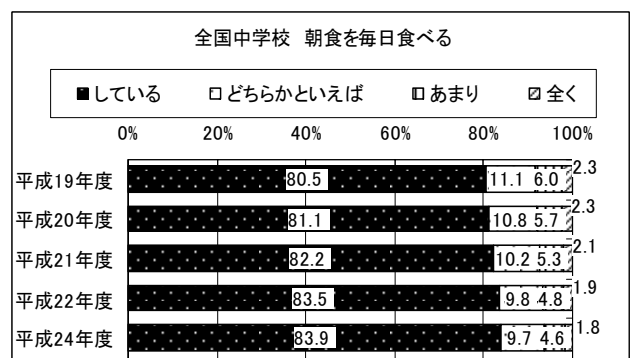
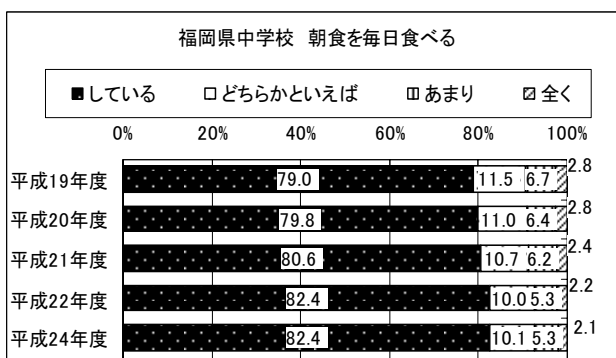
(1) 朝食を毎日食べていますか

- 朝食を毎日食べていると回答している児童生徒の割合は、小学校、中学校とも5回を通じて増加傾向にあり、全く食べない児童生徒の割合は小学校では若干増加したが、中学校では5回を通じて減少した。
- 朝食を毎日食べていると回答している児童生徒の正答率が高い傾向が見られる。またこのような傾向は、基本的な生活習慣に関する「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか、起きていますか」の質問項目においても、同様に見られる。

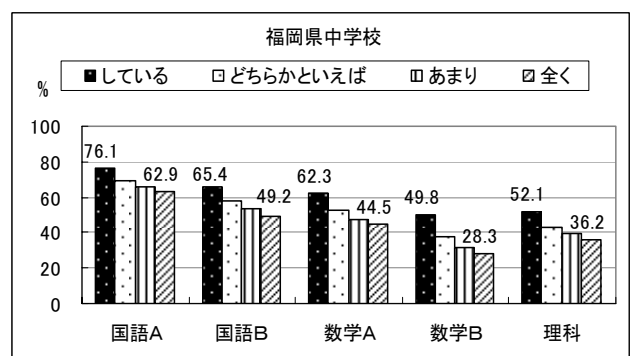
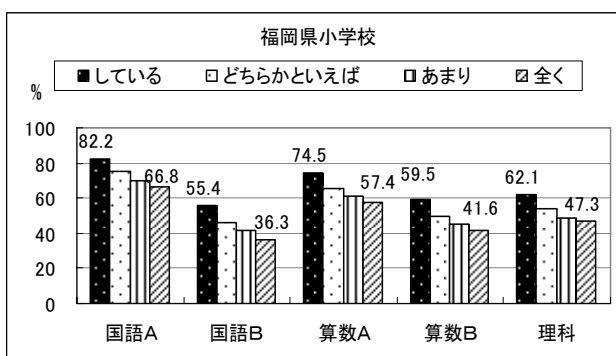
■ 小学校回答状況

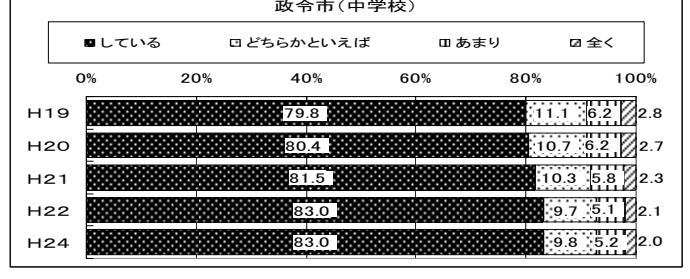
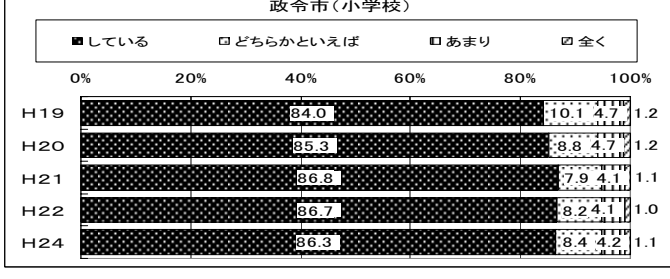
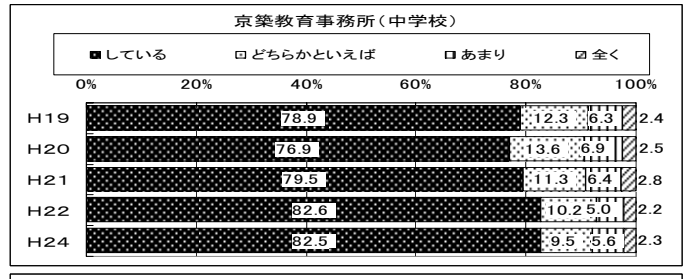
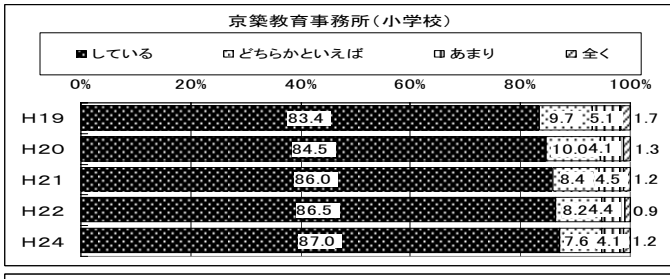
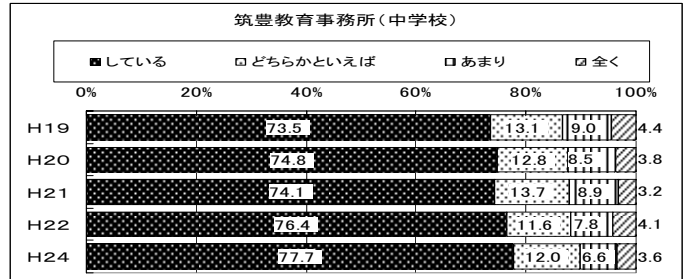
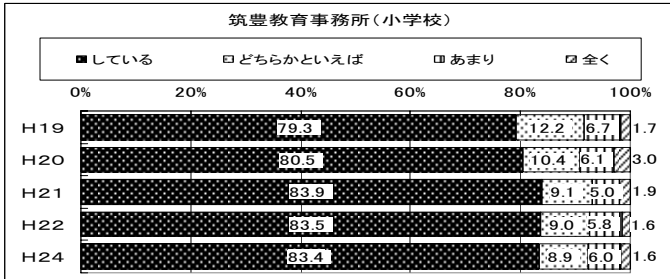
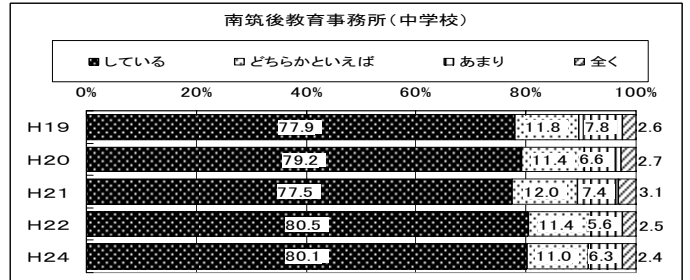
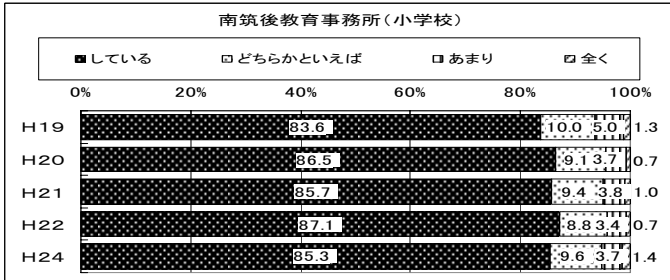
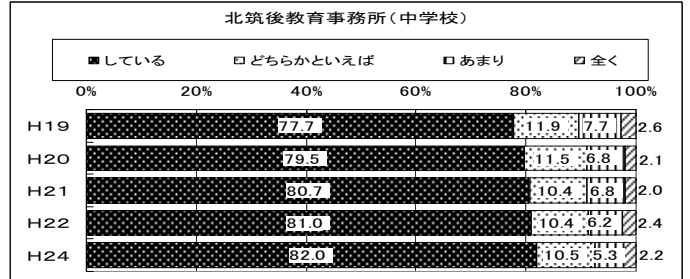
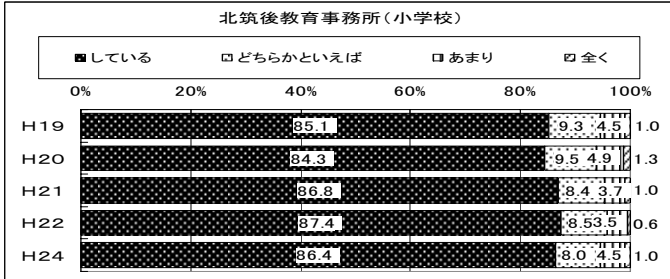
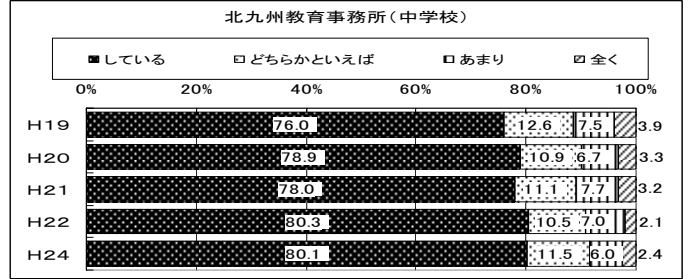
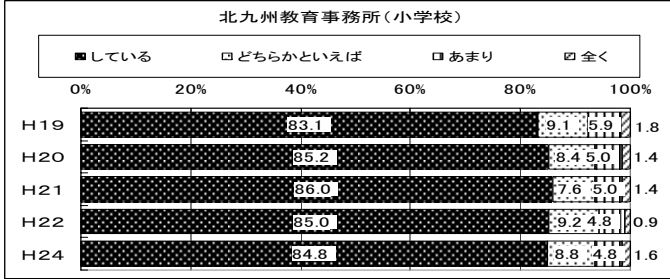
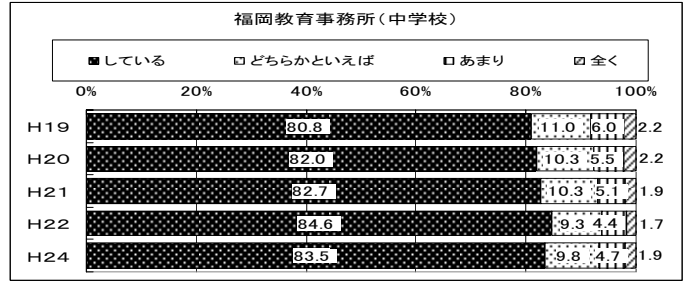
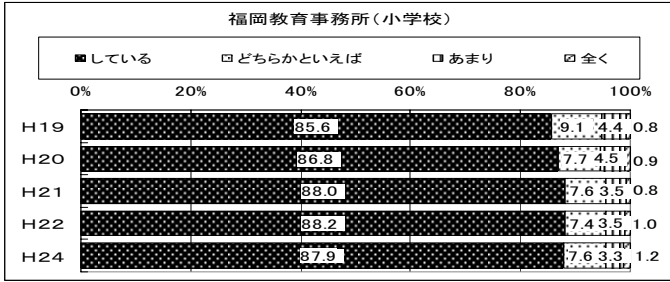


■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関



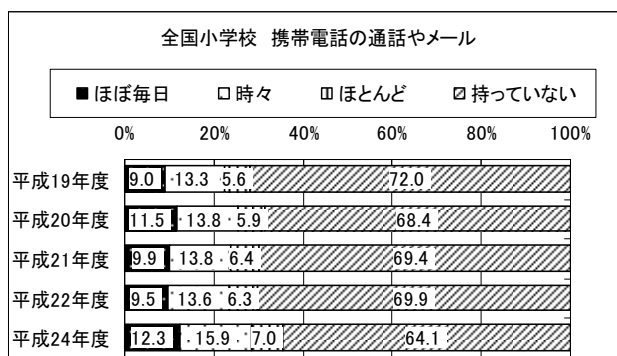
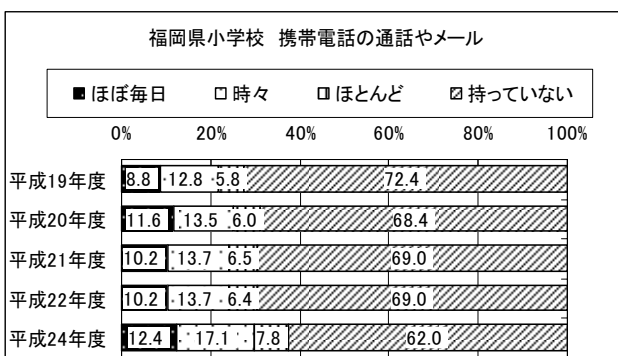


5 携帯電話

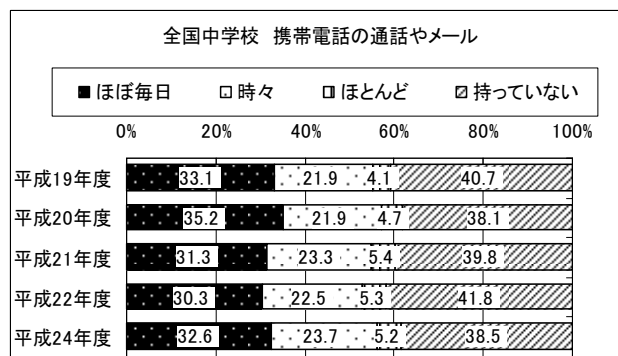
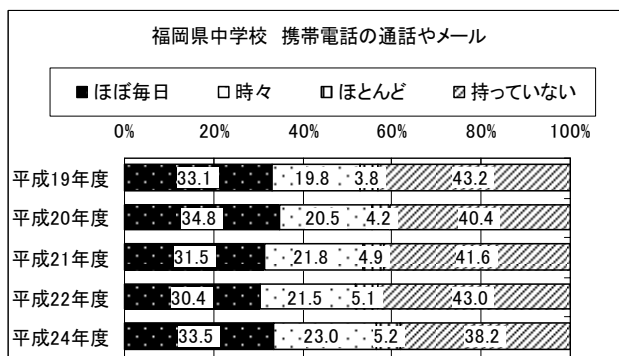
(13) 携帯電話で通話やメールをしますか

- 携帯電話を持っていないと回答している児童生徒の割合は、小学校、中学校とも減少している。
- 携帯電話で通話やメールをほぼ毎日すると回答している児童生徒の割合は、小学校、中学校ともに増加している。
- 携帯電話を持っていないと回答している児童生徒の正答率が高い傾向が見られる。

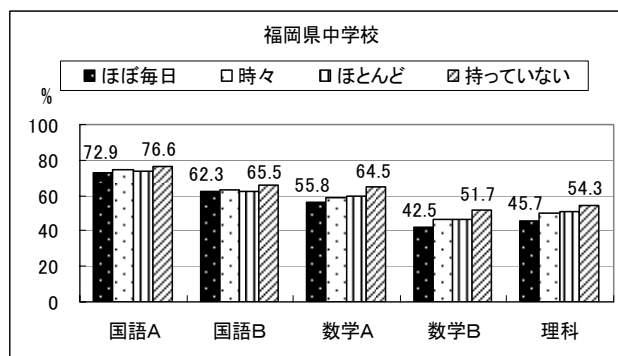
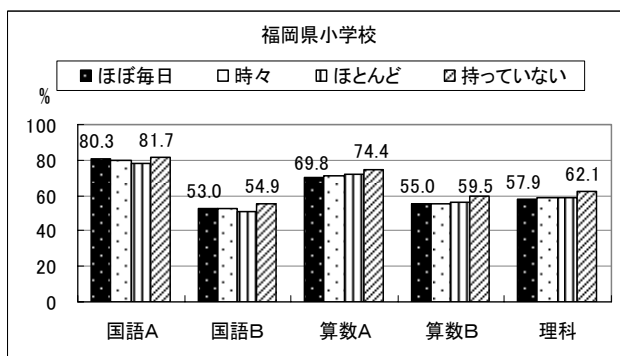
■ 小学校回答状況

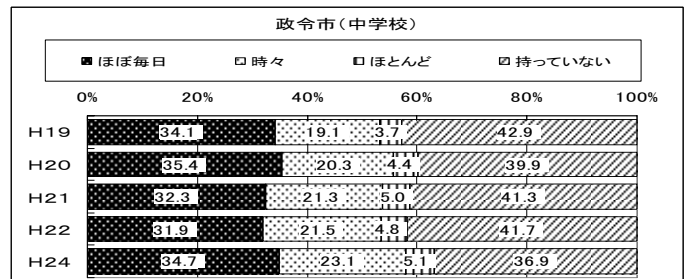
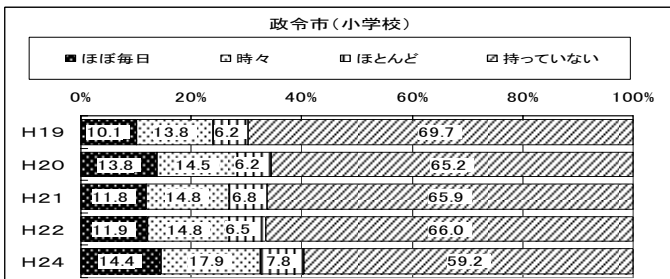
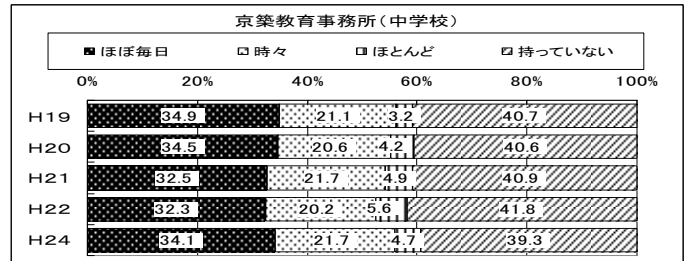
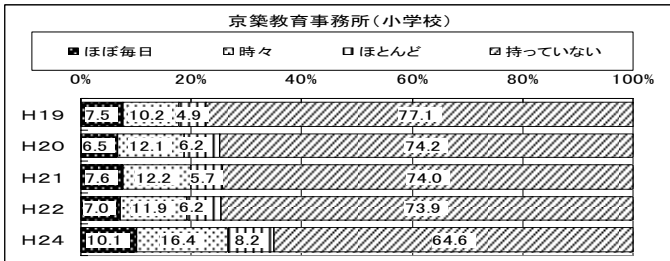
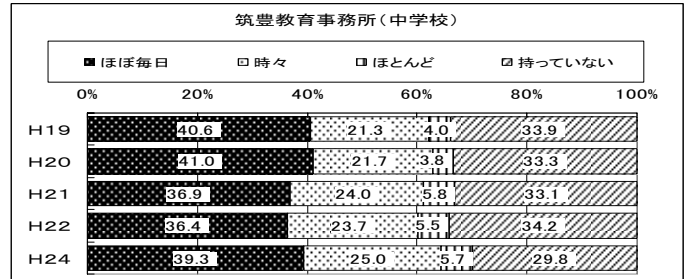
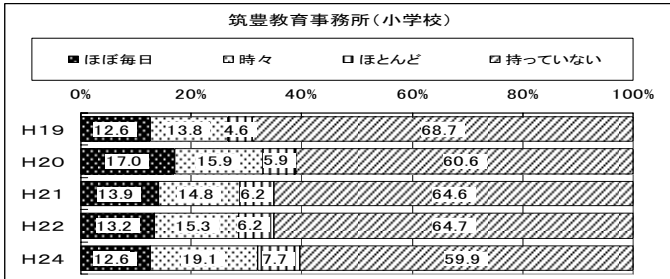
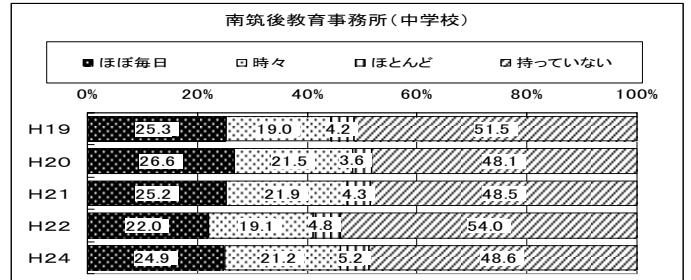
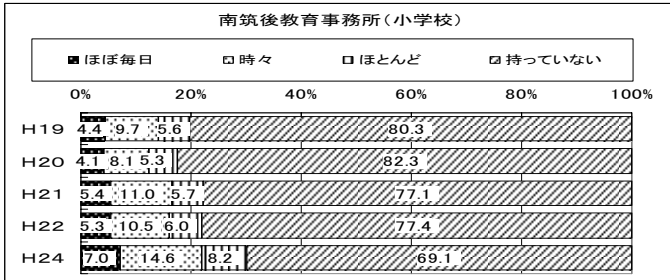
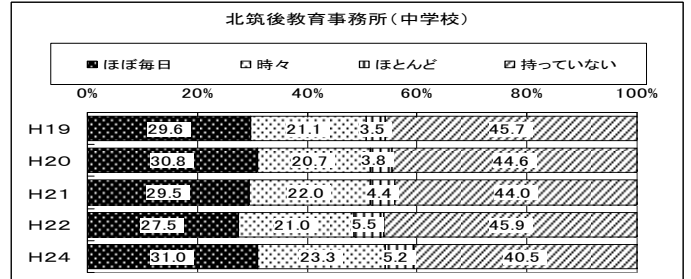
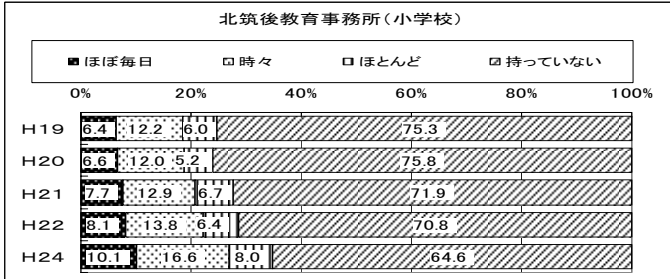
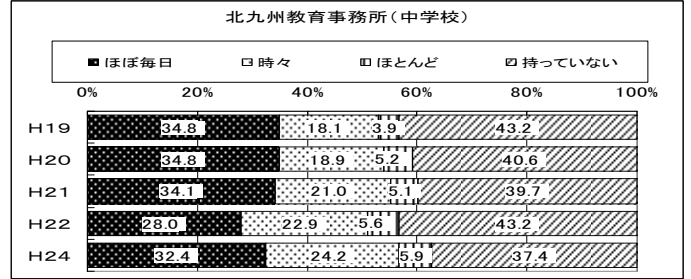
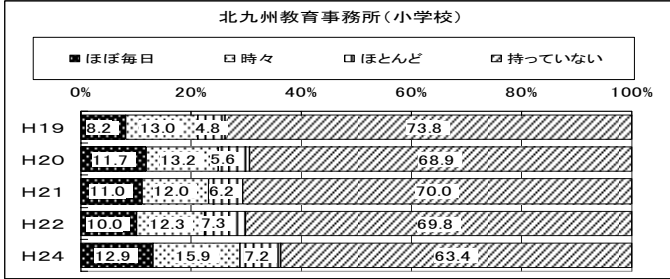
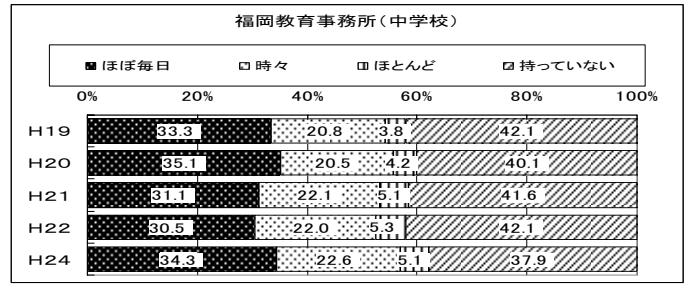
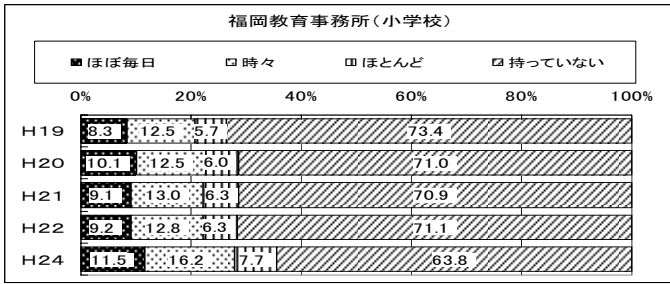


■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関



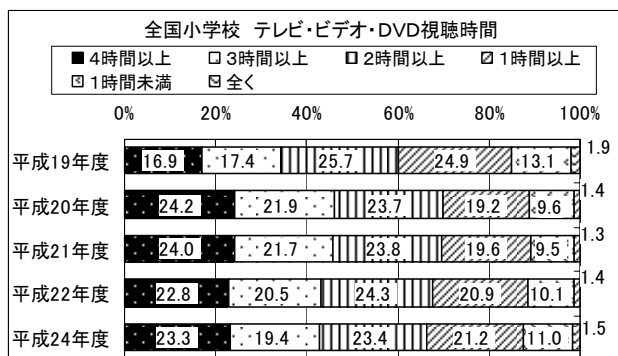
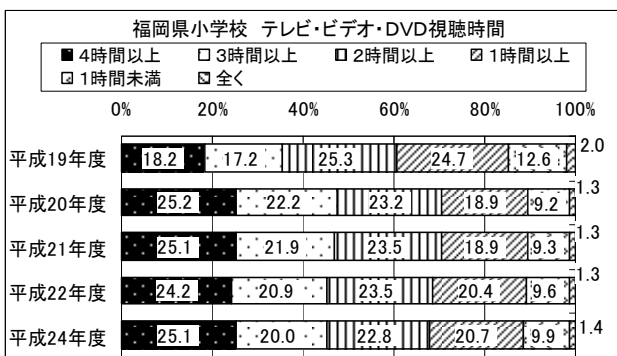


6 テレビやビデオ・DVD

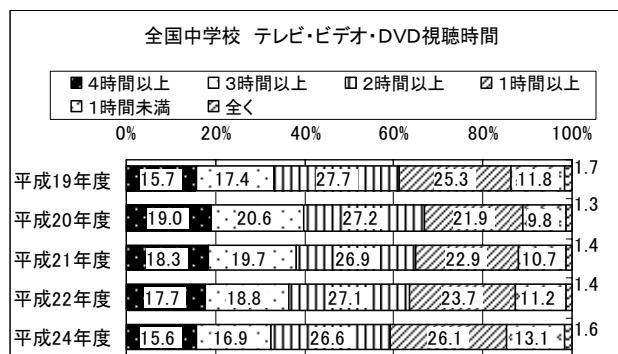
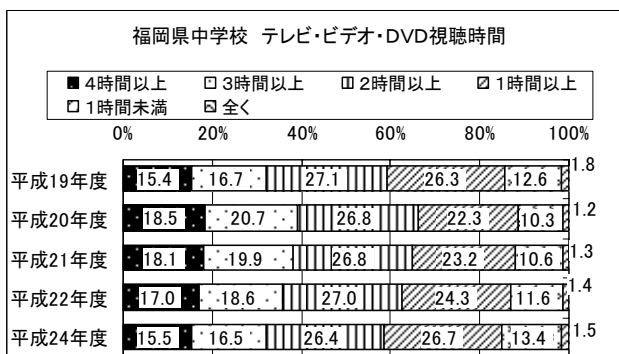
(10) 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか

- テレビやビデオ・DVDを4時間以上視聴する児童生徒の割合は、平成22年度に比べて小学校ではわずかに増加したが、中学校ではわずかに減少した。
- テレビやビデオ・DVDを1時間未満視聴する児童生徒の正答率が高い傾向にある。

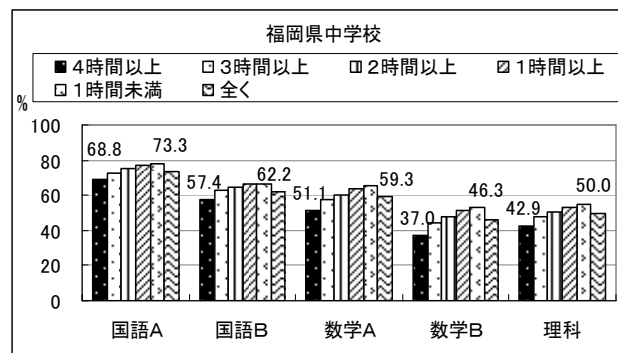
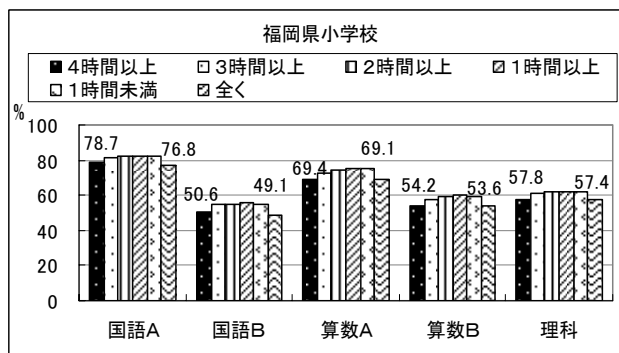
■ 小学校回答状況

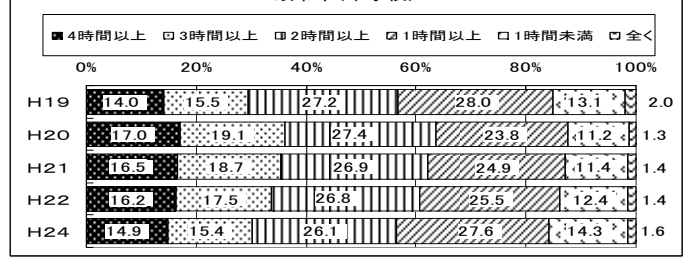
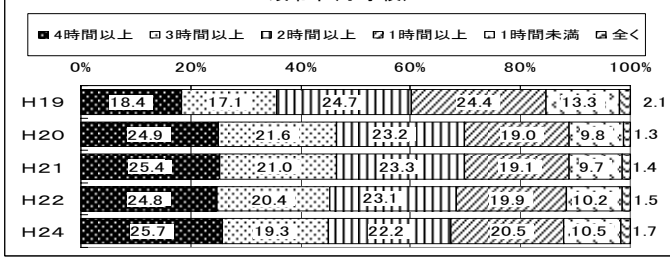
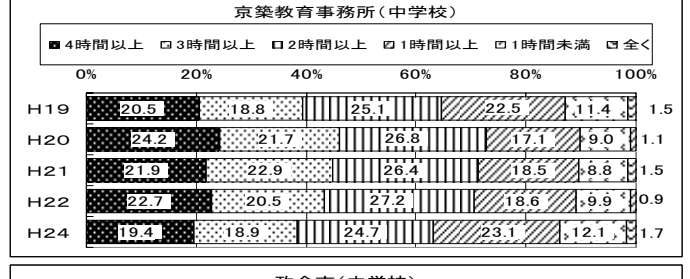
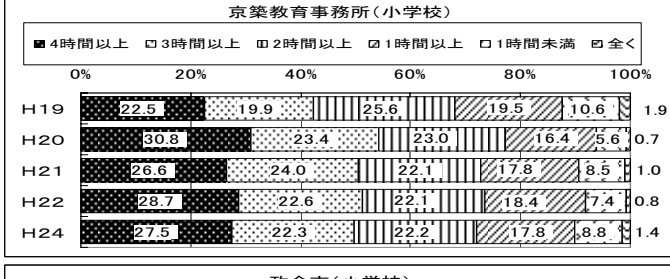
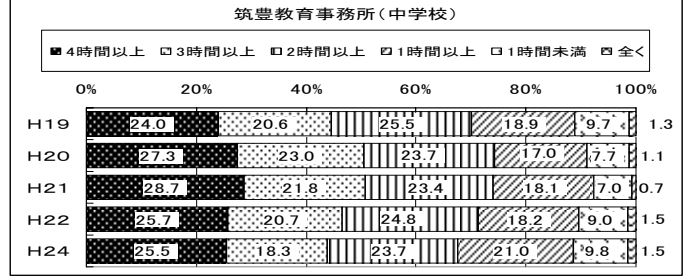
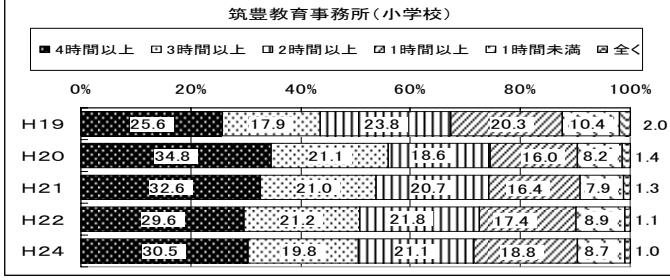
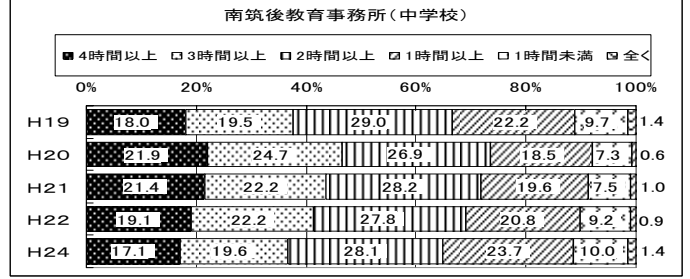
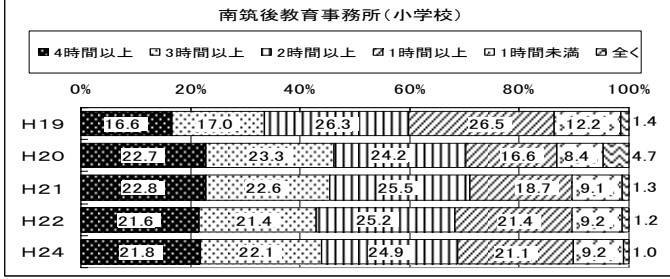
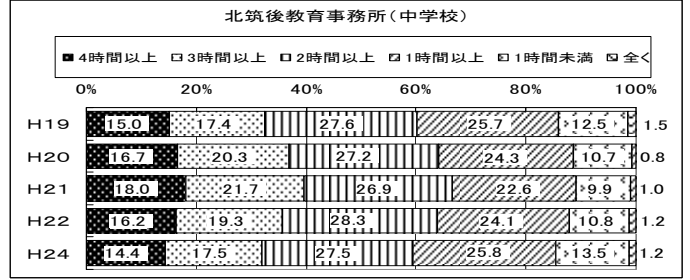
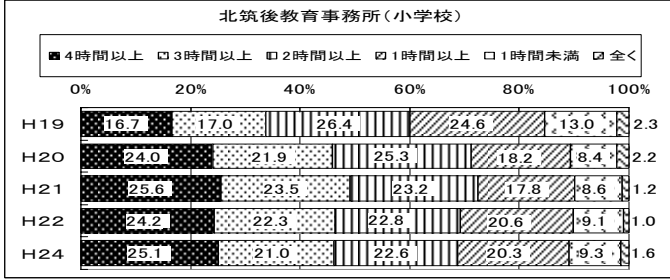
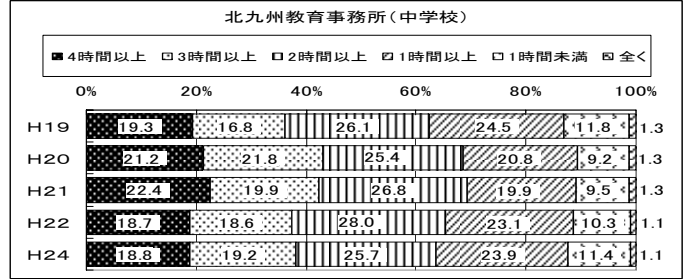
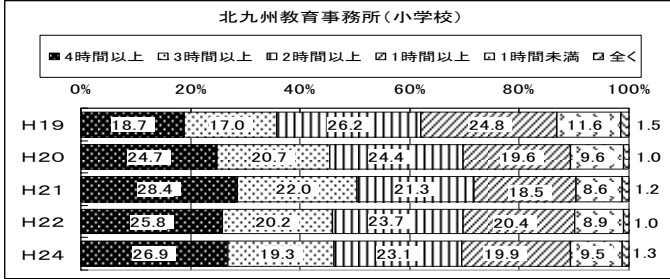
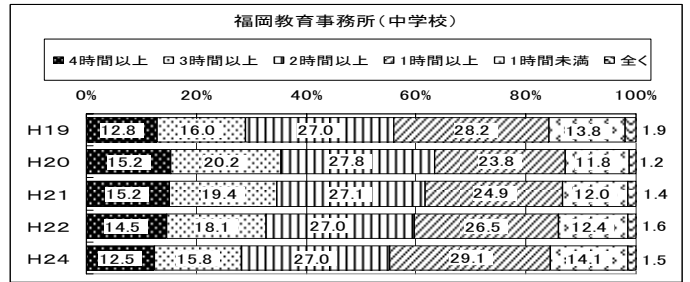
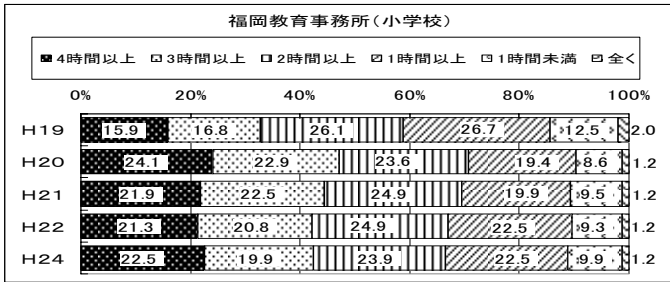


■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関



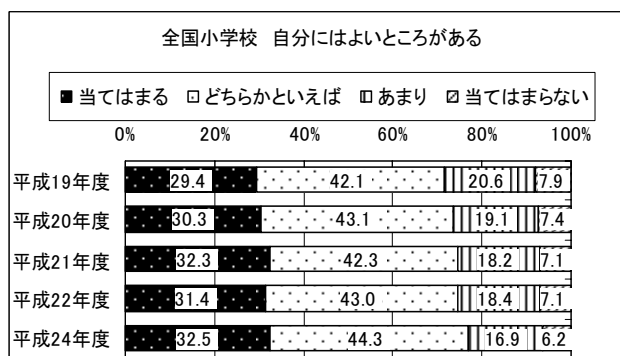
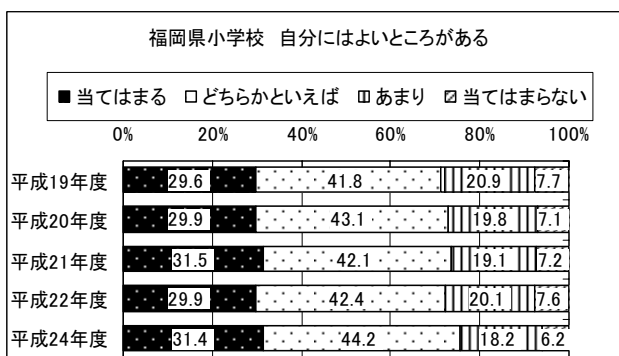


7 自尊意識

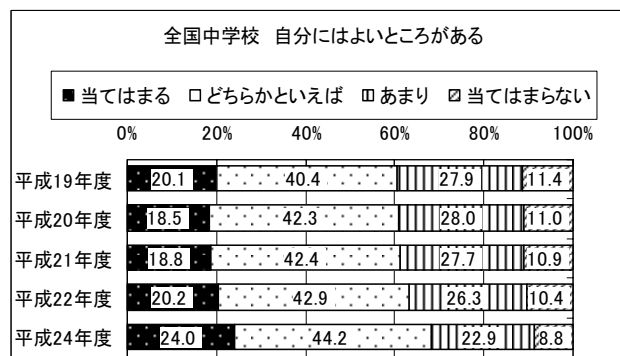
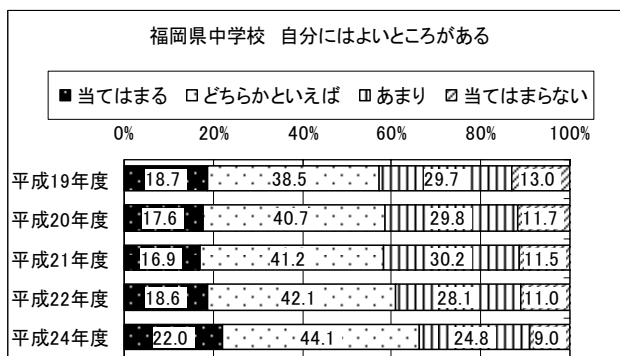
(5) 自分にはよいところがあると思いますか

- 自分にはよいところがあるという回答している児童生徒の割合は、小学校、中学校とも5回で増加傾向にある。
- 自分にはよいところがあるという回答している小学校児童の正答率は高い傾向が見られるが、中学校生徒では必ずしも高い傾向とはいえない。

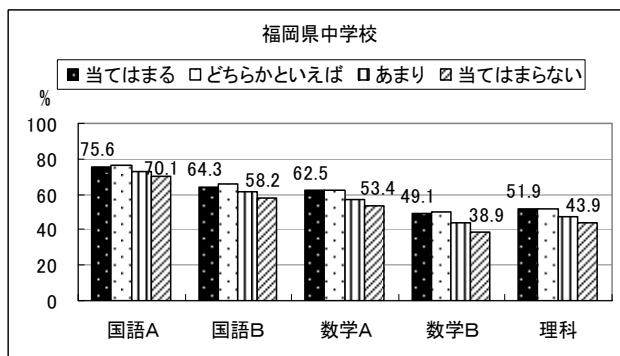
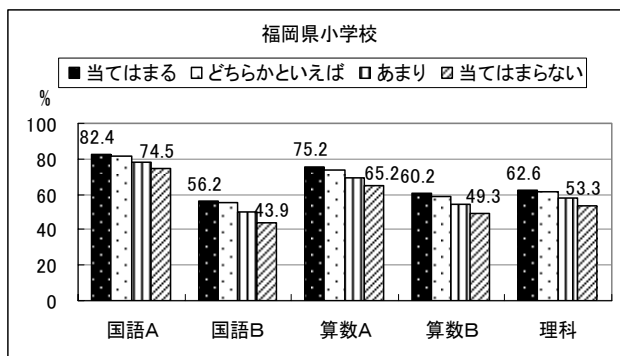
■ 小学校回答状況

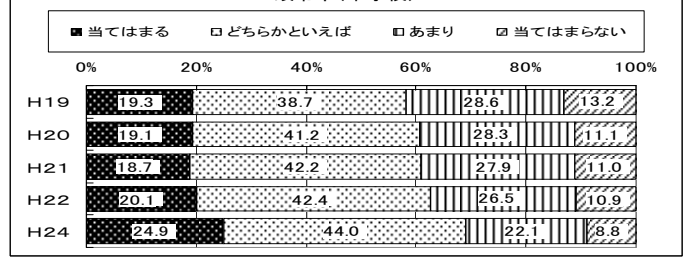
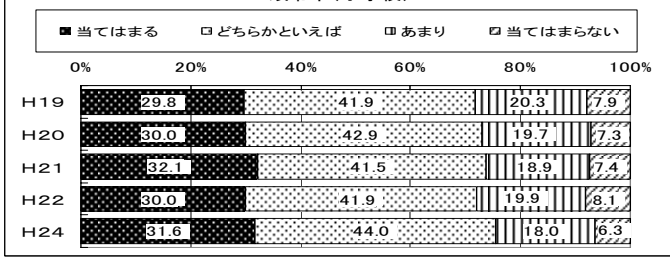
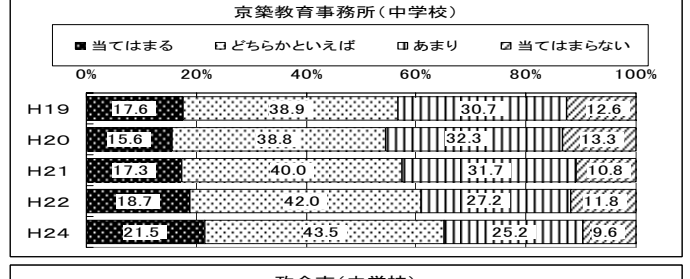
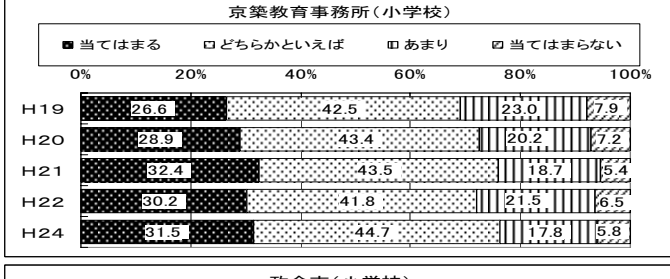
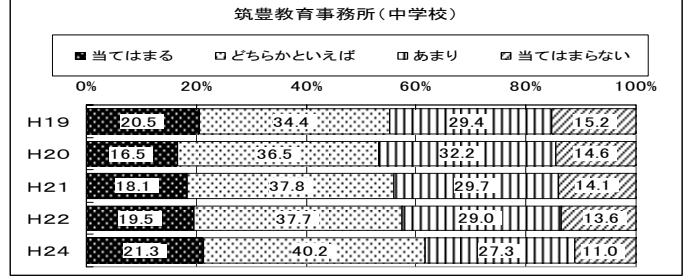
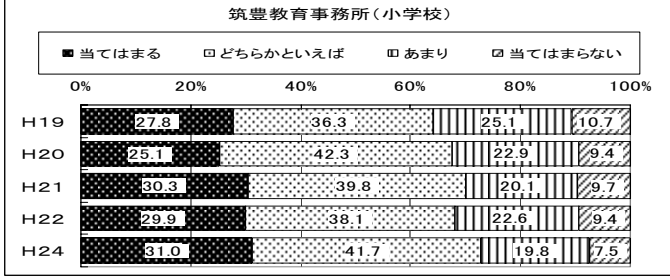
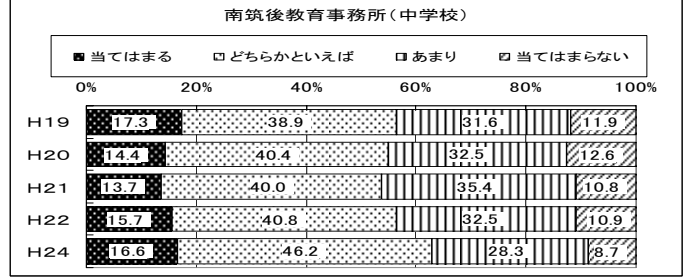
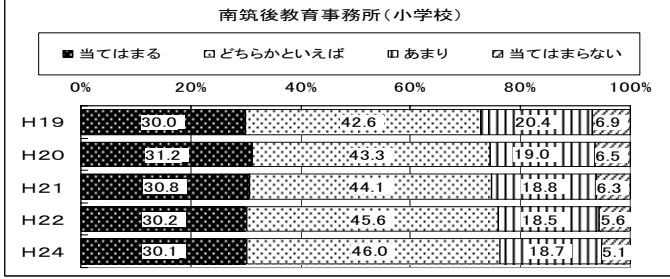
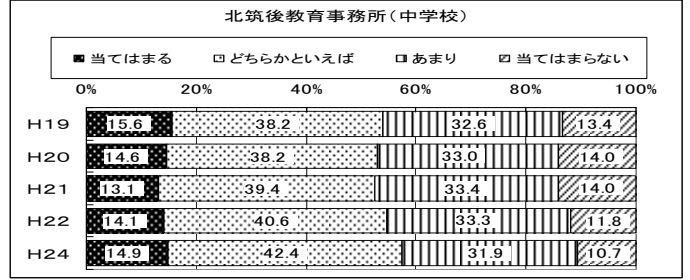
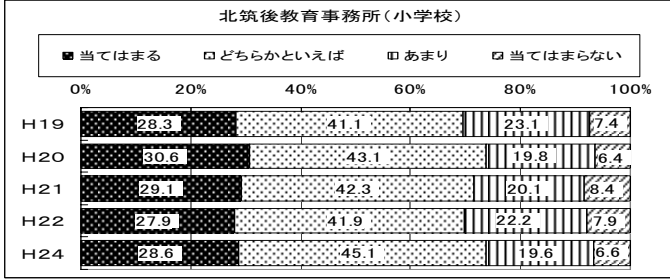
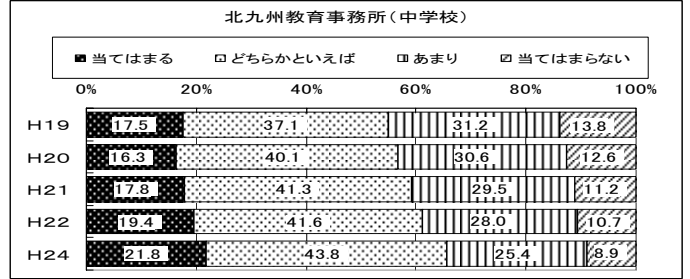
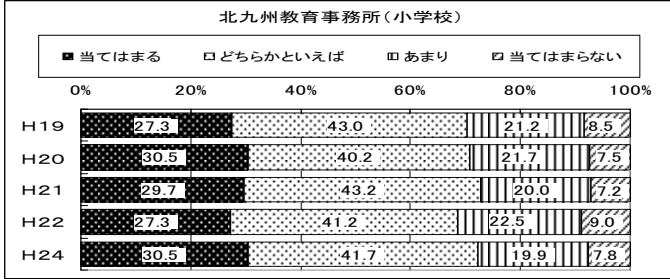
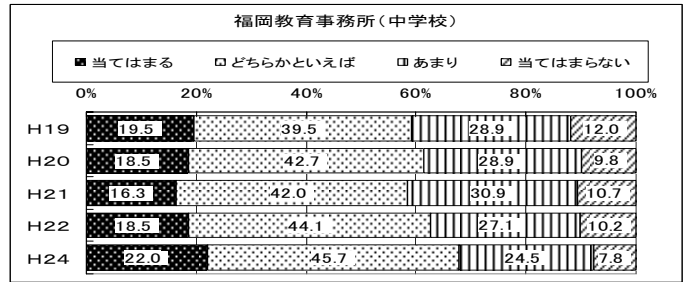
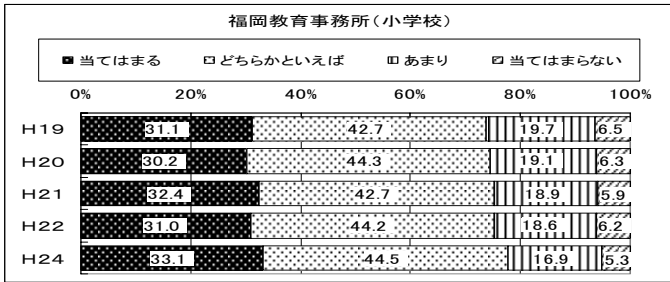


■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関



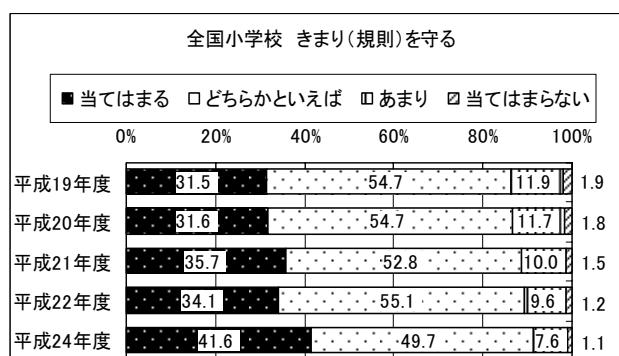
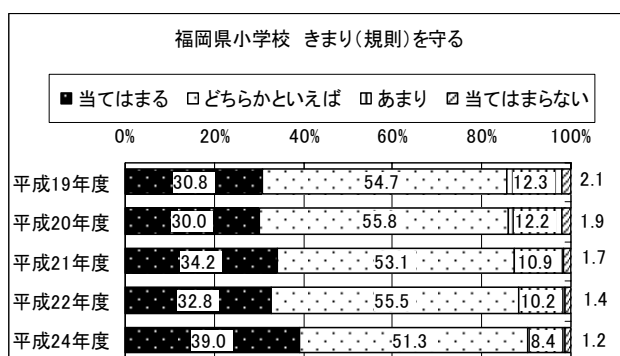


8 規範意識

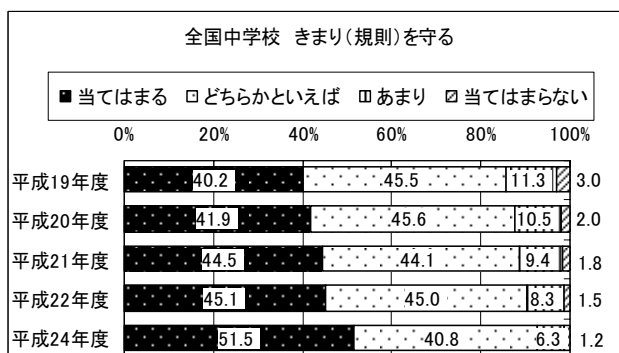
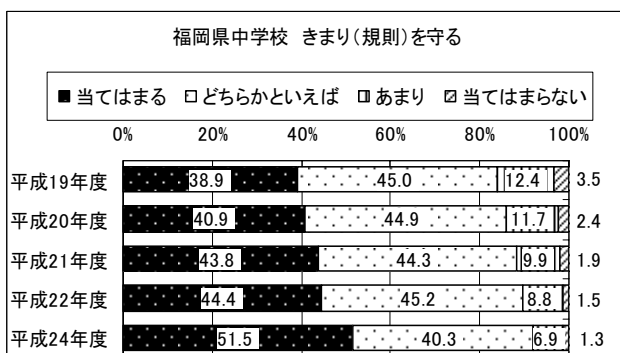
(32) 学校のきまり（規則）を守っていますか

- 学校のきまり（規則）を守っていると回答している児童生徒の割合は、小学校、中学校とも5回を通じて増加している。
- 学校のきまり（規則）を守っていると回答している児童生徒の正答率が高い傾向が見られる。このような傾向は、「友達との約束を守る」の質問項目においても、同様に見られる。

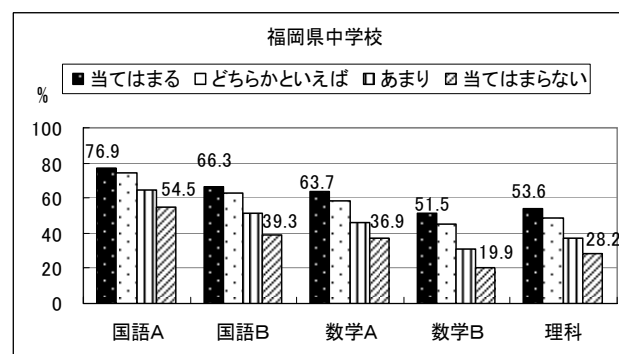
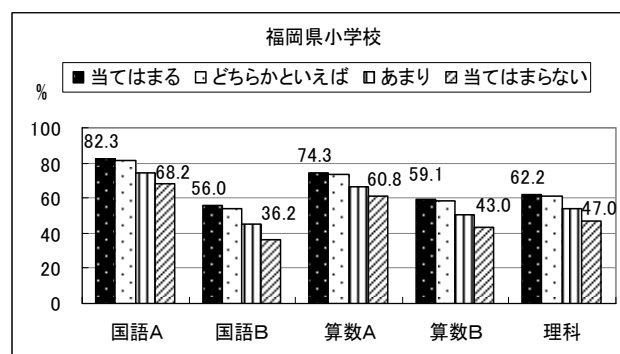
■ 小学校回答状況

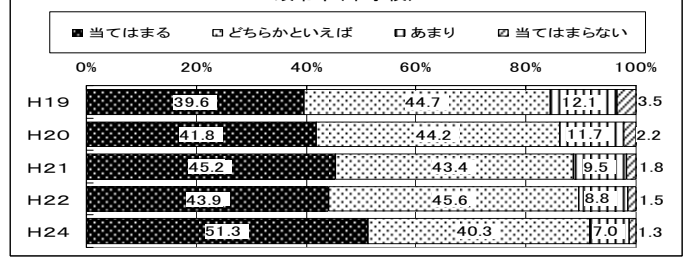
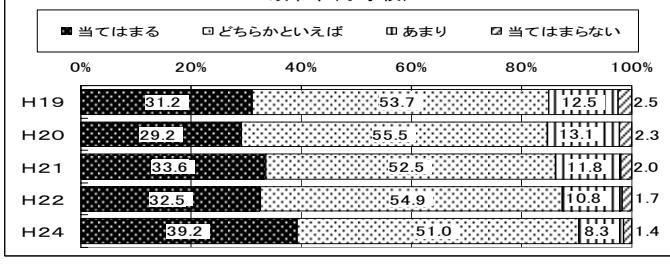
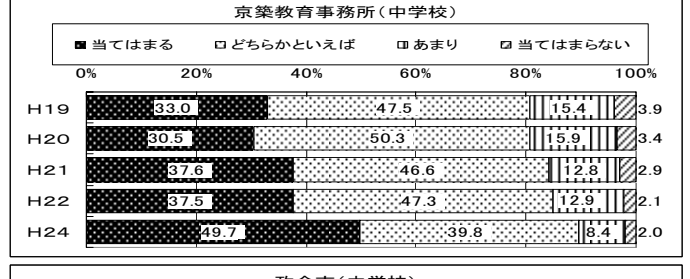
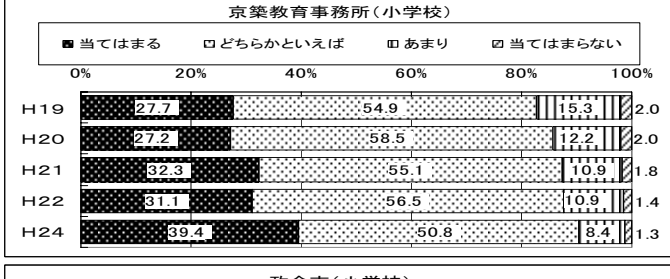
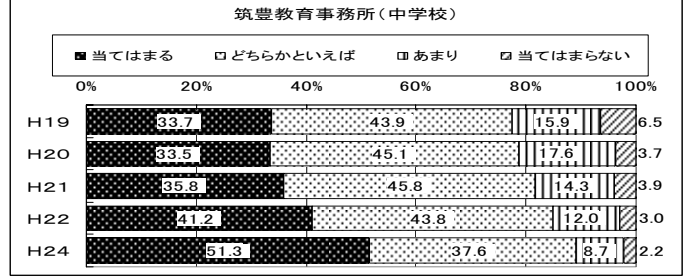
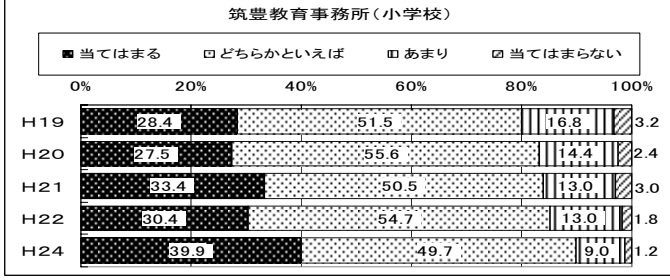
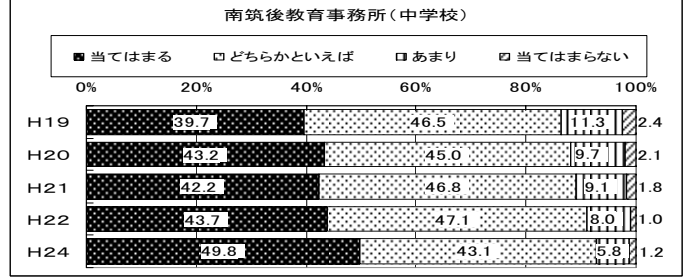
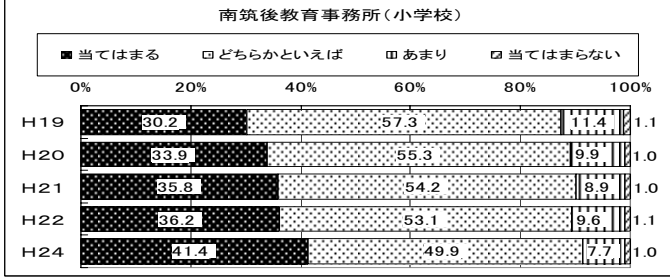
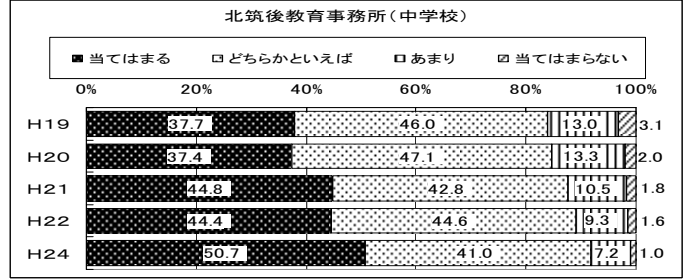
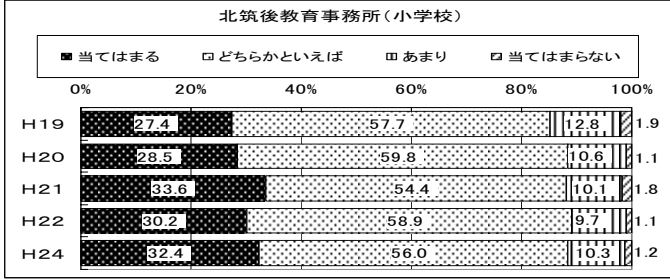
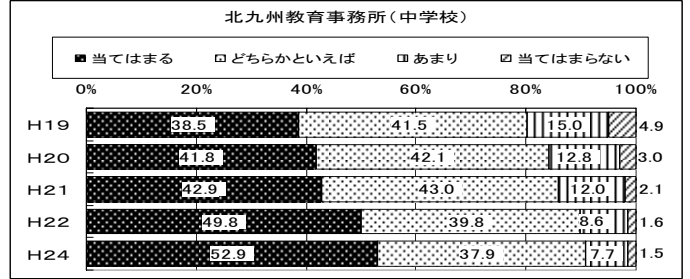
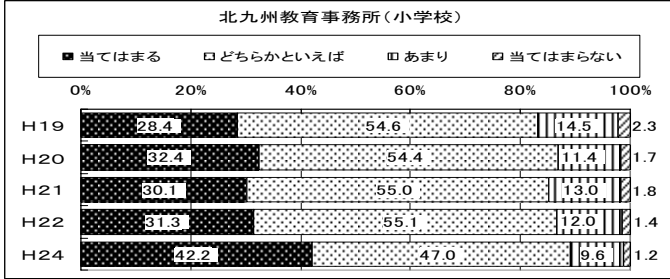
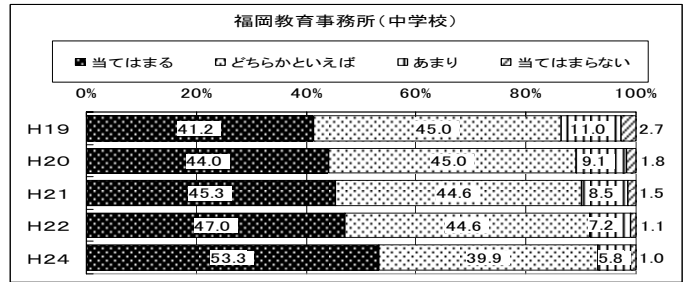
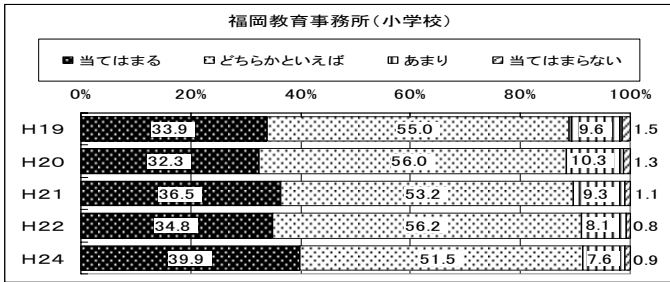


■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関



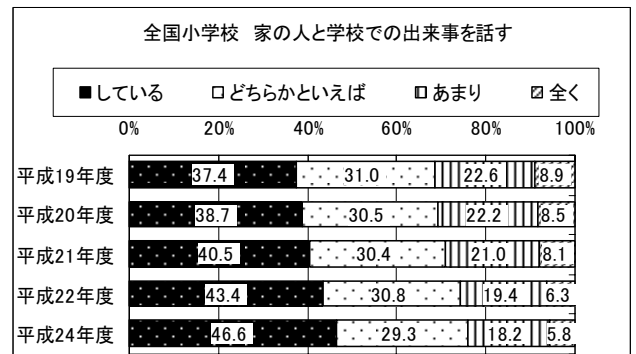
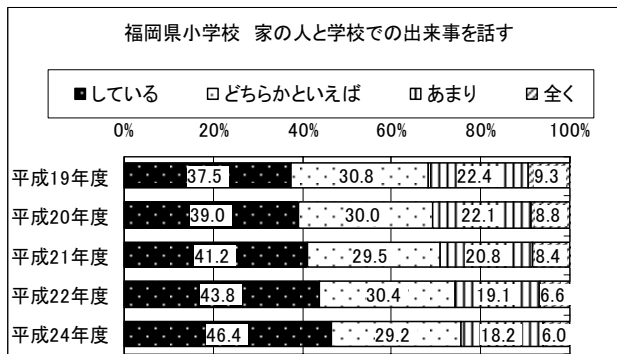


9 家庭でのコミュニケーション

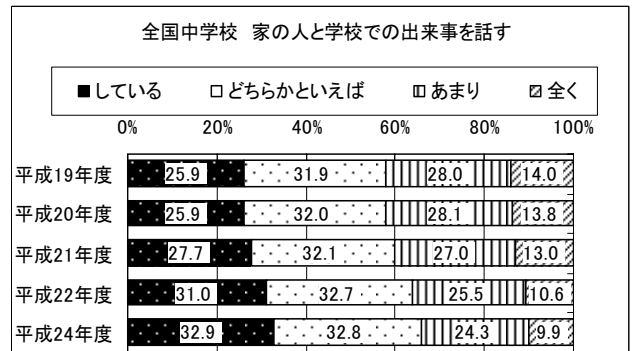
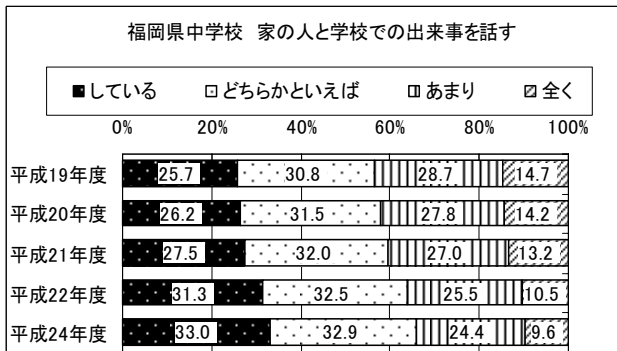
(20) 家の人と学校での出来事について話をしていますか

- 家の人と学校での出来事について話をすると回答している児童生徒の割合は、小学校、中学校とも5回を通じて増加している。
- 家の人と学校での出来事について話をすると回答している児童生徒の正答率が高い傾向が見られる。

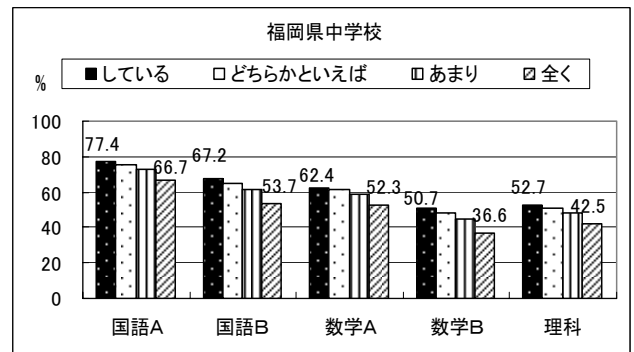
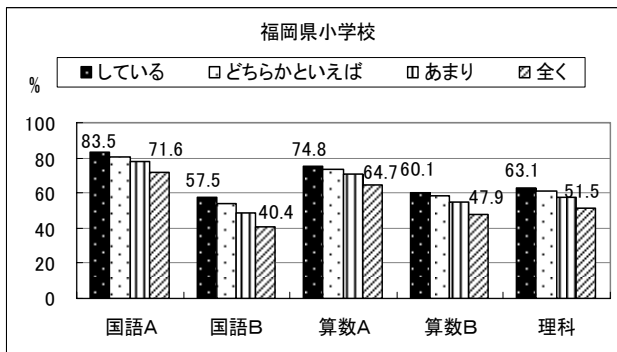
■ 小学校回答状況

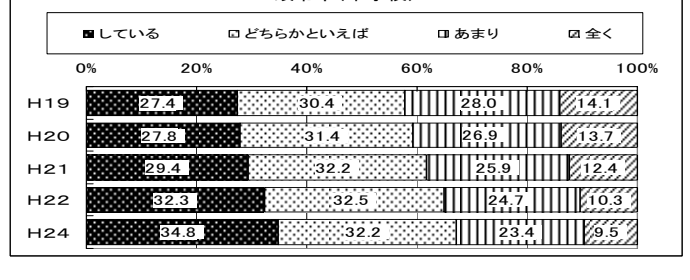
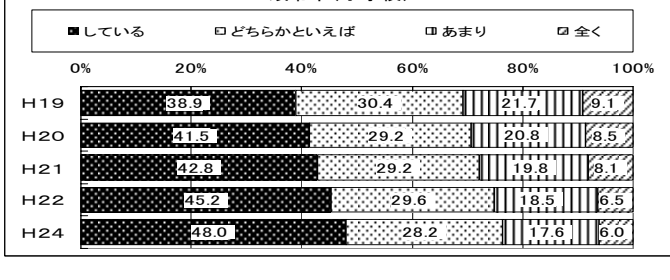
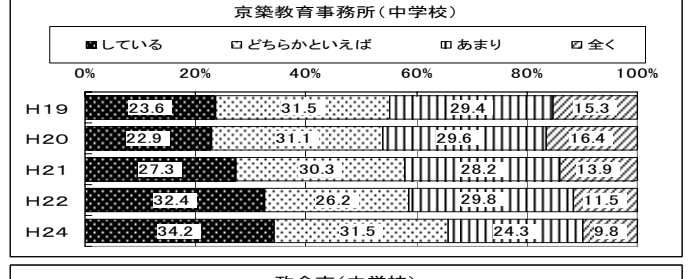
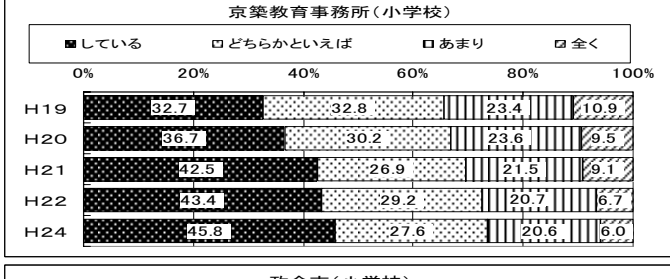
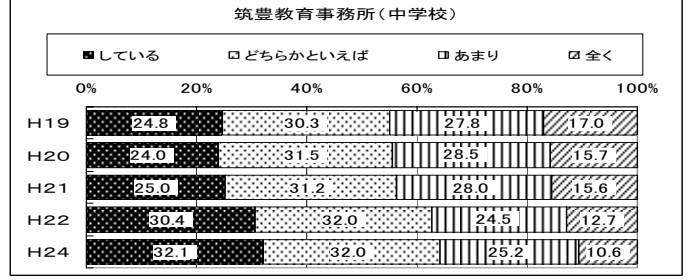
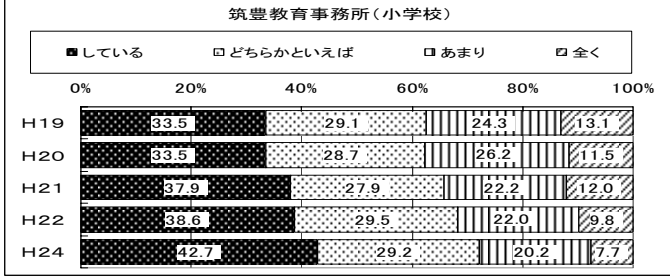
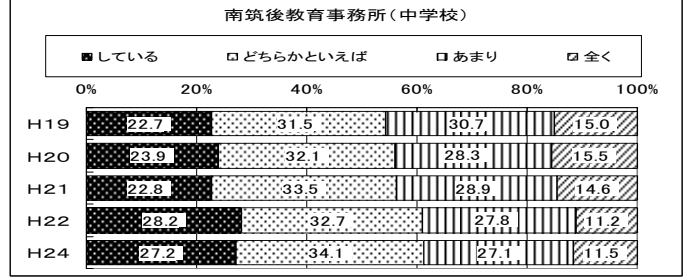
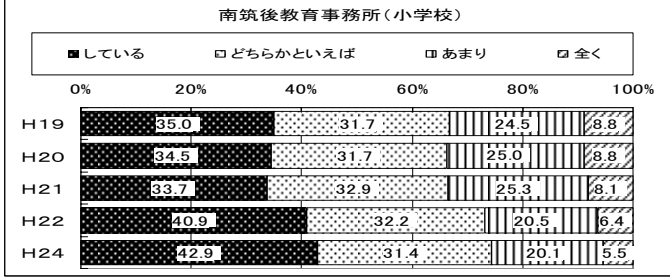
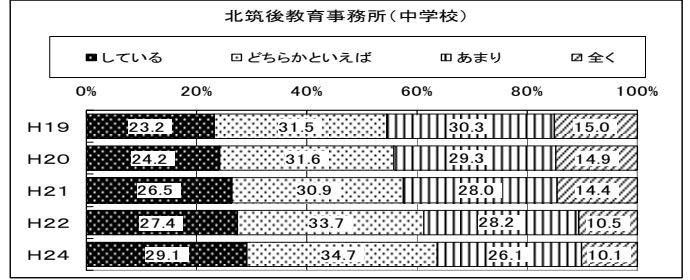
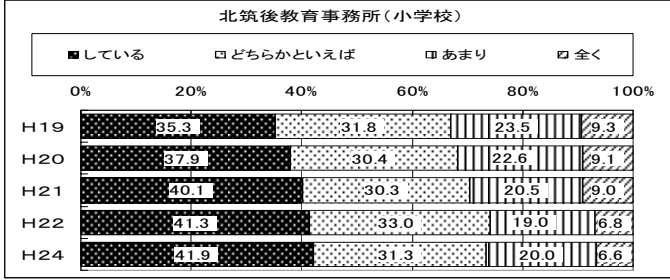
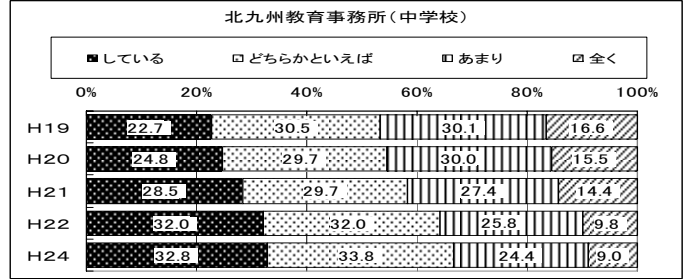
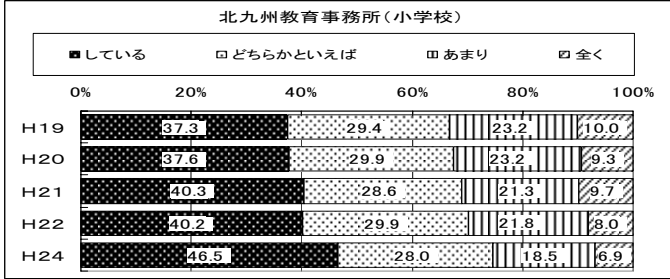
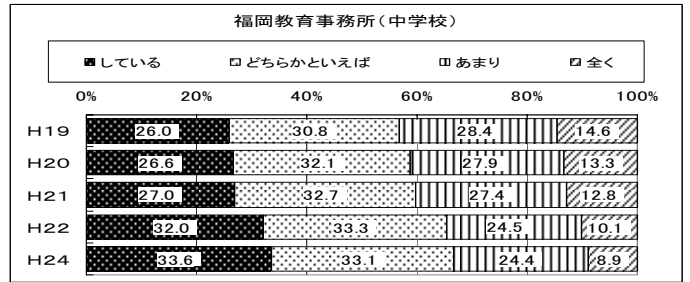
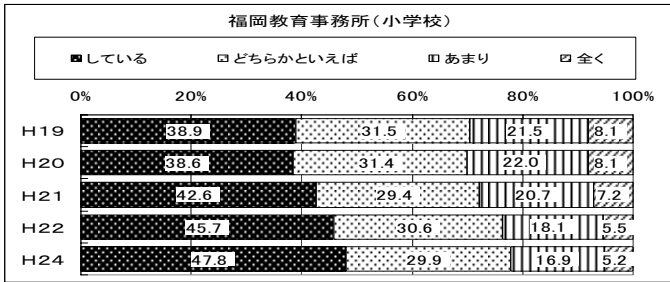


■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関





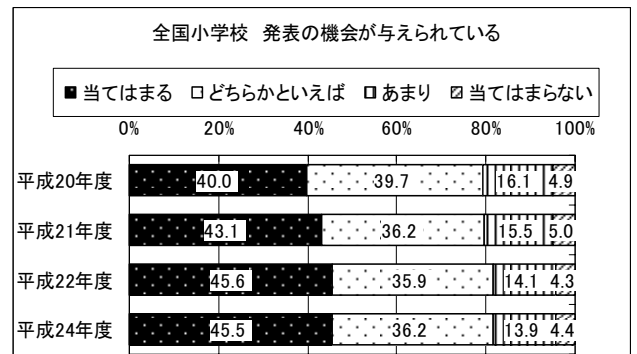
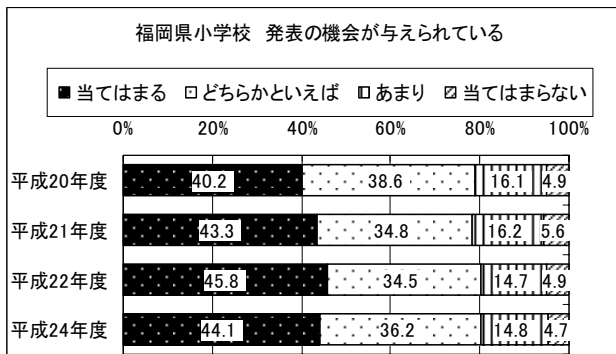
10 発表の機会

(41) 普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか

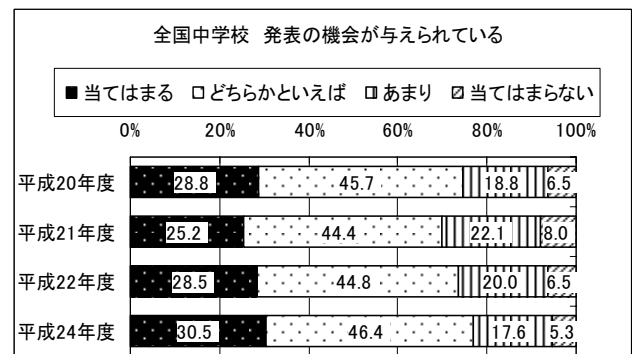
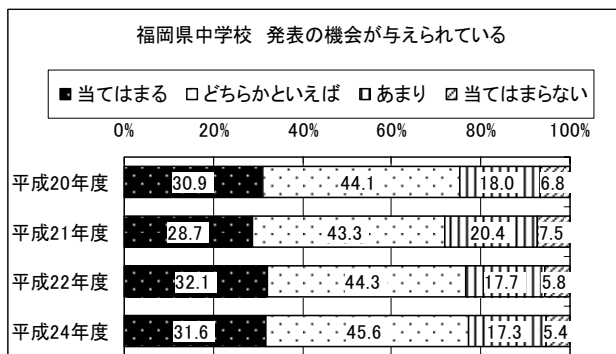
※平成20年度から児童生徒質問紙に加えられた質問

- 普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると回答している児童生徒の割合は、小学校、中学校とも平成22年度とほぼ同様である。
- 普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると回答している児童生徒の正答率が高い傾向が見られる。

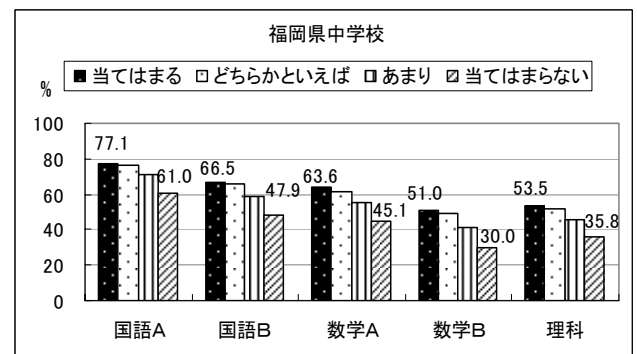
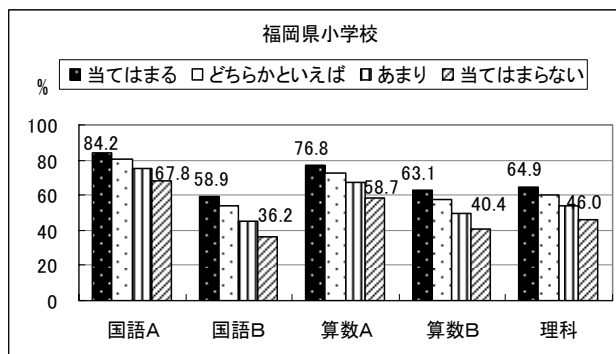
■ 小学校回答状況

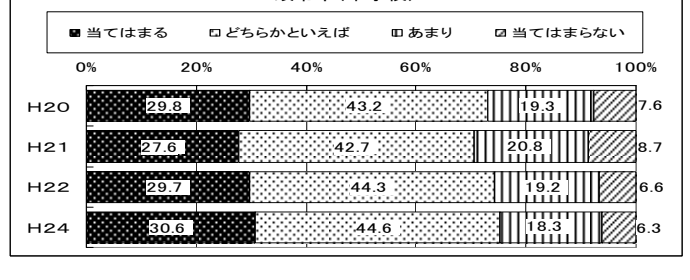
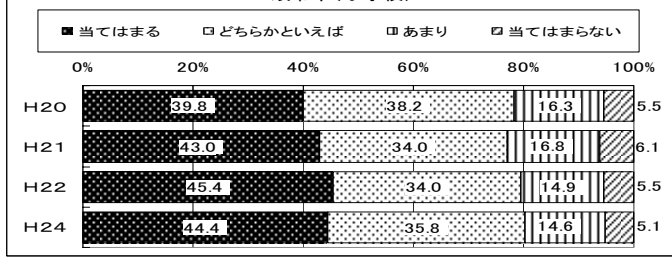
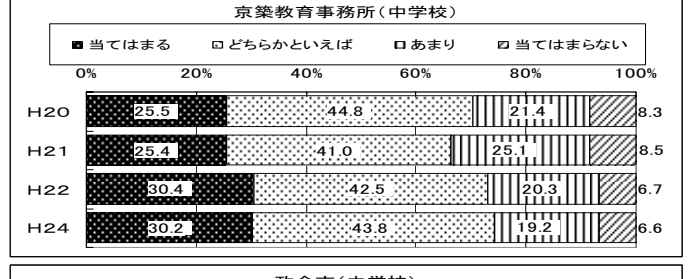
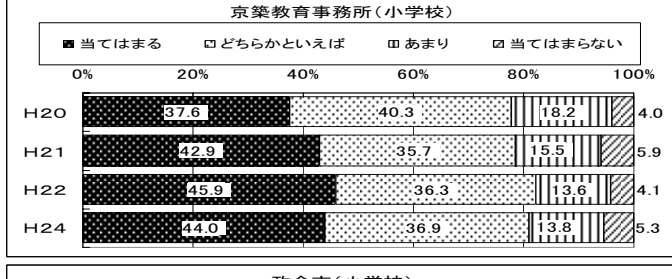
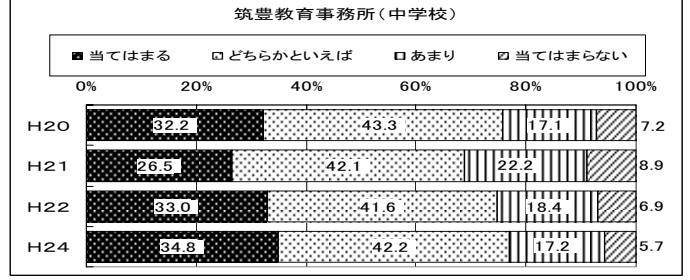
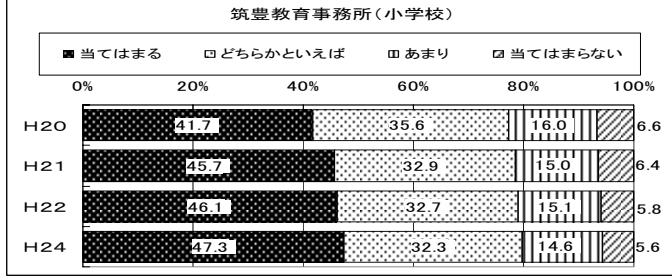
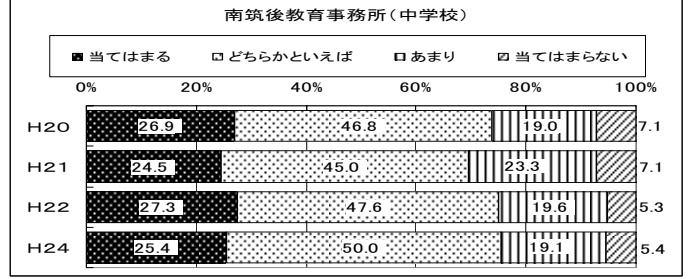
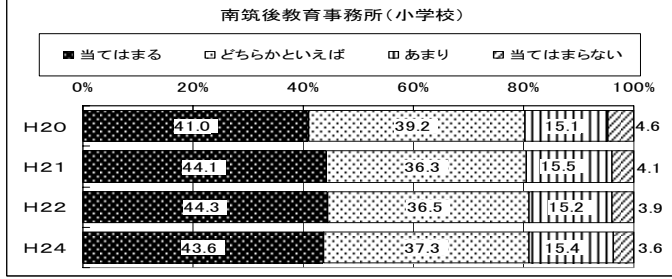
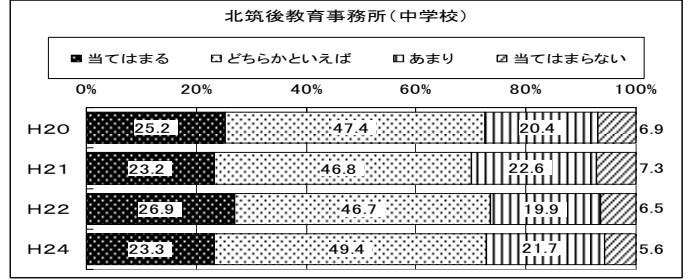
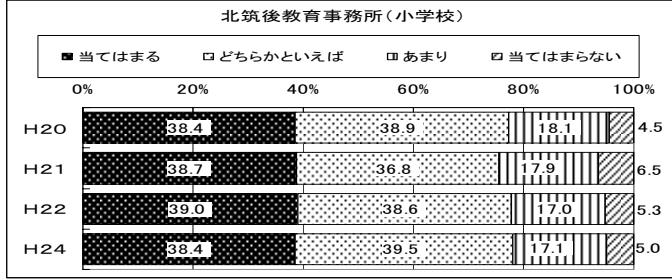
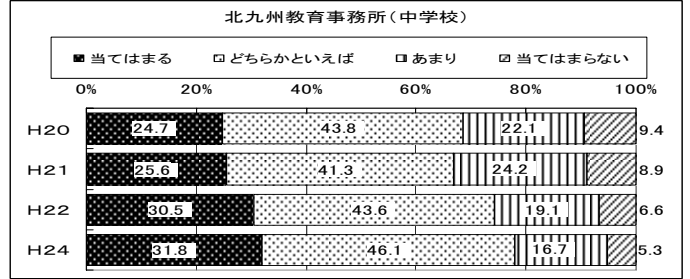
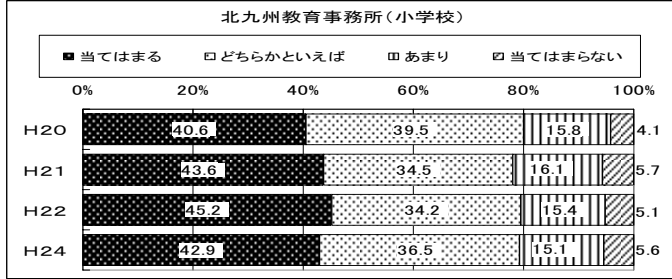
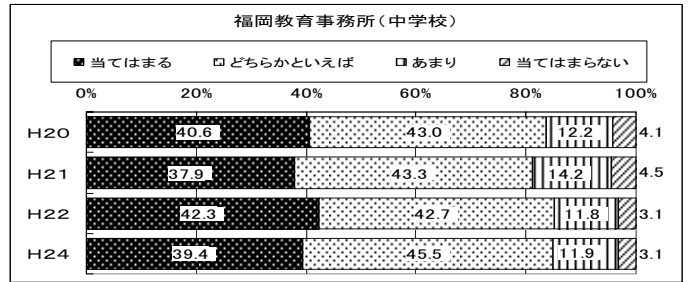
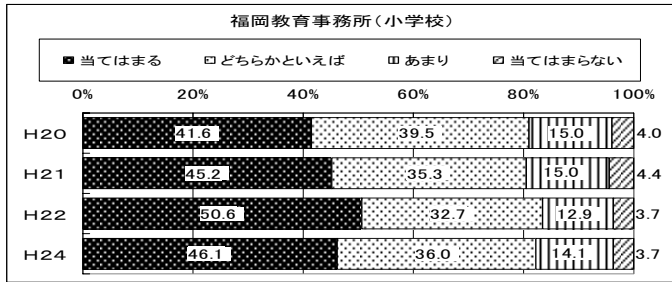


■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関



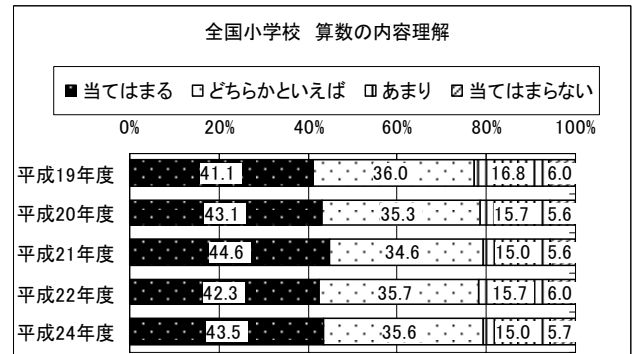
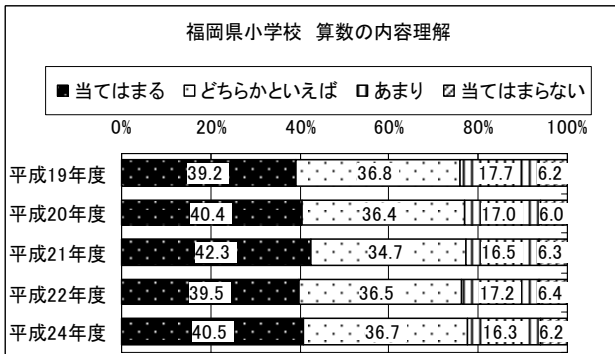


11 算数・数学の内容理解

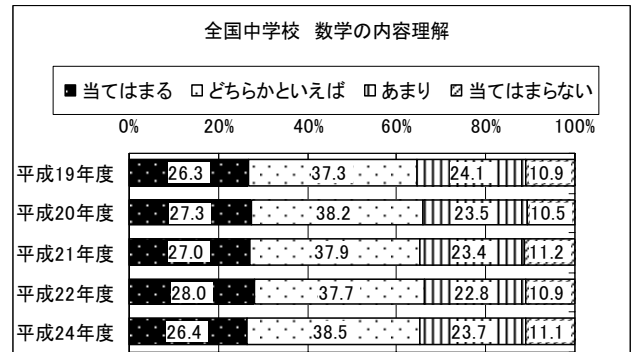
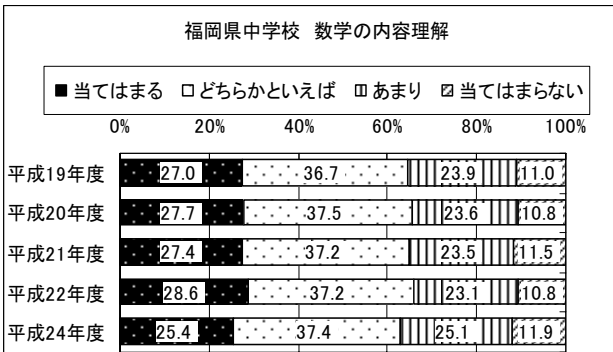
(58) 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか

- 算数・数学の授業内容がよく分かると回答している児童生徒の割合は、小学校では、平成22年度に比べてわずかに増加したが、中学校では減少した。
- 算数・数学の授業内容がよく分かると回答している児童生徒の正答率が高い傾向が見られる。

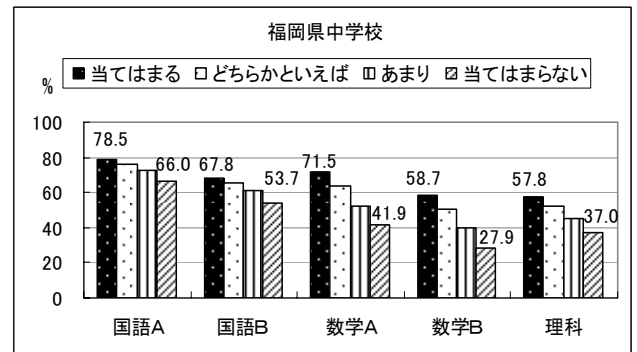
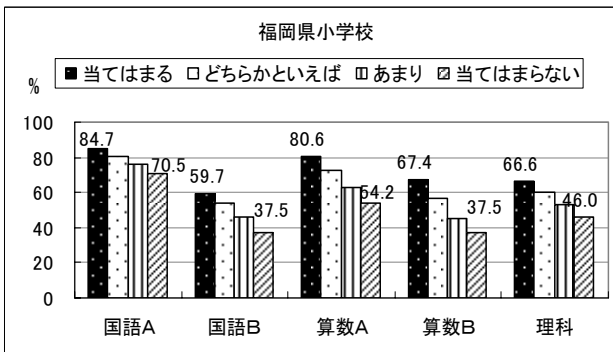
■ 小学校回答状況

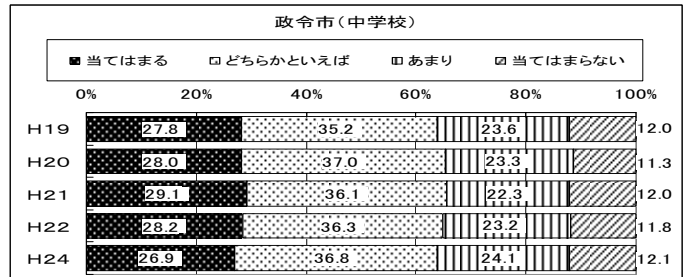
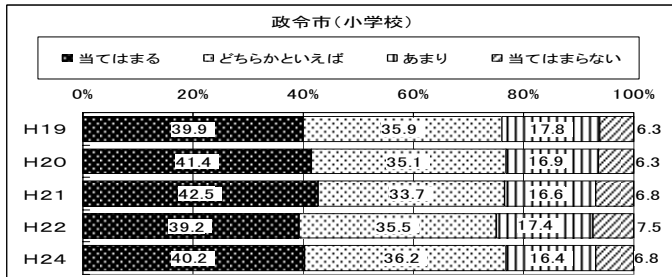
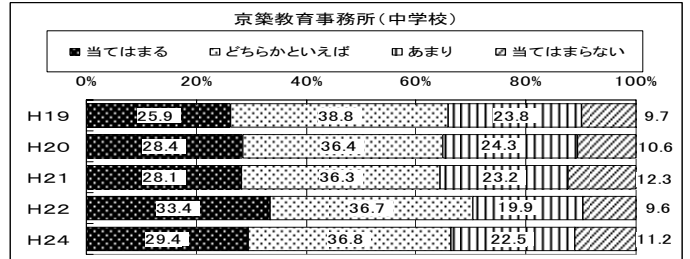
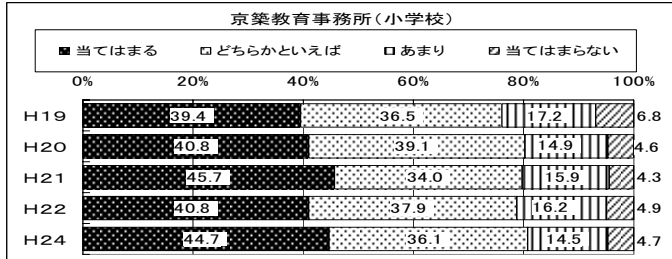
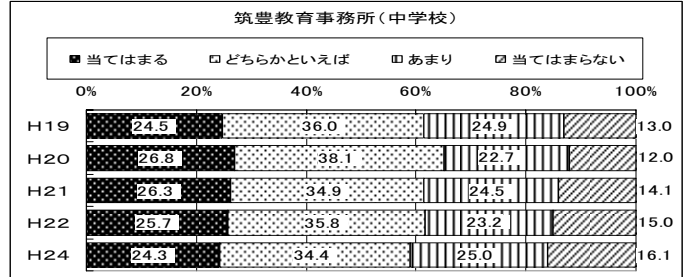
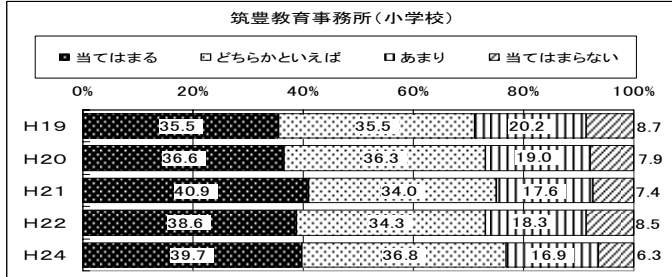
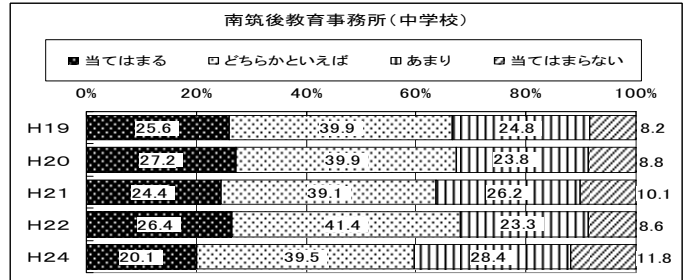
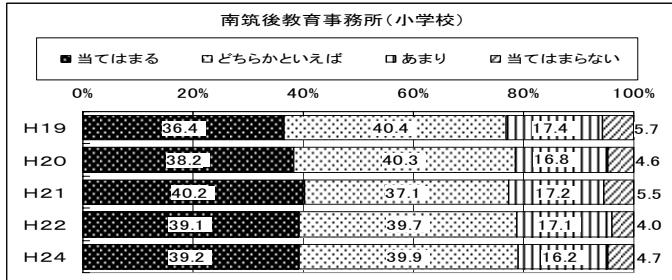
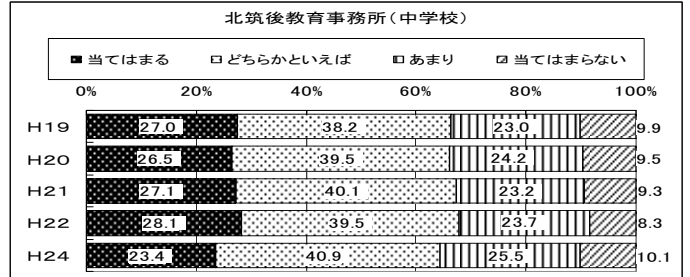
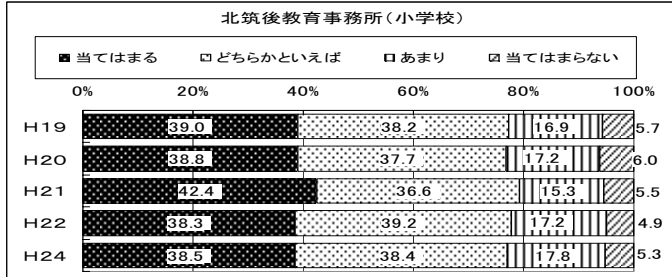
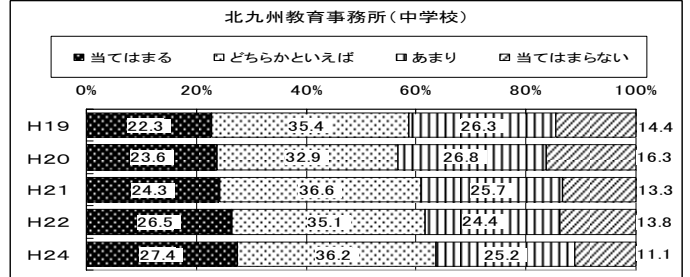
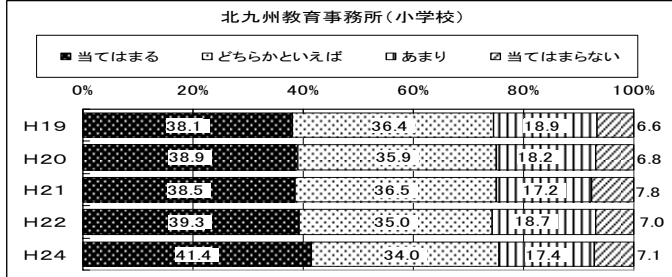
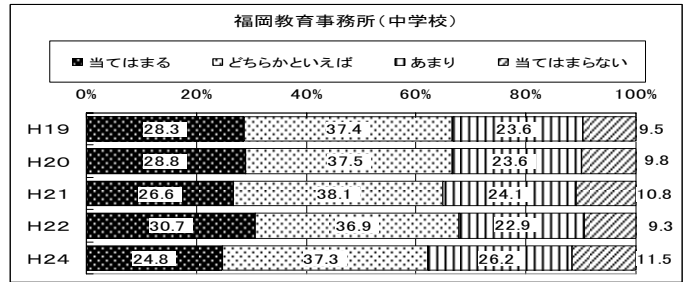
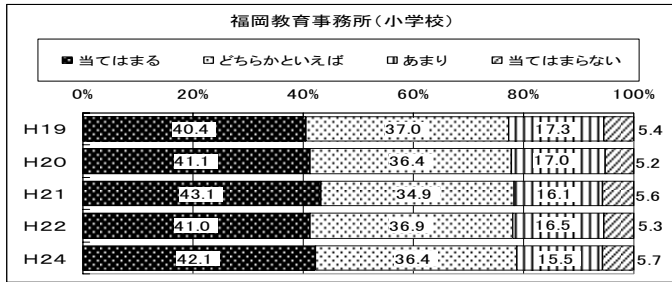


■ 中学校回答状況

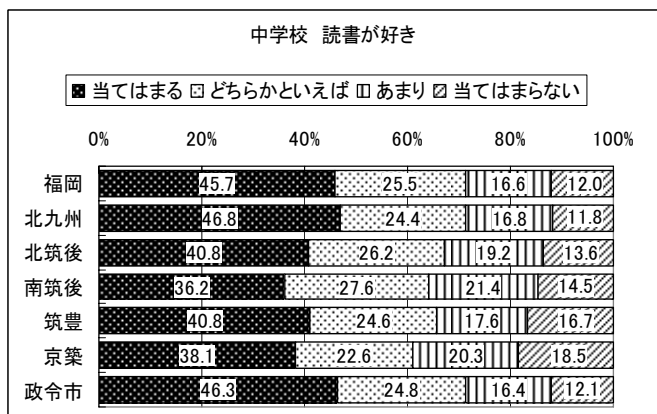
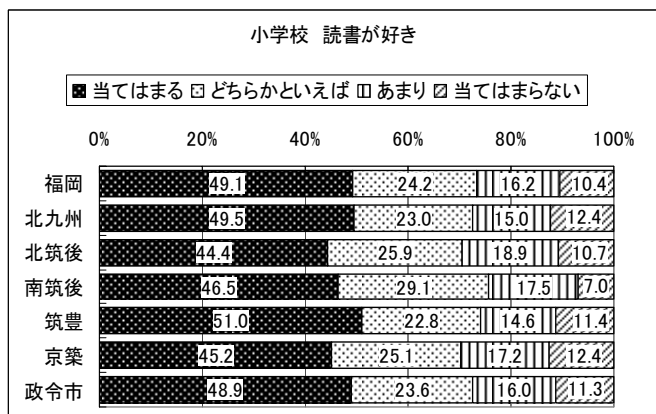
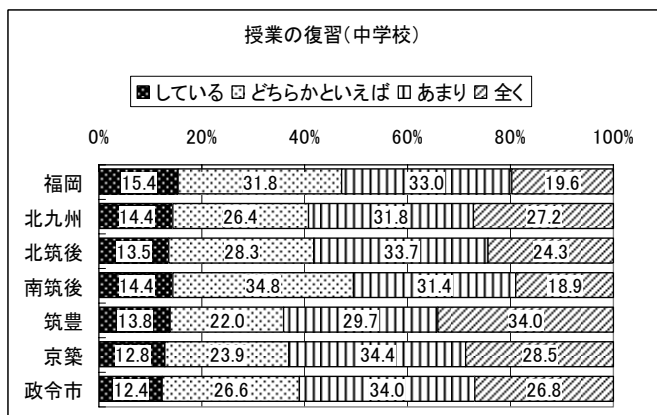
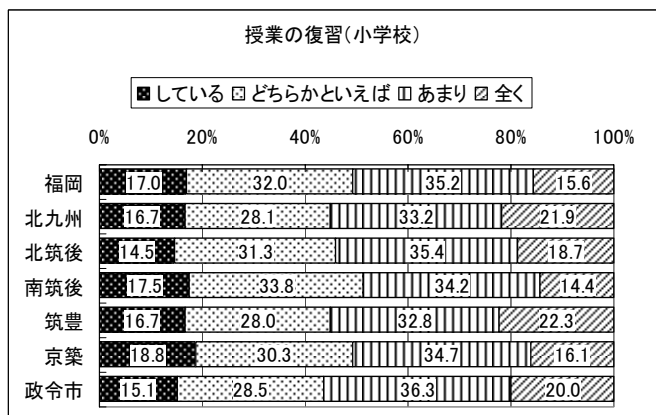
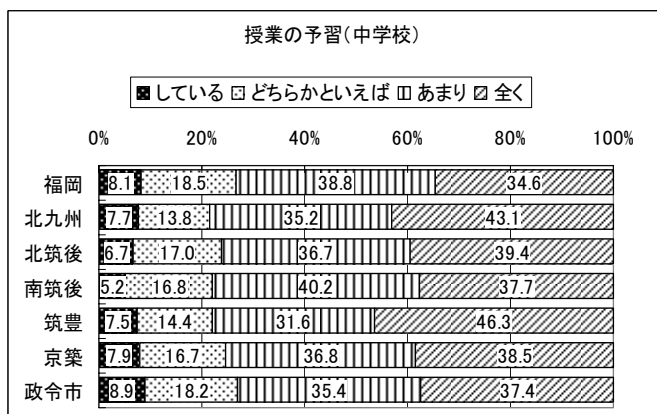
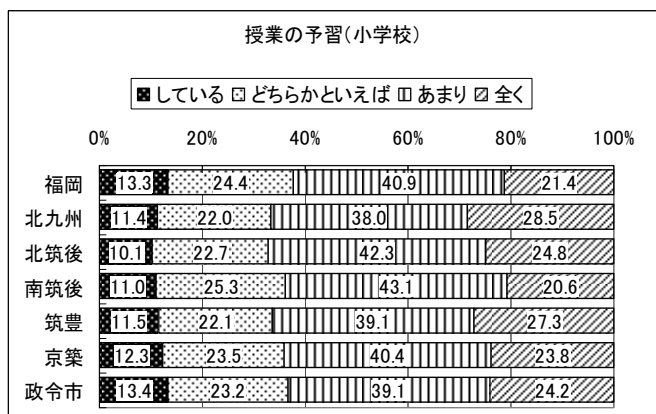
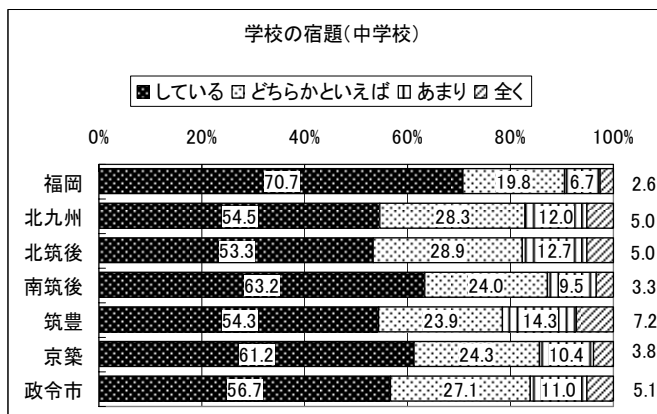
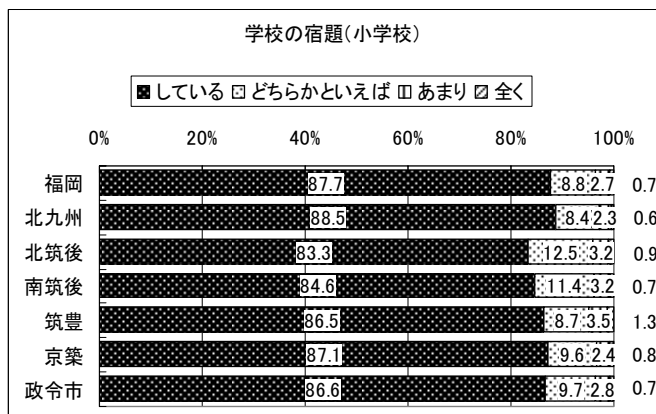


■ 教科の正答率との相関





■ その他、教育事務所・政令市別に特徴が見られた児童生徒質問紙の項目



V 学校質問紙に関する調査結果と分析

1 学校質問紙調査の目的

学校における指導内容、指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等を調査することにより、市町村教育委員会や学校の教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

2 学校質問紙の内容

- ・ 学校規模
- ・ 教職員の構成
- ・ 児童生徒の様態
- ・ 施設、設備
- ・ 個に応じた指導
- ・ 指導方法
- ・ 家庭との連携
- ・ 教員研修... 等

3 分析の目的と方法

(1) 目的

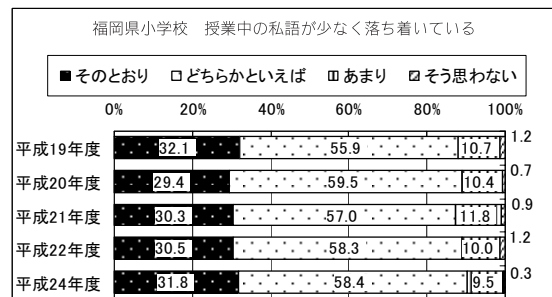
各教科の平均正答率と学校の指導体制や指導方法の相関を分析し、各学校における教育活動の充実・改善を図る。

(2) 方法

学校質問紙の回答状況の経年比較及び質問紙の回答と各教科の正答率との相関、教育事務所・政令市別の回答状況、記述式問題での正答数が多い学校と少ない学校の質問紙の回答状況の比較、学力の向上・低下が継続している学校の回答状況の変容等について、次のA～Cの分析を行う。

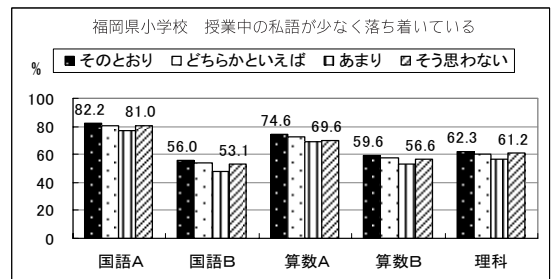
A 回答状況の経年比較

平成19年度から24年度（平成23年度は除く）の学校質問紙の同じ質問項目について、福岡県における回答の割合を比較する。



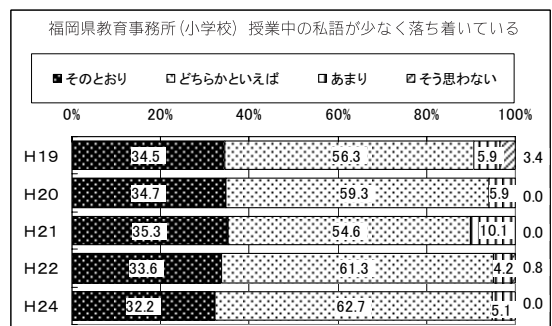
B 回答状況と教科の正答率との相関

学校質問紙の各選択肢に回答した学校の各教科区分の平均正答率を集計し、質問紙の解答と教科の正答率との相関を示す。



C 教育事務所・政令市別の回答状況

教育事務所・政令市ごとに平成19年度から24年度（平成23年度は除く）の回答状況を比較する。



4 資料を読み取る際の留意点

選択肢によって回答した学校が少ない場合には、極端な傾向を示す場合がある。また、質問紙に対する回答状況は、選択肢以外の回答や無回答を除外しているため、合計が100%にならない場合がある。

5 分析に使用する学校質問紙の質問項目について

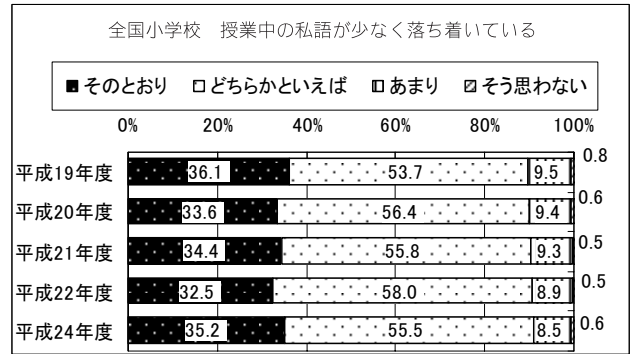
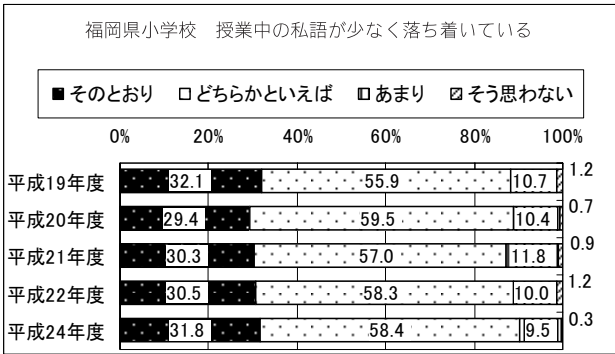
平成19～24年度の分析に使用した項目及び特徴的な傾向が見られる項目について分析する。

1 学習態度

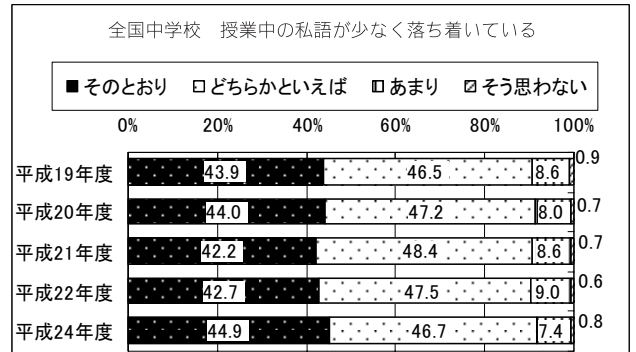
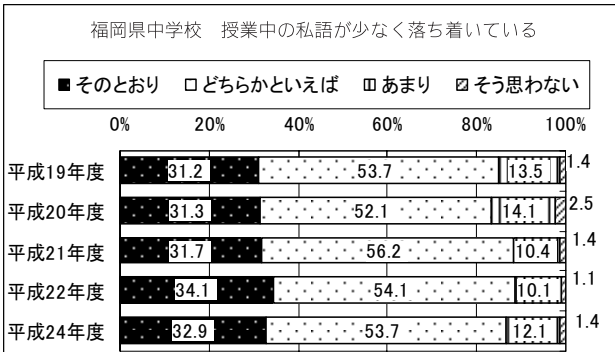
(11) 授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

- 授業中の私語が少なく落ち着いていると回答している学校の割合は、小学校では平成22年度に比べてわずかに増加している。また、中学校ではわずかに減少している。
- 授業中の私語が少なく落ち着いていると回答している中学校の正答率が高い傾向が見られるが、小学校の正答率では必ずしも高い傾向とはいえない。

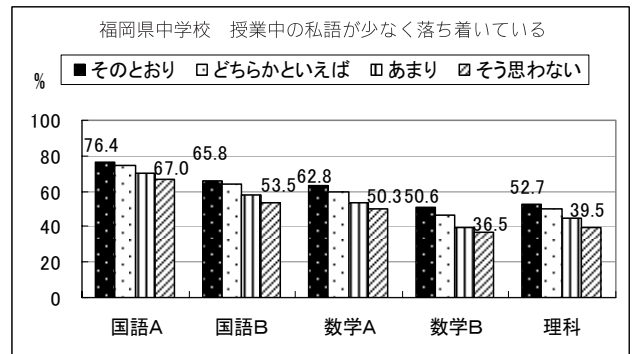
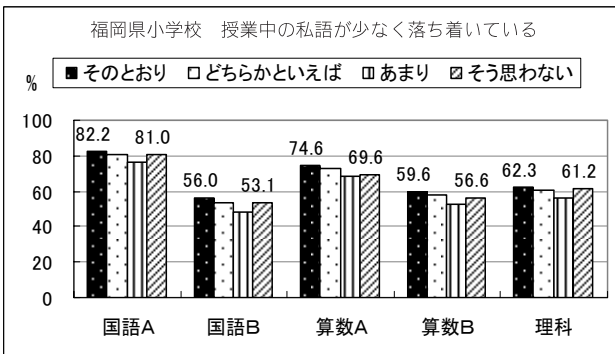
■ 小学校回答状況

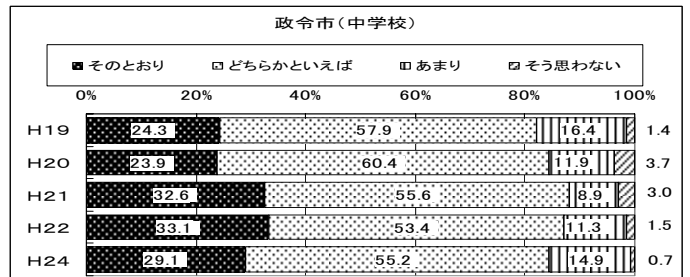
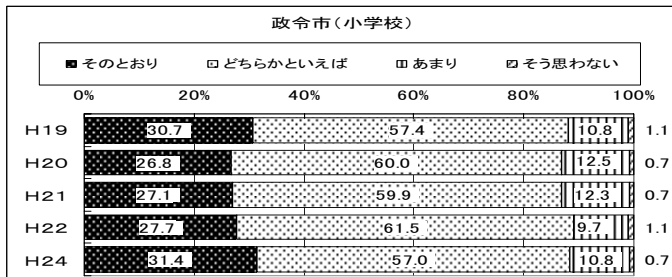
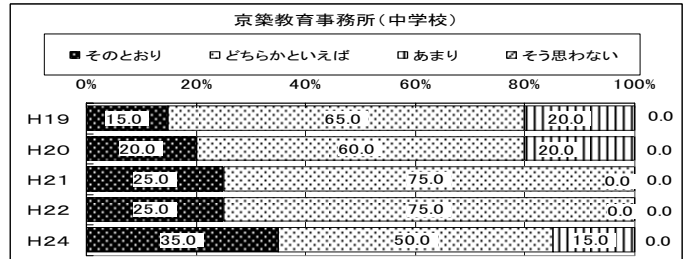
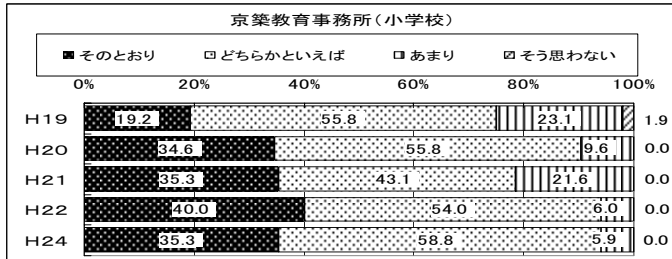
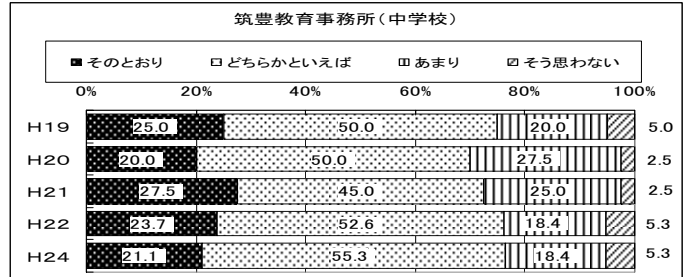
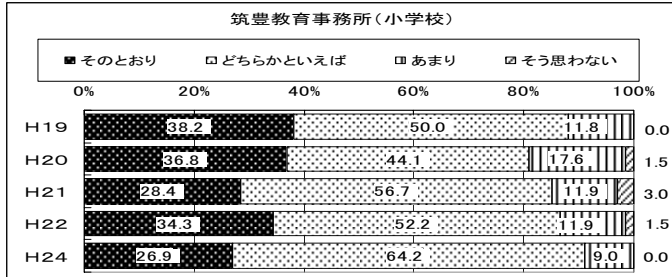
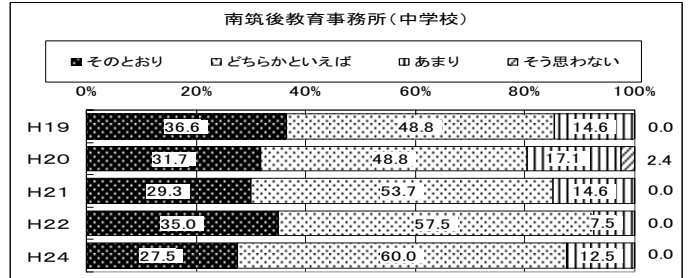
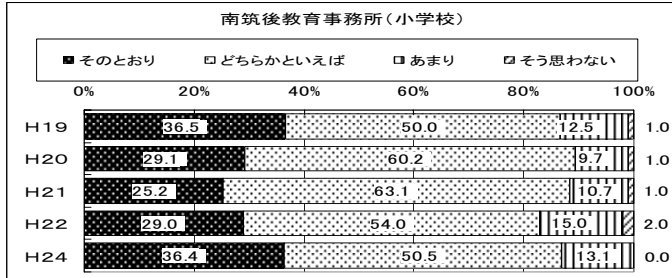
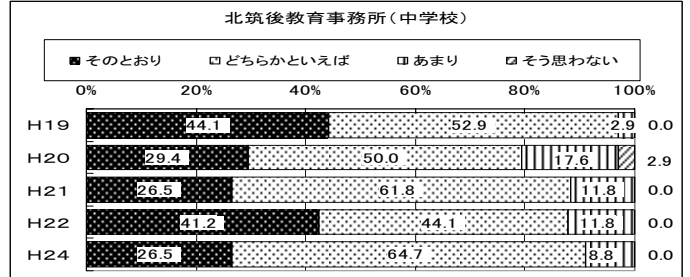
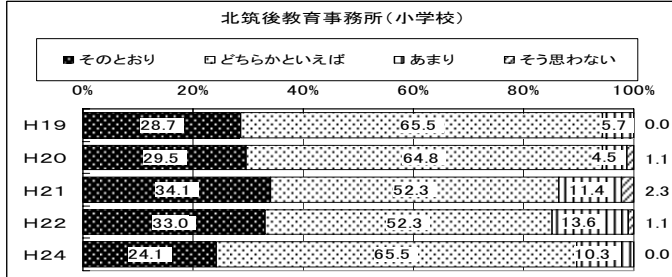
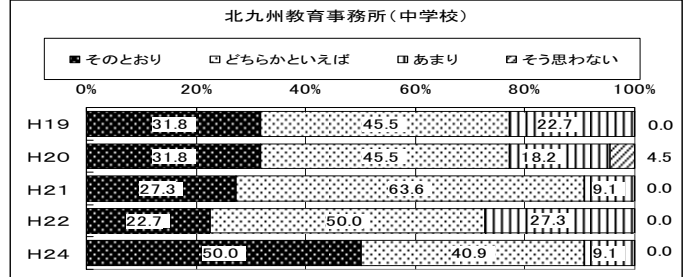
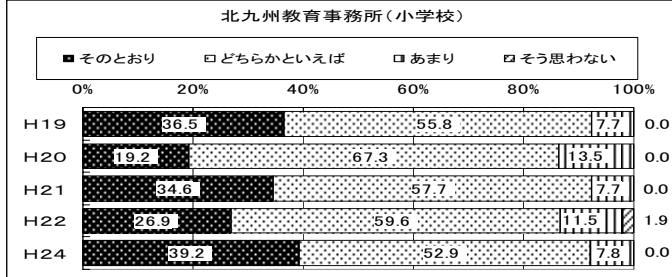
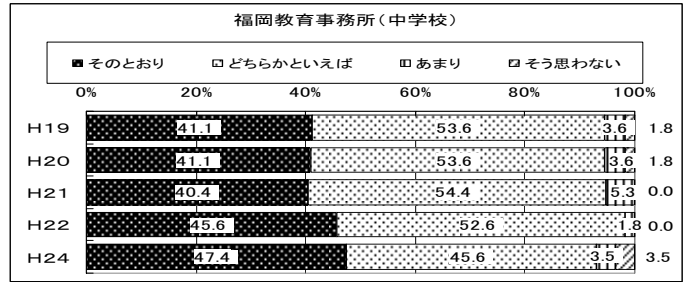
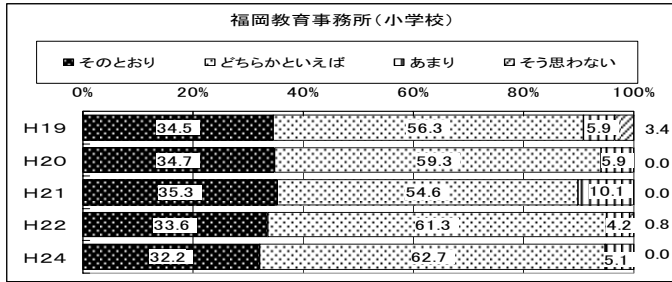


■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関





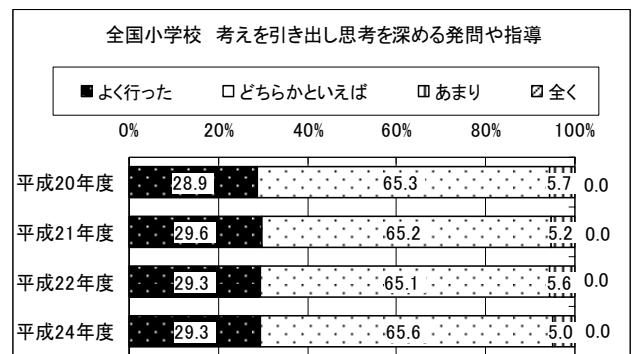
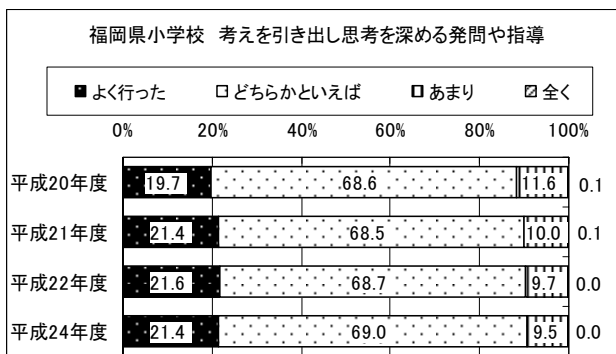
2 指導方法

(22) 児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしていますか

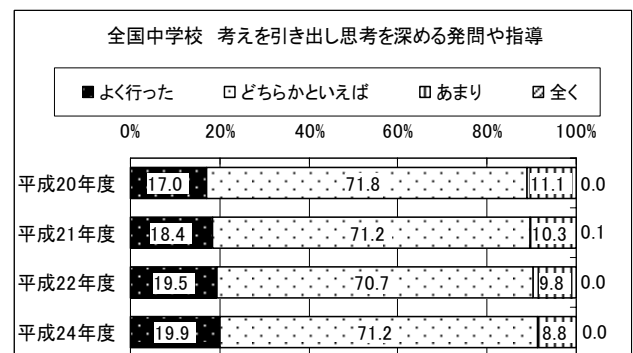
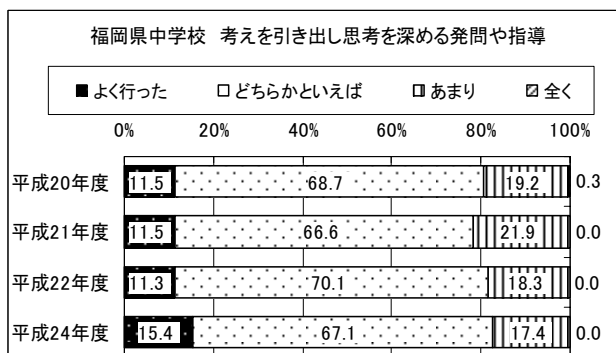
※平成20年度から学校質問紙に加えられた質問

- 児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をよく行っていると回答した学校の割合は、小学校では平成22年度に比べてわずかに減少している。
- 児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を行っていると回答した学校の正答率が高い傾向が見られる。

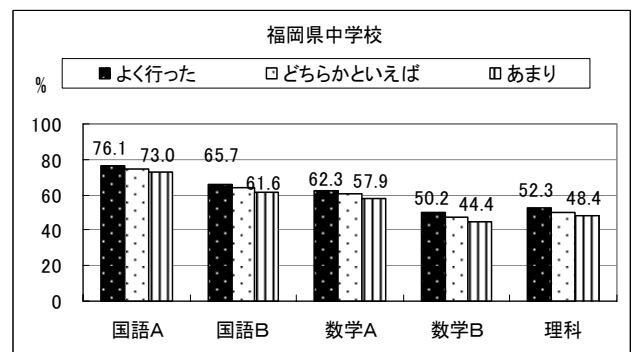
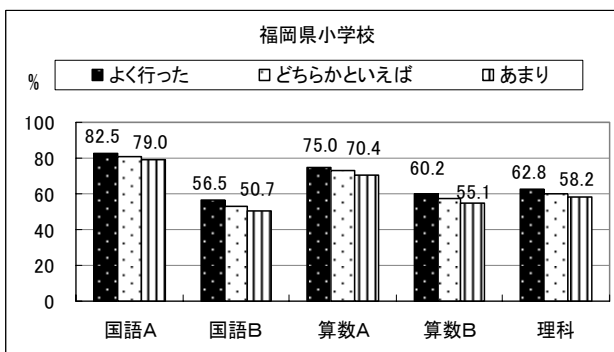
■ 小学校回答状況

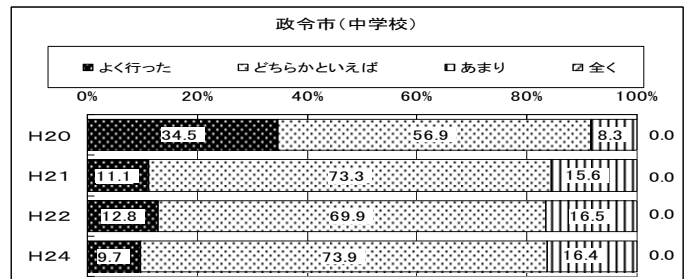
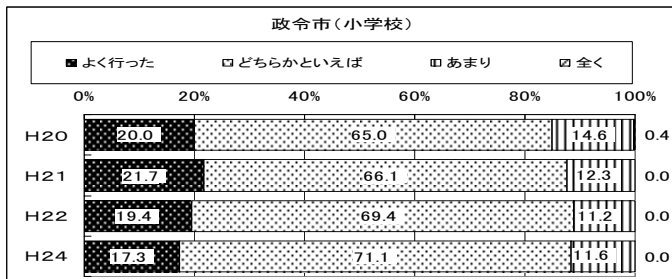
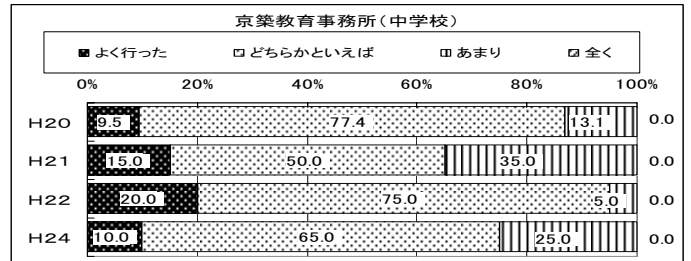
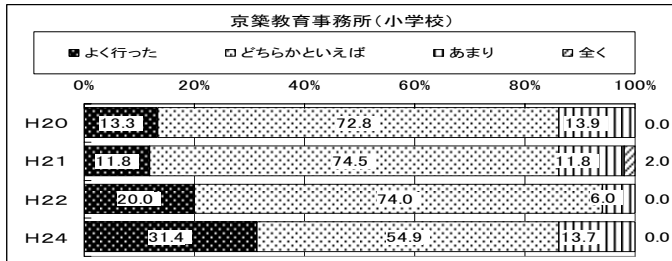
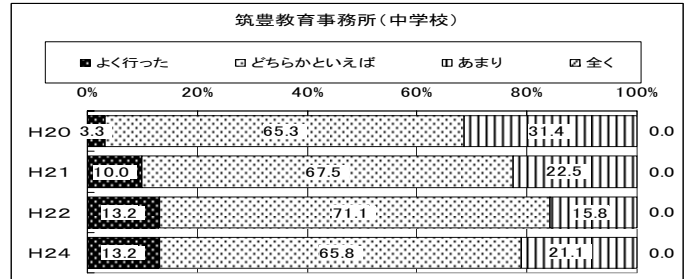
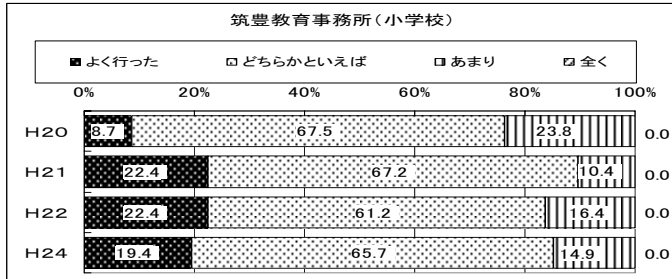
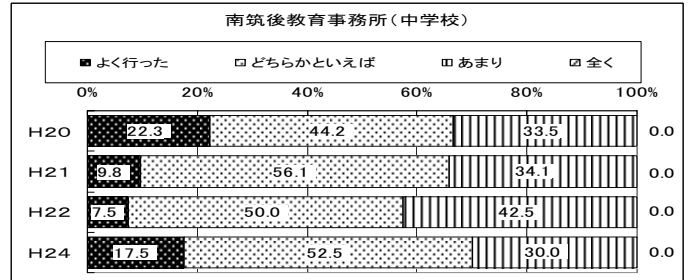
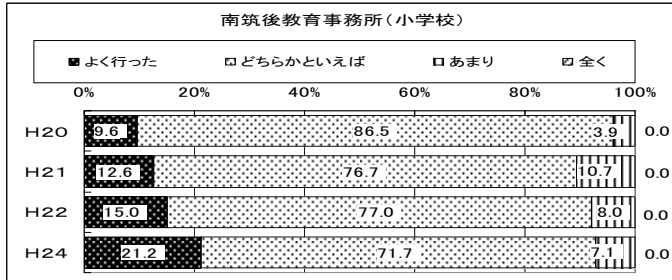
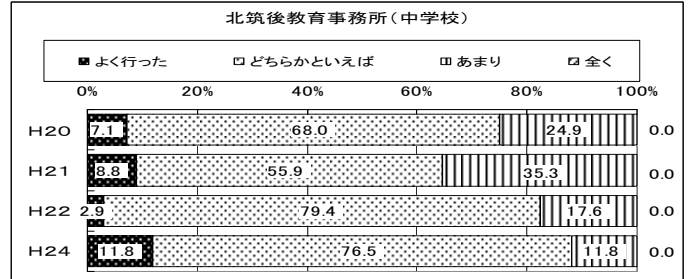
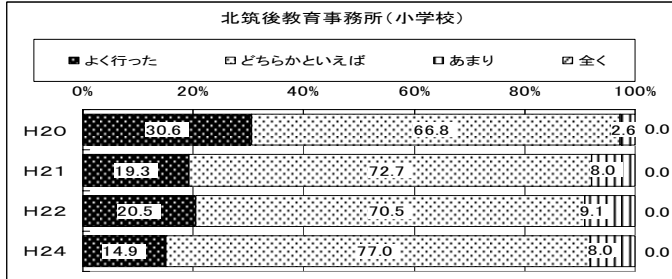
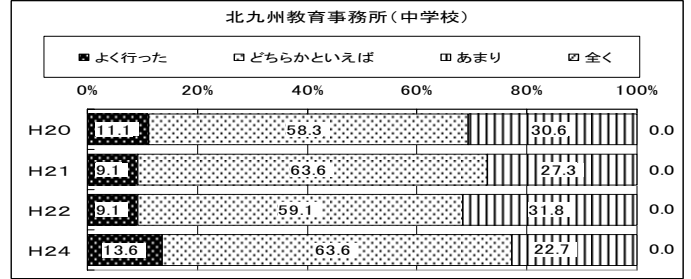
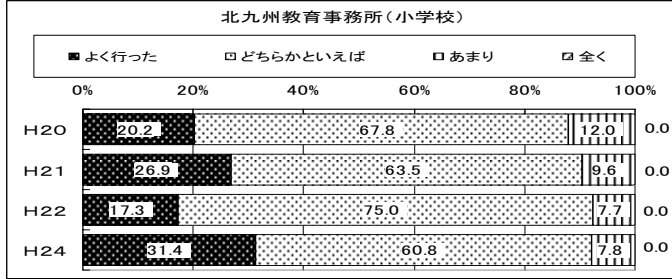
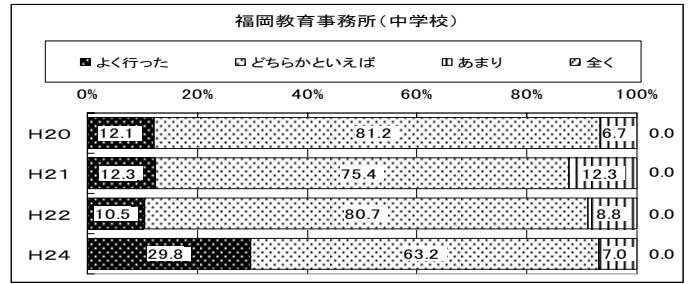
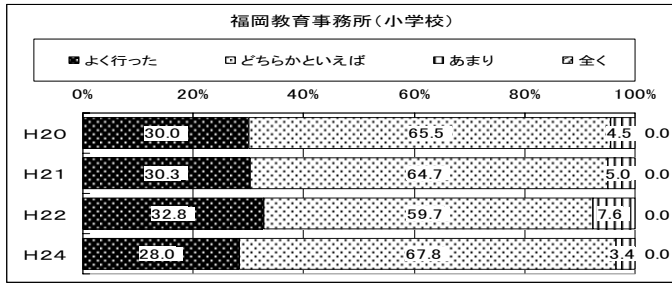


■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関





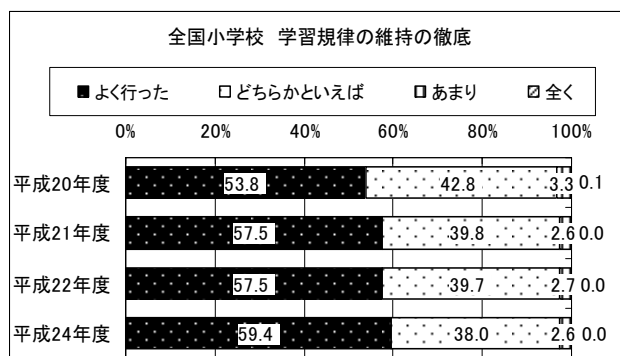
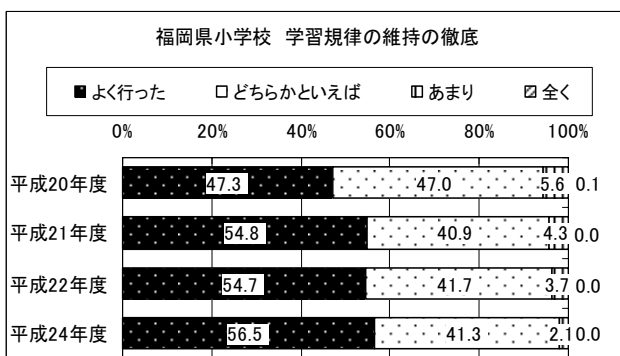
3 学習規律の指導

(25) 学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞くなど）の維持を徹底していますか

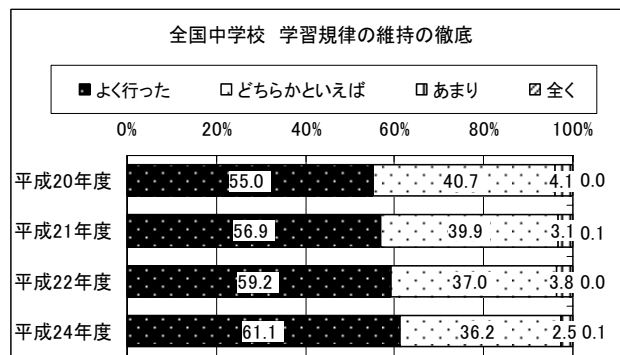
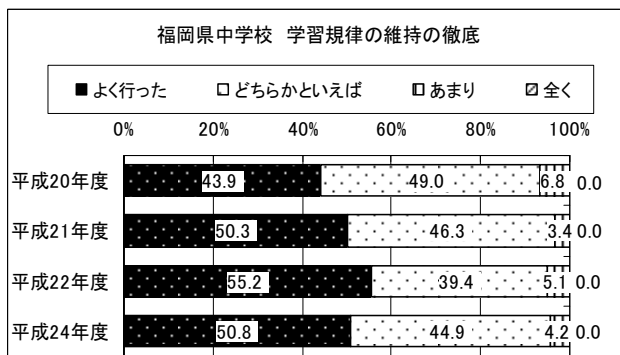
※平成20年度から学校質問紙に加えられた質問

- 学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞くなど）の維持を徹底していると回答した学校の割合は、小学校、中学校とも4回を通じて増加する傾向にある。
- 学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞くなど）の維持を徹底していると回答した学校の正答率が高い傾向が見られる。

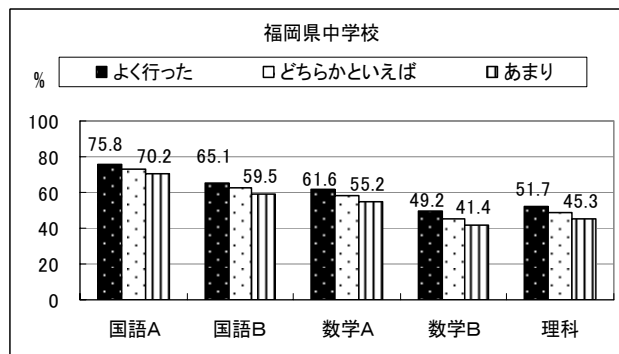
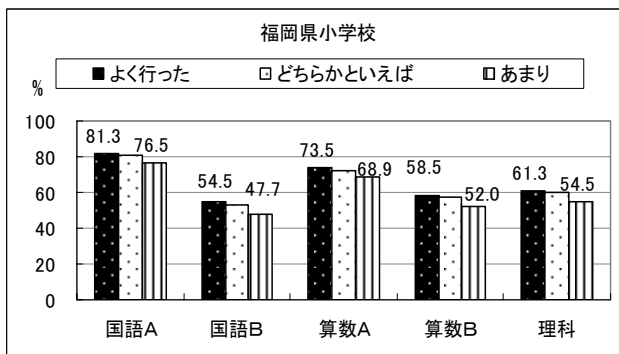
■ 小学校回答状況

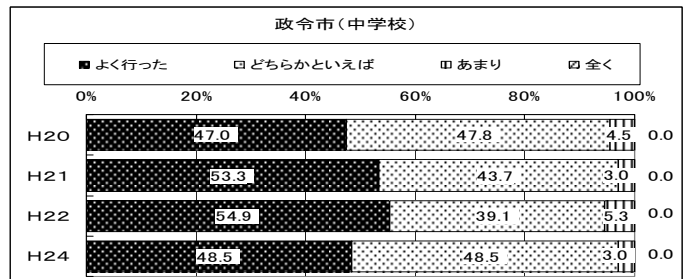
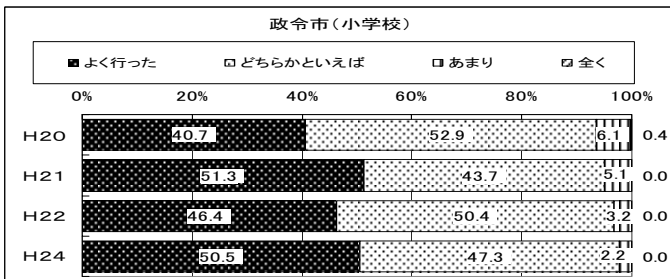
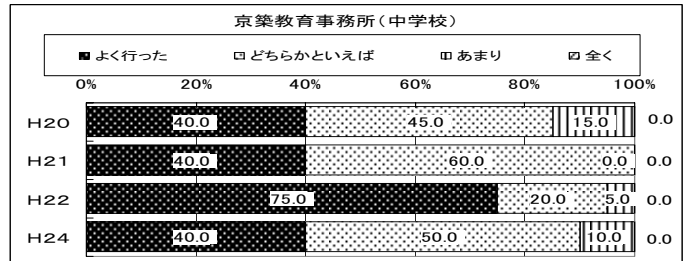
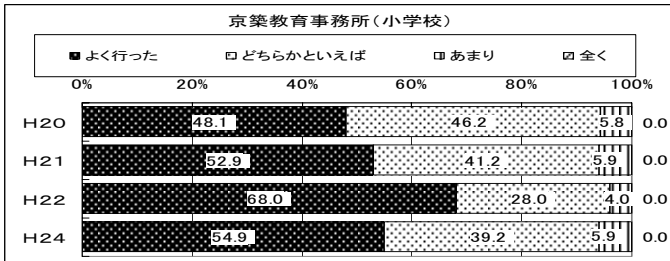
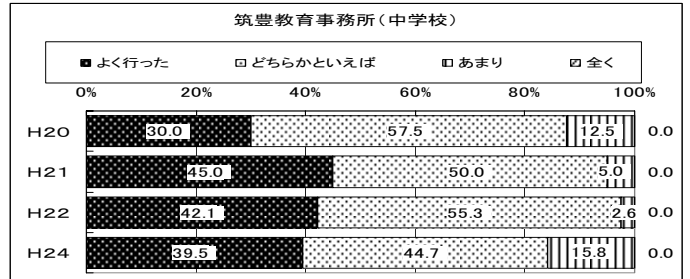
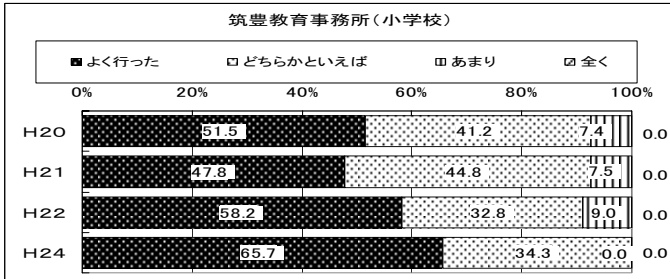
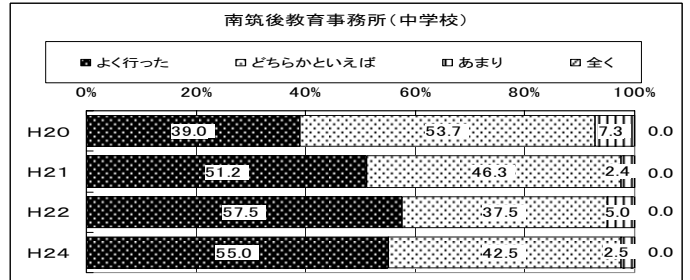
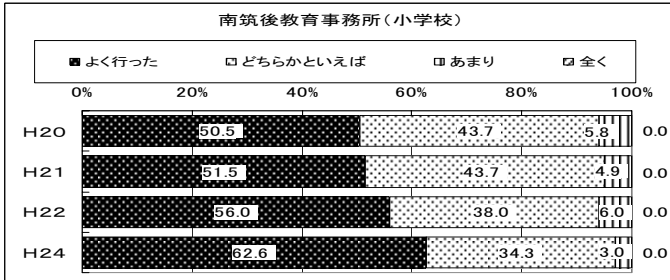
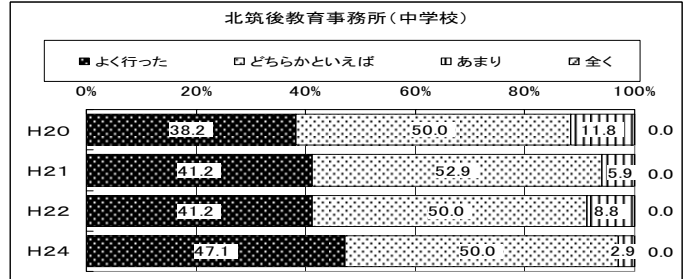
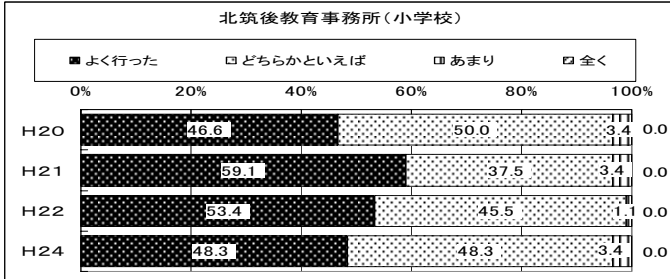
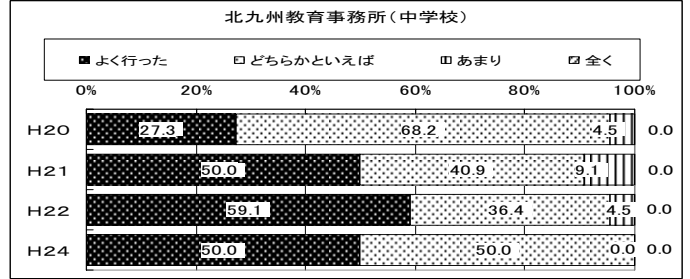
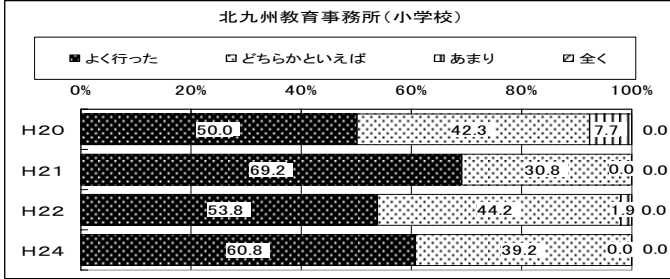
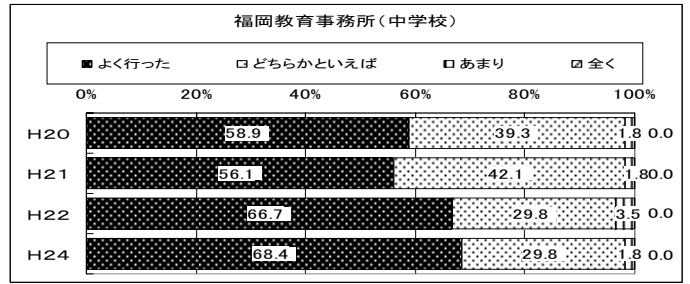
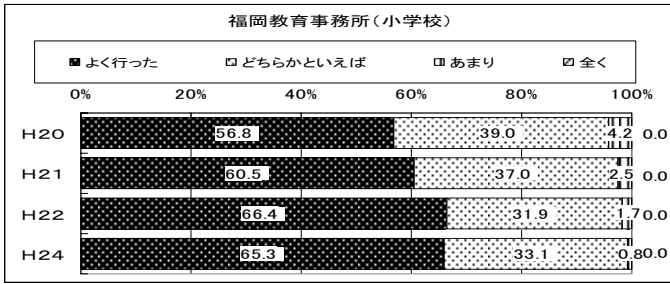


■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関





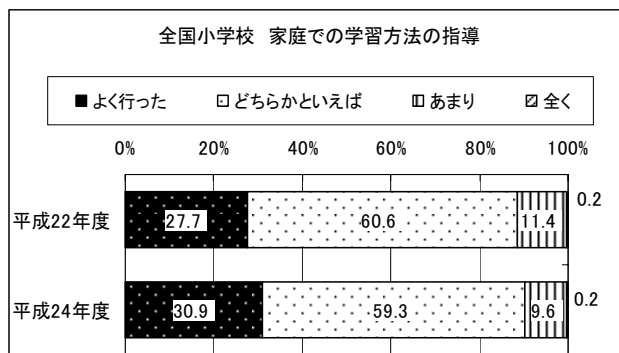
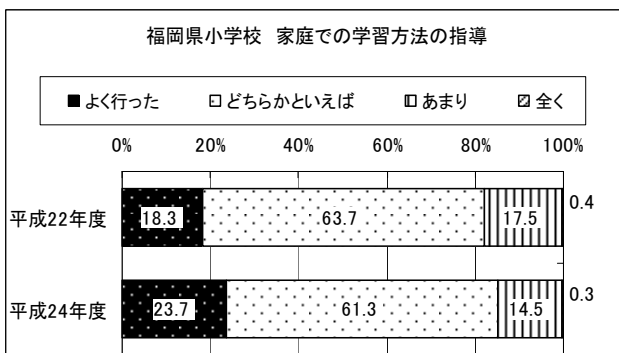
4 家庭での学習方法の指導

(小 85・中 82) 家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか

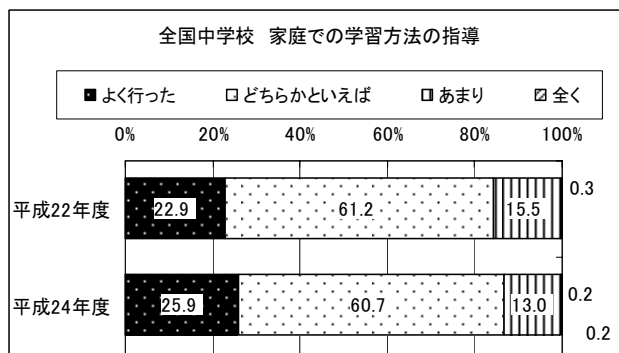
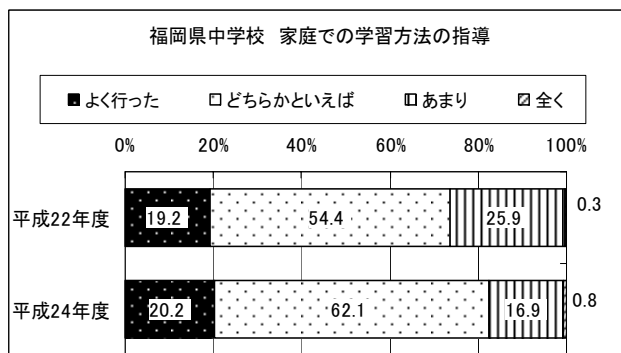
※平成22年度から学校質問紙に加えられた質問

- 家庭での学習方法等について具体例を挙げながら教えたと回答した学校の割合は、小学校、中学校とも2回を通じて増加している。
- 家庭での学習方法等について具体例を挙げながら教えたと回答した小学校、中学校の正答率が必ずしも高い傾向とはいえない。

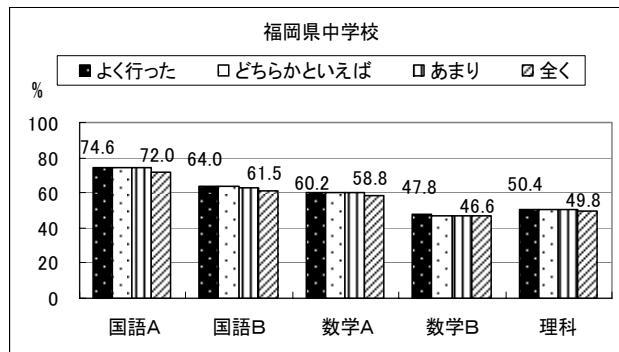
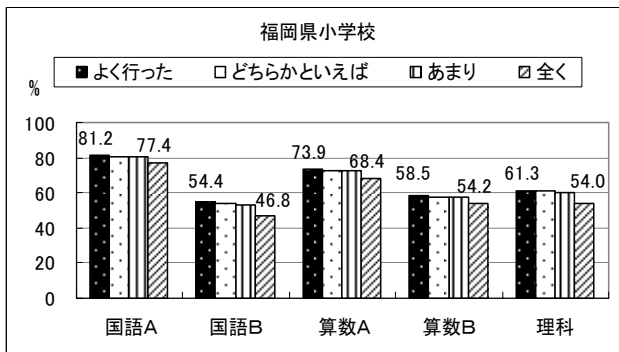
■ 小学校回答状況

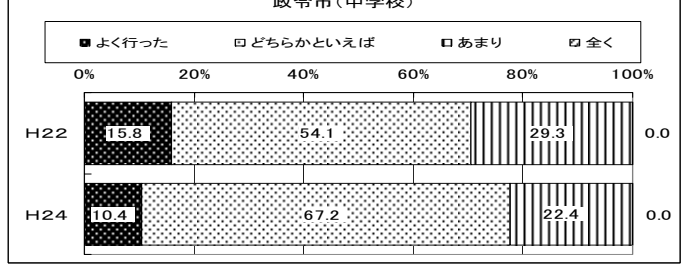
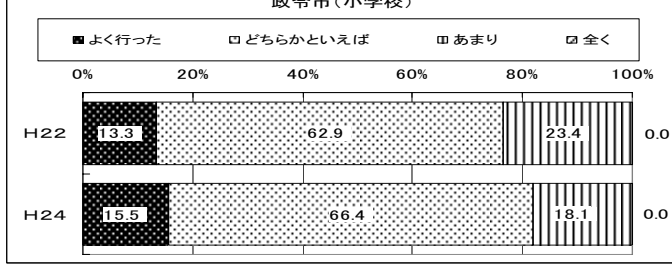
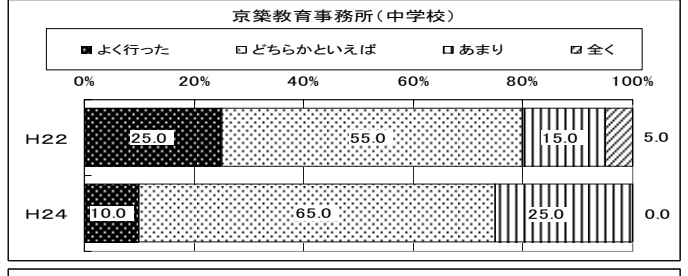
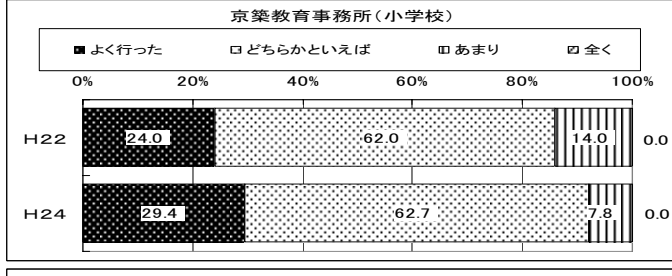
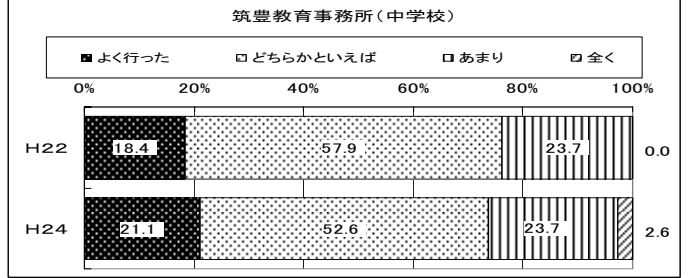
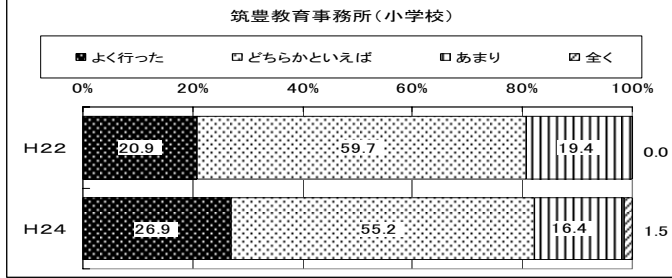
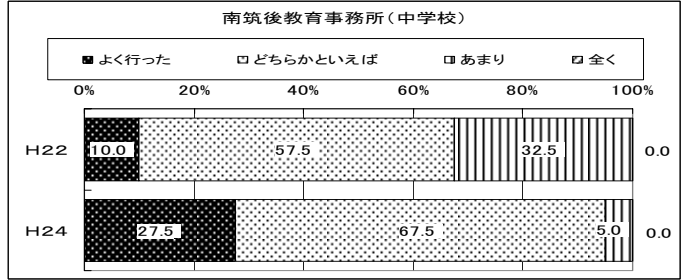
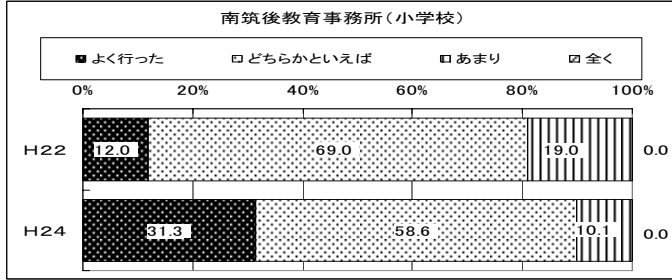
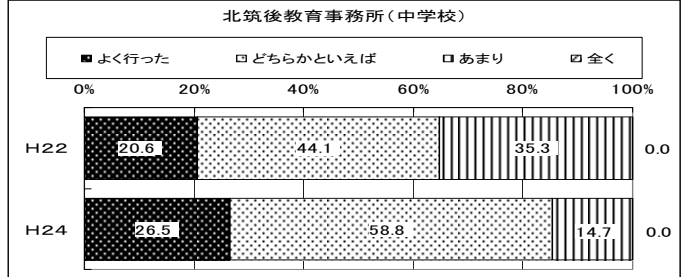
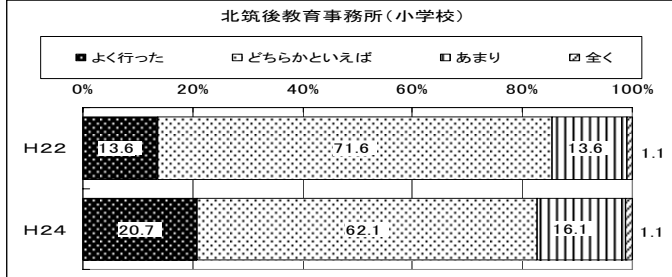
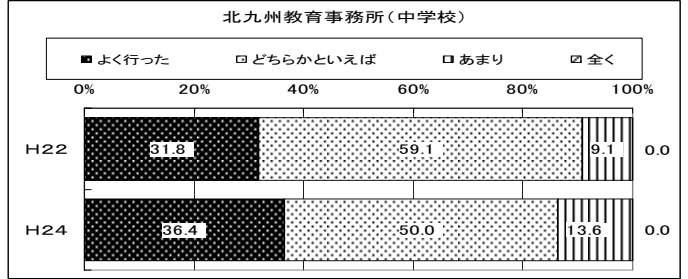
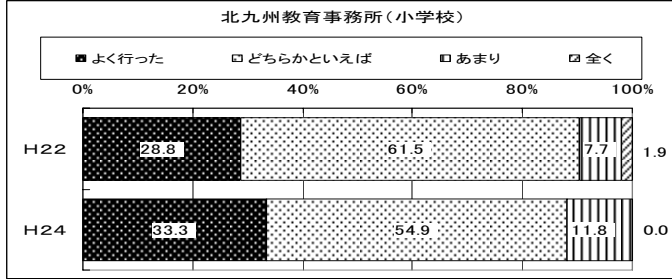
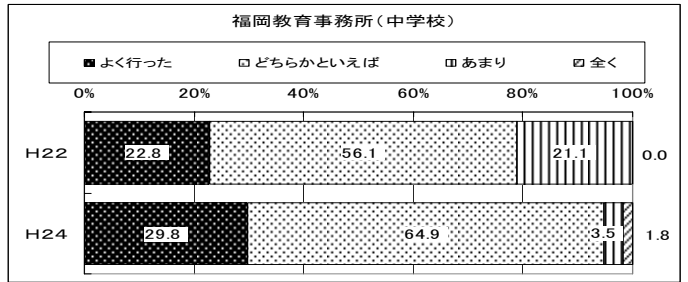
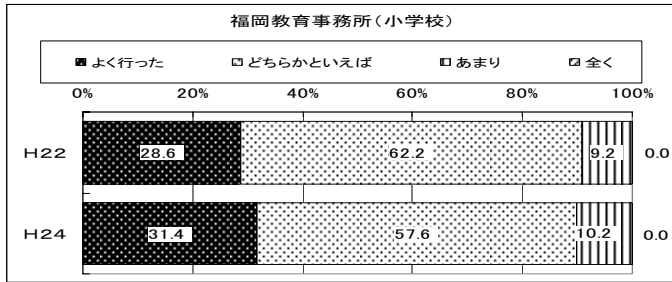


■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関



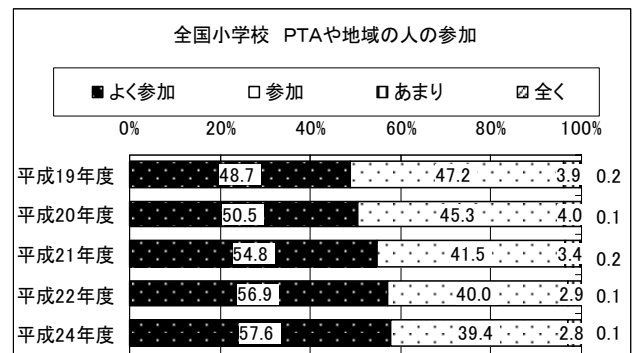
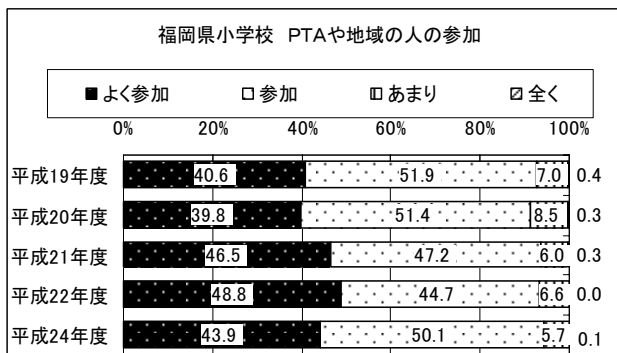


5 P T A や地域との連携

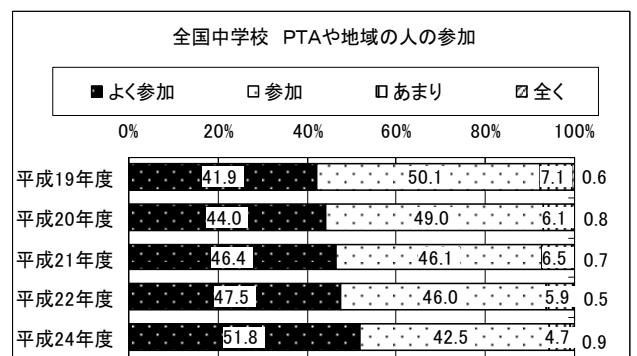
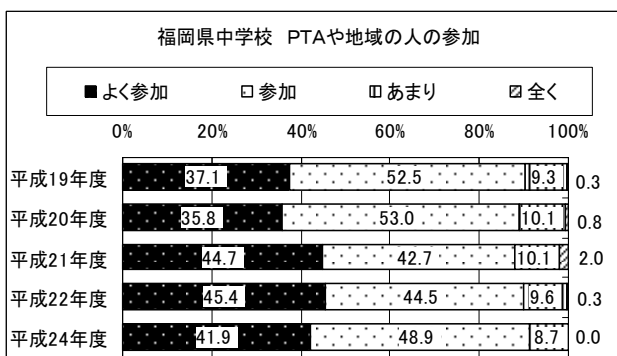
(小73・中71) P T A や地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか

- P T A や地域の人が学校の諸活動にボランティアとしてよく参加してくれると回答した学校の割合は、小学校、中学校とも平成22年度と比べて減少した。
- P T A や地域の人が学校の諸活動にボランティアとしてよく参加してくれると回答した小学校、中学校の正答率が必ずしも高い傾向とはいえない。

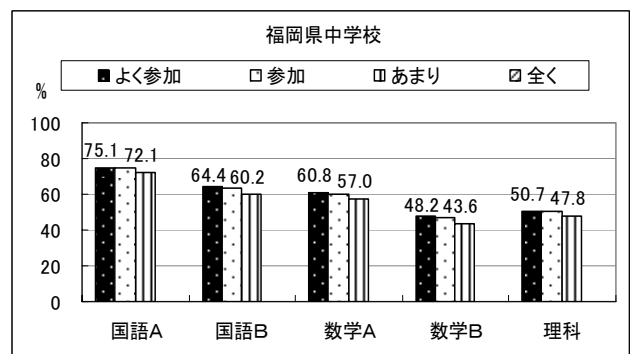
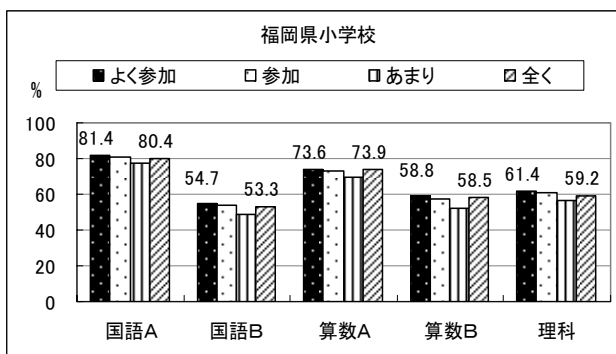
■ 小学校回答状況

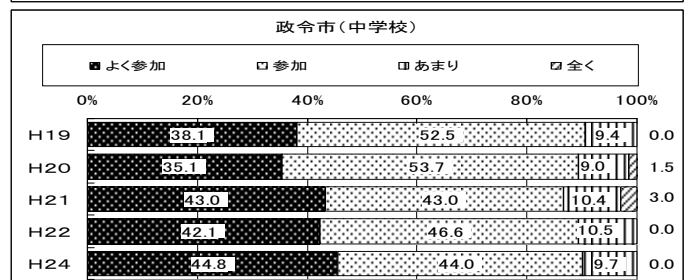
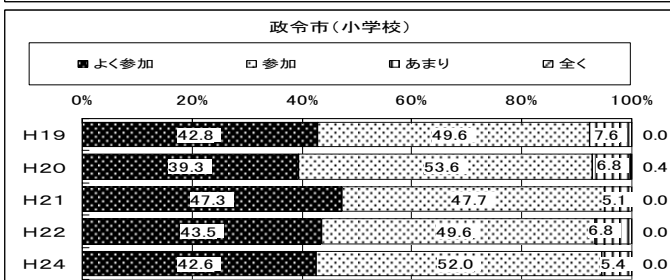
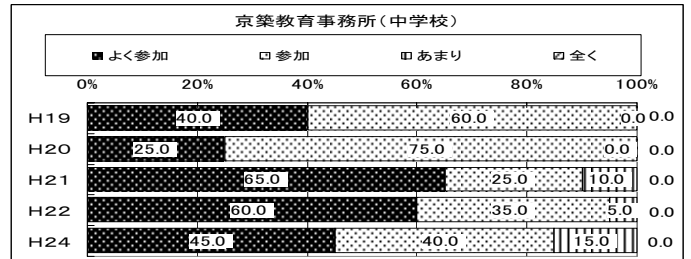
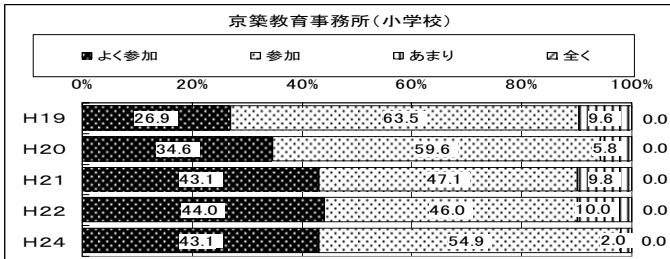
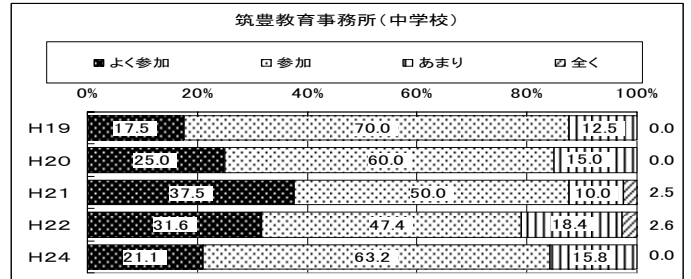
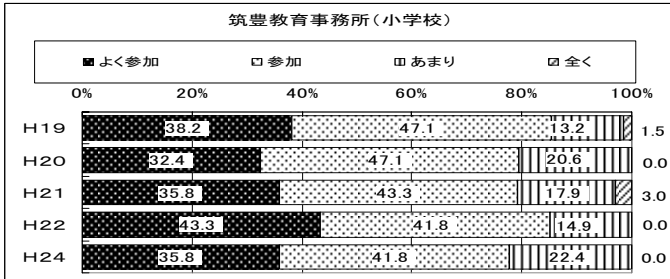
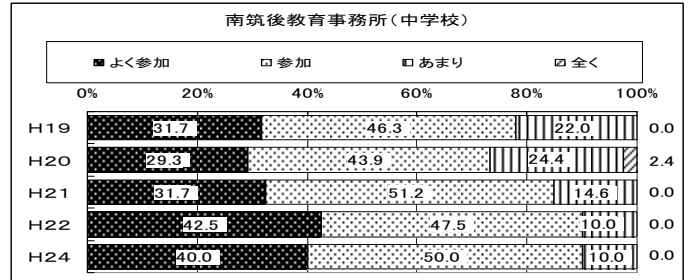
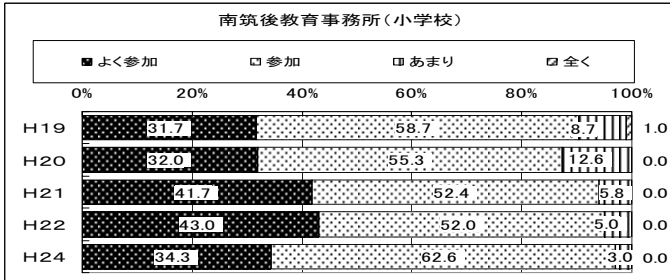
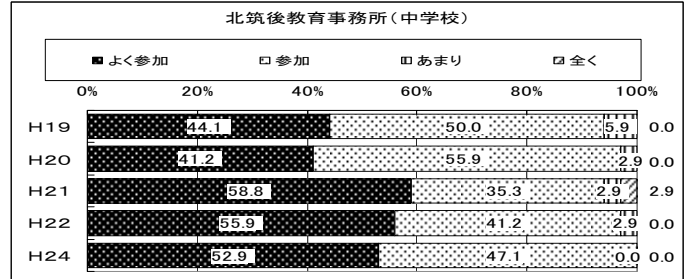
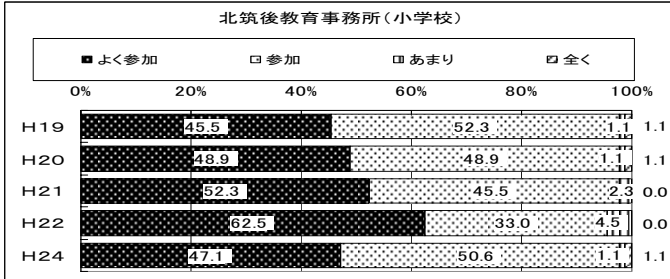
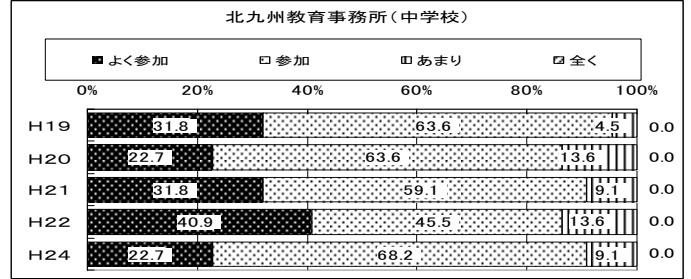
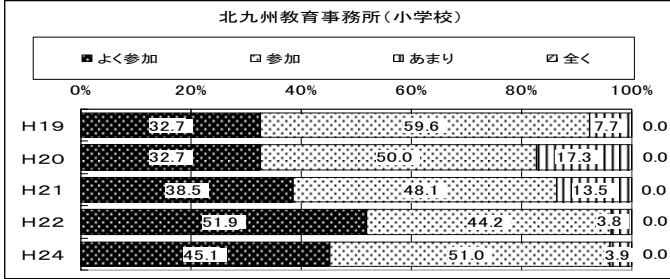
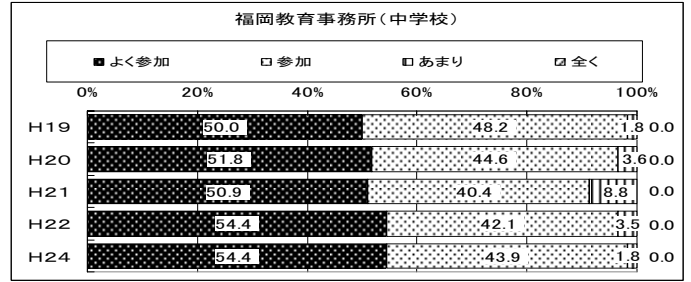
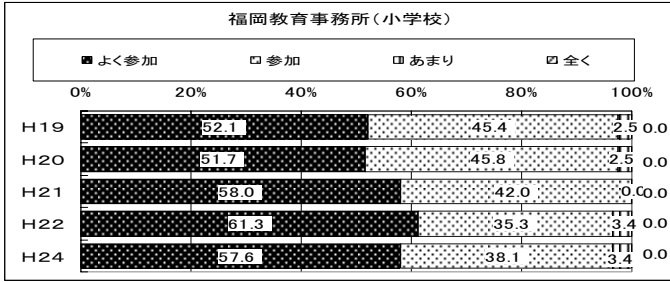


■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関



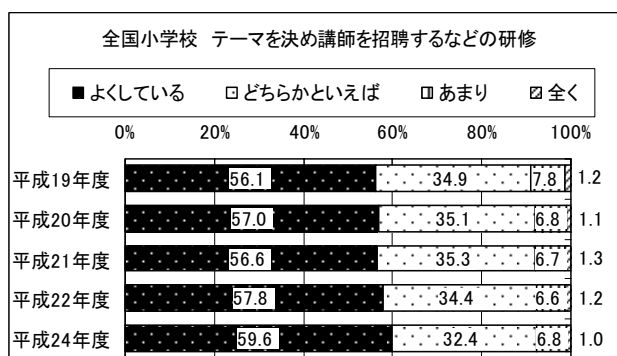
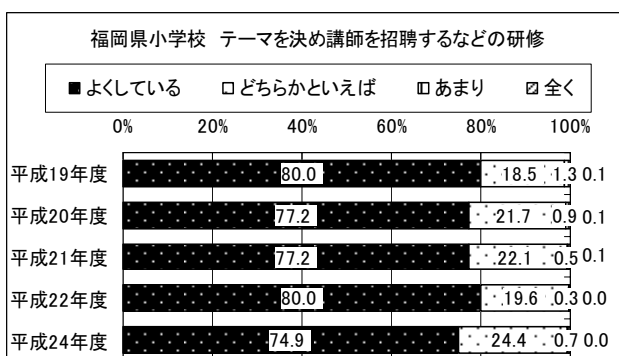


6 教員研修

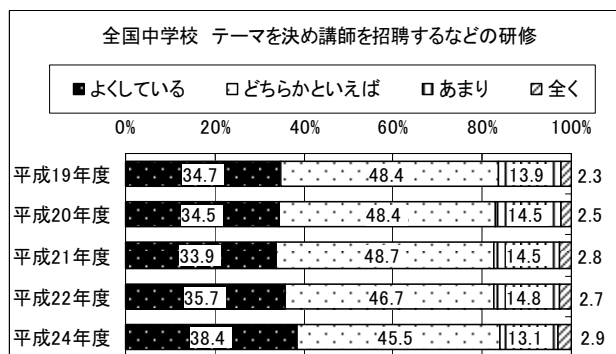
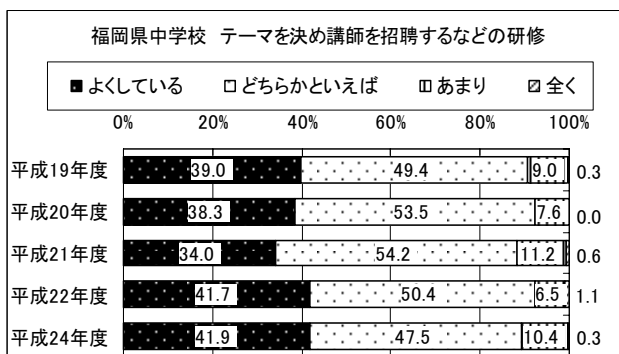
(小 92・中 89) 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの研修を行っていますか

- 学校でテーマを決め講師を招聘するなどの研修をよくしていると回答した割合は、小学校では、平成22年度より減少し、中学校ではわずかに増加した。
- 学校でテーマを決め講師を招聘するなどの研修をよくしていると回答した小学校の正答率が、必ずしも高い傾向とはいえない。

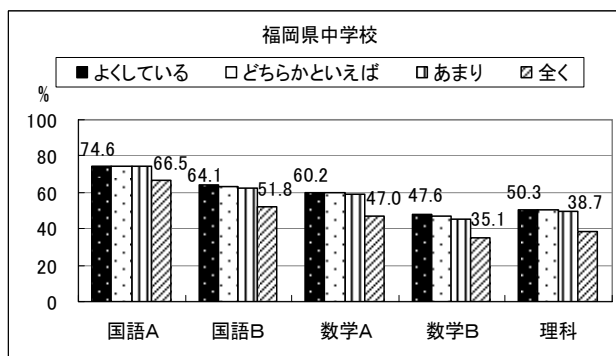
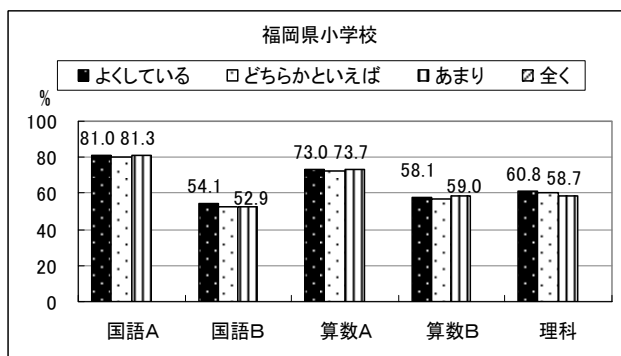
■ 小学校回答状況

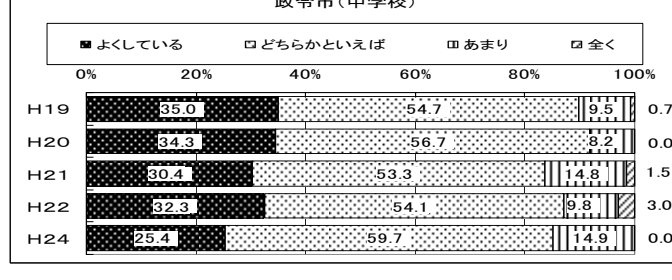
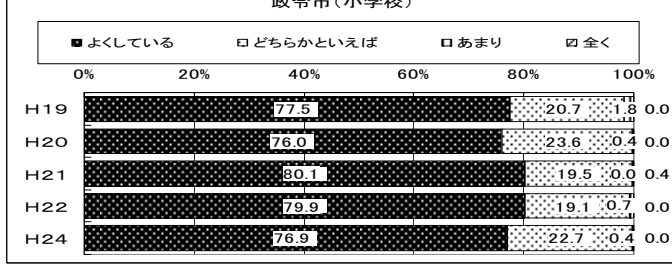
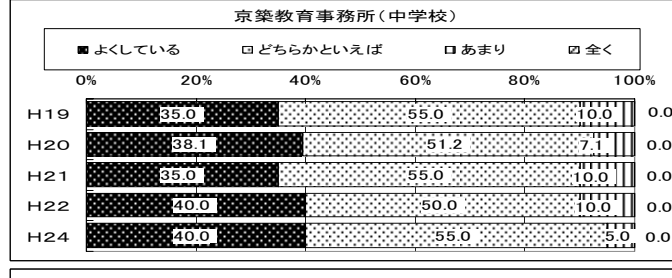
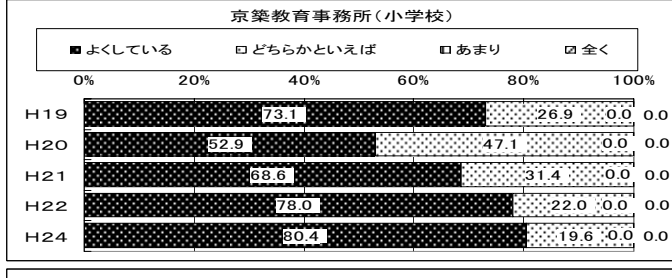
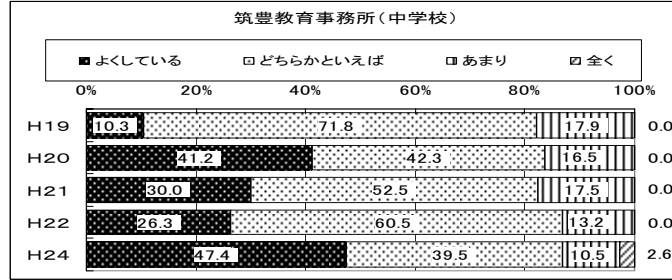
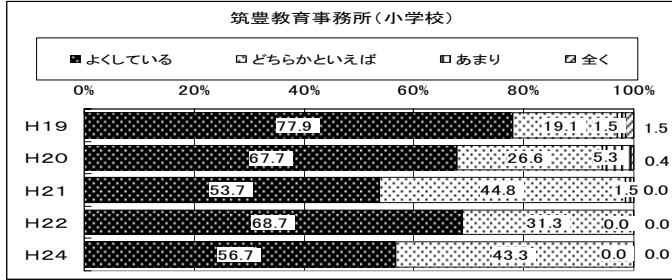
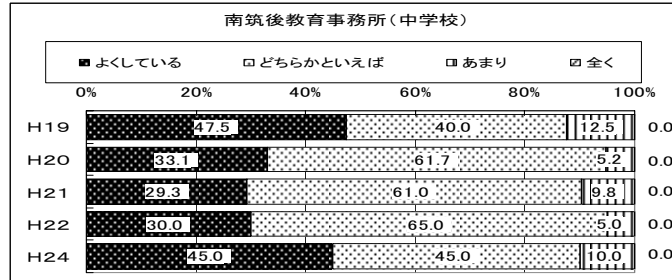
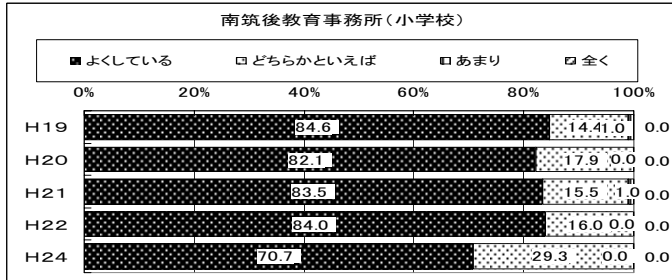
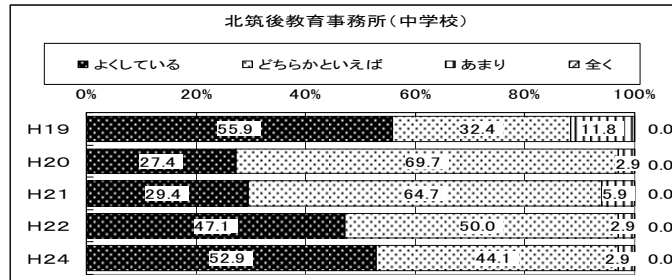
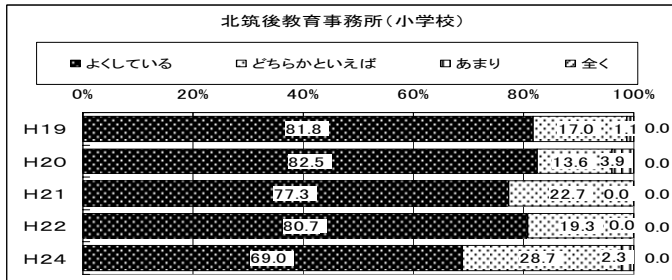
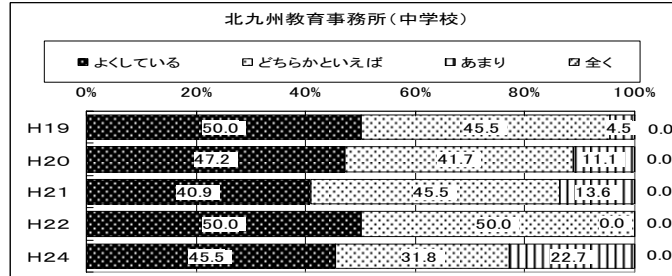
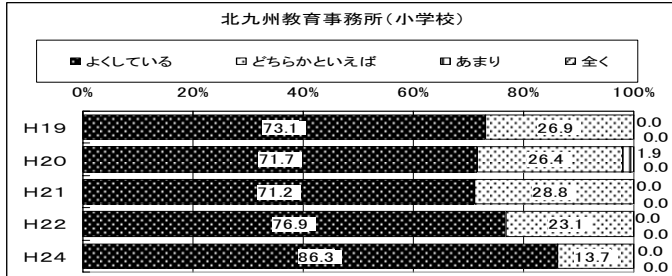
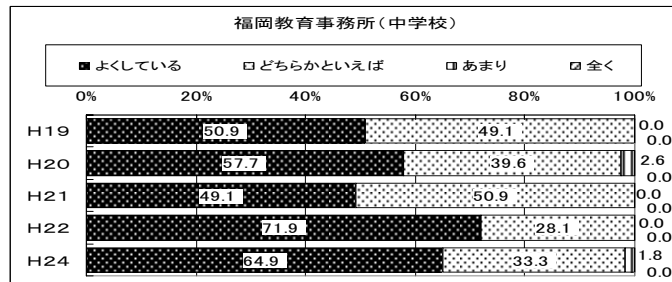
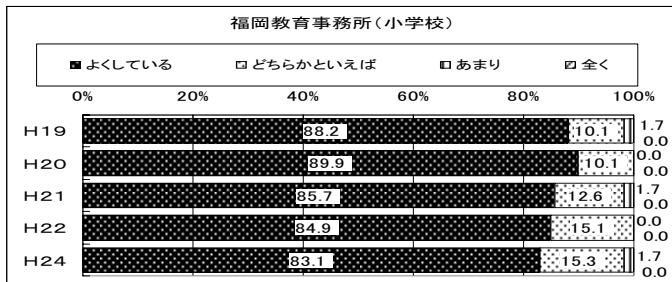


■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関





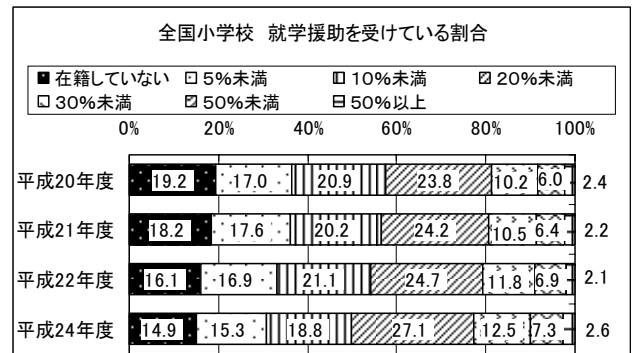
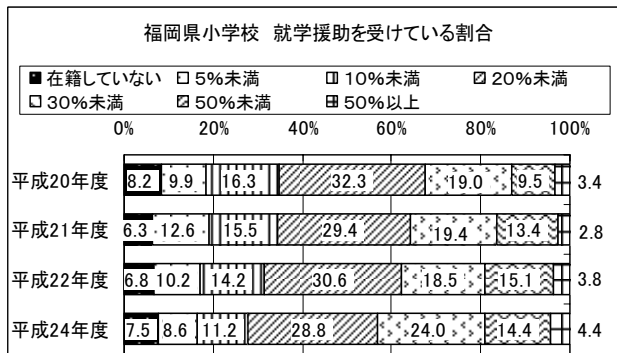
7 就学援助

(13) 就学援助を受けている児童生徒の割合

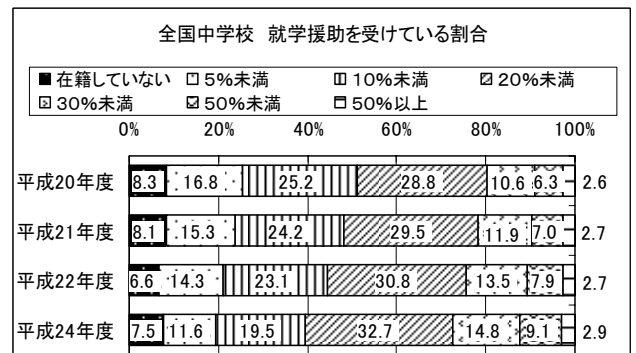
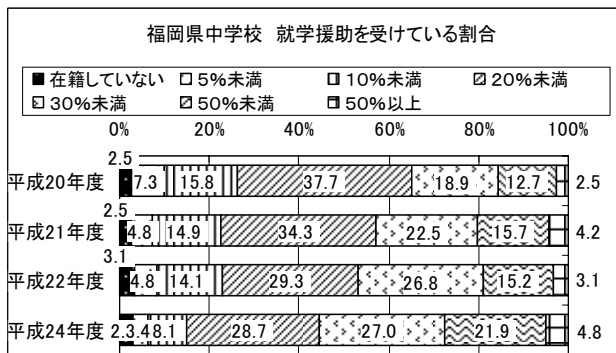
※平成20年度から学校質問紙に加えられた質問

- 就学援助を受けている児童生徒が在籍していないと回答した小学校は、全国では減少傾向にあるが、本県では平成22年度よりも増加している。中学校においては、全国では平成22年度より増加したが、本県では減少した。
- 小・中学校ともに、就学援助を受けている児童生徒の割合が高い学校の方が、各教科区分の平均正答率が低い傾向にある。

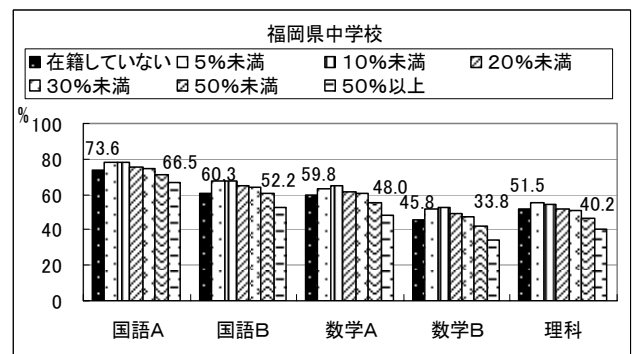
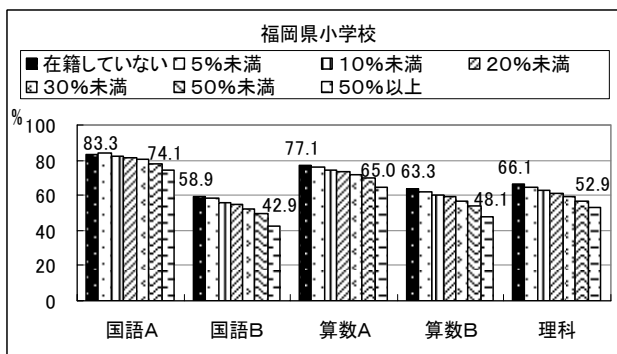
■ 小学校回答状況



■ 中学校回答状況

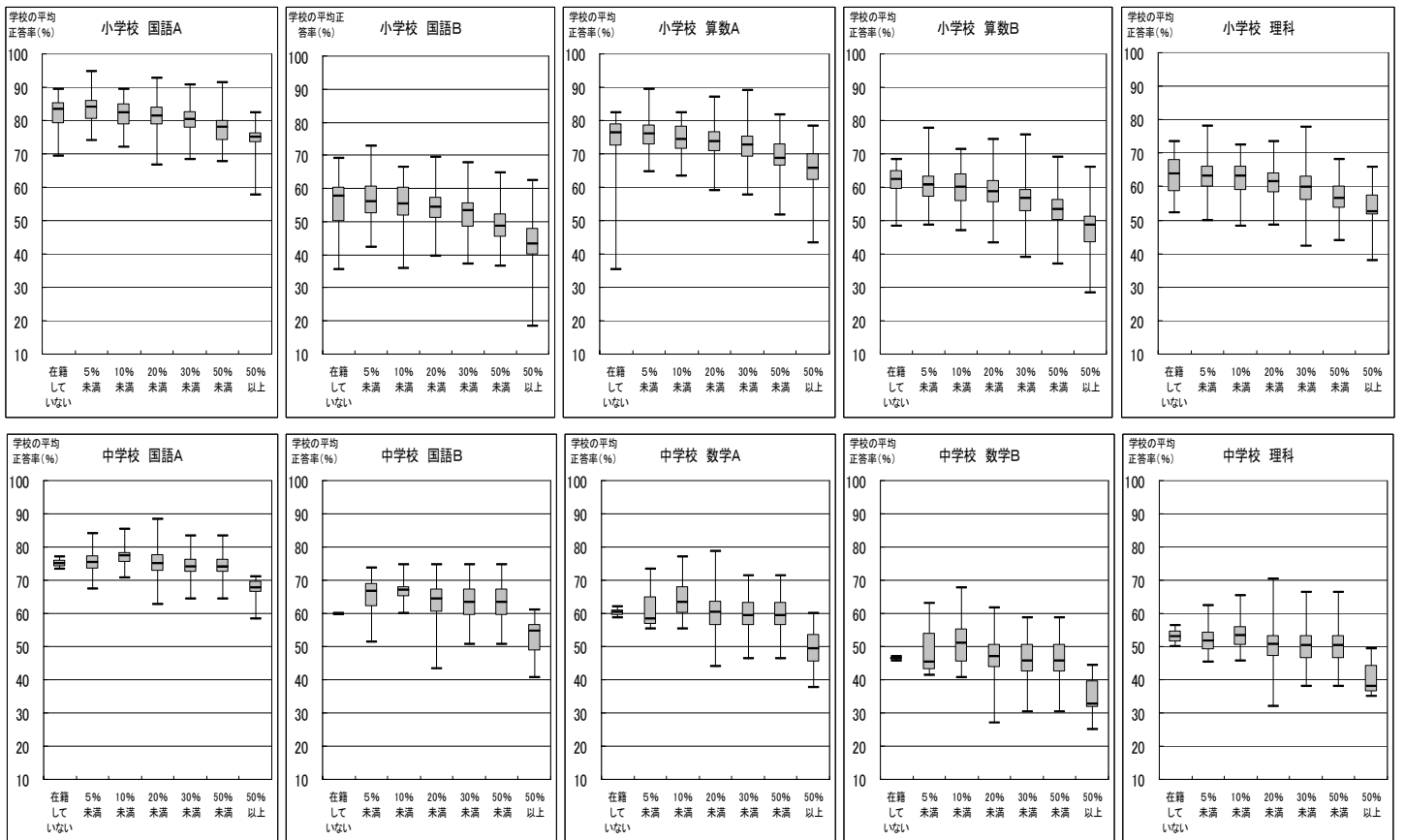


■ 教科の正答率との相関



■ 就学援助を受けている割合ごとの学校の平均正答率

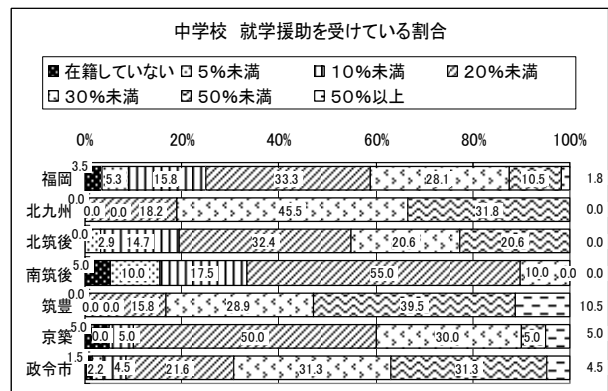
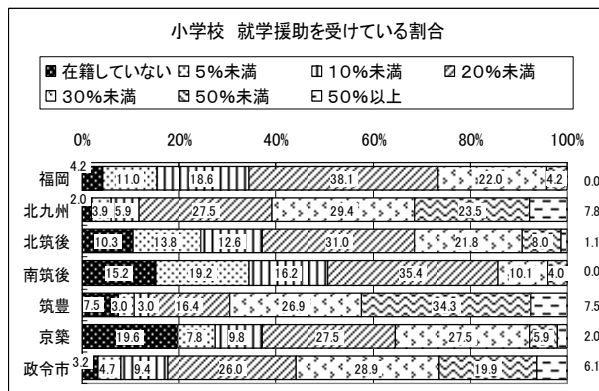
○ 就学援助を受けている児童生徒の割合が低いと回答している学校の方が、高いと回答をしている学校よりも、学校の平均正答率が高いところに分布している。



- ※ 図（箱ひげ図）の上端・下端の横線は、それぞれの学校の平均正答率の最大値・最小値を表す。
また、箱はそれぞれの集団の50%の学校が含まれる範囲であり、箱の中の横線は中央値を表す。
- ※ 集計の対象は、調査を受けた児童生徒が11人以上の学校としている。

■ 教育事務所・政令市別の状況

○ 就学援助を受けている児童生徒の割合が「30%以上 50%未満」「50%以上」と回答した学校の割合を合わせると、小・中学校とも北九州、筑豊、政令市で他の地区に比べて高く、南筑後で低い傾向がみられる。

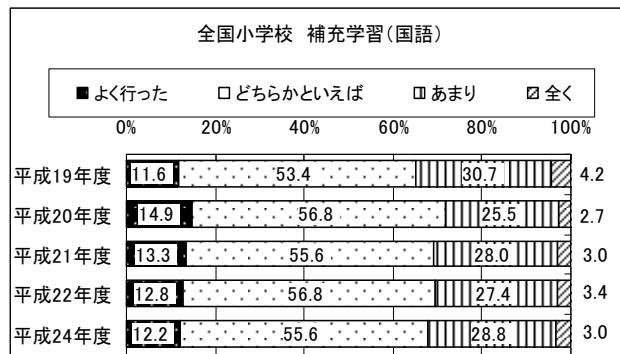
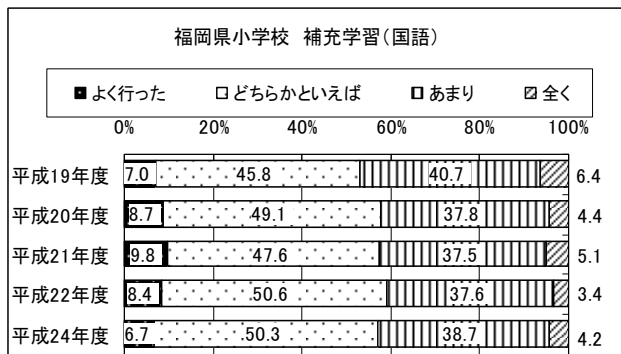


8 補充学習

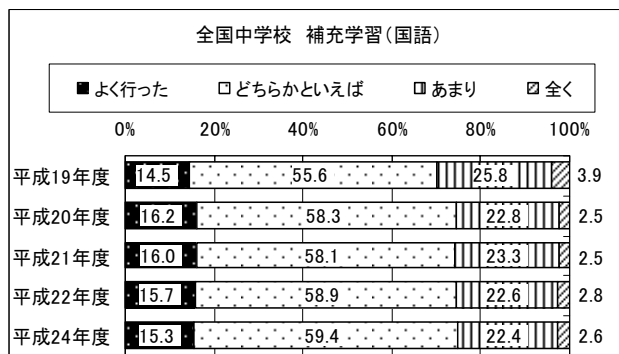
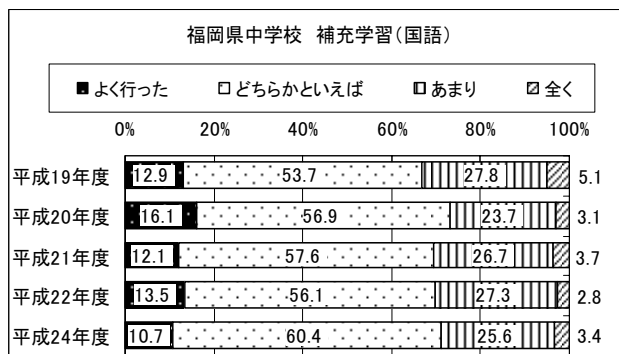
(47) 国語の指導として、前年度までに補充的な学習の指導を行いましたか

- 国語の補充学習をよく行ったと回答とした学校の割合は、小学校、中学校とも減少した。
- 国語の補充学習をよく行ったと回答とした学校の正答率が必ずしも高い傾向とはいえない。

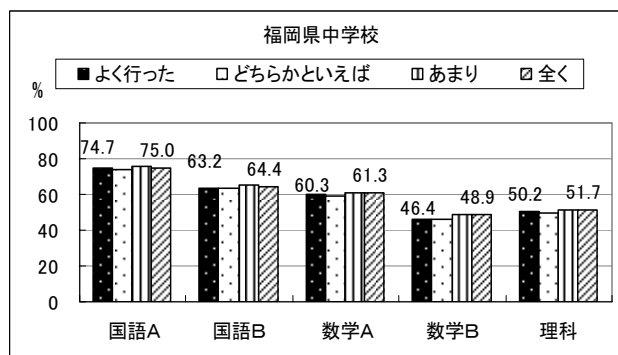
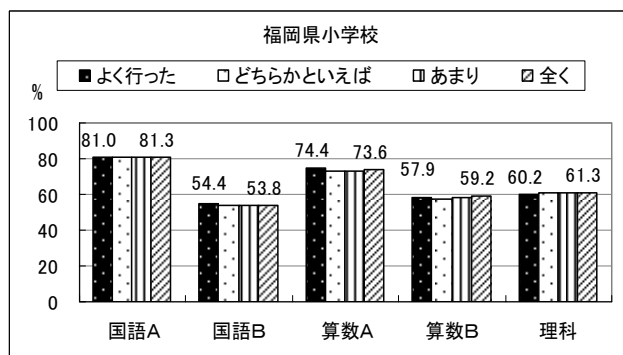
■ 小学校回答状況

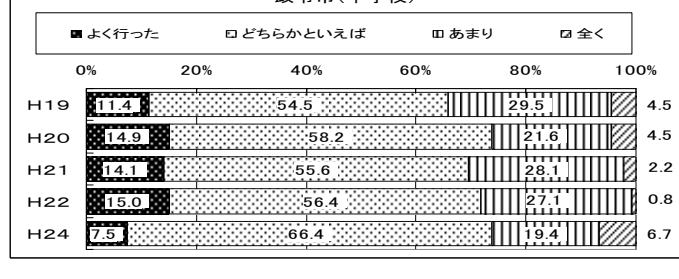
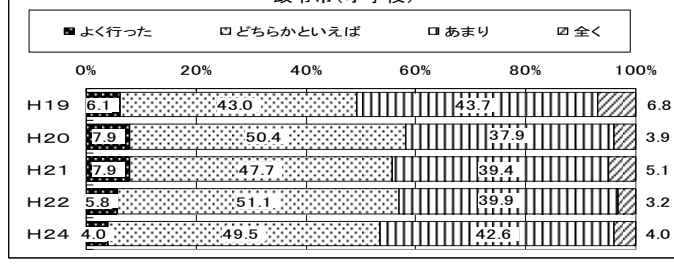
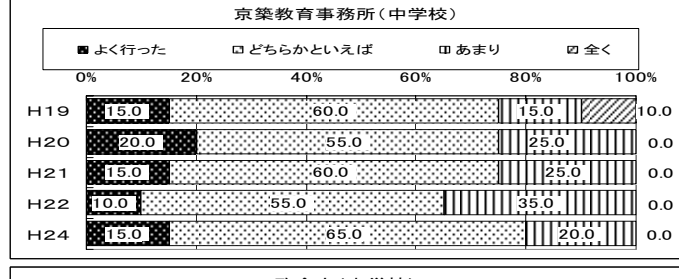
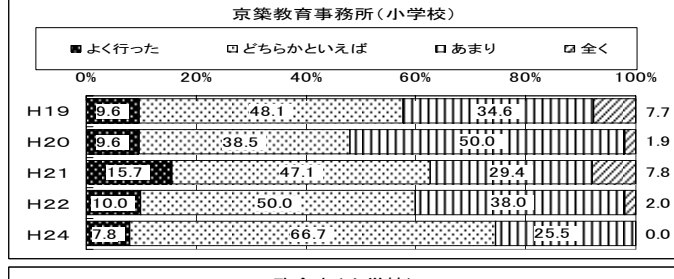
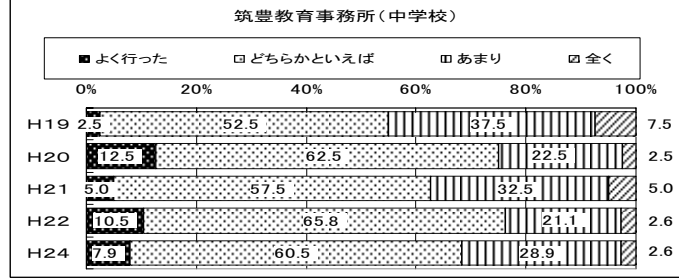
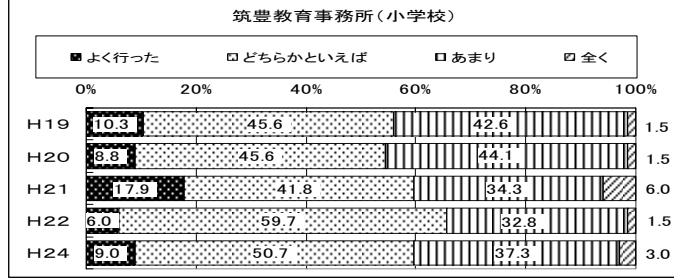
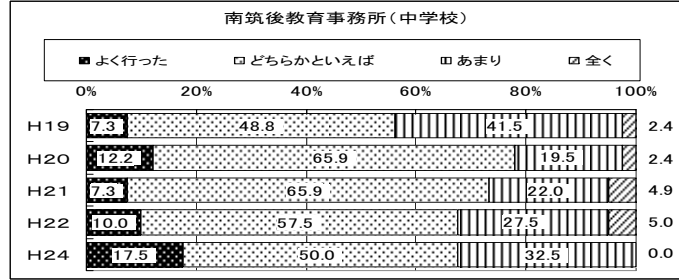
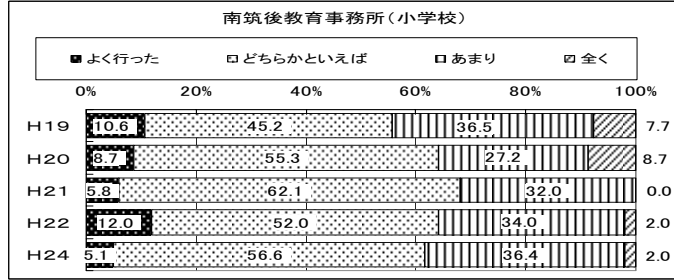
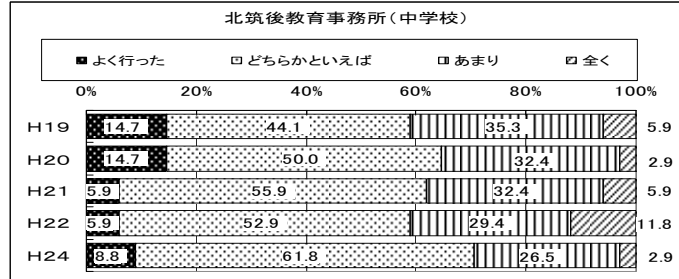
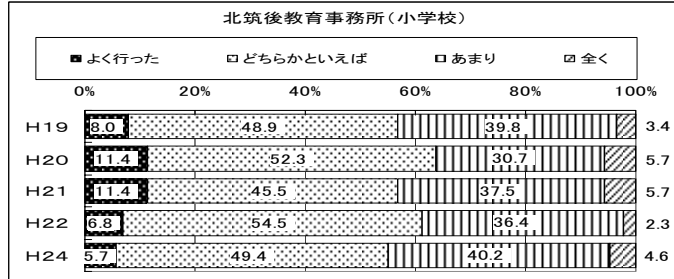
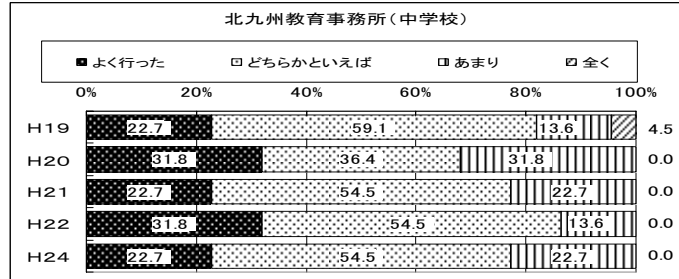
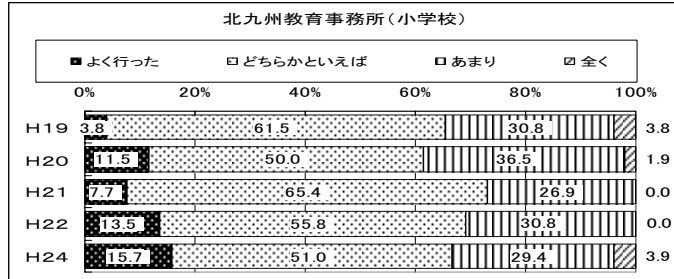
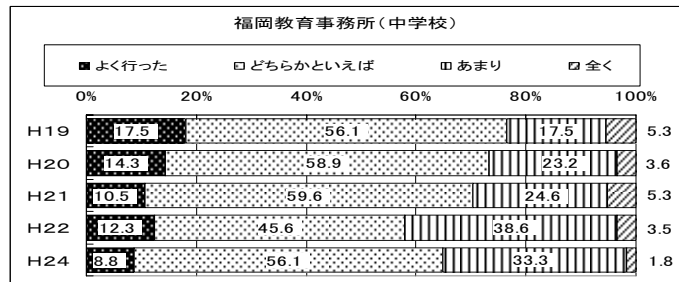
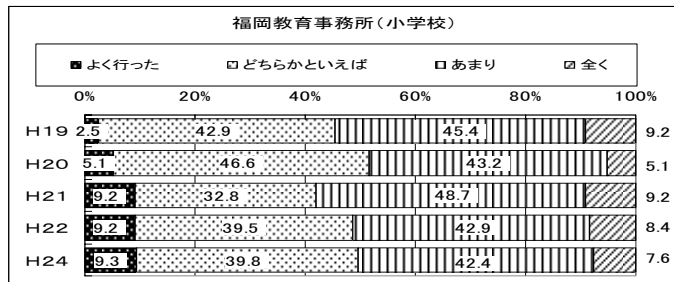


■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関

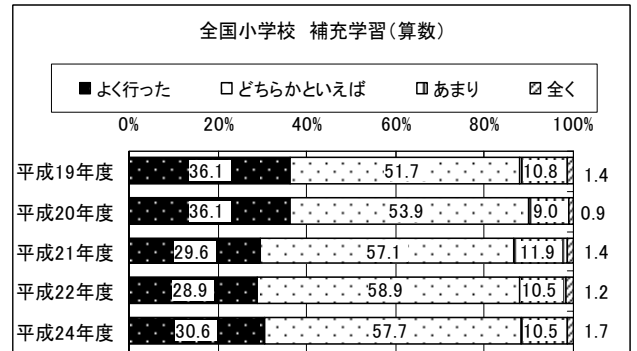
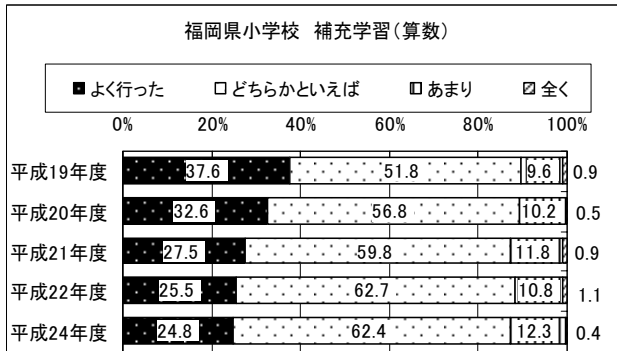




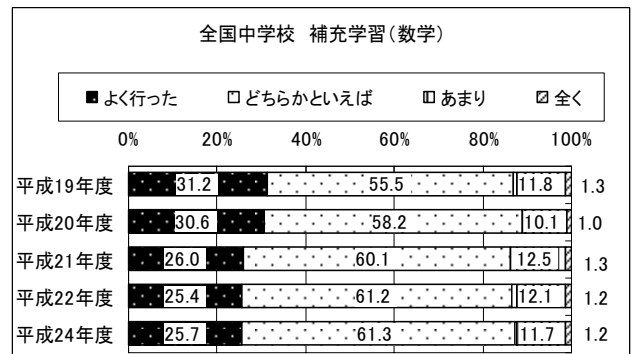
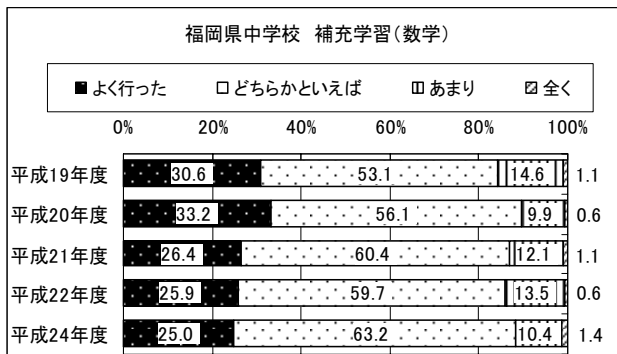
(53) 算数・数学の指導として、前年度までに補充的な学習の指導を行いましたか

- 算数・数学の補充学習をよく行ったと回答とした学校の割合は、小学校、中学校とも減少した。
- 算数・数学の補充学習をよく行ったと回答とした学校の正答率が必ずしも高い傾向とはいえない。

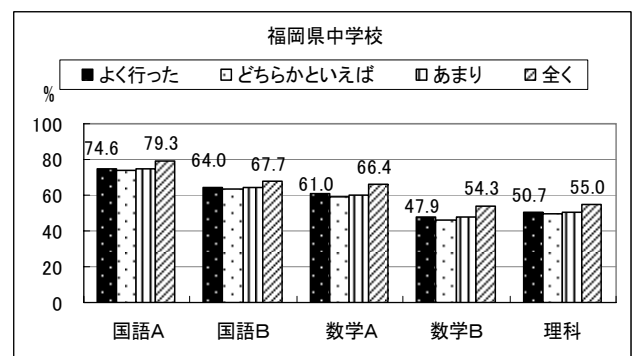
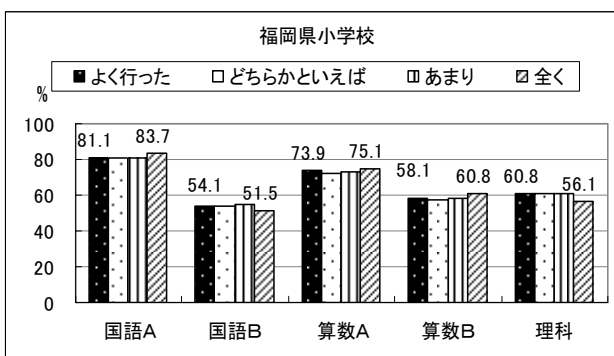
■ 小学校回答状況

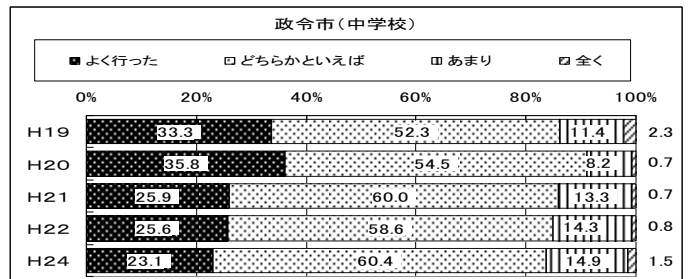
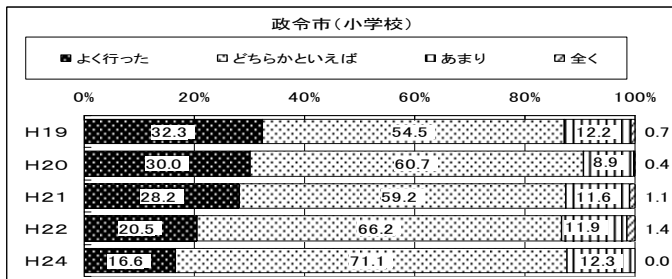
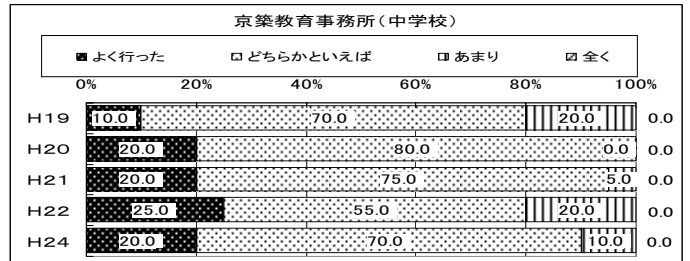
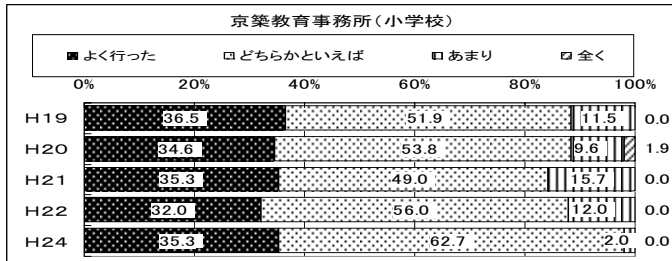
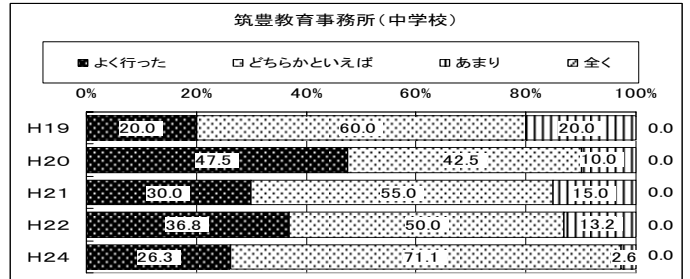
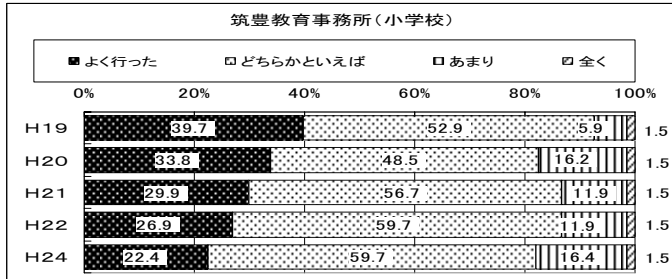
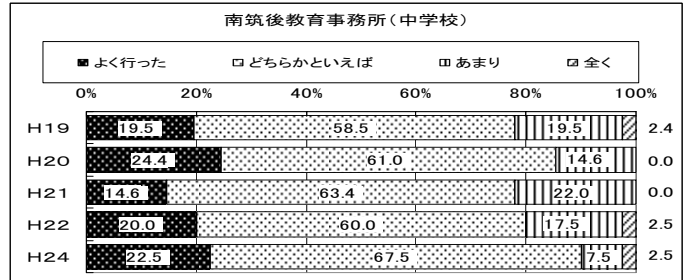
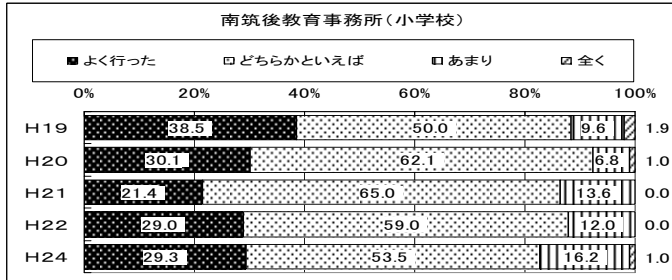
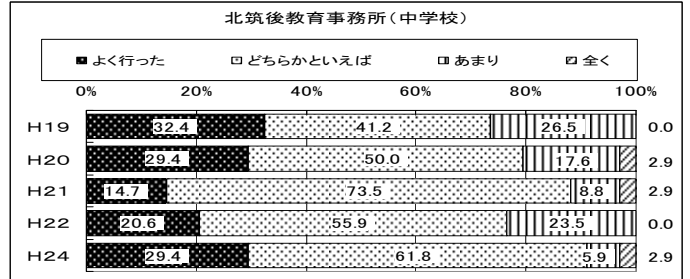
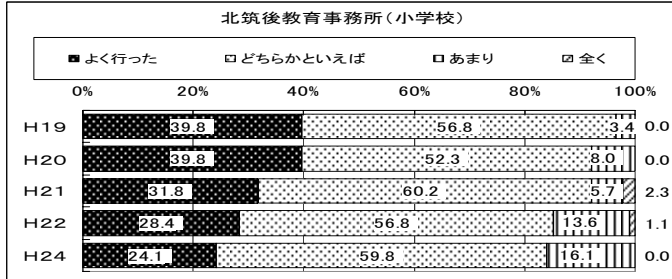
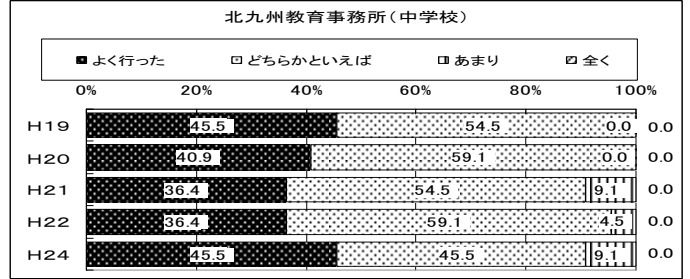
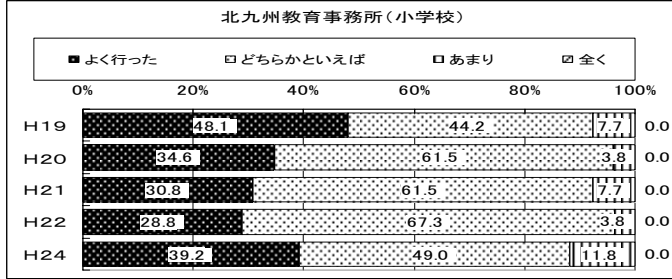
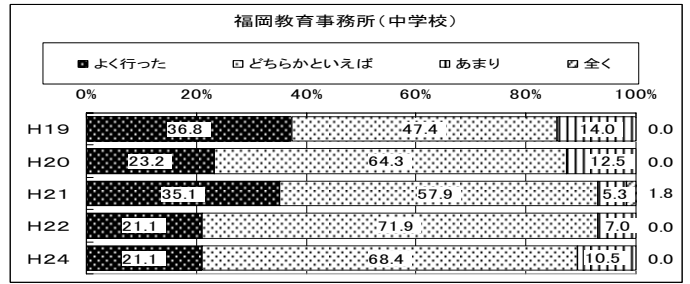
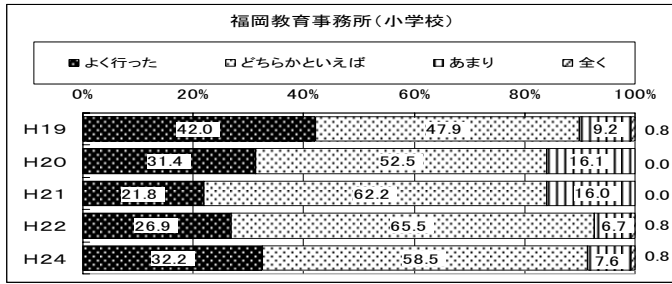


■ 中学校回答状況



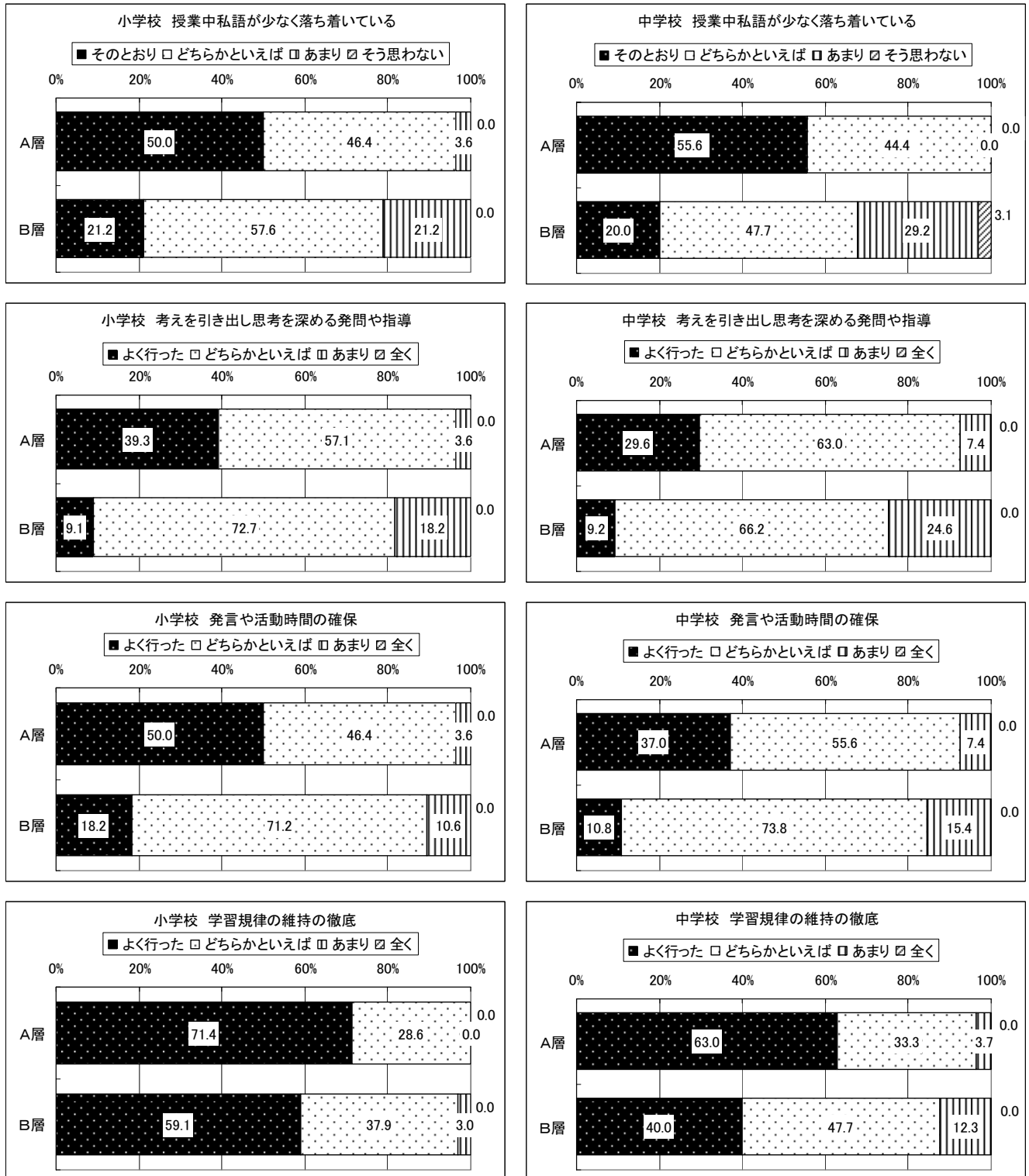
■ 教科の正答率との相関

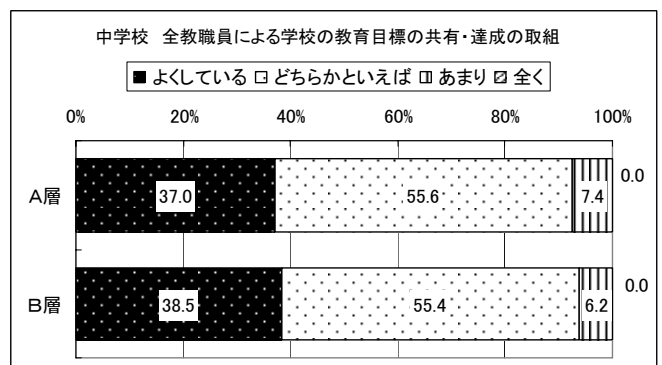
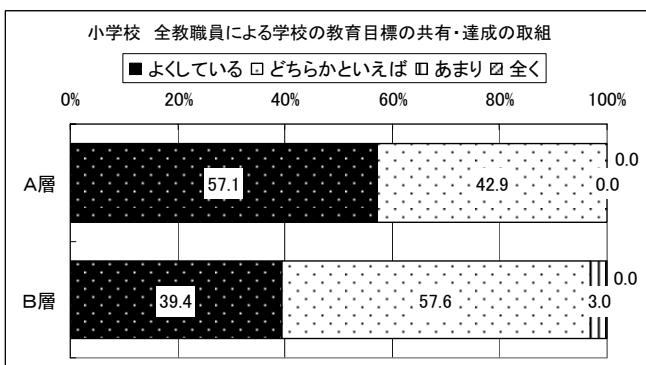
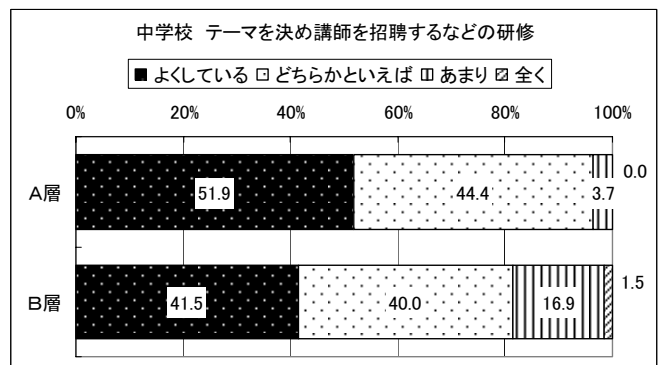
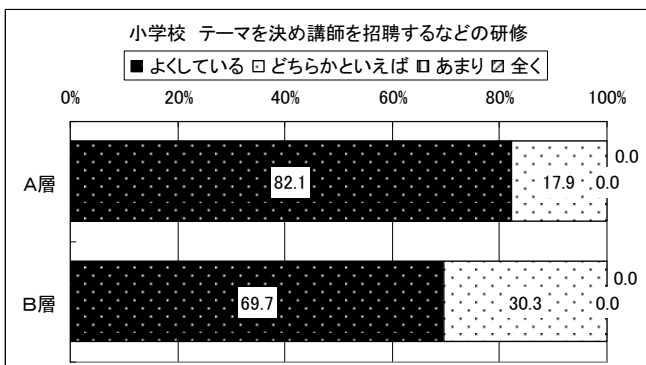
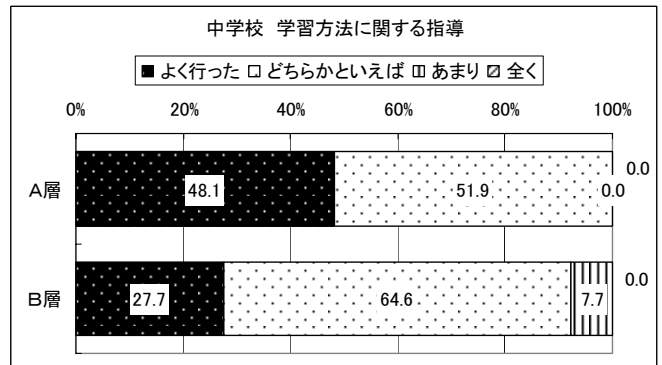
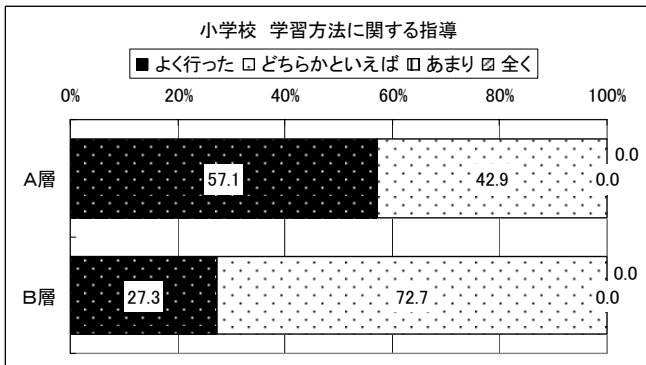
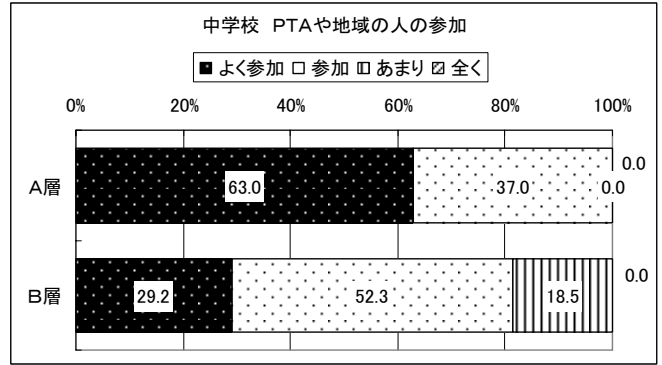
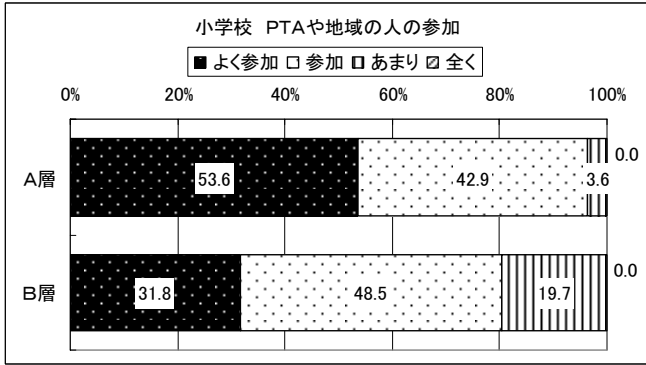
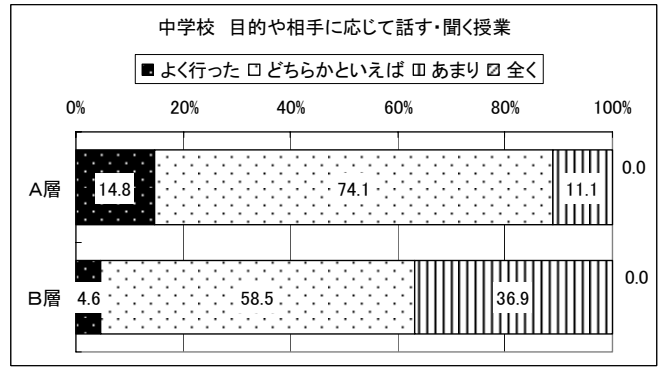
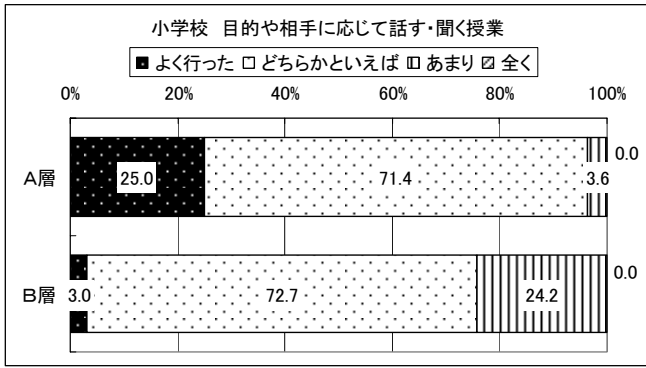




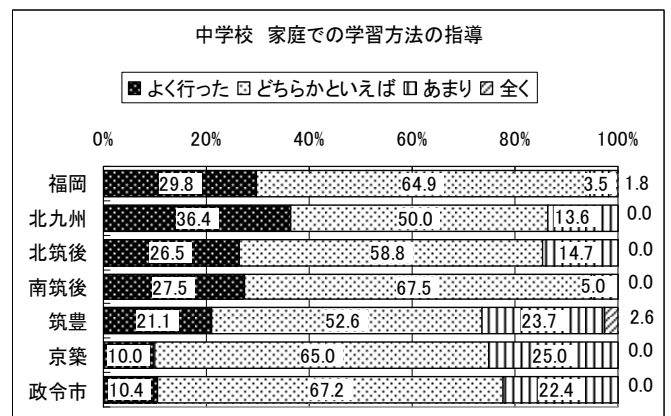
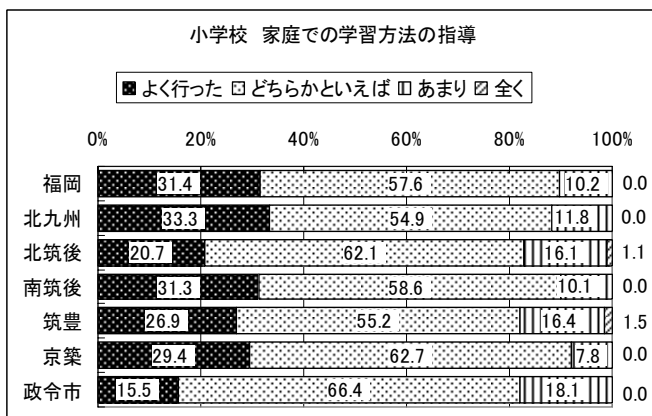
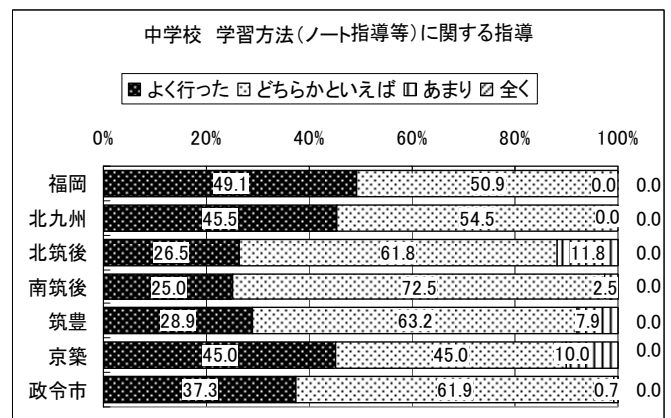
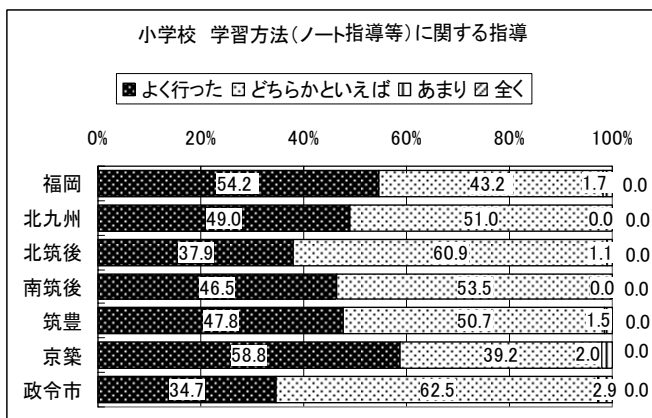
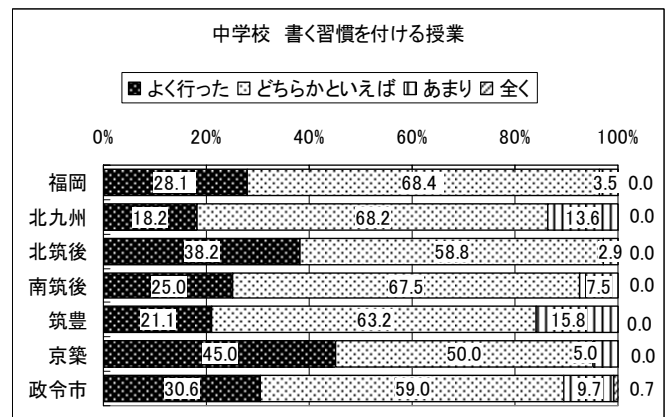
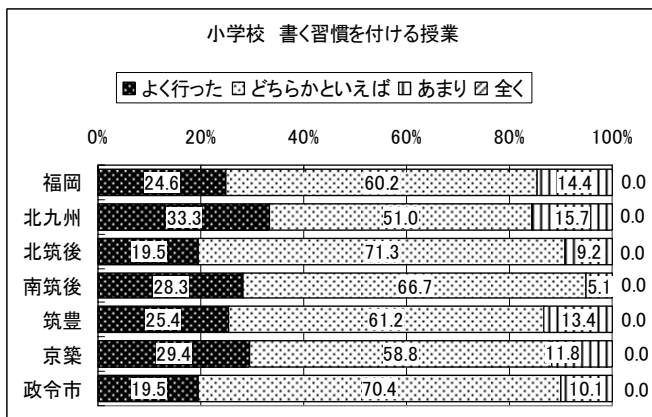
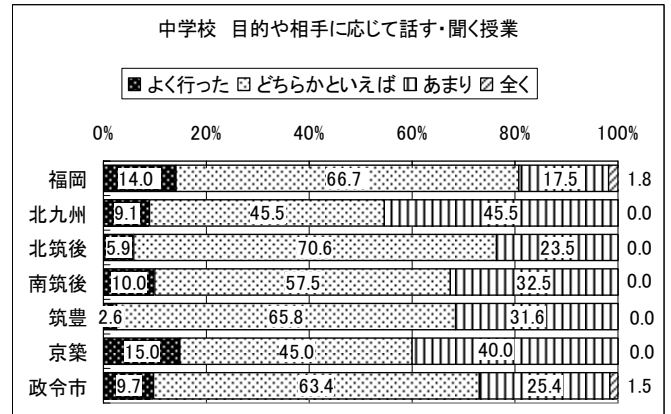
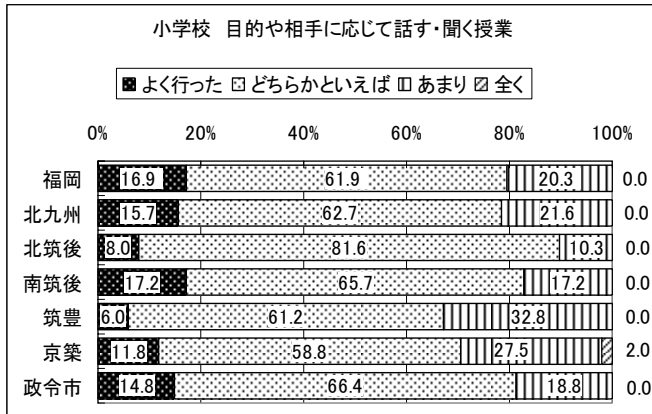
9 過去5回の調査で全国の平均正答率を上回っている（下回っている）学校の状況

平成19年度から24年度までの過去5回の調査において、全ての教科区分で全国の平均正答率を上回っている学校（以下、A層：小学校28校、中学校27校）と、全ての教科区分で全国の平均正答率を下回っている学校（以下、B層：小学校66校、中学校65校）の学校質問紙の回答状況を比較したところ、次のような項目で特に違いがみられた。





■ その他、教育事務所・政令市別に特徴がみられた学校質問紙の項目



VI まとめと今後の取組

本年度は、これまでの学力・学習状況調査の結果を総括する意味から、特に、課題となっている地区間の学力差に着目し、各教育事務所・政令市の経年変化データを示すこととした。これまでに各市町村教育委員会や各学校において推進した教育施策や教育活動について検証し、改善を図るための指標の一つとして、本調査報告書を活用していただきたい。また、次に述べる県全体で推進する取組も踏まえ、各市町村教育委員会や各学校において、本調査結果の更なる分析と地域や学校の実態に応じた改善策の推進を期待する。

1 分析結果の総括

<教科調査について>

- 各教科区分の状況においては、小学校国語A、算数A、中学校国語Aでは平均正答率が70%を超えており、知識については概ね定着していると考えられるが、中学校数学Aは60%程度であり、課題がある。また小・中学校ともB問題はA問題に比べて平均正答率が低く、知識の活用に課題があると考えられる。理科については、小学校60%程度、中学校50%程度であり、課題がある。
- 各教育事務所・政令市別の状況においては、調査初年度の平成19年度と比べると中学校国語A以外は、地区間の最大・最小の差が縮小しており、改善の傾向がうかがえる。しかし、中学校国語B、数学Aにおける地区間の最大最小の差は依然10ポイントを超えており、課題も残る。
- 児童生徒の無解答の状況においては、小学校では平成22年度に比べて無解答が全くない児童の割合が同程度であるが、中学校では無解答が全くない生徒の割合が減少しており、課題がある。

<児童生徒質問紙調査、学校質問紙調査について>

- 教科調査と相関が強い多くの質問項目について、肯定的な回答をする児童生徒や学校の割合が増加する傾向がみられることから、調査結果を活用した改善が図られていると考えられる。
- 教科調査と同様、肯定的な回答をする児童生徒や学校の回答状況には地区間差がみられるとともに、教科調査結果の地区間差と類似した傾向が引き続きみられる質問紙項目もみられる。
- 経年での各教育事務所・政令市別の状況においては、多くの項目で肯定的な回答が増加する傾向がみられるが、地区によっては減少している項目や大きく変動している項目など、課題がみられるものもある。

2 福岡県の教育施策に関する指標の現状

「平成24年度福岡県の教育施策実施計画」では、5つの柱の1つである「個性や能力に富み、学力・体力を備えた子どもを育てる」に係る指標として、次の二つを目標値として設定している。

指 標	指 標 の 概 要	現 状 値	目 標 値
①確かな学力の育成	全国学力・学習状況調査において、全国平均を上回った教科区分数 小)：国A・B、算A・B 中)：国A・B、数A・B	中学校の2教科区分が全国平均を上回った(H22年度)	全ての教科区分で全国平均を上回る(平成25年度)
②家庭での学習習慣の定着	学校の授業時間以外に、平日、勉強を全くしない児童生徒の割合	小学校 4.2% 中学校 6.0% (H23年度)	ゼロをめざす(平成26年度)

指標①「確かな学力の育成」については、全国学力・学習状況調査における平均正答率の本県と全国との差で表している。教育の機会均等と教育水準の維持向上は、義務教育に課せられた課題であり、本県のどの学校で学ぶ児童生徒にも全国水準の学力を身に付けさせる必要がある。これまでの調査結果からみると、平成 22 年度では中学校の 2 教科区分（国語 B、数学 B）が全国平均を上回るところまで改善が進んできたが、本年度は、中学校の 1 教科区分（国語 B）のみの目標達成に止まった。特に、これまでの調査で課題となっている中学校数学 A・B については、平成 22 年度と比べてその差が広がっており、平成 25 年度の目標達成には、算数・数学の基礎学力定着や活用力の向上を図る補充学習や習熟度別学習など学校の組織的・継続的な取組が必要である。

指標②「家庭での学習習慣の定着」については、全国学力・学習状況調査における児童生徒質問紙の回答状況で表している。本年度、学校の授業時間以外に、平日、勉強を全くしない児童生徒の割合は、小学校 4.4%、中学校 9.5% であり、小学校では平成 22 年度より 0.1% 増加したが、中学校では平成 19 年度以降、一貫して減少の傾向にある。今後も、中学校での減少を図るためには、小学校における家庭学習習慣の定着を図る取組が必要である。

3 改善に向けた学校や地域の具体的取組

これまでの調査結果を踏まえ、平成 20 年 2 月に策定した「福岡県学力向上新戦略」を本年 2 月に改訂するとともに、県内の全ての小・中学校における重点取組として、次の三つを学力向上の具体的取組として推進している。また、新たに各教育事務所と市町村教育委員会で構成する学力向上推進委員会を組織し、各地区の実態に応じた学力向上の取組を組織的に推進している。

I 学習内容の確実な定着、特に算数・数学の基礎学力定着

II 学習習慣の定着に向けた家庭学習の充実

III 学力向上に向けた教員研修の充実

I 算数・数学の基礎学力定着「ステップアップチャレンジ」

(1) 現状の課題

県内の多くの小・中学校では基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る取組が行われているにもかかわらず、本調査の結果から本県では基礎的・基本的な知識・技能を問う A 問題に課題がある。特にこれまでの調査結果から、算数では「量と測定」「数量関係」、数学では「図形」「関数」に課題がみられる。

(2) 取組の方向性

児童生徒の算数・数学の基礎学力の定着を図るために、日々の授業や始業前等を実施されている計算力等基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る取組の改善を図る

(3) 各学校で取り組むこと

- 児童生徒の実態に応じ、内容を重点化して評価テスト等を実施し、結果を分析する。
- 習熟度別グループ編成による指導を位置付けた授業を重視する。（特に小学校）
- 家庭学習の内容を授業で取り上げるなど、家庭学習と授業との連動を図る。（特に中学校）
- 単元や一単位時間に反復練習を行う時間を位置づける。
- ドリル学習は、児童生徒の実態に応じて内容を重点化して実施する。

II 学習習慣定着に向けた家庭学習の充実

(1) 現状の課題

多くの学校では、家庭学習の与え方について教職員で共通理解を図り、児童生徒に家庭学習の方法等を指導しているものの、学力向上に効果があると考えられる「学校の授業の復習」「苦手な教科の勉強」を行っている児童生徒の割合は低く、家庭学習課題の与え方に課題があると考えられる。

(2) 取組の方向性

児童生徒の学習習慣の定着を図るために家庭学習の内容について各学校で検討する必要がある。特に児童生徒に「授業の復習」「苦手な教科の勉強」に重点を置いて家庭学習課題を設定する必要がある。

(3) 各学校で取り組むこと

- 家庭学習時間、課題の内容、課題の与え方等について全教職員で共通理解を図る。
- 家庭学習は「授業の復習」「苦手な教科の勉強」を重視する。
- 児童生徒個々の実態に応じた家庭学習課題を与える。
- 家庭学習の手引等の作成配布を通じた保護者等への説明と協力依頼

Ⅲ 学力向上に向けた教員研修の充実

(1) 現状の課題

全国学力・学習状況調査問題の活用及び新学習指導要領の趣旨を踏まえた校内研修の実施に課題がみられる。

(2) 取組の方向性

県内すべての教員が、本県の学力・学習状況の実態を把握し、授業改善や基礎学力定着の取組の具体的方策について研修し、学力向上のための実践的指導力の向上を図るための研修の見直しが必要である。

(3) 各学校で取り組むこと

- 「習熟度別指導」「ドリル学習」「家庭学習の習慣化」「授業改善の Strategy 及び学力調査問題の活用」に関する研修を必ず位置付ける。
- 全教職員共通理解のもとで取組を実施し、効果を検証する。

平成24年度 福岡県検証改善委員会

役 職	氏 名	所 属 ・ 職 名
委 員 長	大 坪 靖 直	福岡教育大学 教授
総 括	主 税 保 徳	義務教育課 主幹指導主事
	川 島 耕 司	義務教育課 主任指導主事
	金 子 尚 文	義務教育課 主任指導主事
分 析 委 員	亀 田 真 一	義務教育課 指導主事
	三 淵 康 弘	義務教育課 指導主事
	吉 村 誠 二	義務教育課 指導主事
	山 邊 孝 之	義務教育課 指導主事
	新 谷 祥 生	義務教育課 指導主事
	坂 口 博 章	義務教育課 指導主事
	高 田 晋 仁	義務教育課 指導主事
	山 本 拓	福岡県教育センター 指導主事
	稲 津 一 徳	義務教育課 指導主事

福岡県検証改善委員会は、福岡県における学力・学習状況調査及び福岡県学力実態調査の調査結果について分析する組織であり、本報告書作成に当たって分析を行った。

